

茨城県教育財団文化財調査報告第86集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(II)

中久喜遺跡

平成5年9月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第86集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(II)

なか 久 喜 遺 跡

平成 5 年 9 月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県南部の牛久市周辺地域は、国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」、茨城県による「グレーターつくば構想」等が計画されております。

住宅・都市整備公団では、県南地域における牛久市のもつ地理的条件を勘案し、JR常磐線新駅の設置、首都圏中央連絡道等の広域交通拠点性を生かした整備を行い、新駅を中心とする広域的重要拠点としての、業務機能並びに都市機能を備えた新都心の形成と、良好な居住環境を有する住宅・宅地の供給を行うための土地区画整理事業を進めております。その予定地内には中久喜遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団と埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を結び、平成3年4月から平成5年3月にかけて、発掘調査を実施してまいりました。

本書は、中久喜遺跡の調査成果を収録したものであり、本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化向上の一助として活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である住宅・都市整備公団、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会をはじめ、関係機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成5年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 磯田 勇

例 言

1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成3年4月から平成5年3月まで実施した牛久市中根町字中久喜426-3他に所在する中久喜遺跡の発掘調査報告書である。

2 中久喜遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は、次のとおりである。

平成4年度初めの組織改正により、従来の企画管理課は、企画管理課と経理課の二課に分かれることとなった。

理事長	磯田 勇	昭和63年6月～	
副理事長	小林 元	昭和63年4月～平成3年7月	
	角田 芳夫	平成3年7月～	
専務理事	中島 弘光	平成5年4月～	
常務理事	本田 三郎	平成3年4月～平成5年3月	
事務局長	一木 邦彦	平成元年4月～平成4年3月	
	藤枝 宣一	平成4年4月～	
埋蔵文化財部長	石井 毅	平成2年4月～平成5年3月	
	安藏 幸重	平成5年4月～	
企画管理課	課長	北沢 勝行	平成2年4月～平成4年3月
	課長	水飼 敏夫	平成4年4月～(平成2年4月～平成4年3月企画管理課長代理)
	主任調査員	根本 康弘	平成3年4月～平成5年3月
	主任調査員	川井 正一	平成5年4月～
	主事	吉井 正明	平成元年4月～平成4年3月
	主事	杉山 秀一	平成4年4月～
経理課	課長	藤田 和行	平成4年4月～平成5年3月
	課長	小幡 弘明	平成5年4月～
	課長代理	鈴木 三郎	平成5年4月～
	主任	飯島 康司	平成4年4月～(平成3年4月～平成4年3月企画管理課)
	主事	大貫 吉成	平成4年4月～平成5年3月(平成2年4月～平成4年3月企画管理課)
	主事	軍司 浩作	平成5年4月～
調査課	課長(部長兼務)	石井 毅	平成元年4月～平成5年3月
	課長(部長兼務)	安藏 幸重	平成5年4月～
	調査第二班長	阿久津 久	平成3年4月～平成4年3月
	調査第二班長	和田 雄次	平成4年3月～平成5年3月
	主任調査員	齋藤 弘道	平成4年4月～平成5年3月調査

調 査 課	主任調査員	榑	孝雄	平成4年1月～平成4年3月調査
	主任調査員	齋藤	真人	平成3年10月～平成4年3月調査
	主任調査員	小高	五十二	平成3年10月～平成4年3月調査
	調査員	荒井	保雄	平成4年4月～平成5年3月調査
	調査員	松浦	敏	平成4年4月～平成5年3月調査
	調査員	檜村	宣行	平成3年4月～平成4年3月調査
	調査員	梶山	雅彦	平成4年1月～平成4年3月調査
	調査員	黒沢	秀雄	平成5年1月～平成5年3月調査
整 理 課	課長	沼田	文夫	平成2年4月～平成5年3月
	課長	阿久津	久	平成5年4月～
	主任調査員	荒井	保雄	平成5年度整理・執筆・編集

- 3 本書に使用した記号等については、第4章第1節「遺構及び遺物の記載方法」の項を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、炭化材の同定については、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

(遺跡の概略)

遺跡名	中久喜遺跡				
フリガナ	ナカクキセキ				
副題	牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II)				
シリーズ	茨城県教育財団文化財調査報告第86集				
著者	荒井保雄				
編集機関	財団法人 茨城県教育財団				
発行機関	財団法人 茨城県教育財団				
住所	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番2号				
発行日	1993(平成5)年9月30日				
所収遺跡	市町村	コード	北緯	東経	標高
中久喜遺跡	牛久市	08219-0144	36° 0' 05"	140° 9' 51"	25.0m
中久喜遺跡	旧石器 縄文(草創期～晩期) 古墳(中期,後期) 平安(前期,中期)	住居48,掘立柱建物跡2,土坑162, 井戸4,炭焼窯6	土器,土製品(耳飾,土玉,紡錘車),石器,石製品(勾玉,白玉,双孔円板,紡錘車,砥石) 金属製品(刀子)		

目 次

序	
例 言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査方法	8
第1節 地区設定	8
第2節 基本層序の検討	8
第3節 遺構の確認	9
第4節 遺構調査	9
第4章 遺構と遺物	11
第1節 遺跡の概要と遺構及び遺物の記載方法	11
1 遺跡の概要	11
2 遺構・遺物の記載方法	11
第2節 竪穴住居跡	17
1 古墳時代の住居跡	17
2 平安時代の住居跡	181
第3節 掘立柱建物跡	200
第4節 土 坑	202
第5節 その他の遺構	211
1 井戸状遺構	211
2 炭焼窯跡	215
第6節 遺物包含層	228
第7節 遺構外出土遺物	235
第5章 まとめ	249
附 章	254
中久喜遺跡から出土した炭化材の種類	254

插图目次

第1图	周边遗迹分布图	7	第29图	第8号住居迹出土遺物実测图(2)	51
第2图	調査区呼称图	8	第30图	第9号住居迹実测图	54
第3图	基本土層图	8	第31图	第9号住居迹出土遺物実测图(2)	55
第4图	第1号住居迹実测图	18	第32图	第9号住居迹出土遺物実测图(1)	56
第5图	第1号住居迹出土遺物実测图	19	第33图	第10号住居迹実测图	58
第6图	第2号住居迹実测图	21	第34图	第10号住居迹出土遺物実测图	59
第7图	第2号住居迹遺物出土位置图	22	第35图	第11号住居迹実测图	62
第8图	第2号住居迹出土遺物実测图(1)	23	第36图	第11号住居迹出土遺物実测图(1)	63
第9图	第2号住居迹出土遺物実测图(2)	24	第37图	第11号住居迹出土遺物実测图(2)	64
第10图	第2号住居迹出土遺物実测图(3)	25	第38图	第11号住居迹出土遺物実测图(3)	65
第11图	第3号住居迹実测图	28	第39图	第12号住居迹実测图	68
第12图	第3号住居迹遺物出土位置图	29	第40图	第12号住居迹遺物出土位置图	69
第13图	第3号住居迹出土遺物実测图(1)	30	第41图	第12号住居迹出土遺物実测图	70
第14图	第3号住居迹出土遺物実测图(2)	31	第42图	第14号住居迹実测图	72
第15图	第4号住居迹出土遺物実测图	32	第43图	第14号住居迹出土遺物実测图	73
第16图	第4号住居迹実测图	33	第44图	第15号住居迹実测图	75
第17图	第5号住居迹実测图	34	第45图	第15号住居迹遺物出土位置图	76
第18图	第5号住居迹出土遺物実测图	35	第46图	第15号住居迹出土遺物実测图	77
第19图	第6号住居迹実测图	37	第47图	第18号住居迹実测图	80
第20图	第6号住居迹出土遺物実测图	38	第48图	第18号住居迹遺物出土位置图	81
第21图	第7号住居迹実测图	41	第49图	第18号住居迹出土遺物実测图	82
第22图	第7号住居迹出土遺物実测图(1)	42	第50图	第19号住居迹実测图	84
第23图	第7号住居迹出土遺物 実测・拓影图(2)	43	第51图	第19号住居迹出土遺物実测图	85
第24图	第7号住居迹出土遺物実测图(3)	44	第52图	第20号住居迹実测图	86
第25图	第8号住居迹実测图	48	第53图	第20号住居迹出土遺物実测图	87
第26图	第8号住居迹遺物出土位置图	49	第54图	第21号住居迹実测图	88
第27图	第8号住居迹出土遺物実测图(3)	49	第55图	第21号住居迹出土遺物実测图	89
第28图	第8号住居迹出土遺物実测图(1)	50	第56图	第22号住居迹実测图	92
			第57图	第22号住居迹出土遺物実测图(1)	93

第58图	第22号住居跡出土遺物実測図(2) ……94	第 88 图	第35号住居跡出土遺物実測図 ……145
第59图	第23号住居跡実測図 ……96	第 89 图	第36号住居跡出土遺物実測図 ……147
第60图	第23号住居跡遺物出土位置図 ……97	第 90 图-1	第36号住居跡実測図 ……148
第61图	第23号住居跡出土遺物実測図 ……98	第 90 图-2	第36号住居跡実測図 ……149
第62图	第25号住居跡実測図 ……100	第 91 图	第37号住居跡実測図 ……151
第63图	第25号住居跡出土遺物実測図(2) ……101	第 92 图	第37号住居跡出土遺物実測図 ……152
第64图	第25号住居跡出土遺物実測図(1) ……102	第 93 图	第38号住居跡実測図 ……153
第65图	第26号住居跡実測図 ……105	第 94 图	第38号住居跡出土遺物実測図 ……154
第66图	第26号住居跡出土遺物実測図 ……107	第 95 图	第39号住居跡実測図 ……155
第67图	第27号住居跡実測図 ……110	第 96 图	第39号住居跡出土遺物実測図 ……156
第68图	第27号住居跡出土遺物実測図(1) ……111	第 97 图	第40号住居跡実測図 ……157
第69图	第27号住居跡出土遺物実測図(2) ……112	第 98 图	第40号住居跡出土遺物実測図 ……158
第70图	第28・29号住居跡実測図 ……116	第 99 图	第41号住居跡実測図 ……160
第71图	第28号住居跡遺物出土位置図 ……117	第100图	第41号住居跡出土遺物実測図 ……162
第72图	第28号住居跡出土遺物実測図(1) ……119	第101图	第42号住居跡実測図 ……164
第73图	第28号住居跡出土遺物実測図(2) ……120	第102图	第42号住居跡出土遺物実測図(1) 165
第74图	第29号住居跡出土遺物実測図(3) ……121	第103图	第42号住居跡出土遺物実測図(2) 166
第75图	第30号住居跡実測図 ……125	第104图	第42号住居跡出土遺物実測図(3) 167
第76图	第30号住居跡出土遺物実測図(1) ……126	第105图	第43号住居跡実測図 ……169
第77图	第30号住居跡出土遺物 実測・拓影図(2) ……127	第106图	第43号住居跡出土遺物実測図 ……170
第78图	第31号住居跡実測図 ……130	第107图	第44号住居跡実測図 ……171
第79图	第31号住居跡出土遺物実測図 ……130	第108图	第45号住居跡・竈実測図 ……172
第80图	第32号住居跡実測図 ……132	第109图	第45号住居跡遺物出土位置図 ……173
第81图	第32号住居跡出土遺物実測図(1) ……134	第110图	第45号住居跡出土遺物実測図 ……175
第82图	第32号住居跡出土遺物実測図(2) ……135	第111图	第46号住居跡実測図 ……177
第83图	第33号住居跡実測図 ……136	第112图	第46号住居跡出土遺物実測図(1) 178
第84图	第33号住居跡出土遺物実測図 ……137	第113图	第46号住居跡出土遺物実測図(2) 179
第85图	第34号住居跡実測図 ……139	第114图	第48号住居跡実測図 ……180
第86图	第34号住居跡出土遺物 実測・拓影図 ……141	第115图	第48号住居跡出土遺物実測図 ……181
第87图	第35号住居跡実測図 ……143	第116图	第13号住居跡・竈実測図 ……182
		第117图	第13号住居跡出土遺物 実測・拓影図(1) ……184

第118図	第13号住居跡出土遺物 実測・拓影図(2) ……………185	第138図	第3・4号井戸状遺構実測図……214
第119図	第16号住居跡・竈実測図 ……187	第139図	第1号炭焼窯跡実測図 ……215
第120図	第16号住居跡出土遺物 実測・拓影図 ……………188	第140図	第2号炭焼窯跡実測図 ……216
第121図	第17号住居跡・竈実測図 ……191	第141図	第3号炭焼窯跡実測図 ……217
第122図	第17号住居跡出土遺物実測図 ……192	第142図	第4号炭焼窯跡実測図 ……218
第123図	第24号住居跡実測図 ……194	第143図	第5号炭焼窯跡実測図 ……220
第124図	第24号住居跡出土遺物実測図 ……195	第144図	第5・6号炭焼窯出土遺物 実測図 ……………221
第125図	第47号住居跡実測図 ……197	第145図	包含層出土遺物拓影図(1) ……231
第126図	第47号住居跡竈実測図 ……198	第146図	包含層出土遺物拓影図(2) ……232
第127図	第47号住居跡出土遺物実測図 ……199	第147図	包含層出土遺物拓影図(3) ……233
第128図	第1号掘立柱建物跡実測図 ……200	第148図	包含層出土遺物拓影図(4) ……234
第129図	第2号掘立柱建物跡実測図 ……201	第149図	遺溝外出土遺物拓影図(1) ……237
第130図	第1号掘立柱建物跡出土遺物 実測図 ……………202	第150図	遺溝外出土遺物拓影図(2) ……238
第131図	土坑実測図 (1) ……204	第151図	遺溝外出土遺物拓影図(3) ……239
第132図	土坑実測図 (2) ……205	第152図	遺溝外出土遺物拓影図(4) ……240
第133図	土坑実測図 (3) ……206	第153図	遺溝外出土遺物実測図(1) ……241
第134図	土坑実測図 (4) ……207	第154図	遺溝外出土遺物実測図(2) ……242
第135図	土坑実測図 (5) ……208	第155図	遺溝外出土遺物実測図(3) ……243
第136図	土坑出土遺物実測・拓影図 ……209	第156図	遺溝外出土遺物実測図(4) ……244
第137図	第1・2号井戸状遺構実測図……213	第157図	グリット，表採出土遺物 実測・拓影図 ……………245
		付 図	ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡遺構配置図

表 目 次

表1	周辺遺物一覧表 ……………6	表3	土坑一覧表……………223
表2	住居跡一覧表……………222	表4	ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡の特色…250

附 章 目 次

表1	炭化材同定結果……………254	第1図	中久喜遺跡炭化材の顕微鏡写真…257
----	-----------------	-----	--------------------

写 真 目 次

- P L 1 ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡全景
- P L 2 中久喜遺跡全景
- P L 3 調査前全景, 遺構確認状況, 調査全景
- P L 4 第1, 2号住居跡, 第2号住居跡遺物出土状況
- P L 5 第3, 4号住居跡, 第3号住居跡遺物出土状況
- P L 6 第5, 6号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡
- P L 7 第7号住居跡, 出入口施設, 炭化材出土状況
- P L 8 第8, 9号住居跡, 第8号住居跡遺物出土状況
- P L 9 第10, 11号住居跡, 第11号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
- P L 10 第12, 13号住居跡, 第12号住居跡遺物出土状況
- P L 11 第14, 15号住居跡, 第14号住居跡遺物出土状況
- P L 12 第15号住居跡遺物出土状況, 炭化材出土状況, 第16号住居跡
- P L 13 第16, 17号住居跡遺物出土状況, 第17号住居跡
- P L 14 第17号住居跡竈, 第18号住居跡, 遺物出土状況
- P L 15 第18号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第21号住居跡, 遺物出土状況
- P L 16 第22, 23号住居跡遺物出土状況, 第23号住居跡
- P L 17 第24, 25号住居跡, 第25号住居跡土層
- P L 18 第25号住居跡遺物出土状況, 第26号住居跡
- P L 19 第26, 27号住居跡遺物出土状況, 第27号住居跡
- P L 20 第28, 29号住居跡遺物出土状況
- P L 21 第30号住居跡, 遺物出土状況
- P L 22 第31, 32, 33号住居跡遺物出土状況
- P L 23 第34, 35, 36号住居跡
- P L 24 第36号住居跡遺物出土状況, 第37, 38号住居跡
- P L 25 第38, 39号住居跡遺物出土状況, 第40号住居跡
- P L 26 第41, 42, 45号住居跡
- P L 27 第45号住居跡竈, 第46号住居跡, 遺物出土状況
- P L 28 第47号住居跡, 第1, 2号掘立柱建物跡
- P L 29 第53, 71, 86, 99, 166号土坑, 第98, 142号土坑遺物出土状況, 第1号井戸状遺構
- P L 30 第2, 3, 4号井戸状遺構, 第1, 3, 4, 5号炭焼窯跡, 第19号土坑・第2号炭焼窯跡
- P L 31 住居跡出土土器(SI 1, 2, 3)
- P L 32 住居跡出土土器(SI 3, 5, 7)
- P L 33 住居跡出土土器(SI 7, 8, 9)
- P L 34 住居跡出土土器(SI 10, 11)
- P L 35 住居跡出土土器(SI 11, 12, 13)
- P L 36 住居跡出土土器(SI 13, 14, 15)

- P L 37 住居跡出土土器(SI 15, 16, 17, 18)
- P L 38 住居跡出土土器(SI 18, 19, 21, 24)
- P L 39 住居跡出土土器(SI 18, 22, 23)
- P L 40 住居跡出土土器(SI 25, 26, 27)
- P L 41 住居跡出土土器(SI 27, 28)
- P L 42 住居跡出土土器(SI 28, 29)
- P L 43 住居跡出土土器(SI 30, 32)
- P L 44 住居跡出土土器(SI 32, 33, 34, 35, 36)
- P L 45 住居跡出土土器(SI 38, 40, 41, 42)
- P L 46 住居跡出土土器(SI 42, 43, 45, 46)
- P L 47 住居跡, 土坑, グリット出土遺物
(SI 7, 17, 19, 46, 47, SK98, J 6 区)
- P L 48 住居跡出土土製品(SI 13, 16, 17, 24), 炭焼窯跡出土鉄製品(SY5, 6)
- P L 49 住居跡, 土坑, グリット出土土製品
・石製品(SI 2, 7, 8, 11, 18, 19, 34, 41, 46, SK68, I 4)
- P L 50 住居跡, 土坑出土石製品(SI 2, 7, 9, 11, 12, 15, 18, 21, 22, 25, 27, 34, 41, 42, SK140, J 7)
- P L 51 住居跡, グリット出土石製品(SI 1, 6, 11)
- P L 52 遺構外出土遺物(石器・剝片)
- P L 53 遺構外出土遺物(石器)
- P L 54 遺構外出土遺物(石器)
- P L 55 遺構外出土遺物(石器)・住居跡鉄滓
(SI 42)
- P L 56 遺構外出土遺物 (1 剝片・2 原石, 剝片・3 炭化種子)
- P L 57 包含層出土遺物(1)
- P L 58 包含層出土遺物(2)
- P L 59 遺構外出土遺物(1)
- P L 60 遺構外出土遺物(3)

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

県が進めている「グレーターつくば構想」は、牛久市、土浦市、つくば市の三都市を業務核都市として100万田園都市圏の一翼を担うことが期待されており、牛久市の北部地区に「竜ヶ崎・牛久都市計画事業牛久北部特定土地地区画整理事業」が計画された。この事業は、業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより、昭和63年10月13日、住宅・都市整備公団つくば開発局は、茨城県教育委員会に対し、この事業計画地区である牛久市北部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け、茨城県教育委員会は、同月26日から、牛久市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い、平成元年2月7日、表面観察及び試掘調査を実施した結果、中久喜遺跡ほかヤツノ上遺跡など数遺跡が存在することを確認し、住宅・都市整備公団あてに回答した。翌年1月11日、住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねた結果、現状保存が困難であることから、記録保存の措置をとることになった。そこで、茨城県教育委員会は住宅・都市整備公団に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から遺跡発掘調査の依頼を受け、平成2年9月29日、住宅・都市整備公団と中久喜遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成3年4月1日から中久喜遺跡調査1区の発掘調査を、翌年4月1日から中久喜遺跡調査0区、2区の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

中久喜遺跡の発掘調査は、平成3年4月1日から平成5年3月24日まで行った。調査区は北から、0区、1区、2区の3区に大別した。調査は、1区を平成3年5月から平成3年10月まで、残りの0区、2区を平成4年4月から平成5年11月までの約2年間にまたがって行った。

平成3年度－1区の調査

- 5 月 発掘調査を開始するために、現場倉庫及び休憩所設置場所の伐開を行い、諸準備終了後、調査区域内の伐開、除草、焼却、清掃等の作業を実施し、終了後遺構確認のための試掘調査を開始した。
- 6 月 前月に引き続き遺構確認のための試掘調査を実施し、試掘状況の全景写真を撮影し

た。その後、トレンチによる試掘を開始した。併せて1区南部の表土除去を手掘りによって行い、28日にトレンチによる試掘調査を終了した。

- 7 月 24日までヤツノ上遺跡調査のため作業を一時中断し、25日から中久喜遺跡の調査を再開した。調査の能率をあげるため重機を導入して、1区南部、次いで中央部の表土除去を行った。
- 8 月 1区北部の表土除去を行い、併せて遺構確認作業を開始した。12日に表土除去、遺構確認作業を終了し、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟、土坑17基、炭焼窯跡1基を確認した。16日からトレンチの土層実測と、竪穴住居跡の調査を開始した。
- 9 月 前月に引き続き竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑の調査を進めた。
- 10 月 これまでに竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟、土坑17基、炭焼窯跡1基の調査を終了した。H6区、G7区に調査区を設定し、旧石器時代包含層の調査を行った。18日から補足調査及び遺跡清掃を実施し、遺跡全景の写真撮影を行った。23日に航空写真撮影を実施し、1区の調査を終了した。

平成4年度－0区、2区の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。9日から0区及び2区の伐開、除草、焼却、清掃等の作業を開始した。24日に現場倉庫、便所、休憩所の移設を行った。
- 5 月 8日に作業員による伐開終了。杭打ち、トレンチ・テストピットの掘り込みを行った。18日から2区西部山林の業者委託による伐開、除草、焼却、清掃を開始し、19日から小調査区による試掘調査を始めた。試掘調査の結果は、住居跡9軒、土坑10基が検出された。22日業者委託伐開を終了した。
- 6 月 方眼杭打ち(茨城県技術公社に委託)を開始した。4日試掘調査を終了し、竪穴住居跡の調査を開始した。17日から2区西部より重機による表土除去を始めた。
- 7 月 前月に引き続き竪穴住居跡、土坑の調査及び遺構確認作業を行った。24日重機による表土除去を終了した。
- 8 月 10日に0区の遺構確認作業を終了した。2区は竪穴住居跡37号まで調査を進めた。
- 9 月 2区の竪穴住居跡調査を終了後、土坑、炭焼窯跡、溝の調査を行い、2区の遺構調査と併せて16日から0区の遺構調査を開始した。
- 10 月 2区の土坑、掘立柱建物跡、溝の調査、0区の竪穴住居跡、土坑、炭焼窯跡、井戸、溝の調査を行った。航空写真撮影のため2区から遺跡清掃を開始した。
- 11 月 4日に遺跡全景写真撮影、5日に航空写真撮影を行った。補足調査と併せてK3区、K4区、D9区、E8区、E9区の包含層調査を開始した。17日にすべての調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

中久喜遺跡は、牛久市中根町字中久喜 426-3 他に所在している。

当遺跡が所在する牛久市は、茨城県南部中ほどに位置し、東は江戸崎町、西は荃崎町、北は阿見町、土浦市、つくば市と境を接している。市域は、東西約15km、南北約10km、面積約59.00km²を擁している。市の西側には、国道6号線と、JR常磐線が平行してほぼ南北に通じ、中央部には国道408号線が東西に走っている。

牛久市の地形は、標高25～28mの洪積台地である稲敷台地と、小野川や乙戸川、桂川水系の沖積低地とからなっている。稲敷台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が樹枝状に入り込み、台地は複雑な地形となっている。小野川は、つくば市を水源とし、本市のほぼ中央部を北西から南東に流れている。本市の南東端で小野川に合流する乙戸川は、土浦市を水源とし阿見町を流れて本市東部に入り、桂川を併せている。桂川、乙戸川を併せた小野川は、大きく北東に湾曲し、霞ヶ浦に流入している。市の西端には牛久沼が形成されている。

稲敷台地は、筑波台地の南延長部にあたり、台地の東端は東村阿波崎付近にある⁽¹⁾。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり、下部から上部にかけて、成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積し、堆積状況は、水平で単調であり、褶曲や断層はみられない⁽²⁾。

当遺跡は牛久市の北西部にあり、小野川左岸から北に入り込む支谷が、東西に分岐して小支谷となり、その小支谷に挟まれた舌状台地の東側斜面に立地している。

遺跡は、小支谷に沿った南西に伸びる標高21～25mの舌状台地に立地し、広がり幅は幅80～100m、長さ約400mで台地先端部から基部にかけてみられる。調査前の現況は、台地の大部分が山林である。台地の北東基部と南東部は、畑地として耕作されている。山林と畑の割合は約5対1である。また、台地を囲む小支谷は近年まで水田として利用されていたようである。遺跡のある台地と小支谷との比高は3～7mである。

注・参考文献

(1) 茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 佐原』 1988年

(2) 蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年

第2節 歴史的環境

中久喜遺跡が所在する地域は、大小の河川、低地、台地と変化に富んだ自然景観をもち、台地上には数多くの遺跡が残っている。特に、牛久沼周辺や小野川水系・乙戸川水系によって形成された台地上には、旧石器時代から奈良・平安時代までの遺跡が分布している。牛久市内とその周辺の各時期の遺跡の分布状況をみていくと次のようになる。

旧石器時代の遺跡は、今まで確認されていなかったが、中久喜遺跡の発掘調査においてナイフ形石器等の遺物が出土し、その存在が明らかになった。

縄文時代の遺跡は、守子橋遺跡⁽²¹⁾、下大井遺跡⁽¹¹⁾、大井遺跡⁽¹⁵⁾、沖新田道祖神前遺跡⁽⁴⁾、塚下遺跡⁽⁵⁾等がある。小野川沿いの右岸台地縁辺部には、牛久市の守子橋遺跡、荃崎町の下大井遺跡⁽¹⁾、大井遺跡⁽¹⁾がある。このうち守子橋遺跡は早期から前期にかけての遺跡である。乙戸川沿いの右岸台地縁辺部には、土浦市の沖新田道祖神前遺跡⁽²⁾があり、乙戸川左岸台地縁辺部には、塚下遺跡がある。牛久市奥原町の小野川と乙戸川とが合流する左岸台地縁辺部には、中期から後期にかけての集落跡である奥原遺跡⁽³⁾（出戸地区）があり、牛久市の乙戸川左岸台地縁辺部には、縄文時代中期に比定される住居跡20軒、フラスコ状土坑52基が検出された赤塚遺跡⁽⁴⁾がある。牛久沼から入り込む小支谷をのぞむ台地上には、早期から後期⁽⁵⁾の中の台C遺跡がある。また、同台地上には、後期中葉から後半にかけての主淡貝塚を形成する城中貝塚⁽⁶⁾がある。

弥生時代の遺跡は、小野川右岸台地縁辺部には縄文土器片とともに弥生式土器片の散布がみられる坂本遺跡⁽⁵⁾⁽⁷⁾があり、奥原町の天王峯遺跡⁽⁶⁾では、弥生時代後期の集落跡が検出され注目されている。

古墳時代の遺跡は、今回報告する中久喜遺跡⁽¹⁾、平成4年度に報告されたヤツノ上遺跡⁽²⁾を中心に、平成5年度調査中の東山遺跡⁽¹³⁾、馬場遺跡⁽¹²⁾、中下根遺跡⁽³⁾があり、その他周辺の遺跡として中根遺跡⁽⁷⁾、愛宕脇古墳⁽²⁸⁾、梨の木遺跡⁽²⁹⁾、琴塚遺跡⁽³¹⁾等がある。

これらの遺跡を周辺部地域とあわせて時期別にみると、古墳時代前期の遺跡は、牛久市奥原町のすかき台遺跡⁽¹⁾、同市同町の奥原遺跡⁽⁶⁾、土浦市の向原遺跡⁽⁸⁾、同市の烏山遺跡⁽⁹⁾などがある。小野川と乙戸川の合流する左岸台地縁辺部のすかき台遺跡では堅穴住居跡⁽⁸⁾9軒、奥原遺跡⁽⁹⁾（姥神地区）では堅穴住居跡約28軒、方形周溝墓3基が検出されている。また、向原遺跡では堅穴住居跡61軒⁽⁹⁾が検出されている。烏山遺跡では同時期の堅穴住居跡16軒が検出され、そのうち11軒の住居跡内から勾玉、管玉の未製品が大量に出土していることから、玉造工房跡と考えられている。牛久市久野町の源臺遺跡⁽¹⁰⁾では、方形周溝墓や円形周溝墓が検出されている⁽¹¹⁾。

古墳時代中期の遺跡は、牛久市下根町のヤツノ上遺跡⁽²⁾、同市中根町の中久喜遺跡⁽¹⁾、同市東端穴町の東山遺跡⁽¹³⁾、阿見町の阿見東遺跡⁽¹²⁾がある。ヤツノ上遺跡では堅穴住居跡29軒⁽¹⁰⁾、中久喜遺跡では

竪穴住居跡42軒，東山遺跡では竪穴住居跡29軒が検出されている⁽¹³⁾。これらの遺跡は古墳時代中期末から後期初頭のものとして，主に小野川左岸から入り込む小支谷をのぞむ台地の中央部から緩斜面上にかけて集落を形成しているのが特徴である。また，阿見東遺跡では，石製模造品が多数出土しており，石製品工房跡と考えられている⁽¹⁴⁾。

古墳時代後期の遺跡は，牛久市奥原町の天王峯遺跡，奥原遺跡がある。天王峯遺跡では竪穴住居跡2軒，奥原遺跡では竪穴住居跡約44軒が検出されている⁽³⁾。

古墳は，集落に付属するように，荃崎町の下大井古墳群<11>，阿見町の内記古墳群<18>，実穀古墳群<21>，牛久市猪子町の道山古墳群<23>がある。なかでも小野川に流れる一支流に面した標高20mの台地上には，9基の道山古墳群があり，第3，4，5号墳からは直刀が出土している。これらの古墳は，いずれも6世紀後半から7世紀前半のものである。

奈良・平安時代の遺跡はこれまであまり確認されていないが，ヤツノ上遺跡では平安時代の竪穴住居跡8軒，掘立柱建物跡2棟が検出されている⁽¹²⁾。寺の台遺跡では鉄滓と鉄打ち込み用の台石が出土し，製鉄跡と考えられている⁽⁵⁾。奥原遺跡(姥神地区)からは，奈良時代の竪穴住居跡16軒，平安時代の住居跡58軒及び掘立柱建物跡4棟が検出され，須恵器の宝珠形陶硯や「天」，「門」，「仲止夫」と書かれた墨書土器が出土している⁽³⁾。

中世の遺跡としては，上小池城跡<33>，岡見城跡<36>がある。岡見城跡は牛久市岡見町に所在し，室町時代の初期の城跡とみられる⁽¹⁵⁾。

※ 文中の< >内の番号は，表1，第1図中の該当番号と同じである。

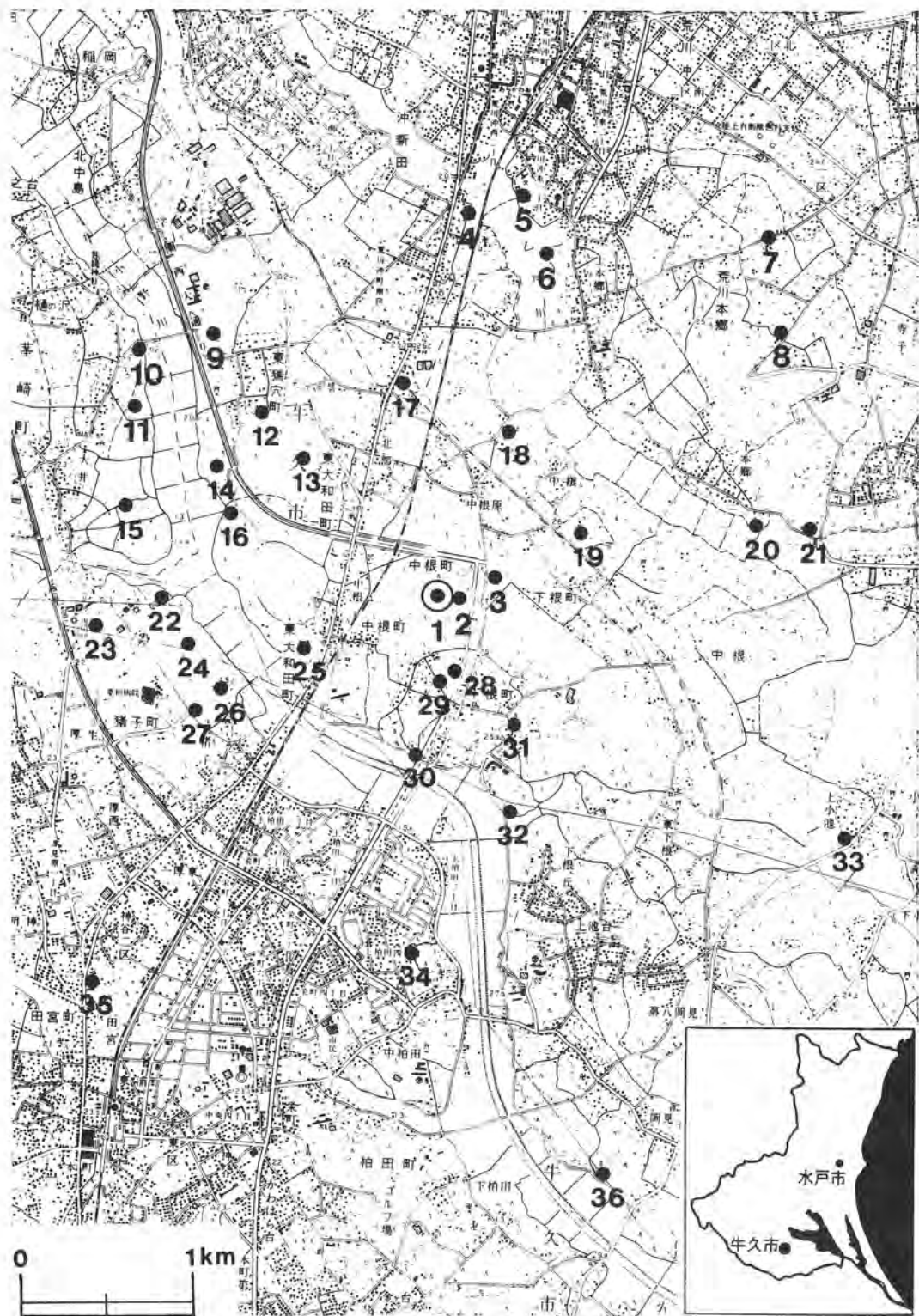
注・参考文献

- (1) 荃崎村教育委員会 『荃崎村史』 1973年
- (2) 土浦市教育委員会 『土浦の遺跡 埋蔵文化財包蔵地』 1984年
- (3) 奥原遺跡発掘調査会 『奥原遺跡』 1989年
- (4) 赤塚遺跡発掘調査会 『赤塚遺跡』 1984年
- (5) 牛久市教育委員会 『牛久町史 史料編(一)』 1979年
- (6) 牛久市教育委員会 『天王峯遺跡報告書 第二次調査』 1988年
- (7) 阿見町史編さん委員会 『阿見町史』 1983年
- (8) 牛久市すかき台遺跡発掘調査会 『すかき台遺跡』 1991年
- (9) 土浦市向原遺跡発掘調査会 『向原遺跡』 1987年
- (10) 国土館大学文学部考古学研究室 『烏山遺跡』 1988年
- (11) 牛久市教育委員会 『常陸源臺遺跡』 1989年

- (12) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)
ヤツノ上遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年
- (13) 茨城県教育財団 『中久喜・東山遺跡 現地説明会資料』 1993年
- (14) 阿見町阿見東遺跡調査会 『阿見東遺跡』 1992年
- (15) 小坂城跡発掘調査会 『小坂城跡』 1979年

表1 周辺遺跡一覧表

番号	名 称	時 代					番号	名 称	時 代				
		縄文	弥生	古墳	奈・平	鎌倉以降			縄文	弥生	古墳	奈・平	鎌倉以降
1	中久喜遺跡			○	○		19	中根遺跡			○		
2	ヤツノ上遺跡	○		○	○		20	だめき古墳			○		
3	中下根遺跡			○			21	実穀古墳群			○		
4	沖新田道祖神前遺跡	○		○			22	守子橋遺跡	○				
5	塚下遺跡	○		○			23	道山古墳群			○		
6	於山古墳			○			24	宮坂古墳			○		
7	大塚古墳			○			25	根柄古墳			○		
8	北古辺古墳			○			26	中宿遺跡			○		
9	大久保遺跡			○			27	古屋敷遺跡			○		
10	下大井遺跡	○					28	愛宕脇古墳			○		
11	下大井古墳群			○			29	梨の木遺跡			○		
12	馬場遺跡			○			30	宮の台遺跡			○		
13	東山遺跡			○			31	琴塚遺跡			○		
14	行人田遺跡			○			32	水落下遺跡			○		
15	大井遺跡	○					33	上小池城跡					○
16	坂本遺跡	○	○				34	権現山上池遺跡	○		○		
17	東獺穴一里塚					○	35	田宮一里塚					○
18	内記古墳群			○			36	岡見城跡					○



第1図 周辺遺跡分布図

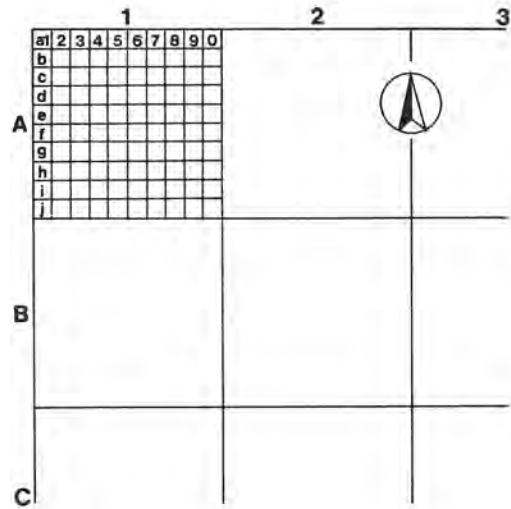
第3章 調査方法

第1節 地区設定

中久喜遺跡の発掘調査を実施するにあたり、遺跡及び遺構の位置を明確にするために調査区を設定した。

調査区の設定は、日本平面直角座標第IX系座標のX軸(南北)+280m, Y軸(東西)+29,840mの交点を基準点として40m方眼を設定し、この40m四方の区画を大調査区とした。さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分して、4m四方の小調査区を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いて表記した。大調査区は、



第2図 調査区呼称図

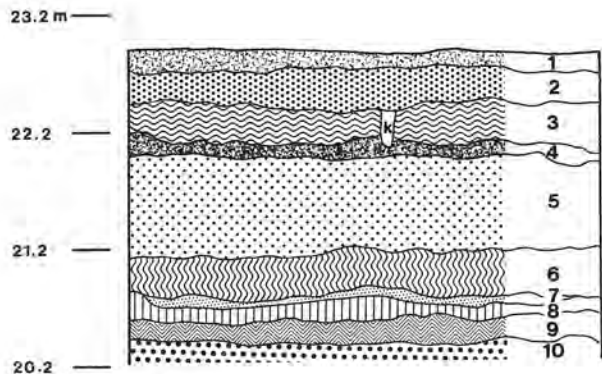
北から南へA, B, C・・・, 西から東へ1, 2, 3・・・とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c・・・j, 西から東へ1, 2, 3・・・0とし、大調査区の名称を冠し、「A1a₁区」、「B2e₂区」のように呼称した(第2図)。

第2節 基本層序の検討

中久喜遺跡のJ3e₃区内にテストピットを設定し、深さ2.7m掘り下げ、第3図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は表土(耕作土)で、厚さ20cmの褐色土である。炭化粒子を微量、ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み粘性縮まりとも弱い。

第2層は表土(耕作土)で、厚さ40cmの



第3図 基本土層図

褐色土である。炭化粒子を少量，ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を多量に含み粘性が弱い。

第3層は厚さ40cmの褐色のハードローム層である。極めて締まりが強く，クラックがいちじるしい。

第4層は厚さ20cmの褐色のローム層で，ブラックバンド(第1暗色帯)に相当するものと思われる。トレンチャーによる耕作跡がこの層まで達している。

第5層は厚さ90cmの褐色のハードローム層で，締まりが強い。

第6層は厚さ40cmのにぶい褐色のハードローム層で，粘性締まりとも強い。

第7層は厚さ10cmのにぶい褐色のローム層で，ブラックバンド(第2暗色帯)に相当するものと思われる。粘性締まりとも強い。

第8層は厚さ20cmの黄褐色のハードローム層で，粘性締まりとも強い。

第9層は厚さ20cmの褐色のハードローム層である。橙色・赤褐色のパミスを中量含み，極めて粘性が強く締まりも強い。

第10層は厚さ20cmの黄褐色の粘土層で，極めて粘性が強く締まりも強い。

古墳時代の遺構は，3層上面で確認されたが，山林部においては2層上面で遺構プランが確認できることから，全体的には2層上面から遺構が構築されていたと考えられる。

第3節 遺構の確認

遺構の確認は，調査区の16分の1にあたる面積の試掘調査を実施した。試掘調査開始当初から，縄文式土器片，土師器，須恵器とともに，遺構と思われる落ち込みが確認された。この試掘調査の結果をふまえ，調査員で協議を行い，調査区全面の表土除去を実施することにしたが，遺構確認状況から判断して，かなりの遺構数が予想されたことや，表土の厚さが40～60cmであることから，表土除去は重機で行うことにし，さらに，調査期間の関係から，調査区域を0，1，2区の3区に分けて実施することとした。重機で表土を除去した後，人力による遺構確認作業を行い，竪穴住居跡48軒，掘立柱建物跡2棟，土坑162基，井戸状遺構4基，炭焼窯跡6基を確認した。

第4節 遺構調査

住居跡の調査は，平面プラン確認後，土層観察用のベルト2本を遺構の中央部で直交するように設定して四分割し，それぞれを掘り込む四分割法で実施した。それぞれの地区の名称は，北か

ら時計回りに1～4区とした。

土坑の調査は、長径方向で二分割して掘り込む二分割法で実施し、地区名は住居跡の表記に準じた。

掘立柱建物跡については、柱痕跡あるいは柱穴掘り方が一直線に連続するようなラインを設定し、このラインに沿って二分割して掘り込んだ。炭焼窯跡は住居跡調査に準じて実施した。

土層については、色相、含有物や混入物の種類や量、粘性や締まり具合等を観察して土層分類の基準とした。色相の判断は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著、日本色研事業株式会社）を使用した。

遺物の取り上げは、住居跡や土坑等の名称と出土地区の名称、取り上げ番号、レベル等を記録して収納した。

遺構の実測については、平面図は水糸を1m方眼に地張りして計測し、土層及び遺構断面図は水糸を適度なレベルに水平に張り、計測した。

調査の記録は、土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土位置図作成→遺構平面写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面や写真に記録できない事項に関しては、野帳及び調査記録カードに記録し、さらに遺構カードに整理した。

第4章 遺構と遺物

第1節 遺跡の概要と遺構及び遺物の記載方法

1 遺跡の概要

中久喜遺跡は、牛久市の北西部、小野川左岸から北に入り込み東西に分かれた小支谷によって挟まれた標高21～25mの舌状台地上にあり、古墳時代中期を中心に、平安時代までの複合遺跡である。現況は山林・畑で、調査区は、舌状台地東側の基部から先端部にまたがる南北の長さ約430m、最大幅東西約340m、面積39,423㎡のほぼ鉤の手状の範囲にあたる。

今回の調査によって検出された遺構は、古墳時代中・後期及び平安時代前・中期の竪穴住居跡48軒、掘立柱建物跡2棟、土坑162基、井戸状遺溝4基、炭焼窯跡6基である。

古墳時代の竪穴住居跡は43軒である。分布をみると、台地先端部に9軒、中央部に26軒、基部に8軒と三つのグループに分けることができる。これらの住居跡は北西寄りに地床炉をもつ住居跡が約38%、炉をもたない住居跡が約36%を占め、竈をもつ住居跡は1軒のみである。

平安時代の竪穴住居跡は5軒で、台地先端部に4軒、基部に1軒がみられる。竈は北側にもつ住居跡と東側にもつ住居跡とがある。掘立柱建物跡は2棟で、住居跡と混在しながら、台地中央部から検出されている。近世の炭焼窯跡は、台地先端部に4基、中央部に1基、基部に1基が検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に135箱出土している。時代別にみると、旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器が出土している。縄文時代の遺物は、縄文式土器片、耳飾り片、石鏃、磨石等が出土している。古墳時代の遺物は、土師器の甕、甑、壺、坏、高坏、埴、鉢、須恵器の甕、高坏、坏身、坏蓋、釵及びその破片、鉄製品の刀子、石製品の勾玉、白玉、紡錘車、砥石等が出土している。平安時代の遺物は、土師器の坏、高台付坏、甕、高台付皿、須恵器の坏、坏蓋等が出土している。

2 遺構・遺物の記載方法

本書における遺構及び遺物の記載方法は、以下のとおりである。

(1) 使用記号

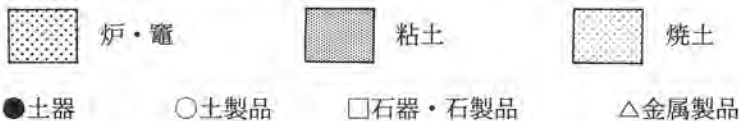
遺構

名称	住居跡	掘立柱建物跡	土坑	窯跡	ピット	性格不明遺構
記号	S I	S B	S K	S Y	P ₁ …	S X

遺物

土器	土製品	石器	金属製品
P	DP	Q	M

(2) 遺構及び遺物の実測図中の表示



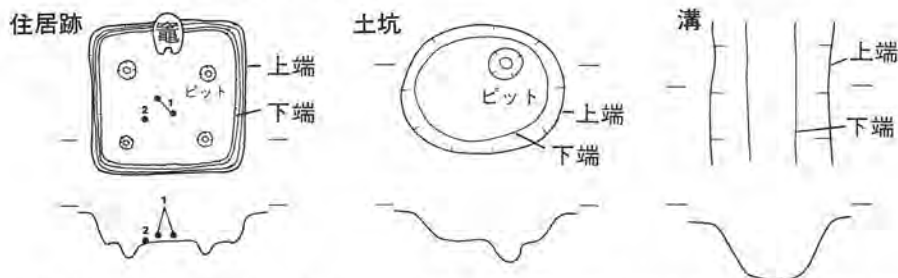
(3) 遺構番号

遺構番号については、調査の過程において遺構の種別ごと、調査順に付したが、整理の段階で遺構でないとは判断したものは欠番とした。

(4) 土層の分類

土層観察における色相については、図版実測図中に記載した。攪乱層については「K」、ロームブロックについては「R」、焼土ブロックについては「S」、炭化材については「T」と表記した。

(5) 遺構実測図の作成方法と掲載方法



① 住居跡・土坑・竈跡は、縮尺20分の1の原図を縮尺60分の1または、80分の1の縮尺にした。

② 実測図中のレベルは標高であり、m単位で表示した。また同一図中で同一標高の場合に限り、一つの記載で表し、標高が異なる場合は各々表示した。

③ 本文中の記載について

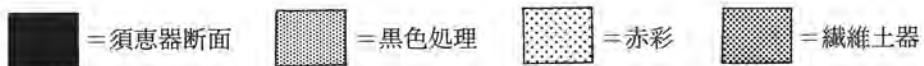
- 「位置」は、遺構の占める割合が最も大きい小調査区名をもって表示した。
- 「重複関係」は、他の遺構との切り合い関係を記した。
- 「平面形」は、現存している形状の上端部で判断し、方形・長方形、円形・楕円形の場合は下記の分類基準を設け、そのいずれかを明記した。
方形(短軸:長軸 = 1:1.1未満のもの) 長方形(短軸:長軸 = 1:1.1以上のもの)
円形(短径:長径 = 1:1.1未満のもの) 楕円形(短径:長径 = 1:1.1以上のもの)
また、形の整わないものは、不整○○形と表示した。
- 「規模」は、平面形の上端部の計測値であり、長軸(径)、短軸(径)をm単位で表記した。()を付したものは現存値、[]は推定値である。

- 「方向」は、炉または竈を通る線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(主軸方向)。
(N-10°-E, N-10°-W) []を付したものは推定である。
- 「壁」は、床面からの立ち上がり角度が81°~90°を垂直、65°~80°を外傾、65°未満を緩斜、さらに90°以上を内傾とした。壁高は、残存壁高の計測値であり、cm単位で表記した。
- 「壁溝」は、その形状や規模を記述した。規模は床面からの計測値とした。
- 「床」は、凹凸、平坦等の様子を示し、床質等について述べた。
- 「ピット」は、その住居跡に伴うと考えられる総数を表示し、主柱穴・入口施設ピット数を表し、P₁・P₂はピット番号を表し、さらに、ピットの直径と深さを記述した。
- 「覆土」は、堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」、人為堆積の場合は「人為」と記した。
- 「遺物」は、主な遺物の種類や出土位置、出土状態を記述した。
- 「所見」は、当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

(6) 遺物実測図の作成方法と掲載方法

① 土器の実測は、四分割法を用い、中心線の左側に外面、右側に内面及び断面を表した。

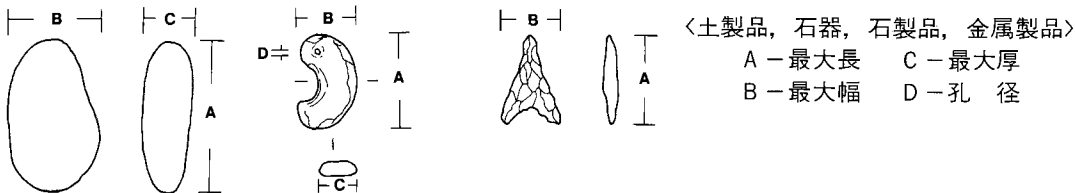
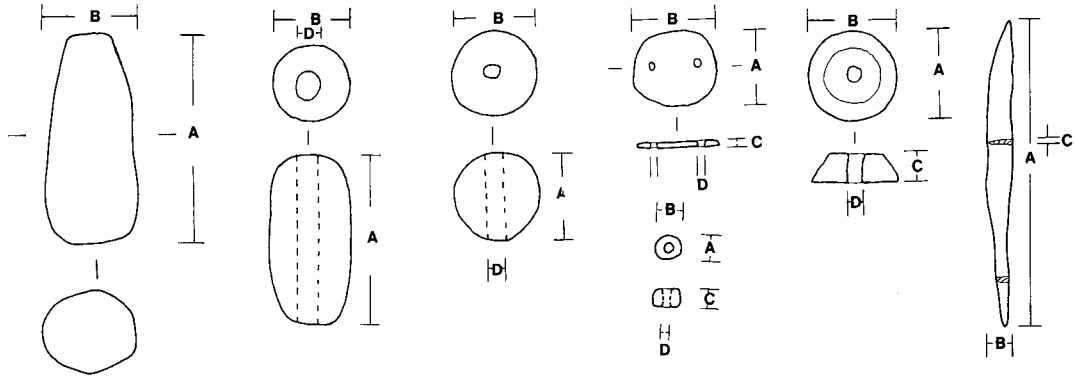
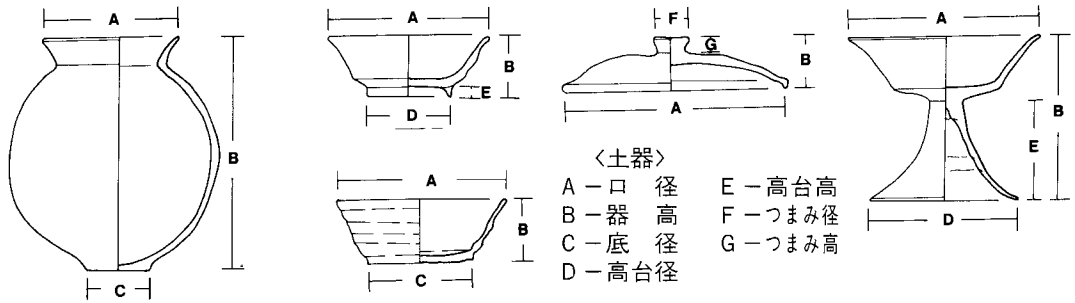
② 実測図中の表示方法



③ 土器の拓影図は、右側に断面を表し、表・裏2面を掲載したものは、断面を挟んで左側に外面、右側に内面を掲載した。

④ 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。

⑤ 各部位の名称と計測値表現



(7) 表の見方

<住居跡一覧表>

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				

- 炉が検出されている場合は「炉」、竈が付設されている住居跡は「竈」と表示した。
- 出土遺物は、遺物の種類を記した。
- 備考は、重複関係や特徴等を記した。
- その他の項目については、本文中の記載方法に準じた。

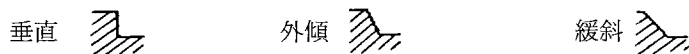
〈土坑一覧表〉

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						



○ 深さは、遺構確認面から坑底の最も深い部分までの計測値(cm)で表した。

○ 壁面は、坑底からの立ち上がりの状態を下記の基準で分類し表示した。

81°～90° の傾き 65°～80° の傾き 65° 未満の傾き



○ 底面は、下記の基準で分類し表示した。

1 平坦 — 2 皿状  3 凹凸 

○ その他の項目については、本文中の記載方法に準じた。

〈土器観察表〉

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考

○ 図版番号は、実測図中の番号である。

○ 計測値は、A…口径、B…器高、C…底径、D…高台径、E…高台高、F…つまみ径、G…つまみ高とし、()は現存値、[]は復元推定値を表す。

○ 器形の特徴は、底部、体部等の各部位について記した。

○ 手法の特徴は、土器の成形、整形について記した。

○ 胎土、色調、焼成の順で述べ、色調は『新版標準土色帖』を使用した。焼成については、「良好」、「普通」、「不良」に分類し、硬く焼き締まっているものは良好、焼きがあまり器面が剝離しやすいものは不良とし、その中間のものを普通とした。

○ 備考は、残存率、実測(P)番号等を記した。

〈土製品観察表〉

図版番号	器種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		

- 図版番号は、実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。
- 重量の欄で、()を付した数値は、一部を欠損しているものの現存値である。
- 備考は、実測(DP)番号等を記した。

〈石器・石製品観察表〉

図版番号	器種	計 測 値					石質	出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			

- 備考は、実測(Q)番号等を記した。

〈鉄製品観察表〉

図版番号	器種	計 測 値				備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	

- 備考は、実測(M)番号等を記した。

第2節 竪穴住居跡

本調査区は、台地の中央部から東側斜面部の範囲にあり、住居跡は台地平坦部から斜面部にかけて古墳時代43軒、平安時代5軒が確認された。

1 古墳時代の住居跡

第1号住居跡(第4・5図)

位置 F8f₃区。

規模と平面形 長軸6.75m, 短軸5.28mの長方形。

長軸方向 N-47°-E。

壁 壁高は26~47cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。

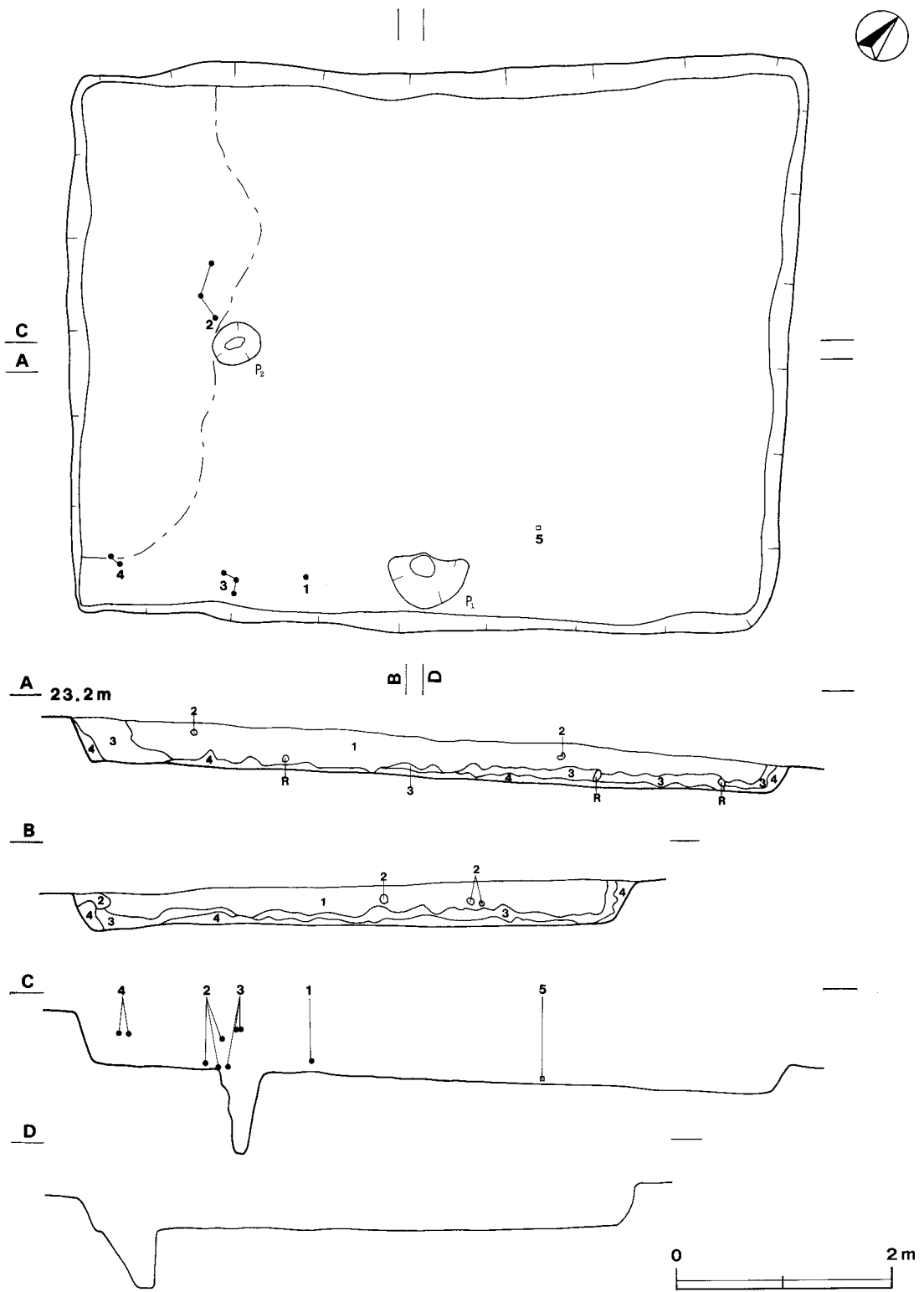
床 床面は、平坦で、西コーナーから南コーナーにかけて硬化した面がみられるだけである。

ピット 2か所。P₁は径68cm, 深さ55cmで、規模や位置から梯子ピットと思われる。P₂は径45cm, 深さ66cmで、支柱穴と考えられるが、他に柱穴らしい落ち込みは確認できなかった。

覆土 4層からなる。1層は14~36cmの厚さで、覆土の大部分を占める。2層は南東壁側にのみ堆積する。3・4層はいずれも壁際から床面上に流れ込んでおり、住居埋没後の最初の流れ込み層である。遺物の出土状況は、1層から土師器片が多く出土しているが、2~4層ではあまり出土していない。西コーナー付近の4層上に焼土がみられる。

遺物 1層中から出土した土師器片は、南コーナー付近に集中してみられる。床面直上では、土師器片が少量確認されたに過ぎず、完形品はない。実測できた土師器は、第5図1~4で、1の坏は、3層上面の南東壁南コーナー寄り、2の坏は、4層中の住居跡の中央から南西約2mから出土し、3の坏は、1層と4層上面から出土したものが接合、4の甕の底部片は、1層と3層中から出土したものが接合している。

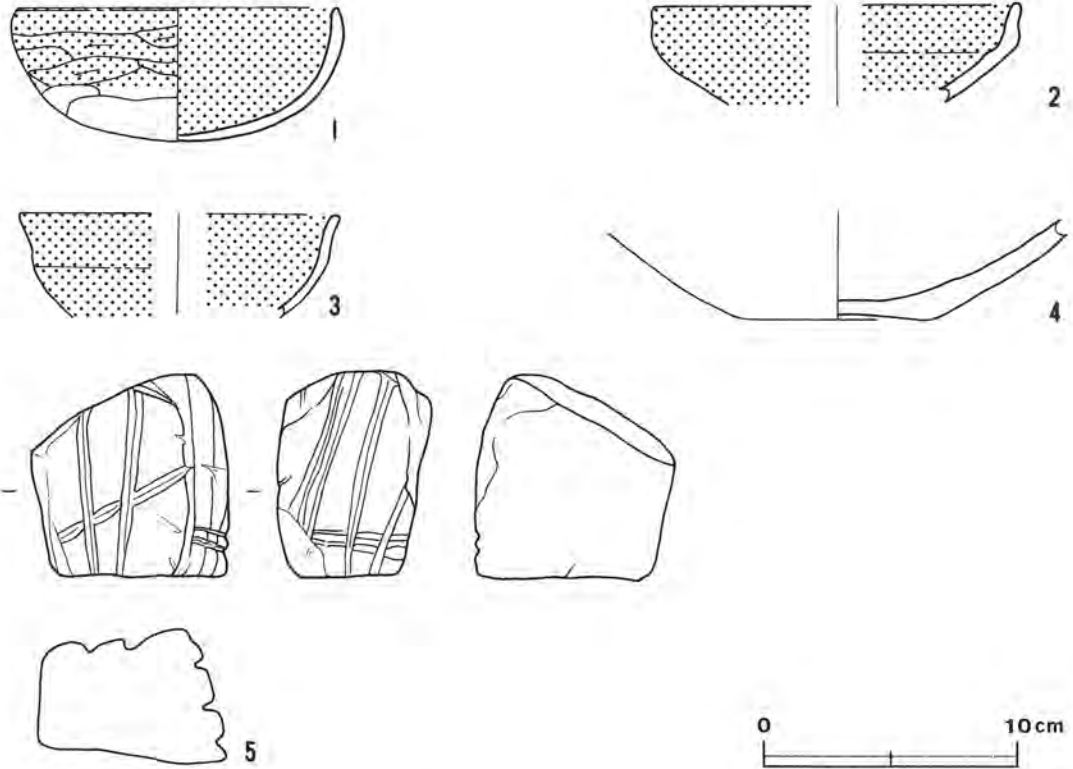
所見 本跡は、台地中央部の集落から北約60m離れたところに位置している。柱穴は1か所が確認されただけで、炉も確認されず、床面はあまり硬化した面がみられない。状況から判断すると、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。出土遺物を見ると、床面で確認されたものは覆土中にみられる土師器片と同じ時期のもので、すべてが坏破片であるのが特徴である。これらの状況から、同遺構内の遺物はいずれも埋没過程で投棄されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第4图 第1号住居跡実測图

第1号住居跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量。
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色しみ状。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色土ブロック極微量。



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第5図 1	坏 土 師 器	A 12.7 B 5.3	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒・スコリア 黄褐色 普通	P1 100%
2	坏 土 師 器	A [14.5] B (3.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒 赤色 普通	P2 10% 外面摩耗
3	坏 土 師 器	A [12.7] B (4.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒・スコリア 赤褐色 普通	P3 20%
4	甕 土 師 器	B (4.0) C 7.3	底部から体部の破片。上げ底。胴部は内彎して立ち上がる。	底部へラ削り後ナデ。体部外面ナデ。	石英・長石・砂粒・スコリア に ぶ り ・ 黄 橙 色 普通	P4 10% 内面摩耗

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(mm)	重量(g)			
第5図5	砥石	8.1	7.8	5.3		415.1	砂岩	SI1	Q1

第2号住居跡(第6～10図)

位置 G7i₂区。

規模と平面形 長軸7.00m, 短軸6.37mの方形。

主軸方向 N-45°-W。

壁 壁高は24～46cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。東コーナーから南東壁にかけていも穴による攪乱を受けている。壁溝は、南東壁の攪乱部分を除いてほぼ全周しており、上幅14～18cm, 深さ6～18cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は、幅9～20cmで、北東壁から2条、南東壁から1条、南西壁から2条中央部に向かって延びている。南東壁から中央寄りに長軸240cm, 短軸約165cmの不整形の高まりがみられ、床面との比高は8cmである。位置や形態から出入口施設と思われる。

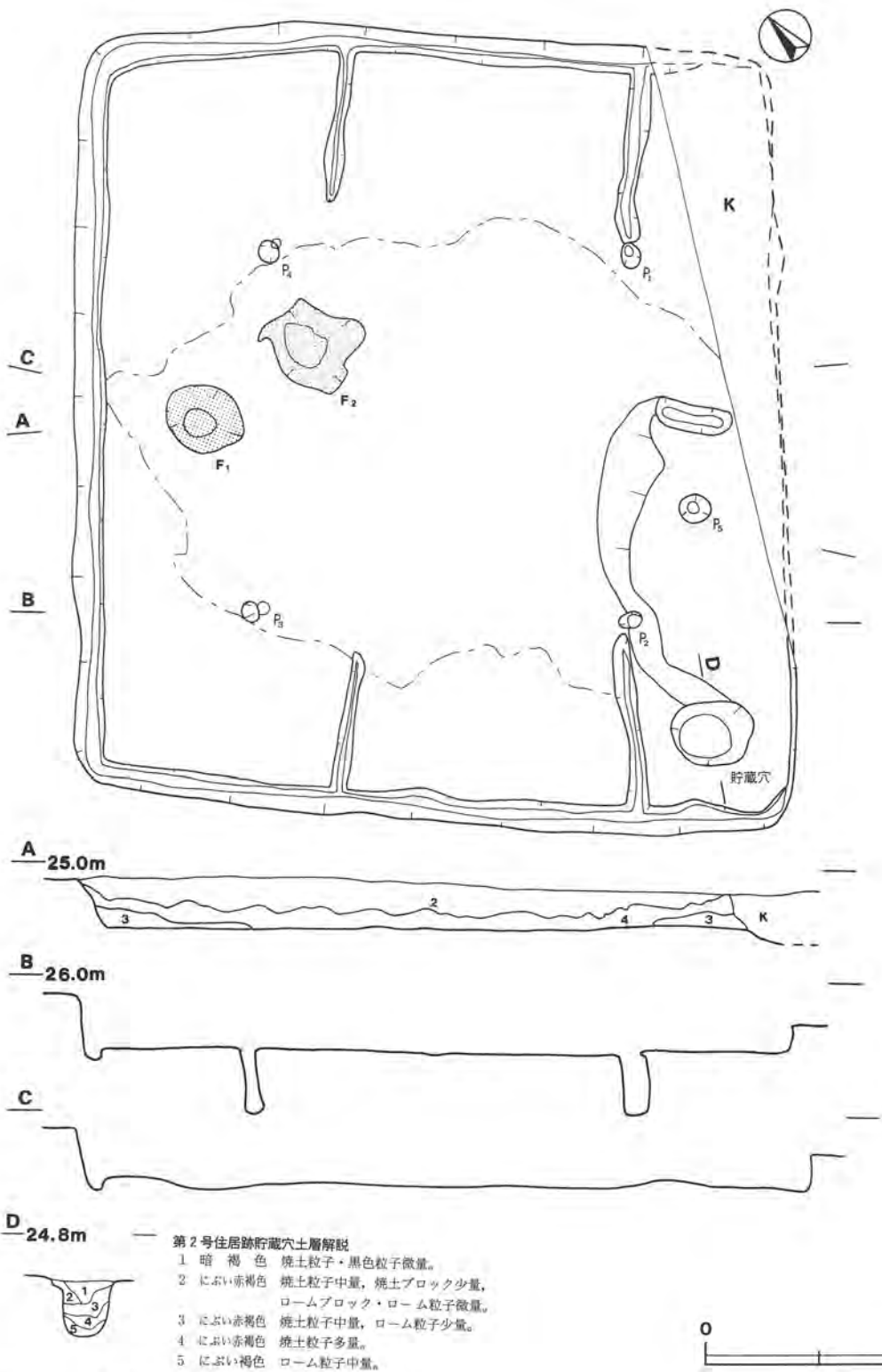
ピット 5か所。P₁～P₄は、径18～23cm, 深さ52～79cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は、径29cm, 深さ14cmで、規模や配置から梯子ピットと思われる。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。長径74cm, 短径56cm, 深さ53cmで、円筒状に掘り込まれている。

炉 2か所。中央から北西寄りをF₁, 中央部をF₂とした。F₁は、長径72cm, 短径61cmで、床面を8cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は3層からなり、1層にぶい赤褐色, 2層赤灰色, 3層にぶい赤褐色であり、焼土ブロック, 焼土粒子を含む。炉床は、あまり焼けていない。F₂は、長径83cm, 短径60cmで、楕円形の地床炉である。炉床は、ほとんど掘り窪められてなく床面が火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1・2層は流れ込みの層である。3～4層はロームブロックやローム粒子を含み、5層は焼土ブロックやローム粒子を含む。ローム粒子は、北から南にかけて多く混入している。上層と床面に同時期の土師器片が散布しているが、中層からはあまり出土していない。覆土中から砥石, 縄文式土器片, 黒曜石とチャートの剥片が出土している。

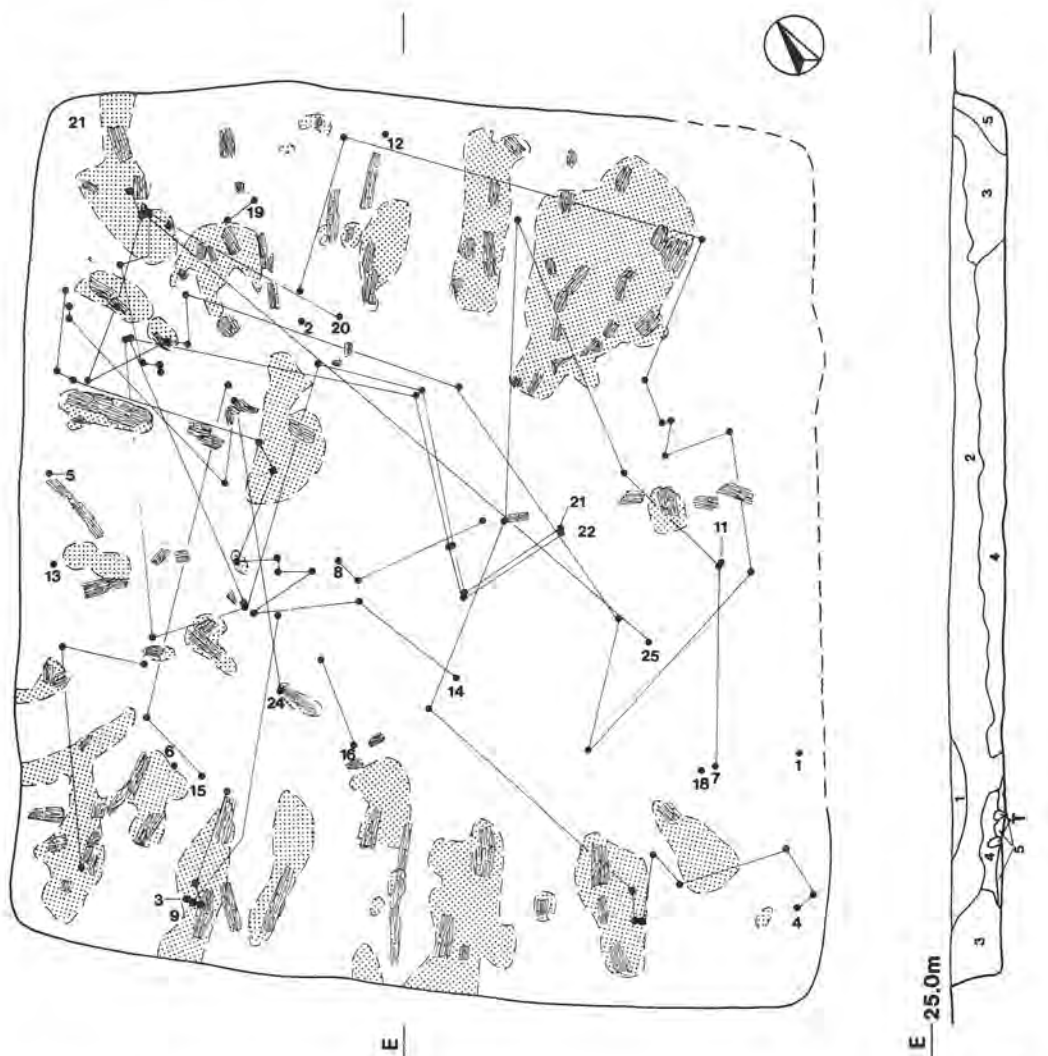
遺物 覆土中から出土した遺物は、第8図-3・5・6～9・11・14・15・第9図-16・17・19～25・第10図-26・27が出土している。床面直上の遺物は、1の土師器坏が南東壁際から、10の須恵器坏蓋・18の坏が同壁付近から出土している。1は正位の状態で出土している。13の埴は北西壁下から出土している。4の坏は南コーナー付近から出土している。2の坏は中央から北側で出土している。12の埴は北東壁際から出土している。また、26の碧玉製の勾玉は、出入口施設の



第6図 第2号住居跡実測図

北側の中層から出土している。

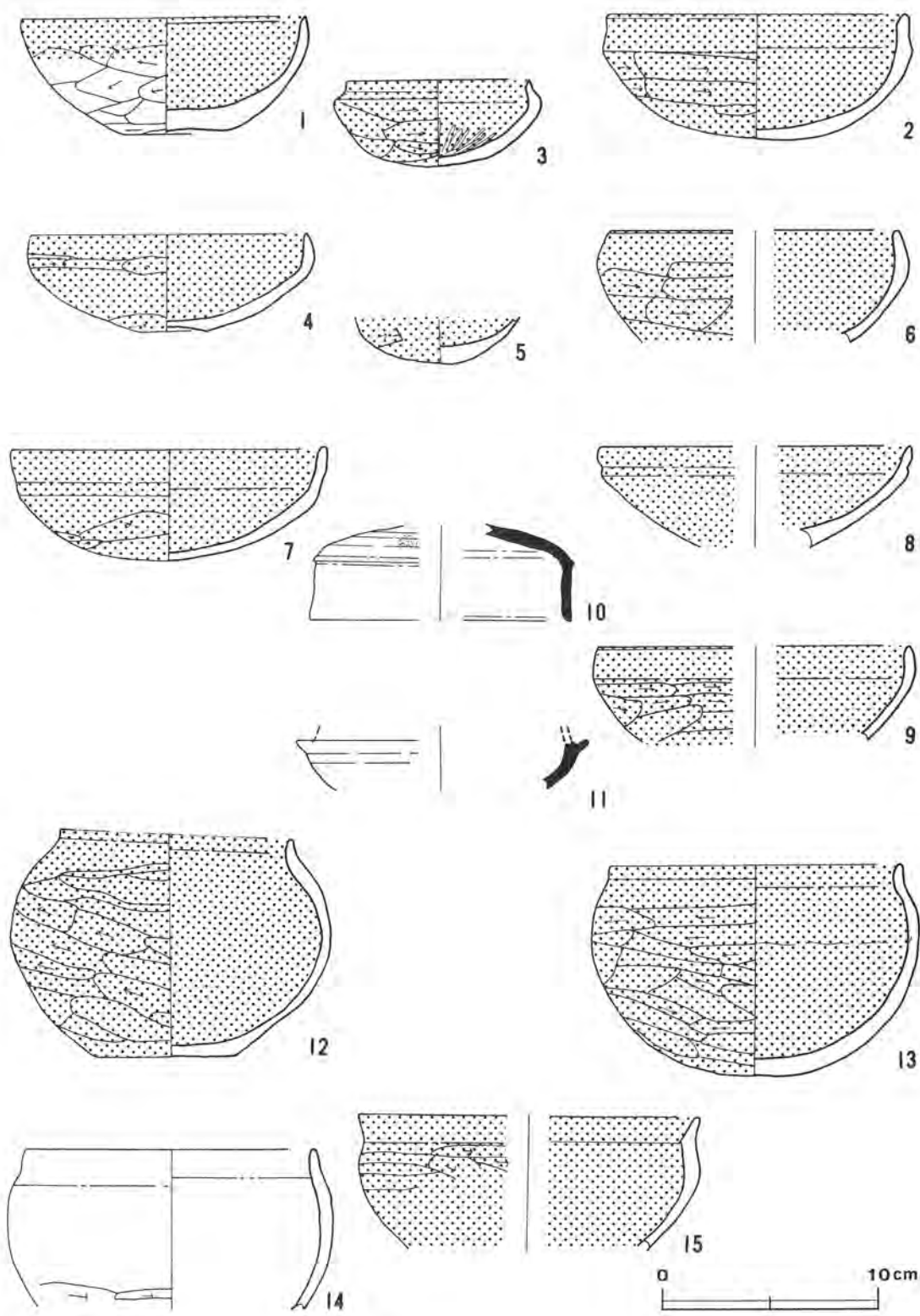
所見 当住居跡は、覆土下層で焼土塊や炭化材が確認され、その上に、ローム土などを含むブロック状の堆積がみられることから、焼失した後に人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



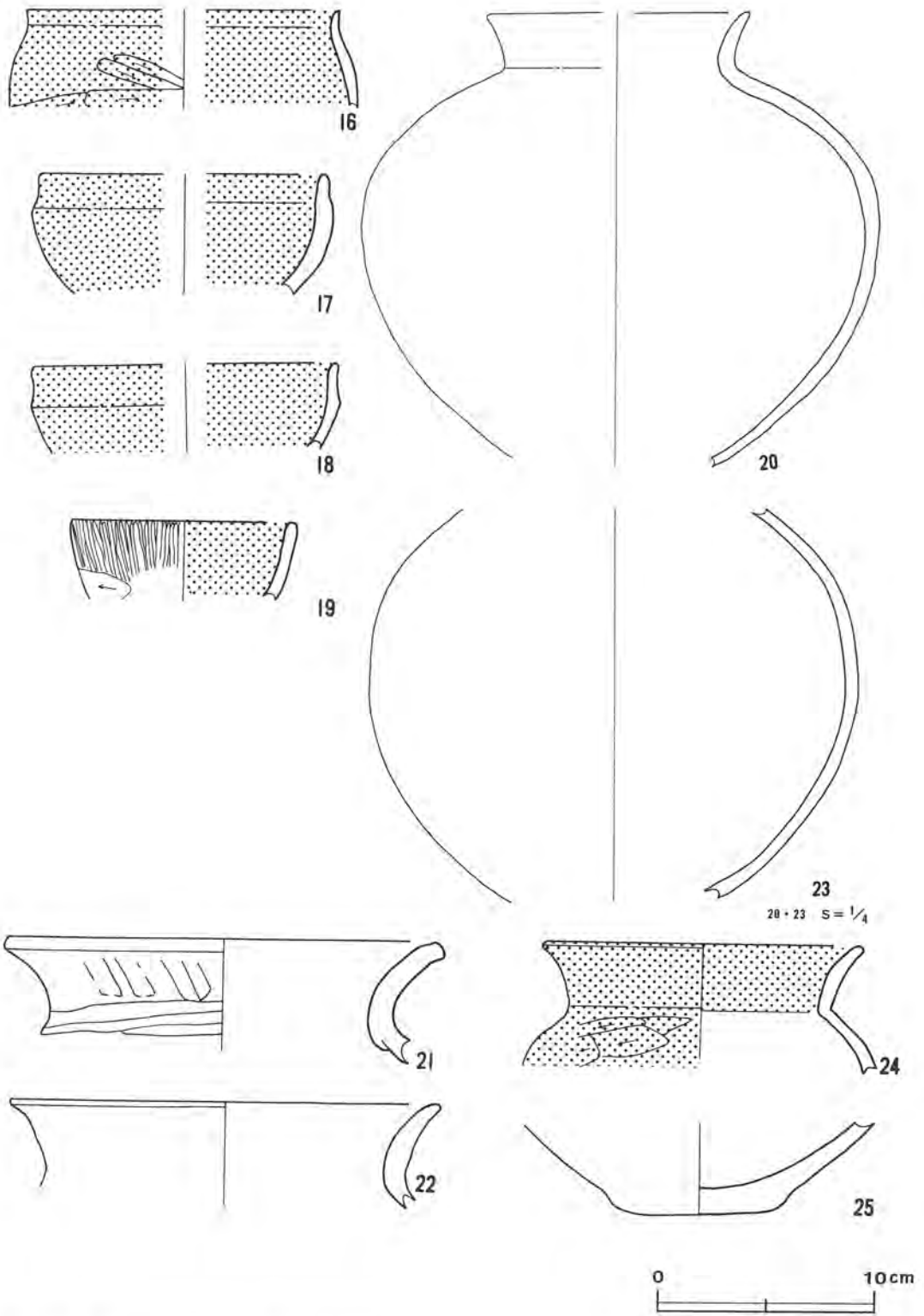
第2号住居跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量、炭化粒子極微量。
- 3 近い褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化材極微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量。
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・黒色粒子少量。

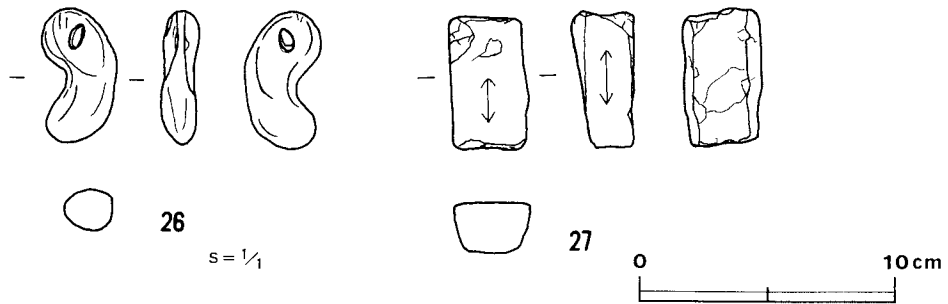
第7図 第2号住居跡遺物出土位置図



第 8 图 第 2 号住居跡出土遺物実測図(1)



第9図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)



第10図 第2号住居跡出土遺物実測図(3)

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	坏 土師器	A 13.5 B 5.5 C 3.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒 赤褐色 普通	P5 90% 内・外面摩耗
2	坏 土師器	A 14.0 B 5.8	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒 明赤褐色 普通	P6 90% 内面摩耗
3	坏 土師器	A 8.6 B 4.0	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 良好	P7 90%
4	坏 土師器	A 12.8 B 4.4 C 3.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P9 75% 内面摩耗
5	坏 土師器	B (2.2)	底部から体部の破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 良好	P8 10%
6	坏 土師器	A [13.4] B (5.2)	体部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 赤色 普通	P10 20%
7	坏 土師器	A 14.9 B 5.1	体部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 明赤褐色 普通	P11 40% 内面摩耗
8	坏 土師器	A [14.4] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコ リア・砂粒 赤色 普通	P12 30% 口縁部摩耗
9	坏 土師器	A [14.6] B (4.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P13 15%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 10	坏蓋器 須恵器	A [12.2]	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎して口縁部に至り、口縁部と境に稜を持つ。口縁部は直下する。口縁端部は内傾する平坦面をなす。	巻き上げ・水挽き成形。天井部回転ヘラ削り。外面黒色自然釉。	長石・砂粒 黒色 良好	P15 40%
		B (4.7)				
11	坏身器 須恵器	B (2.3)	体部から受部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、受部は長く上外方に伸び、丸味を帯びる。	巻き上げ・水挽き成形。体部外面回転ヘラ削り、内面ナデ。外面体部から受部直下自然釉。	長石・砂粒 褐灰色 良好	P14 5%
12	埴土師器	A 10.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P16 90% 内面及び外面一部摩耗
		B 10.7				
		C 6.5				
13	埴土師器	A 13.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P17 100% 内面摩耗 内・外面煤付着
		B 9.8				
14	埴土師器	A 13.6	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P18 40% 外面煤付着
		B (7.6)				
15	埴土師器	A [15.9]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内面に稜を持ち外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・石英・砂粒 赤褐色 普通	P19 20%
		B (6.3)				
第9図 16	埴土師器	A [14.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P20 20% 内面摩耗
		B (4.6)				
17	埴土師器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P21 20% 外面摩耗
		B (5.6)				
18	坏土師器	A [14.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部はやや外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P22 20%
		B (4.1)				
19	埴土師器	A [10.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部内面ナデ、外面ヘラ磨き。内面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P23 20%
		B (3.1)				
20	甕土師器	A [16.9]	体部下位から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。頸部はくびれる。口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P24 35% 内・外面摩耗
		B (29.3)				
21	甕土師器	A 20.4	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部内・外面横位のナデ。口縁部外面斜位のヘラナデ後横ナデ、内面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P26 20%
		B (5.7)				
22	甕土師器	A 20.0	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P27 10%
		B (4.9)				
23	甕土師器	B (25.3)	体部破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横位のナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P25 20% 内面摩耗
24	甕土師器	A 14.9	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ヘラ削り後横位のナデ。口縁部内・外面横位のヘラナデ後横ナデ。体部外面・口縁部内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P28 20% 口縁部煤付着
		B (6.0)				
25	甕土師器	B (4.2)	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎する。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・砂粒 褐色 普通	P29 10% 内・外面摩耗
		C 7.9				

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第10図26	勾玉	1.8	1.0	0.7	0.5	1.2	碧玉	SI2	Q3
27	砥石	(5.5)	3.1	2.0		54.0	凝灰質砂岩	SI2	Q4

第3号住居跡(第11～14図)

位置 G7j₅区。

規模と平面形 長軸6.52m, 短軸6.48mの方形。

主軸方向 N-44°-W。

壁 壁高は19～35cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。南コーナーから南西壁にかけて溝状の攪乱を受けている。壁溝は、東コーナー部と南東壁下を除きほぼ半周しており、上幅14～20cm, 深さ4～10cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は、幅8～16cm, 深さ約12cmで、北東壁から2条, 南西壁から2条中央部に向かって伸びている。南東壁下中央部から南コーナー寄りに長軸280cm, 短軸153cmの長方形の高まりがあり、床面との比高は4cmである。位置や形態から出入口施設と思われる。

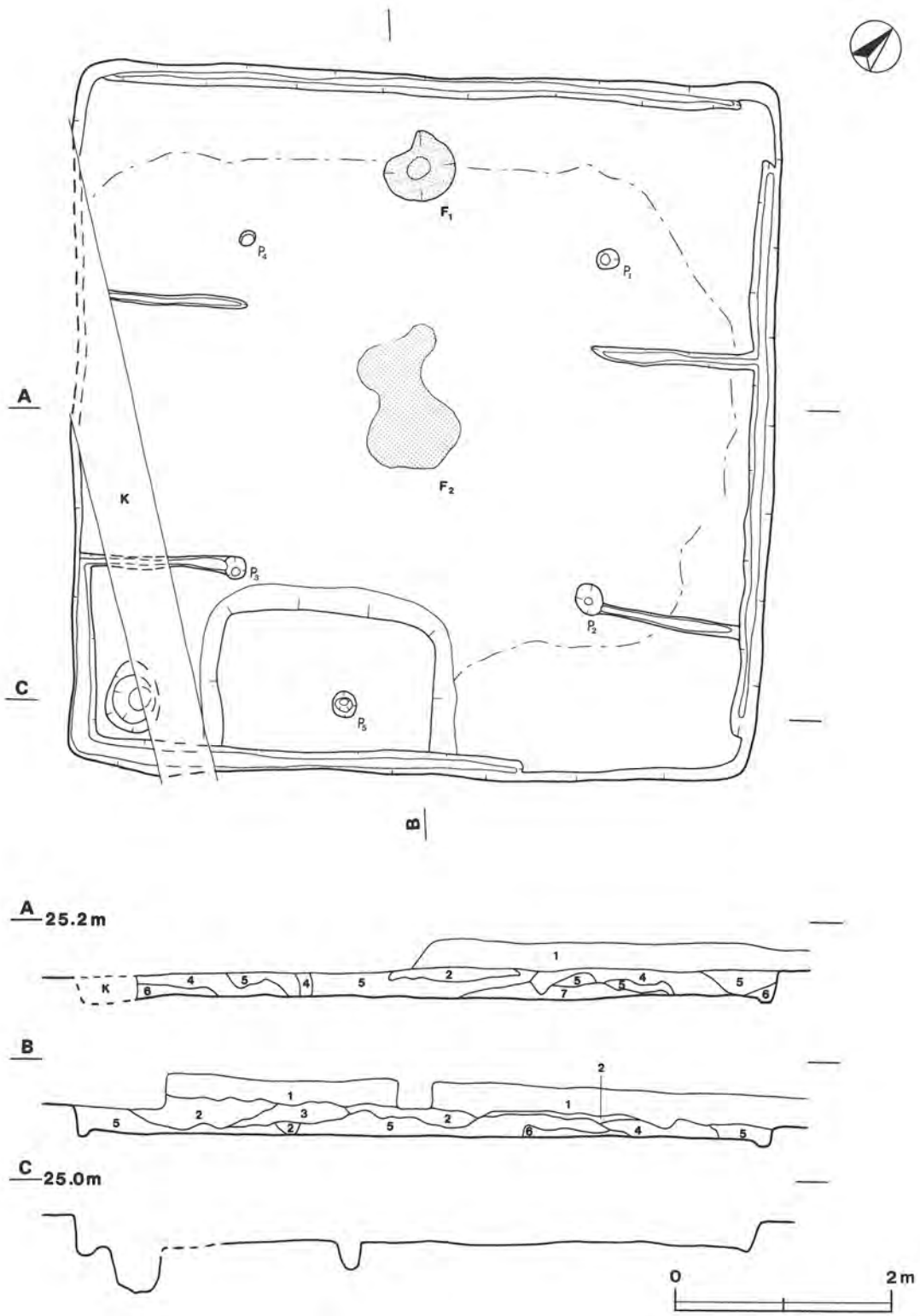
ピット 5か所。P₁～P₄は、径14～30cm, 深さ68～113cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は、径25cm, 深さ26cmで、規模や配置から梯子ピットと思われる。

貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径66cm, 短径49cm, 深さ41cmの楕円形で、断面形はU字状である。耕作により上幅2分の1, 深さ30cm程攪乱を受けている。

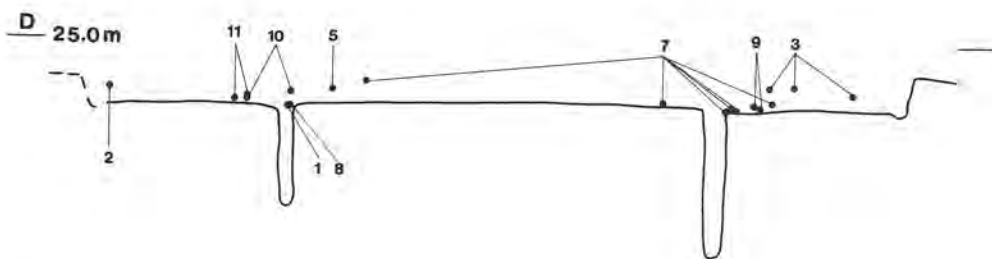
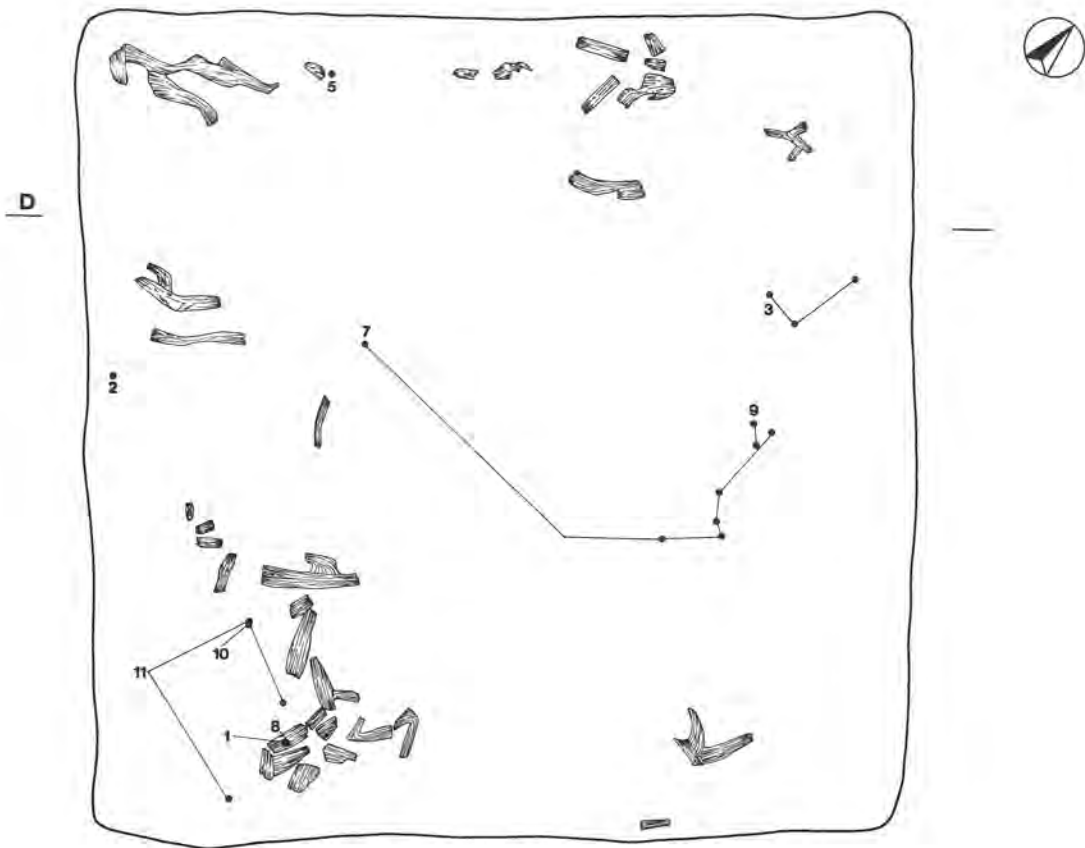
炉 2か所。中央から北西壁寄りをF₁, 中央部をF₂とした。F₁は、長径66cm, 短径50cmで、床面を3cm程皿状に掘り窪めた不整楕円形の地床炉である。炉内覆土は4層からなり、1層にぶい赤褐色, 2層灰褐色, 3層にぶい赤褐色, 4層明褐色であり、焼土粒子を含む。炉床は、あまり焼けていない。F₂は、長径120cm, 短径43cmで不整形の地床炉である。炉床は、掘り窪められなく床面が火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5・6層は流れ込みの層であるが、1～4層はほとんどがブロック状に堆積している。上層から下層にかけて同時期の土師器片が散布している。覆土中から砥石, スラグ, 縄文式土器片, 石鏃が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第13図-3・5・6・9・10・第14図-11である。床面直上の遺物は完形品になるものがなく、いずれも破片である。1の土師器坏, 8の埴は出入口施設の南西付近からつぶれた状態で炭化材の直下から出土している。7の坏は中央と東側付近から出土している。4の坏は正位の状態貯蔵穴の覆土中層から出土している。2の坏は南西壁の攪乱の中から出土している。



第11图 第3号住居跡実测图

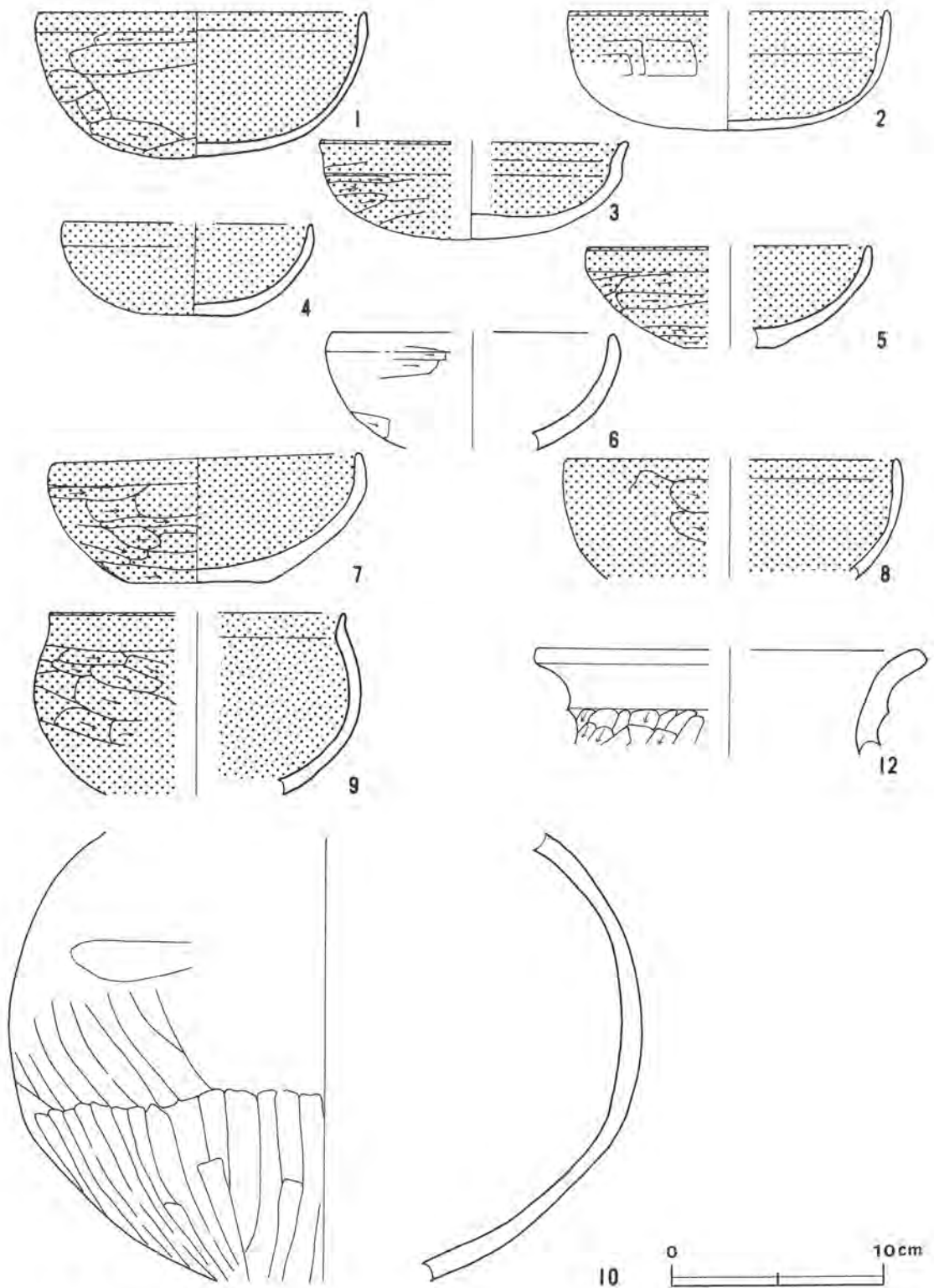


第3号住居跡土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量。
- 2 褐色 ローム粒子少量，黒色ブロック極微量，黒色しみ状。
- 3 褐色 ローム粒子少量，ロームブロック極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量。
- 5 褐色 黒色粒子微量。
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量，ロームブロック微量，黒色ブロック極微量。

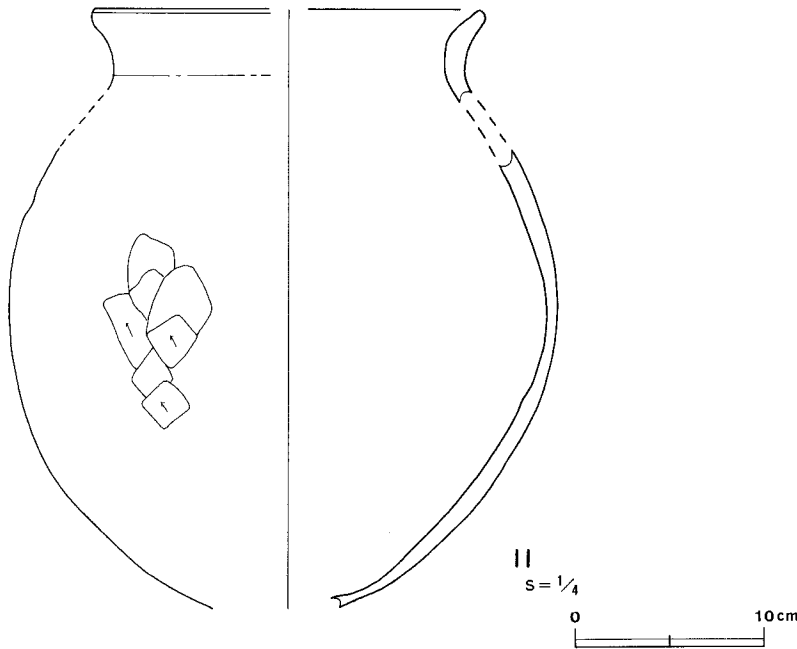


第12図 第3号住居跡遺物出土位置図



第13图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)

所見 覆土の堆積状態をみると炭化材が流れ込んだ1次堆積土層上面にみられ、その上にブロック状の層が堆積していることから、当住居跡は、廃棄されたあとに焼失し、その後人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第14図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	坏 土師器	A 15.6 B 7.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横位のナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き、内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P30 70%
2	坏 土師器	A [15.2] B 5.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	雲母・砂粒 赤色 普通	P31 60% 二次焼成 内・外面摩耗
3	坏 土師器	A [14.6] B 4.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P32 25%
4	坏 土師器	A [11.7] B 4.4 C 5.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P33 70% 体部外面一部剝離
5	坏 土師器	A [13.4] B 4.8 C [4.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P34 30% 体部内面摩耗
6	坏 土師器	A [13.4] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P35 30% 体部内面摩耗

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第13図 7	坏 土 師 器	A 14.1 B 6.2 C 6.8	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P38 60% 内面摩耗
8	埴 土 師 器	A [15, 8] B (5, 7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P39 15%
9	埴 土 師 器	A [14, 0] B (8, 6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P41 20% 内・外面二次焼成
10	埴 土 師 器	B (21, 3)	体部破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面横位のナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P43 20% 内面摩耗
第14図 11	甕 土 師 器	A [20, 8] B [32, 0]	底部及び体部上位欠損。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙褐色 普通	P44 60%
第13図 12	甕 土 師 器	A [18, 6] B (4, 9)	口縁部破片。口縁部は外反し、頸部との境に稜を持つ。	頸部外面へラ削り、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙褐色 普通	P45 5%

第4号住居跡(第15・16図)

位置 G7j₉ 区。

規模と平面形 長軸(5.15)m、短軸(4.10)mの長方形。

主軸方向 [N-14°-W]。

壁 耕作による攪乱を受けているため、東壁の一部が遺存しているのみである。遺存部の壁高は約5cmである。

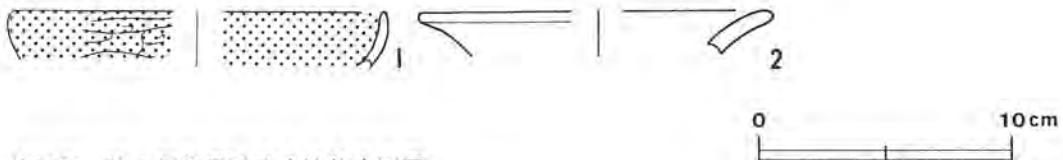
床 ほぼ平坦であり、踏み固められた部分は認められない。

炉 西壁の中央寄りにみられる。長径74cm、短径61cmで、床面を6cm掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は2層からなり、1層赤色、2層明褐色であり、焼土粒子を含む。炉床はあまり焼けていない。炉の中央に約8cm幅で攪乱を受けている。

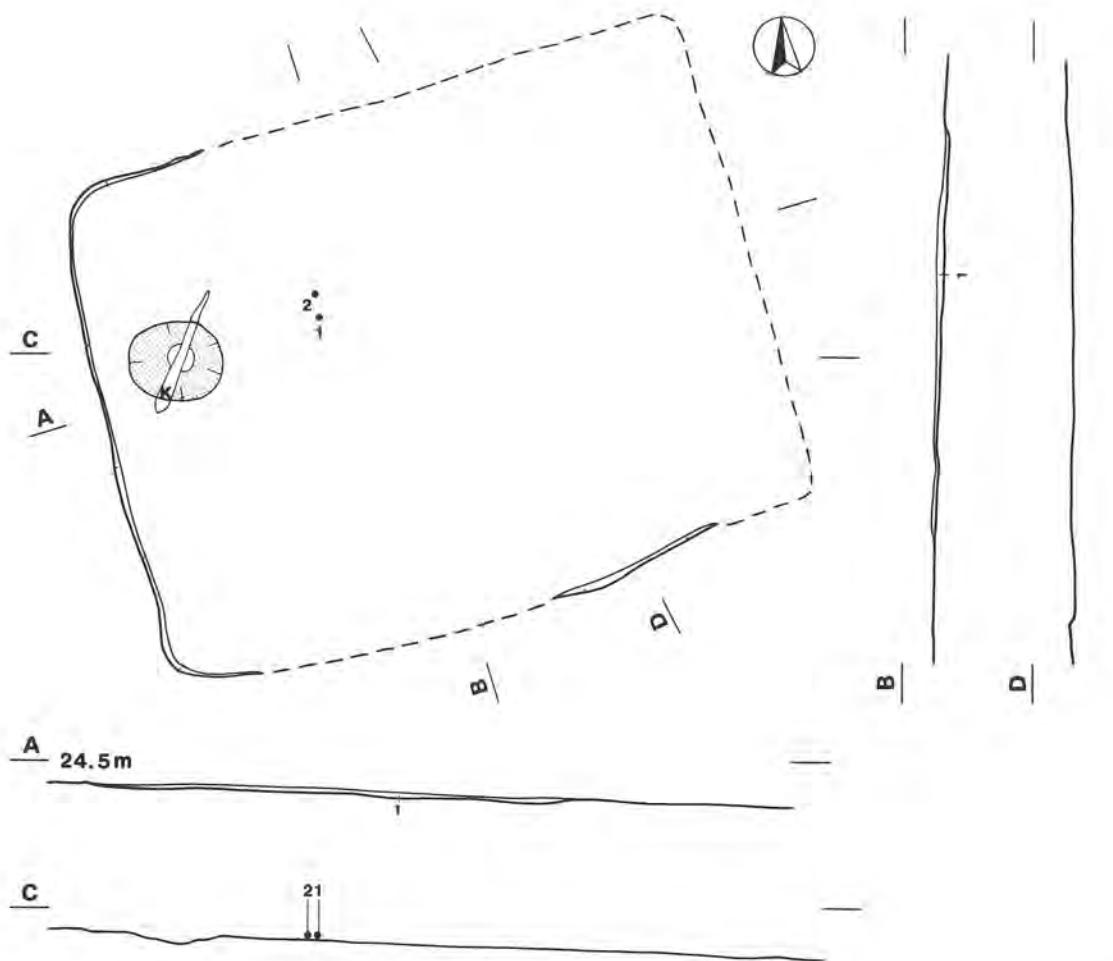
覆土 1層のみ認められたが、攪乱を受けており、堆積状態は不明確である。

遺物 炉跡の周辺から、土器片が少量出土しているが、ほとんど細片で接合されるものはない。

所見 当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



第15図 第4号住居跡出土遺物実測図



第4号住居跡土層解説

1 にふい褐色 ロームブロック・ローム粒子少量, 炭化物極微量。

第16図 第4号住居跡実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	坏 土 師 器	A [15.1] B (2.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P53 5%
2	壺 土 師 器	A [13.9] B (1.8)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P54 5%

第5号住居跡(第17・18図)

位置 H7a7区。

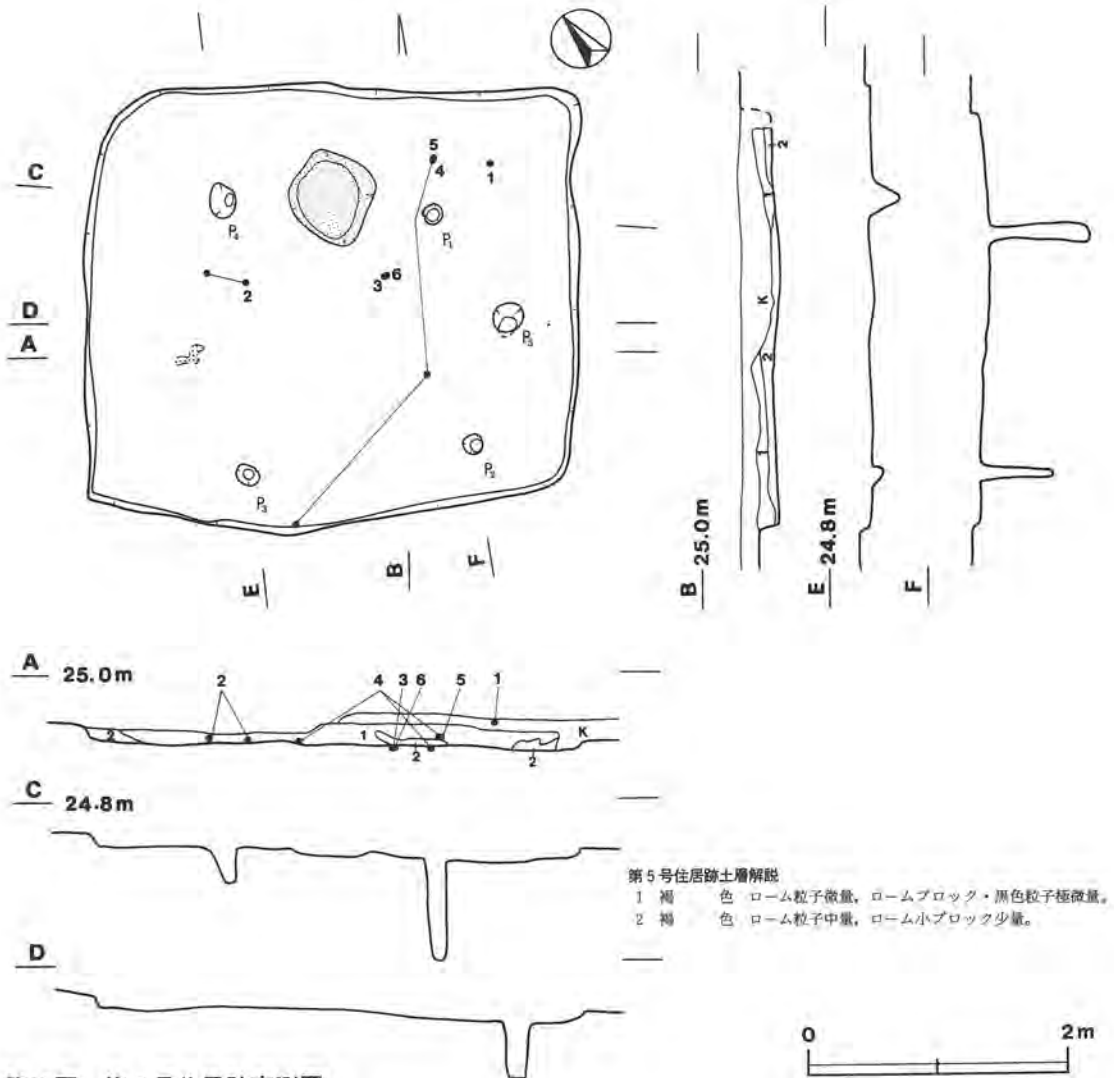
規模と平面形 長軸3.88m, 短軸3.53mの方形。

主軸方向 N-40°-E。

壁 耕作による攪乱を受けているため、壁はわずかに4~10cmが残されているのみである。立ち上がりはやや緩斜している。

床 ほぼ平坦であるが、中央から東側にかけていくぶん傾斜がみられる。踏み固められた面は認められない。中央から西寄りの位置に火熱を受け赤変した床面がみられる。

ピット 5か所。P₁~P₅は、径16~29cm, 深さ28~82cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₁は、径25cm, 深さ48cmで、位置から補助柱穴と考えられる。P₅の性格は不明である。



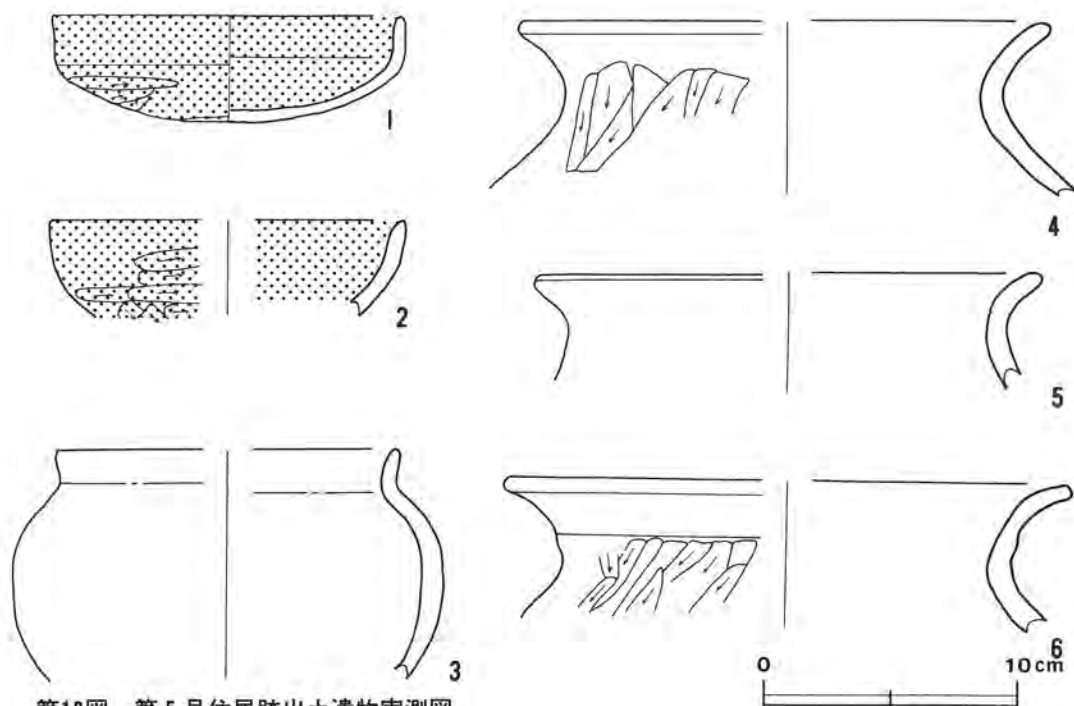
第17図 第5号住居跡実測図

炉 中央から北西寄りにみられる。長径78cm, 短径70cmで, 床面を4cm掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は4層からなり, 1層にぶい赤褐色, 2層暗赤褐色, 3層にぶい赤褐色, 4層赤褐色であり, 焼土ブロック, 焼土粒子を含む。炉床は, 火熱を受け赤変硬化している。

覆土 耕作による攪乱を受けているため, 覆土は2層のみである。1層が覆土の大部分を占め, 2層は壁際と床面上に薄く堆積する。中層から下層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第18図-1・2・5である。床面直上の遺物はいずれも破片である。3の壺, 6の甕はいずれも中央部から出土している。4の甕は中央部の南側・炉の東側・南西壁際から出土した土師器片が接合している。

所見 当住居跡は, 遺物等から古墳時代中期末のものである。



第18図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 1	坏 土 師 器	A 14.0 B 4.2	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持ち, 口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P58 80%
2	坏 土 師 器	A [14.0] B (3.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持ち, 口縁部はわずかに外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P59 20%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 3	埴 土師器	A [13.6] B (9.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P65 30% 二次焼成 内・外面摩耗
4	甕 土師器	A [21.0] B (6.8)	頸部から口縁部の破片。口縁部は頸部から外反して立ち上がる。	頸部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P68 15%
5	甕 土師器	A [20.1] B (4.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P69 20%
6	甕 土師器	A [22.4] B (5.8)	頸部から口縁部の破片。口縁部は外反し、頸部との境に稜を持つ。	頸部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P70 5%

第6号住居跡(第19・20図)

位置 H7c4区。

規模と平面形 長軸5.74m, 短軸5.72mの方形。

主軸方向 N-35°-W。

壁 壁高は25~40cmで、ほぼ外傾して立ち上がる。壁溝は、ほぼ全周しており、上幅10~27cm, 深さ4~11cmで、断面形はU字状を呈している。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。南東壁から中央寄りに長軸220cm, 短軸145cmの不整形の高まりがみられ、床面との比高は4~10cmで、位置や形態から出入口施設と思われる。南コーナーの壁と貯蔵穴の間に、焼土塊と粘土塊がみられる。粘土塊は、南コーナーを区切るように幅7~25cm, 厚さ5~16cmの踏み固められた状態で確認された。焼土塊は、南コーナーの南東壁際から確認されている。また、南コーナー壁面が焼けている。

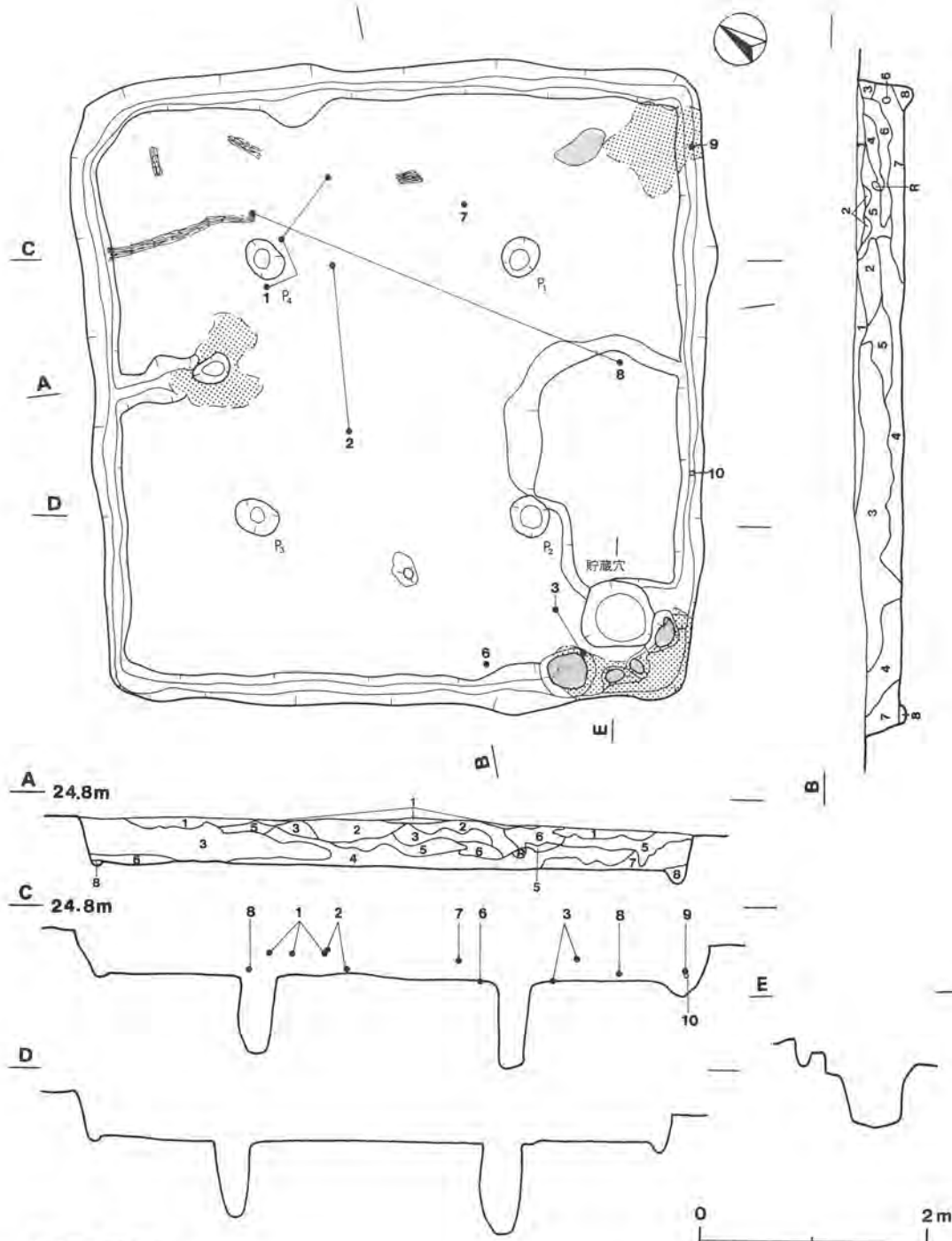
ピット 4か所。P₁~P₄は、径46~49cm, 深さ66~85cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径64cm, 短径62cm, 深さ56cmで、断面形はU字状である。

炉 中央から北西寄りにみられる。長径36cm, 短径24cmで、床面を5cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は5層からなり、1層暗赤褐色, 2~4層黒褐色, 5層赤褐色で、焼土粒子, 炭化粒子を含む。炉床は、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 上層から下層まで、ローム小ブロックを含んだ褐色土と黒褐色土がブロック状に堆積している。覆土中から土師器片, 砥石, 縄文式土器片が出土しており、特に中層には同時期の土師器片がまとまって出土している。中層から下層にかけて、炭化材, 焼土塊, 粘土塊がみられる。

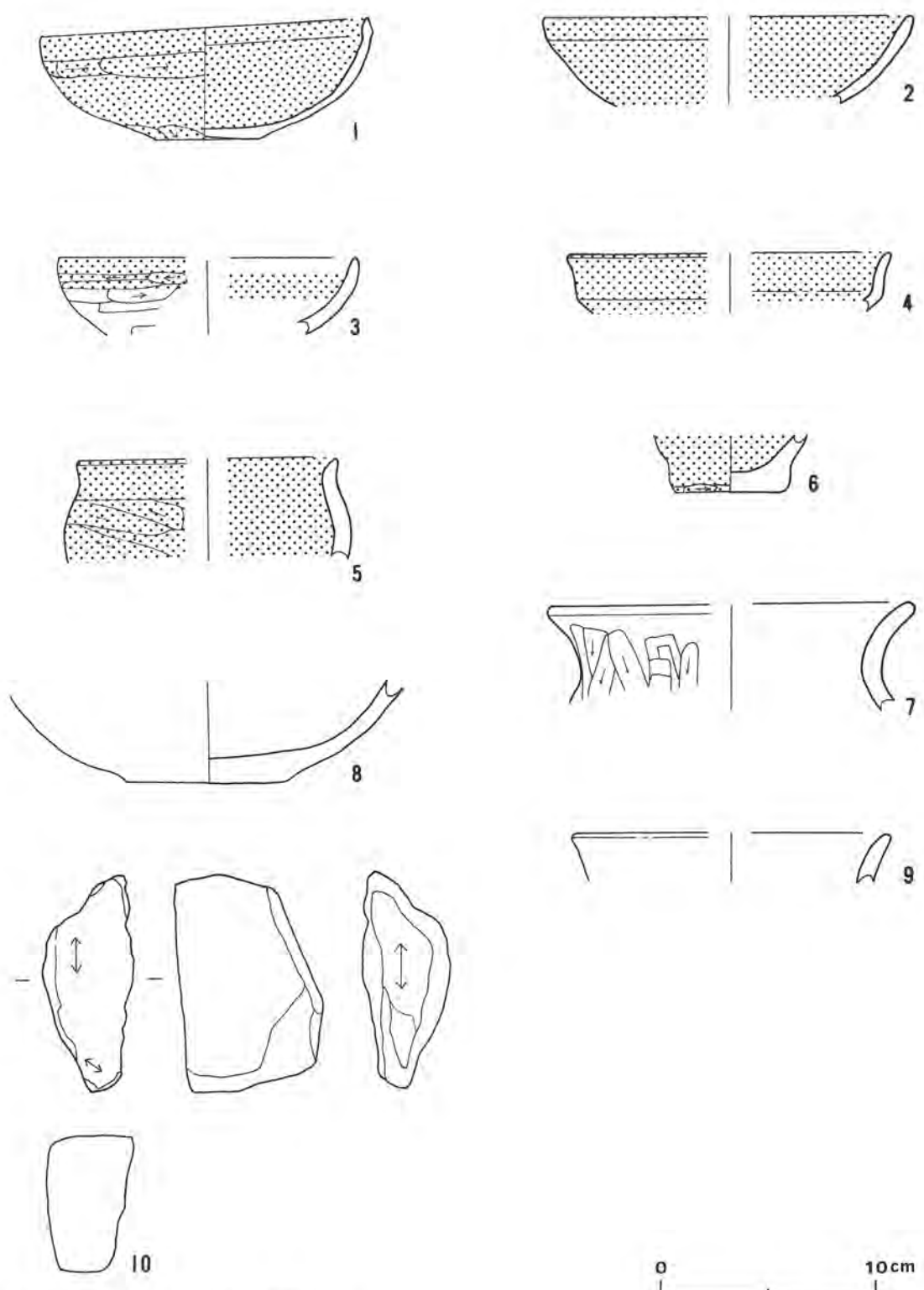
遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第19図-1・2・4・7~9である。床面直上の遺物は、3の坏が貯蔵穴の北側, 6の鉢は南西壁の南コーナー寄りから出土している。



第6号住居跡土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子微量。 | 5 褐色 | 黒色粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量。 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子微量。 | 6 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量。 |
| 3 明褐色 | 炭化粒子微量。 | 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量。 |
| 4 褐色 | ローム中・小ブロック中量, 黒色粒子微量。 | 8 明褐色 | ローム小ブロック少量。 |

第19図 第6号住居跡実測図



第20图 第6号住居跡出土遺物実測図

所見 覆土の堆積状態をみると上層から下層にかけて、褐色土と黒褐色土がブロック状に堆積していることや焼土塊、炭化材がみられることから、当住居跡は、焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第6号 住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土 師 器	A 15.4 B 5.8 C 4.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。口縁部横ナデ、内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P74 60%
2	坏 土 師 器	A [17.3] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P75 10%
3	坏 土 師 器	A [13.8] B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P76 10% 内面摩耗
4	土 師 器	A [15.2] B (2.9)	口縁部破片。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P77 5%
5	壺 土 師 器	A [12.2] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P80 15%
6	鉢 土 師 器	B (2.7) C 5.0	底部破片。平底。	底部ヘラ削り。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい赤色 普通	P81 5%
7	甕 土 師 器	A [17.2] B (5.1)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。口縁部外面横ナデ。内面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P82 15% 内・外面煤付着
8	甕 土 師 器	A [18.4] B (4.7) C 7.7	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P84 15% 内面摩耗
9	甕 土 師 器	A [15.0] B (2.3)	口縁部破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P85 5% 外面煤付着

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第20図10	砥石	10.2	4.2	4.0		324.7	ホルンフェルス	SI 6	Q10

第7号住居跡(第21～24図)

位置 H7h₂区。

規模と平面形 長軸8.32m, 短軸8.13mの方形で南東壁中央に張り出し部付設。張り出し部は、長軸1.13m, 短軸0.75mの長方形である。

主軸方向 N-72°-W。

壁 壁高は43～77cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は、各壁下に部分的にみられ、上幅9～19cm, 深さ3～15cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、全体的によく踏み固められている。特に、中央部や炉付近はかなり硬化している。南東壁中央寄りには、長軸240cm, 短軸173cmの長方形の高まりと張り出しがみられ、床面との比高は10cmで、位置や形態から出入口施設と思われる。間仕切り溝は、幅16～36cm, 深さ14～27cmで、北東壁, 南東壁, 南西壁からP₁, P₃, P₄, P₆に向かって5条, 長方形の高まりを区切るように2条ある。

ピット 15か所。P₁～P₆は、径40～67cm, 深さ48～74cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₇～P₉は、径24～39cm, 深さ11～20cmで、規模や配置から出入口施設に伴うものと思われる。P₈は、梯子ピットと思われる。P₁₀～P₁₅の性格は不明である。

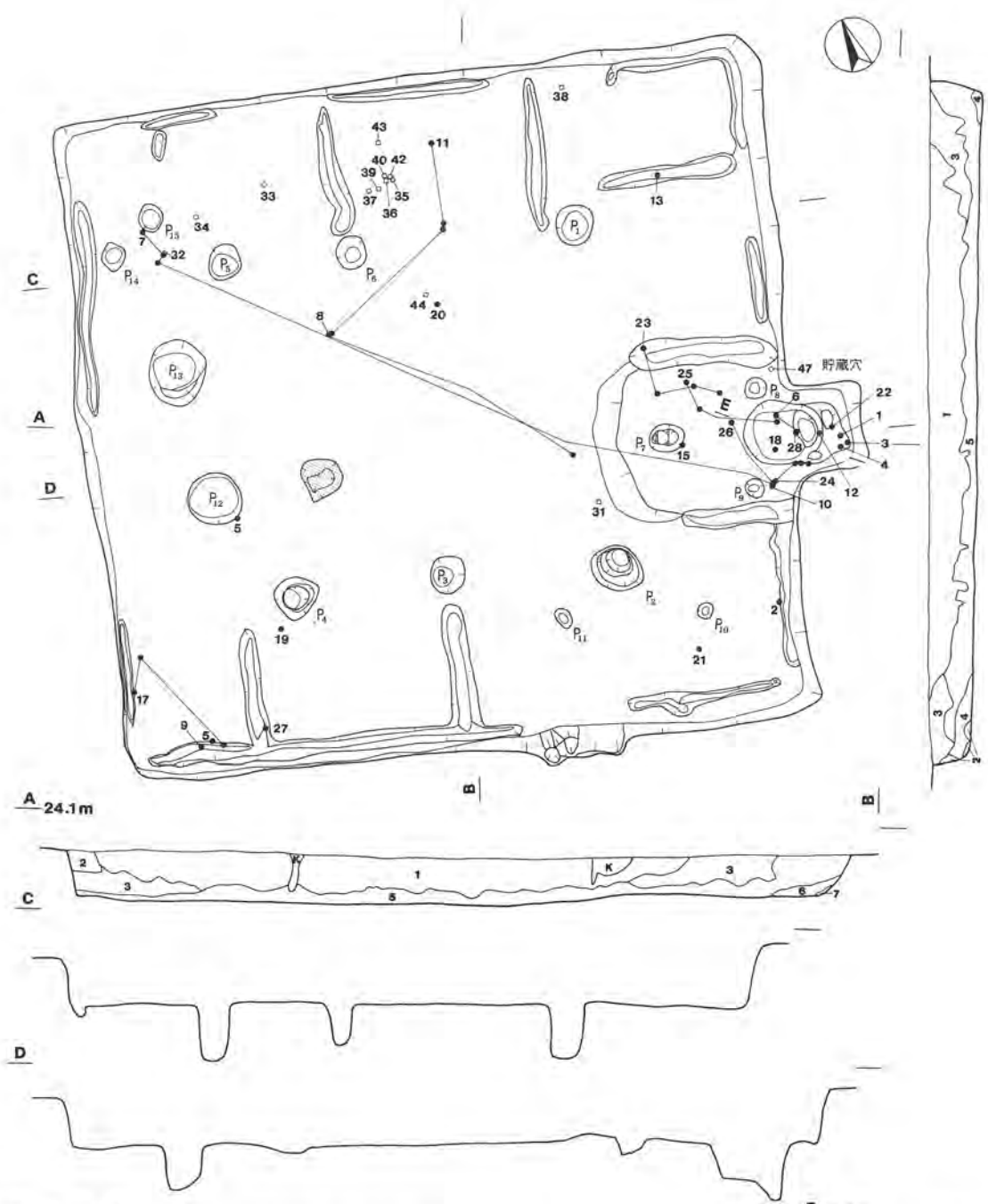
貯蔵穴 南東壁張り出しに付設されている。長径95cm, 短径69cm, 深さ68cmの楕円形で、断面形は、U字状であるが、底面は凸凹している。貯蔵穴の東側上面に、焼土がみられる。

炉 中央から西寄りにある。長径25cm, 短径21cmで、床面を10cm掘り窪めた不整楕円形の地床炉である。炉内覆土は1層で、褐色であり、焼土小ブロック, 焼土粒子を含む。火床は、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 壁際から自然に流れ込んで堆積した土層である。覆土の大部分は1層, 5層が占める。中層から下層にかけて土師器片が出土している。下層から焼土塊と炭化材がみられる。

遺物 覆土中からは、第22図-7・8・10・11・14・15～17・第23図-19～21・23～27・29が出土している。床面直上の遺物は、1・3・4の土師器坏, 22の甕が貯蔵穴の周辺から出土している。6・12の坏, 18の鉢, 28の甕は貯蔵穴内から出土している。28は斜位の状態で出土している。2の坏は南コーナー付近の南東壁際から出土している。13の坏は東コーナー付近から出土している。5・9の坏は西コーナー寄りの南西壁際から出土している。30～46の白玉は北東壁付近, 北コーナー及びP₂付近から17点出土している。47の砥石は出入口施設の覆土中から出土している。48～50の鉄製品の小札は攪乱中から出土している。

所見 当住居跡は、焼土, 炭化材の出土状況から、焼失したものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



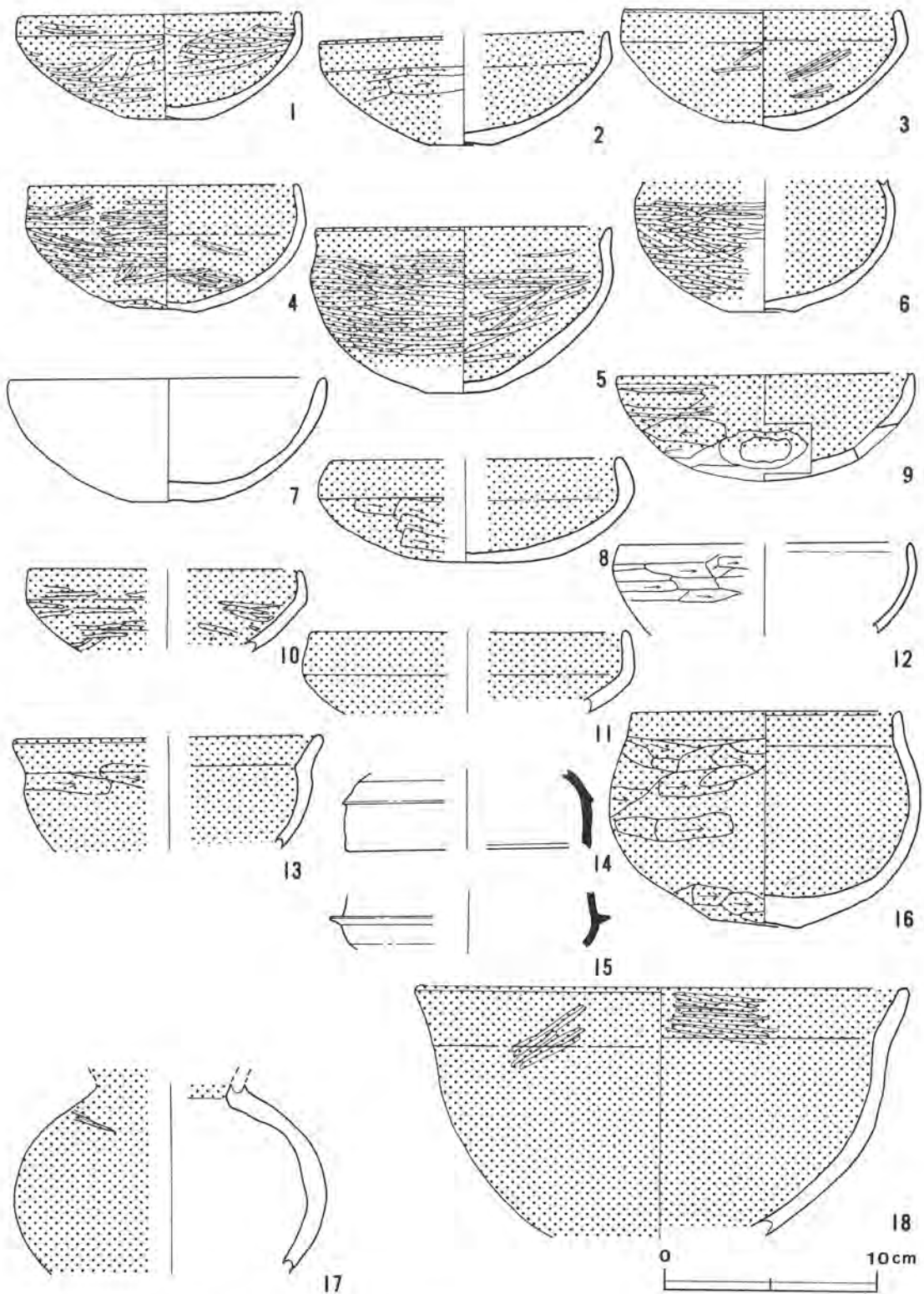
第7号住居跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量。
- 2 褐色 ローム中ブロック中量，焼土粒子少量，黒色粒子微量。
- 3 暗褐色
- 4 極暗褐色 ロームブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量，ロームブロック・黒色粒子少量。
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・黒色粒子少量。
- 7 褐色 ローム粒子・黒色粒子中量，焼土粒子微量。

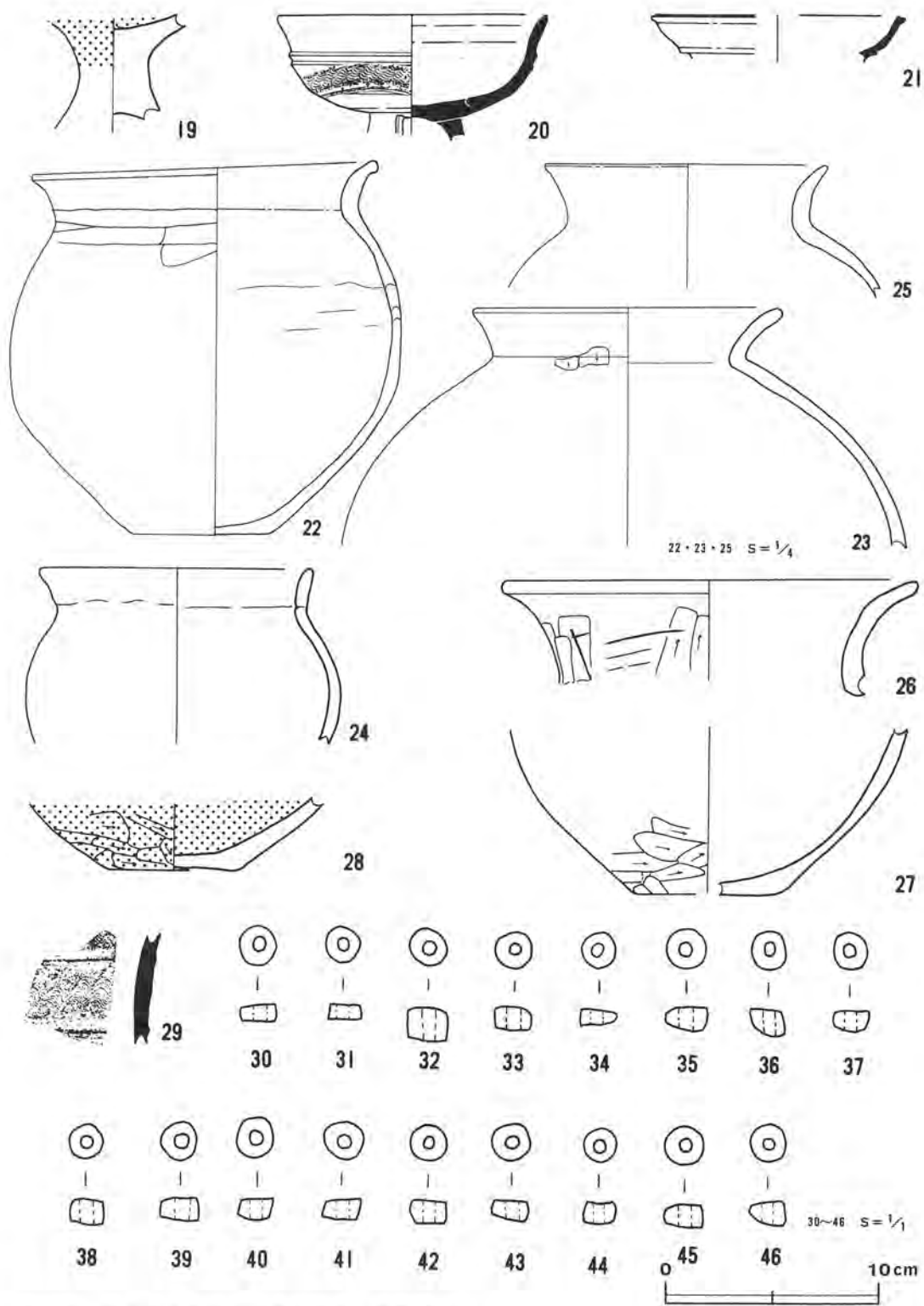
第7号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子極少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量。
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量。
- 5 濃い赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 6 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量。

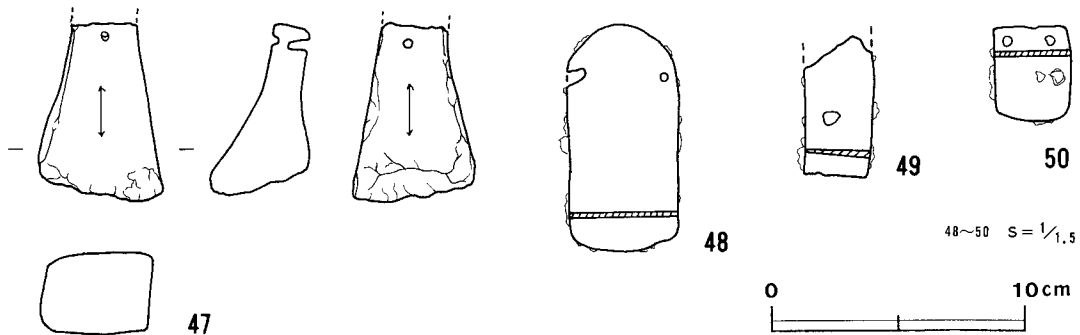
第21図 第7号住居跡実測図



第22図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第23图 第7号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)



第24図 第7号住居跡出土遺物実測図(3)

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏 土師器	A 13.2 B 5.1 C 3.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後雑なヘラ磨き、内面密なヘラ磨き。口縁部内・外面ヘラ磨き。底部を除き、内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P86 60%
2	坏 土師器	A 13.6 B 5.4 C 2.9	底部から口縁部の破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き、内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P87 70%
3	坏 土師器	A 12.8 B 5.7 C 2.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部ヘラ削り。体部内・外面ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 良好	P88 80% 内面摩耗
4	坏 土師器	A 12.8 B 6.0 C 3.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	底部ヘラ削り。体部内・外面ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。口縁部外面横ナデ後ヘラ磨き、内面横ナデ。底部を除き、内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P89 100%
5	坏 土師器	A 13.9 B 7.9	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ前後密なヘラ磨き、内面雑なヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ後雑なヘラ磨き。底部を除き、内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤色 普通	P90 60%
6	坏 土師器	B (6.2) C 3.2	底部から体部の破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P91 50% 内面摩耗
7	坏 土師器	A 15.0 B 5.8 C 2.9	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 浅黄橙色 普通	P92 75% 内・外面摩耗
8	坏 土師器	A [13.6] B 4.9	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P93 50% 二次焼成
9	坏 土師器	A 14.1 B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部中位には焼成後内面からの穿孔が2か所にみられる。口縁部はほぼ直立する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後雑なヘラ磨き、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P94 95%
10	坏 土師器	A [13.1] B (3.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	体部内・外面雑なヘラ磨き。口縁部外面横ナデ後雑なヘラ磨き、内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P95 30%
11	坏 土師器	A [15.0] B (3.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 良好	P96 15%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 12	坏 土師器	A [13.8] B (4.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P97 10% 外面煤付着
13	坏 土師器	A [14.6] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 紫灰色 普通	P98 20%
14	坏 須恵器	A [11.6] B (3.7)	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎して口縁部に至り、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直下し、端部は沈線が入り段をなす。	巻き上げ・水挽き成形。天井部回転へラ削り。	白黄色粒子(長石) 紫灰色 良好	P100 5%
15	坏 須恵器	B (2.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、受部は長く外方に伸び、受部端部は丸味を帯びる。	巻き上げ・水挽き成形。体部外面回転へラ削り。	長石 灰色 良好	P99 5%
16	坑 土師器	A 12.7 B 10.2 C 4.2	口縁部一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P101 90% 外面煤付着
17	壺 土師器	B (9.0)	体部破片。内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ。体部外面赤彩。	長石・石英・雲母・砂粒 赤色 普通	P102 20% 外面煤付着 砥石痕あり
18	鉢 土師器	A 23.2 B (11.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へラナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ後、部分的に横位のへラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P106 70% 内・外面煤付着
第23図 19	高 土師器	E (5.0)	脚部破片。脚部は円筒状を呈する。	脚部外面へラ削り。坏部内面ナデ。坏部内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P109 10% 脚部外面摩耗
20	無蓋高 須恵器	A 12.6 B (5.7)	脚部欠損。脚部四方透かし。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に2本の凸線を持つ。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。	巻き上げ、水挽き成形。坏部底部に回転へラ削り、2本の凸線の直下に4本1条の櫛描波状文を施す。坏部内面自然釉。	黄白色微 緑灰色 普通	P110 40%
21	甗 須恵器	A [5.8] B (2.0)	口縁部破片。口縁部は中位で強い稜を持ち、内彎して立ち上がる。端部は凹面を持つ。	巻き上げ・水挽き成形。	長石・黒色微粒子 暗紫灰色 普通	P111 5%
22	甗 土師器	A 21.7 B 23.1 C [8.7]	底部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P112 70% 外面煤付着
23	甗 土師器	A 19.5 B 14.8	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ。頸部へラ削り・口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 黄褐色 普通	P113 30% 内面摩耗
24	甗 土師器	A 12.9 B (8.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P117 30% 外面摩耗
25	甗 土師器	A 17.7 B (8.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P114 15%
26	甗 土師器	A 19.6 B (5.3)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P115 15% 砥石痕
27	甗 土師器	B (7.8) C [6.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部へラ削り。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 オリーブ褐色 普通	P119 30%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第23図 28	甕 土 師 器	B (3.2) C 6.0	底部から体部の破片。平底。体部は内灣して立ち上がる。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P122 10%
29	甕 須 恵 器		口縁部破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面櫛指波状文。	砂粒 灰色 普通	P145 5%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第23図30	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.1	滑 石	SI 7	Q12
31	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q13
32	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q14
33	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q15
34	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.1	滑 石	SI 7	Q16
35	白 玉	0.7	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q17
36	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q18
37	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q19
38	白 玉	0.5	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q20
39	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q21
40	白 玉	0.6	0.7		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q22
41	白 玉	0.7	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q23
42	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q24
43	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.1	滑 石	SI 7	Q25
44	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI 7	Q26
45	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q27
46	白 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI 7	Q28
第24図47	砥 石	(7.1)	4.9	3.2		131.7	安 山 岩	SI 7	Q11

図 版 番 号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)		
第24図48	小 札	4.5	2.4	0.1	4.5	SI 7	M 1
49	小 札	2.7	1.5	0.15	1.2	SI 7	M 2
50	小 札	1.9	1.6	0.1	1.3	SI 7	M 3

第 8 号住居跡(第25～29図)

位置 H7j₁ 区。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸2.90mの長方形。

長軸方向 N-68°-W。

壁 壁高は20～31cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。

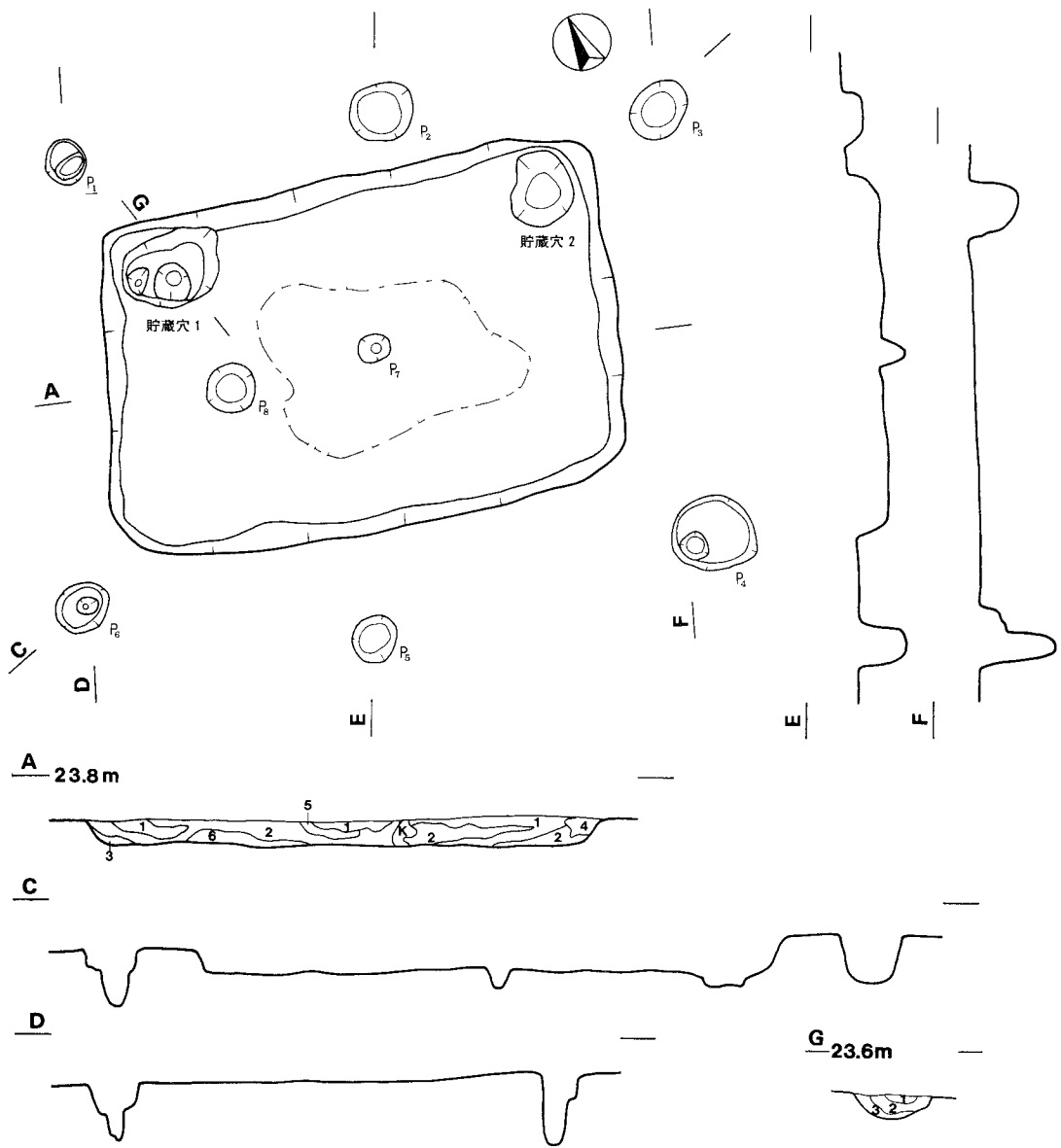
ピット 8か所。P₁～P₆は、径37～71cm, 深さ16～61cmで、規模や配列から壁外柱穴と考えられる。P₁・P₄・P₆は2段の掘り込みがみられる。P₇は、径27cm, 深さ18cmで、壁外柱穴と比べると規模は小さいが、P₂・P₅と一直線上に並ぶ配列から柱穴と考えられる。P₈の性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、北西コーナー部に付設されている。長径80cm, 短径60cm, 深さ35cmの不整楕円形である。断面形はU字状で、底面に窪みがある。貯蔵穴2は、北東コーナー部に付設されている。長径61cm, 短径38cm, 深さ13cmの楕円形で、播鉢状に掘り込まれている。

覆土 上層から下層までローム小ブロックやローム粒子を含む褐色土と暗褐色土の層が入り乱れて堆積する。下層には炭化材がみられる。土師器片は中層から下層にかけて出土している。覆土中から縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中からは第28図-4～7・10・第27図-18が出土している。床面直上の遺物は、1の土師器坏が南東コーナー付近と中央部東側で出土したものが接合している。2の坏と13の甕は南壁中央寄りから出土している。3の坏と8の甕は中央の西側から、11の甕は北東コーナー付近から出土している。10の甕は中央の西側と南側と南東側から出土したものが接合している。14の甕は斜位の状態で東貯蔵穴2の覆土内から出土している。15の甕は斜位の状態で中央の東側から出土している。17の甕は14の下から出土したものが接合している。12の甕は斜位の状態で貯蔵穴1の覆土上面から中層にかけて出土している。16の甕はつぶれた状態でP₂の覆土中から出土している。18の球状土錘は中央の東側から出土している。炭化種子が中央の西側から出土している。

所見 覆土の堆積状況を見ると、下層に炭化材、焼土がみられ、その上に入り乱れて層が堆積していることから、本跡は、廃棄されたあとに焼失し、人為的に埋め戻されたものと思われる。また多量の土師器の細片が出土しているが、接合できたものは少ない。本跡は、炉が確認されず住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第8号住居跡土層解説

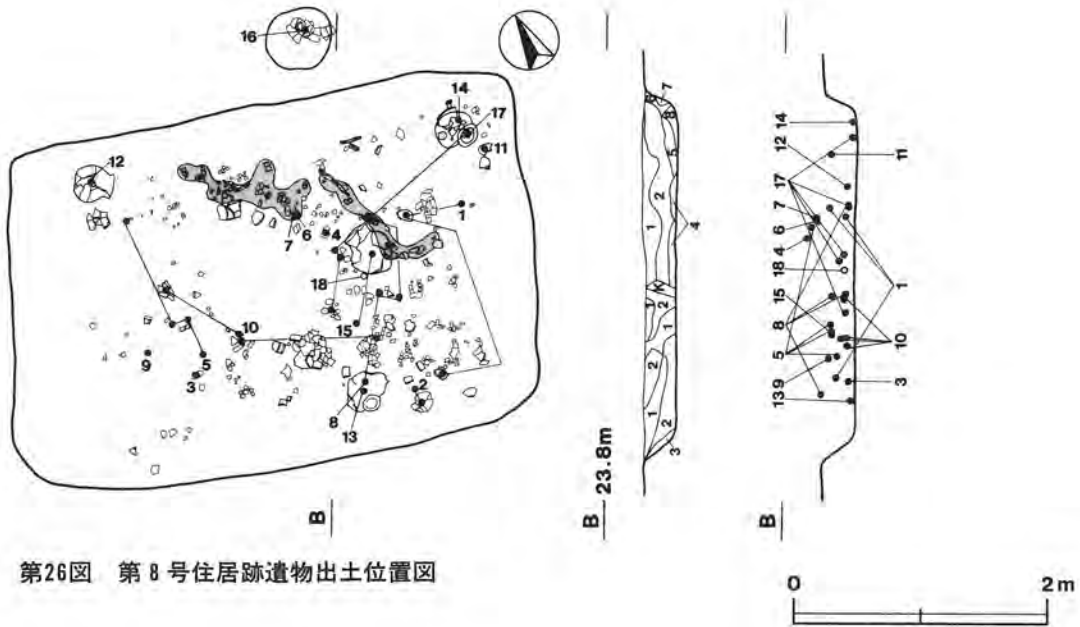
- 1 褐色 ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子極微量。
- 3 明褐色 ローム小ブロック少量。
- 4 明褐色 ローム小ブロック少量。
- 5 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 6 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。

第8号住居跡貯蔵穴土層解説

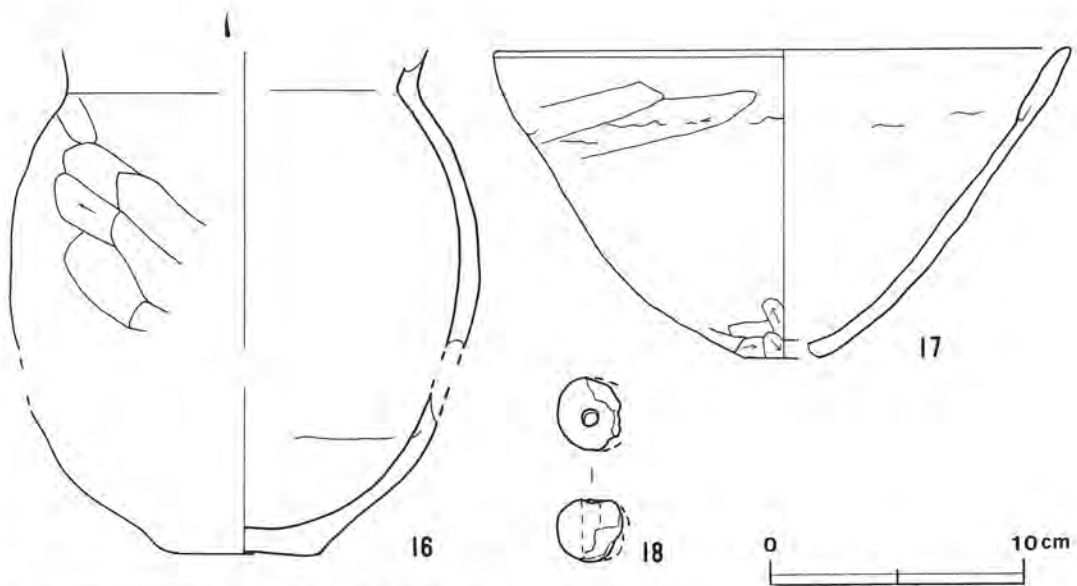
- 1 明赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量。
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子極微量。
- 3 明褐色 ローム中ブロック微量。



第25図 第8号住居跡実測図



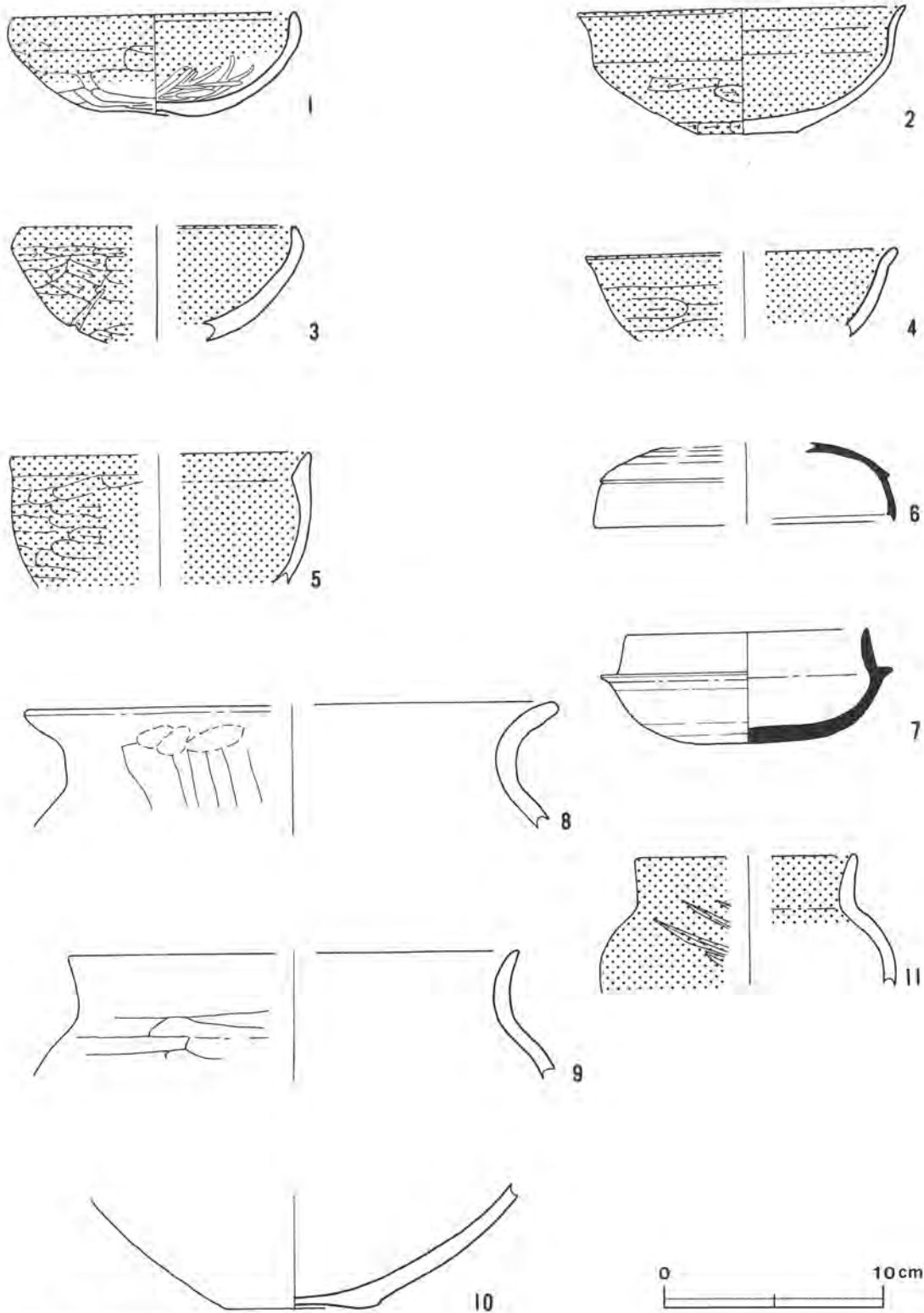
第26図 第8号住居跡遺物出土位置図



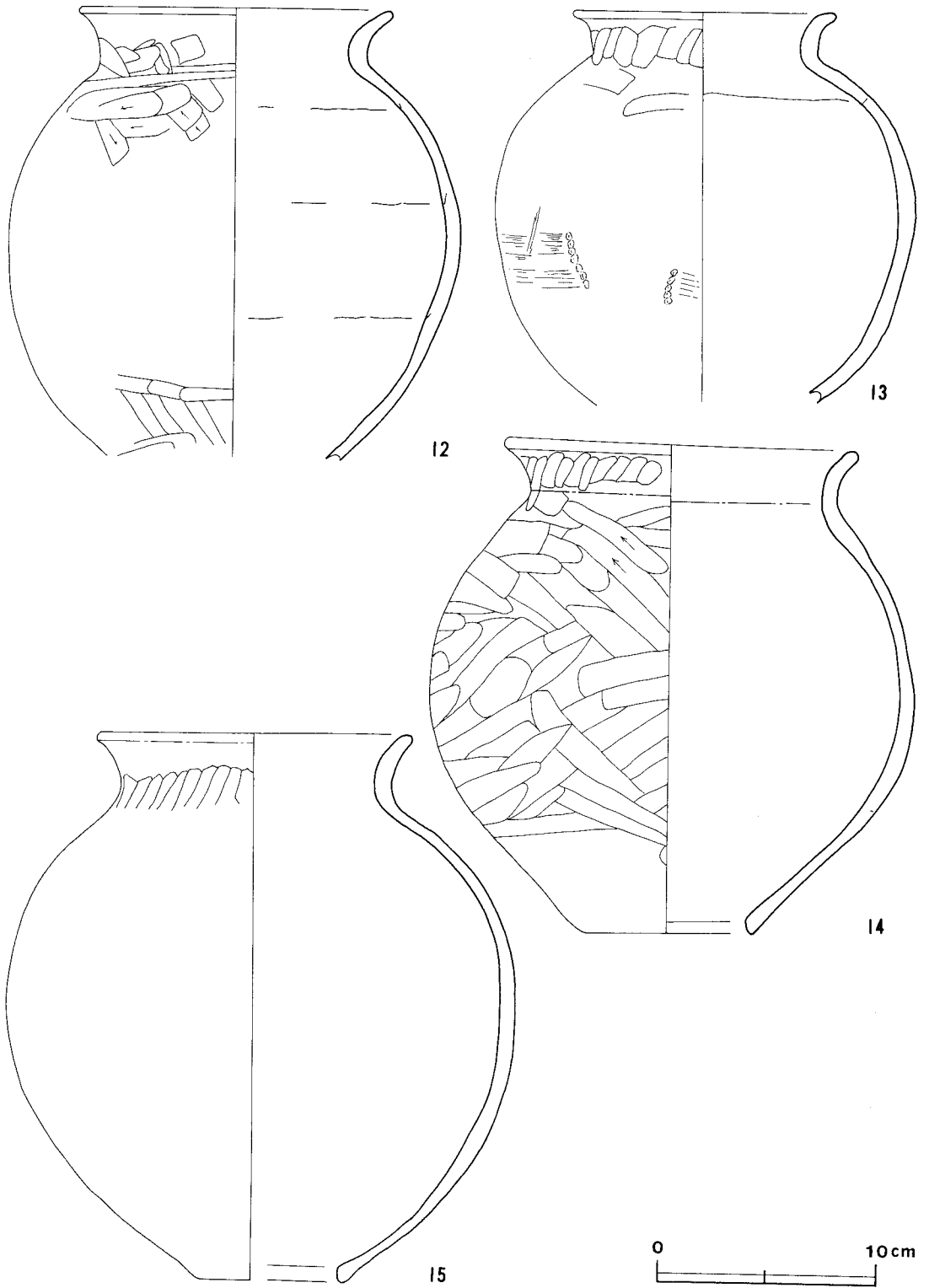
第27図 第8号住居跡出土遺物実測図(3)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	坏 土 師 器	A 13.3 B 4.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部はわずかに内傾する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り。内面雑なへら磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母・砂粒 赤褐色 良好	P123 90%



第28图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第29图 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 2	坏師器	A 15.2 B 4.8 C 4.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P124 70% 内・外面摩耗
3	坏師器	A [12.8] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面はヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 良好	P125 20% 体部外面砥石痕
4	坏師器	A [14.5] B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後丁寧なナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 良好	P128 5%
5	埴師器	A [14.1] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内面に稜を持ち、わずかに外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P130 20% 内・外面一部摩耗
6	坏須蓋器	A [13.8] B (4.2)	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎して口縁部に至り、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾し、端部に段を持つ	巻き上げ・水挽き成形。天井部外面回転ヘラ削り。	長石・砂粒 灰色 普通	P144 5%
7	坏須身器	A 11.1 B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。底部から体部にかけて内彎して立ち上がり、受部に至る。受部は上外方に伸び、端部はシャープである。口縁部は内傾して立ち上がる。	巻き上げ、水挽き成形。体部下半回転ヘラ削り。	砂粒・黄白色粒子 灰色 良好	P126 40%
8	甕師器	A [24.3] B (5.9)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面はヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P133 10% 外面摩耗 口縁部指頭痕
9	甕師器	A [20.8] B (6.0)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 良好	P135 5%
10	甕師器	B (5.3) C 7.3	底部から体部下位の破片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。	底部ヘラ削り後ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P139 15%
11	甕師器	A [10.4] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P138 15% 外面摩耗
第29図 12	甕師器	A 19.7 B (28.3)	底部欠損。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。頸部ヘラ削り後ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P131 90%
13	甕師器	A 16.3 B (24.7)	底部欠損。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。頸部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P132 80%
14	甕師器	A 21.8 B 31.2 C 10.3	無底式。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。頸部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P141 100%
15	甕師器	A 19.5 B 34.7 C [8.8]	無底式。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。頸部ヘラ削り。口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P142 80% 内・外面摩耗
第27図 16	甕師器	B [18.6] C 6.3	底部から口縁部の破片。底部は突出した平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外傾する。	底部ヘラ削り後ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P140 40% 内面摩耗
17	甕師器	A 21.8 B 12.2 C 3.1	体部及び口縁部の一部欠損。単孔式。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は肥厚し、外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P143 50%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)		
第27図18	球状土錘	2.5	(2.5)		(14.3)	SI 8	DP 4

第9号住居跡(第30～32図)

位置 H 4 g₅ 区。

規模と平面形 長軸8.34m, 短軸8.25mの方形。

主軸方向 N-49°-W。

壁 壁高は18～37cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央から西側の一部が踏み固められている。耕作のトレンチャーによって、床面全体が帯状の攪乱を受けている。

ピット 6か所。P₁～P₄は、径30～41cm, 深さ48～65cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅の性格は不明である。P₆は、径30cm, 深さ30cmで、補助柱穴と思われる。

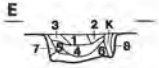
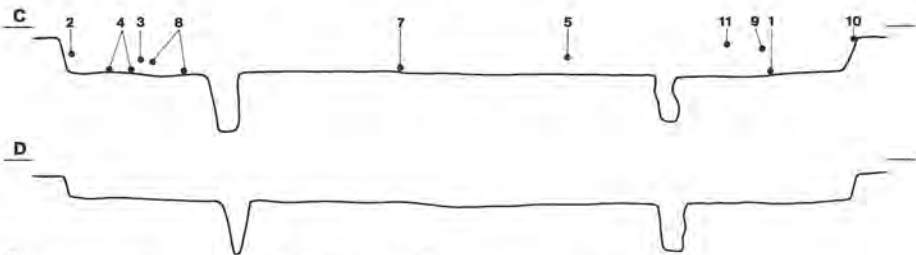
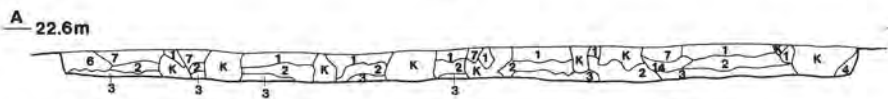
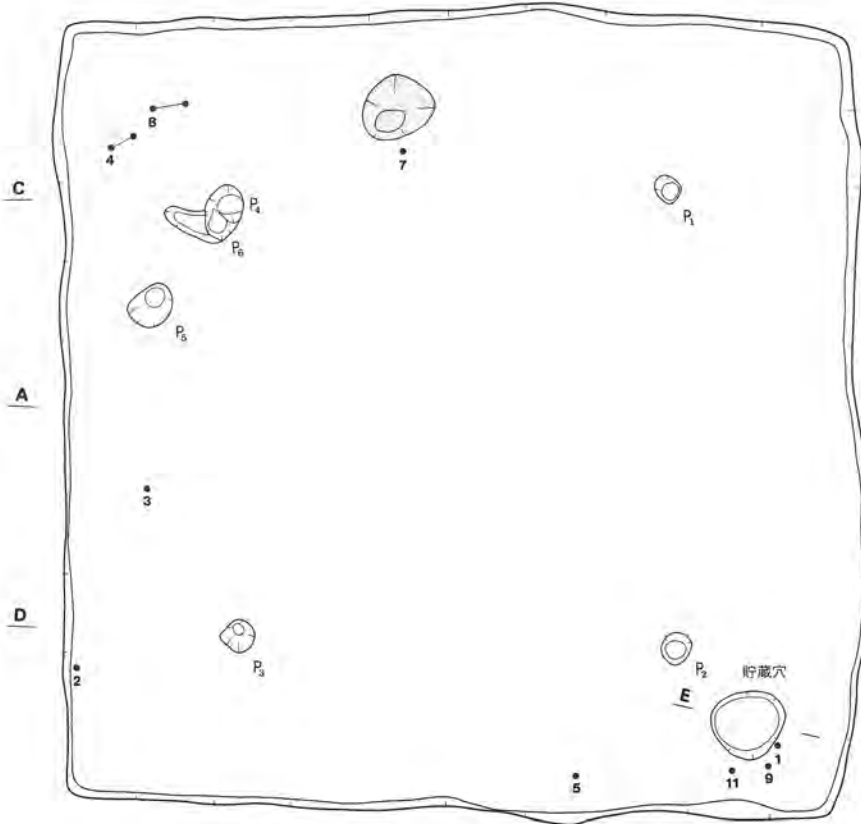
貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径79cm, 短径73cm, 深さ32cmで、円筒状に掘り込まれている。

炉 中央から北西寄りにみられる。長径79cm, 短径66cmで、床面を14cm掘り窪めた円形の地床炉である。炉内覆土は7層からなり、1層赤褐色、2層暗褐色、3層褐色、4・5層暗赤褐色、6層にぶい赤褐色、7層赤褐色であり、焼土粒子を含む。炉床は、火熱を受け赤変している。

覆土 ゴボウ耕作のトレンチャーによる攪乱を受けているが、基本的に3層からなり、1～3層は覆土の大部分を占める。土師器は下層から床面直上にかけてみられる。覆土中から白玉、炭化米が出土している。中央から北寄りに焼土塊、北西壁から西コーナー寄りに粘土塊がいずれも下層にみられる。

遺物 覆土中からは第32図-2・5・6・8・10・第31図-11の土師器が出土している。床面直上の遺物は、1の坏が東コーナーから出土している。3の坏は南西壁の中央寄りから出土している。4の坏は西コーナーから出土したものと接合している。7の甕は北西壁の中央寄りに集中してみられ、これらが接合したものである。9の甕は斜位の状態で床面から10cmの所、11の甑は正位の状態で並んで、貯蔵穴の南から出土している。粘土塊は貯蔵穴の北西にみられる。

所見 北西壁から西コーナーにかけて、遺物が集中して出土している。これらの遺物は3層から床面上にかけて出土していることから、3層が堆積する過程で一括投棄された遺物と思われる。当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



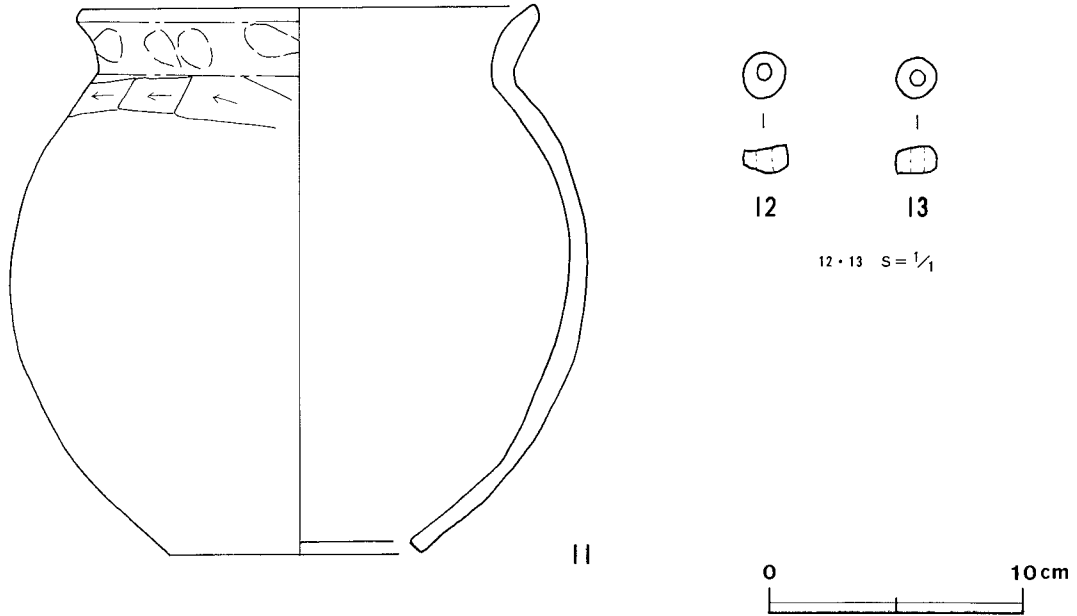
- 第9号住居跡貯蔵穴土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子極微量。
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
 - 3 褐色 ローム粒子少量。
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子極微量。
 - 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極微量。
 - 6 におい褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。
 - 7 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック極微量。
 - 8 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極微量。



第30図 第9号住居跡実測図

第9号住居跡土層解説

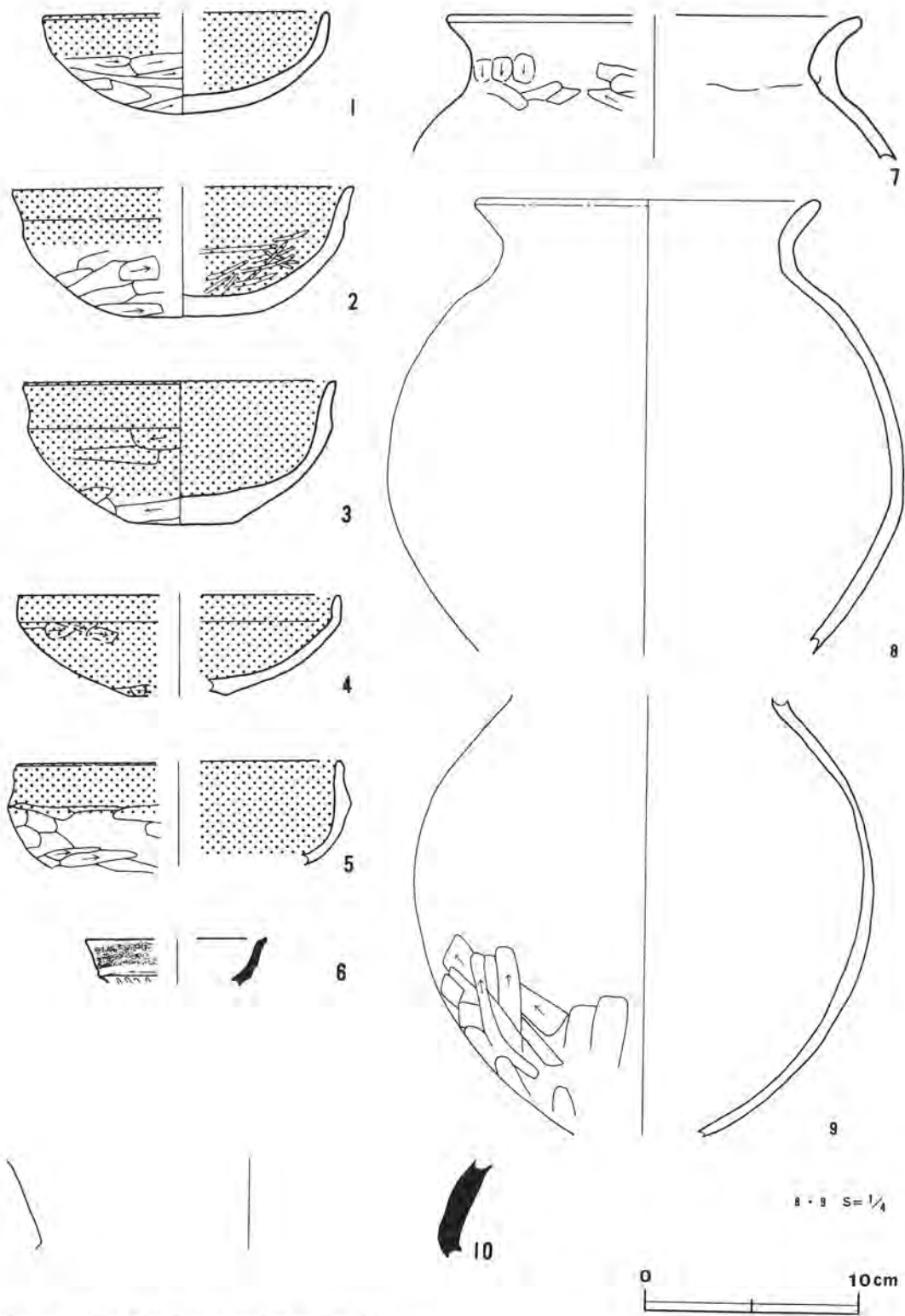
- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子極微量。 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子極微量。 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極微量。 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。 | 9 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量。 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量。 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量。 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 12 暗褐色 | ローム粒子極微量。 |
| | | 13 黒褐色 | ローム粒子微量。 |
| | | 14 黒褐色 | ローム粒子中量。 |



第31図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	坏土師器	A [13.7] B 4.6	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P146 70%
2	坏土師器	A [16.0] B 6.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P148 20%
3	坏土師器	A 14.8 B 5.7 C 5.3	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P150 60%
4	坏土師器	A [15.0] B 4.8 C [4.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P151 30%



第32图 第9号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第32図 5	坏 土 師 器	A [15.2] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P153 10%
6	甗 須 恵 器	A [8.5] B (2.2)	口縁部破片。頸部と口縁部の境に強い稜を持ち、口縁部はわずかに内彎して、外上方に開く。	巻き上げ・水挽き成形。稜の上方に6条、下方に櫛描状文を施す。端部は凹面を持つ。内面自然釉。	長石・砂粒 褐灰色 普通	P157 5%
7	甗 土 師 器	A [19.5] B (6.7)	体部から口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 ぶい黄橙色 普通	P156 5%
8	甗 土 師 器	A [21.5] B (28.4)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部及び頸部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部横ナデ。	長石・石英・砂粒 黄橙色 普通	P154 40% 体部中位煤付着
9	甗 土 師 器	B (27.4)	体部破片。胸部は球形状を呈する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 ぶい黄橙色 普通	P155 35% 体部中位煤付着
10	甗 須 恵 器	B (4.6)	口縁部破片。口縁部は外傾する。	内・外面自然釉。	長石・砂粒 灰色 良好	P160 5%
第31図 11	甗 土 師 器	A 18.3 B 22.5 C 10.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。無底式。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指頭痕。	長石・石英・砂粒 ぶい橙色 普通	P161 80%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第31図12	白 玉	0.4	0.6		0.2	0.1	滑 石	SI9	Q30
13	白 玉	0.4	0.6		0.2	0.1	滑 石	SI9	Q31

第10号住居跡(第33・34図)

位置 I4a5 区。

規模と平面形 長軸6.62m、短軸5.84mの長方形。

主軸方向 N-48°-W。

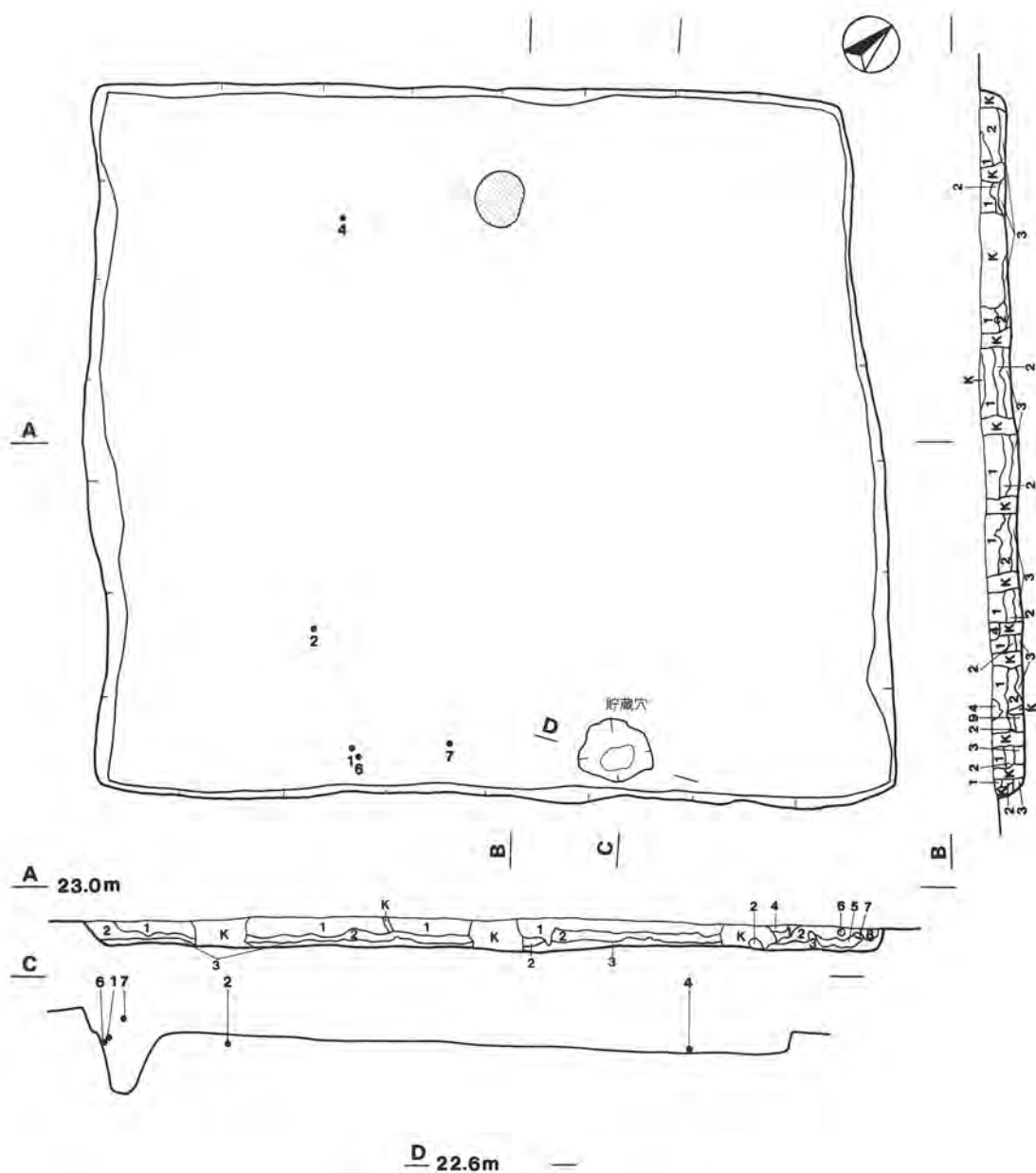
壁 壁高は16~21cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、踏み固められた面は認められない。耕作のトレンチャーによって攪乱を受けている。

貯蔵穴 南東壁の東コーナー寄りに付設されている。長径61cm、短径54cm、深さ50cmで、円筒状に掘り込まれている。

炉 中央から北西寄りにみられる。長径48cm、短径40cmの楕円形の地床炉である。炉床は掘り窪められてなく、床面が火熱を受け赤変した程度である。

覆土 トレンチャーによる攪乱を受けているが、基本的に3層からなり、1~3層が覆土の大部分を占める。土師器は上層から下層にかけて散布している。また、覆土中から縄文式土器片が出土している。南東壁際、南西壁際の下層から焼土塊がみられる。



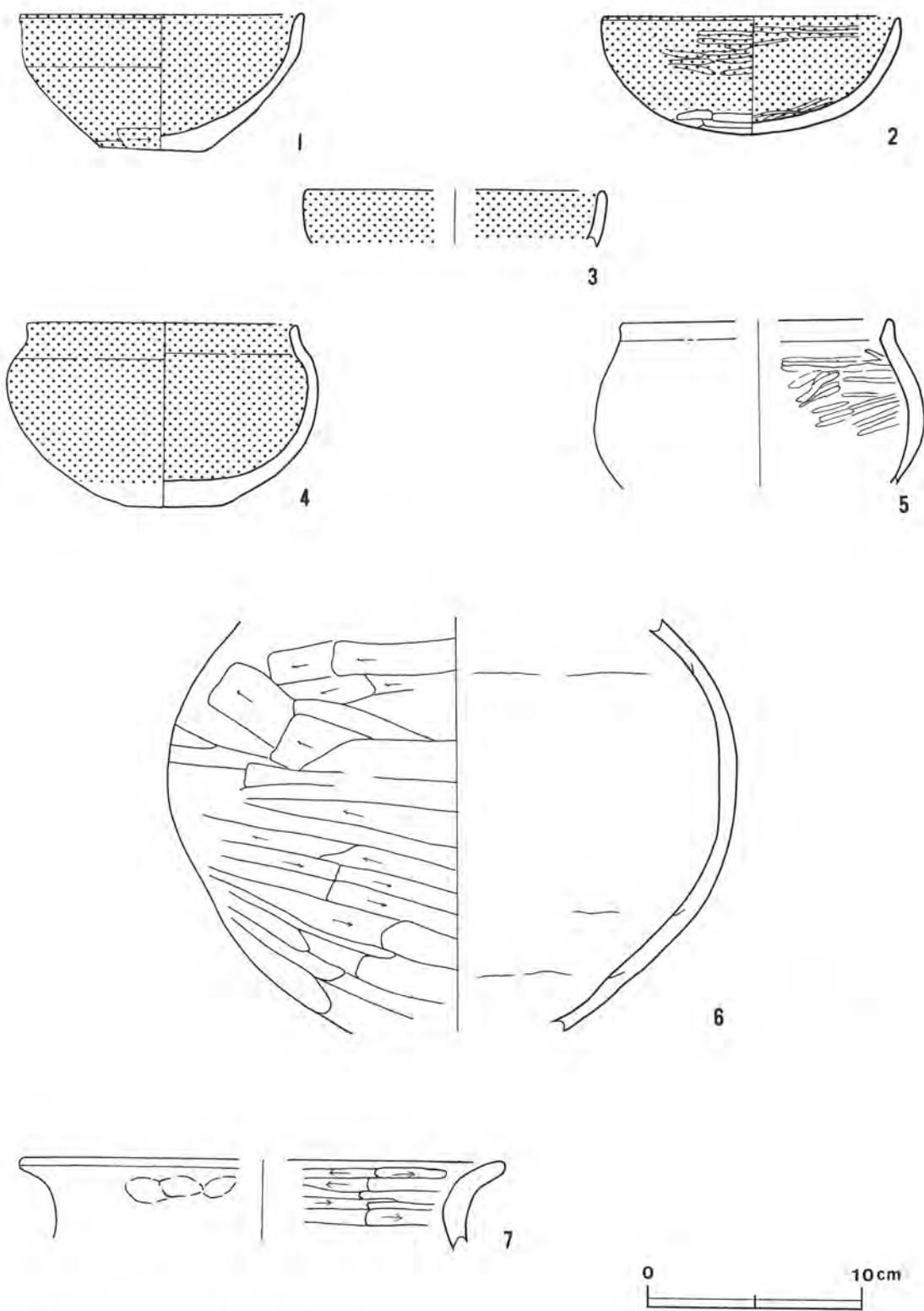
第10号住居跡土層解説

- 1 黒色 炭化粒子微量，ローム粒子・焼土粒子極微量。
- 2 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量。
- 7 黒褐色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量。

第10号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子極中量，ローム粒子少量。
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子少量。
- 6 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量。

第33図 第10号住居跡実測図



第34图 第10号住居跡出土遺物実測図

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたものは、第34図-1~3・5・6である。床面直上の遺物は、4の土師器壺が正位の状態で北西壁中央から70cm離れたところから出土している。7の甕は南東壁際の中央部から出土している。

所見 当住居跡からは、ピットが確認できなかった。6の遺物と焼土塊は、3層が堆積する過程において投棄されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図 1	坏 土師器	A 13.4 B 6.9 C 4.9	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内巻して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P162 85%
2	坏 土師器	A 14.2 B 5.5	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内巻して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り、内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 良好	P163 50%
3	坏 土師器	A [14.0] B (2.6)	口縁部破片。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P164 5%
4	壺 土師器	A 12.7 B 8.6 C 4.8	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内巻して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P165 80%
5	壺 土師器	A [12.6] B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部は内巻して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。口縁部外面横ナデ、内面横ナデ後へラ磨き。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P166 30%
6	甕 土師器	B 19.3	体部破片。体部は球形状を呈する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P168 50%
7	甕 土師器	A [22.8] B (4.0)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ、内面横へラ削り。口縁部外面指頭痕。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P169 5%

第11号住居跡(第35~38図)

位置 I4g9区。

規模と平面形 長軸9.04m, 短軸8.80mの方形。

主軸方向 N-38°-E。

壁 壁高は46~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は南東壁と南西壁の一部を除いて、ほぼ全周しており、上幅11~20cm, 深さ4~10cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、踏み固められた面はみられない。耕作によるトレンチャーによって攪乱を受けている。間仕切り溝は、幅18~26cm, 深さ9~14cmで、P₁~P₄に向かって北東壁から2条, 南西壁から2条, 北西壁から1条延びている。

ピット 4か所。P₁~P₄は、径36~42cm, 深さ52~60cmで、規模や配列から支柱穴と考えら

れる。

貯蔵穴 南東壁の東コーナー付近に付設されている。長径106cm，短径95cm，深さ54cmで，断面形はU字状である。

炉 2か所。F₁は中央より北西寄りにある。長径82cm，短径60cmで，床面を10cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は10層からなり，1層褐色，2～6層にぶい赤褐色，7～9層褐色，10層暗褐色であり焼土粒子，炭化粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。F₂は中央付近にある。炉の規模は長径55cm，短径50cmで，床面を7cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は6層からなり，1層褐色，2層にぶい赤褐色，3～5層褐色，6層暗褐色であり，焼土粒子，炭化粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変している。

覆土 耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが，壁際から流れ込んだものとして6・8～10層がみられ，1～3層が覆土の大部分を占める。上層から下層にかけて同時期の土師器片が散布しているが，特に下層に多くみられる。覆土中から球状土錘，白玉，石鏃，砥石等が出土している。北東壁の北コーナー付近の下層には焼土塊，東コーナーの下層には粘土塊がみられる。

遺物 覆土中から第36図-2・3・6・14・15・第37図-19・第35図-33が出土している。床面直上の遺物は，12の土師器塊が正位の状態で中央の北西側から出土している。9の坏は貯蔵穴の覆土中から出土したものが接合している。13の高坏は中央の東側から出土している。17・18の甕は東コーナーから出土したものが接合している。10の塊は正位の状態で貯蔵穴の覆土中から出土している。1・4・7の坏は正位に近い状態で，8の坏，11の塊は斜位の状態で貯蔵穴の底面から出土している。5の坏，16の甕はいずれも貯蔵穴底面から出土したものが接合している。33の紡錘車は南コーナー付近から出土している。29・30・31の白玉が中央の東側の覆土下層から出土している。9点の球状土錘は散在した状況で床面上から出土している。

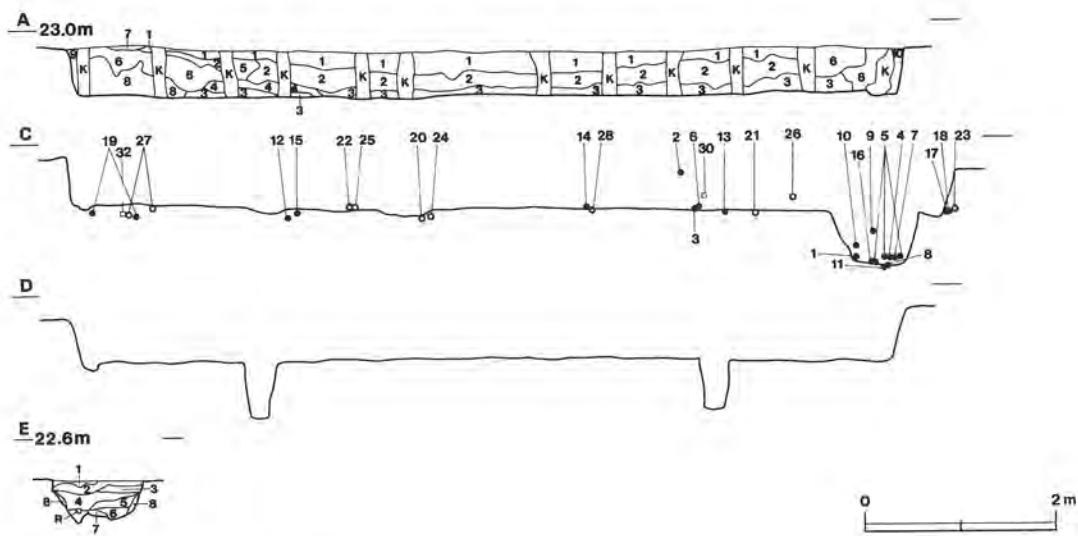
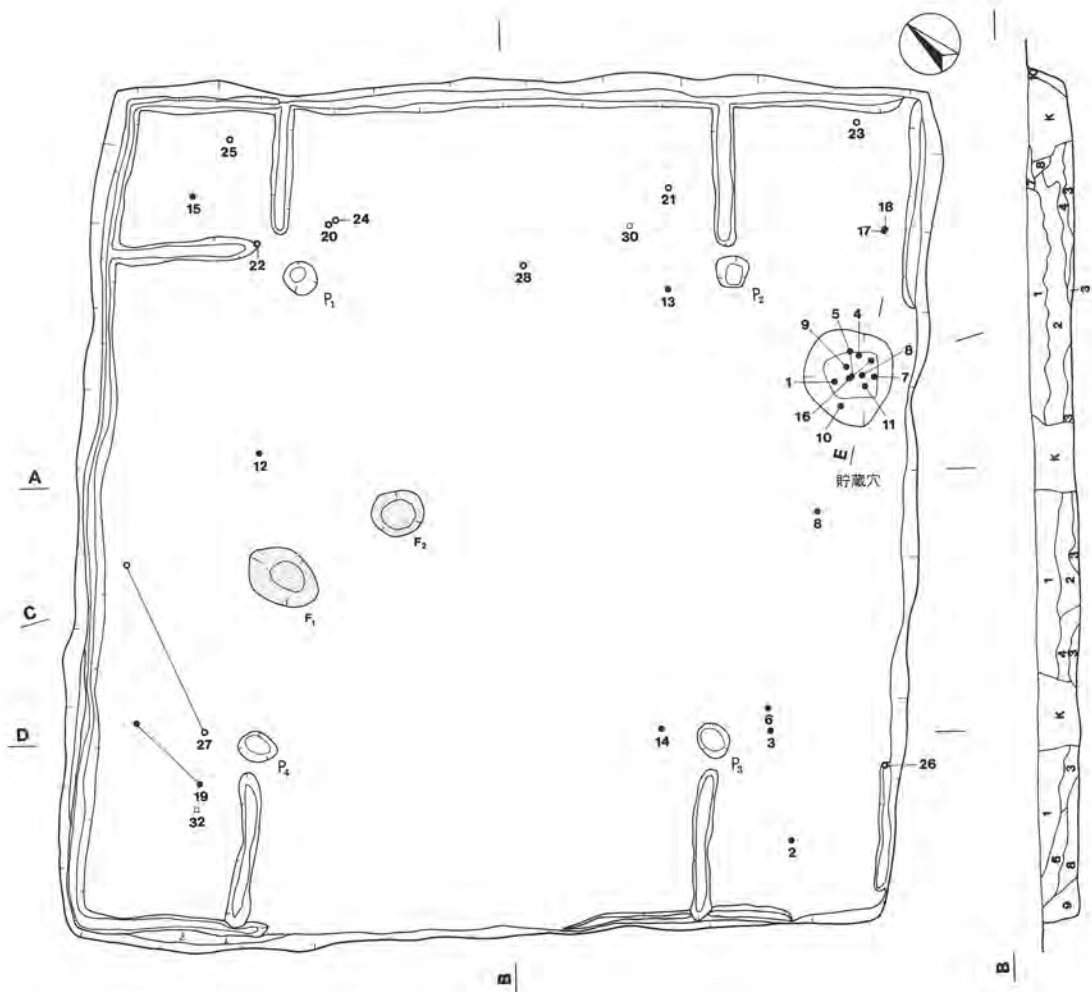
所見 貯蔵穴内から一括した遺物が出土している。この遺物は第37図-10の遺物を除き，いずれも底面中央に位置し，出土レベルも同じことから，貯蔵穴周辺に置かれた遺物が一括して流れ込んだものと思われる。当住居跡は，遺物等から古墳時代中期末のものである。

第11号住居跡土層解説

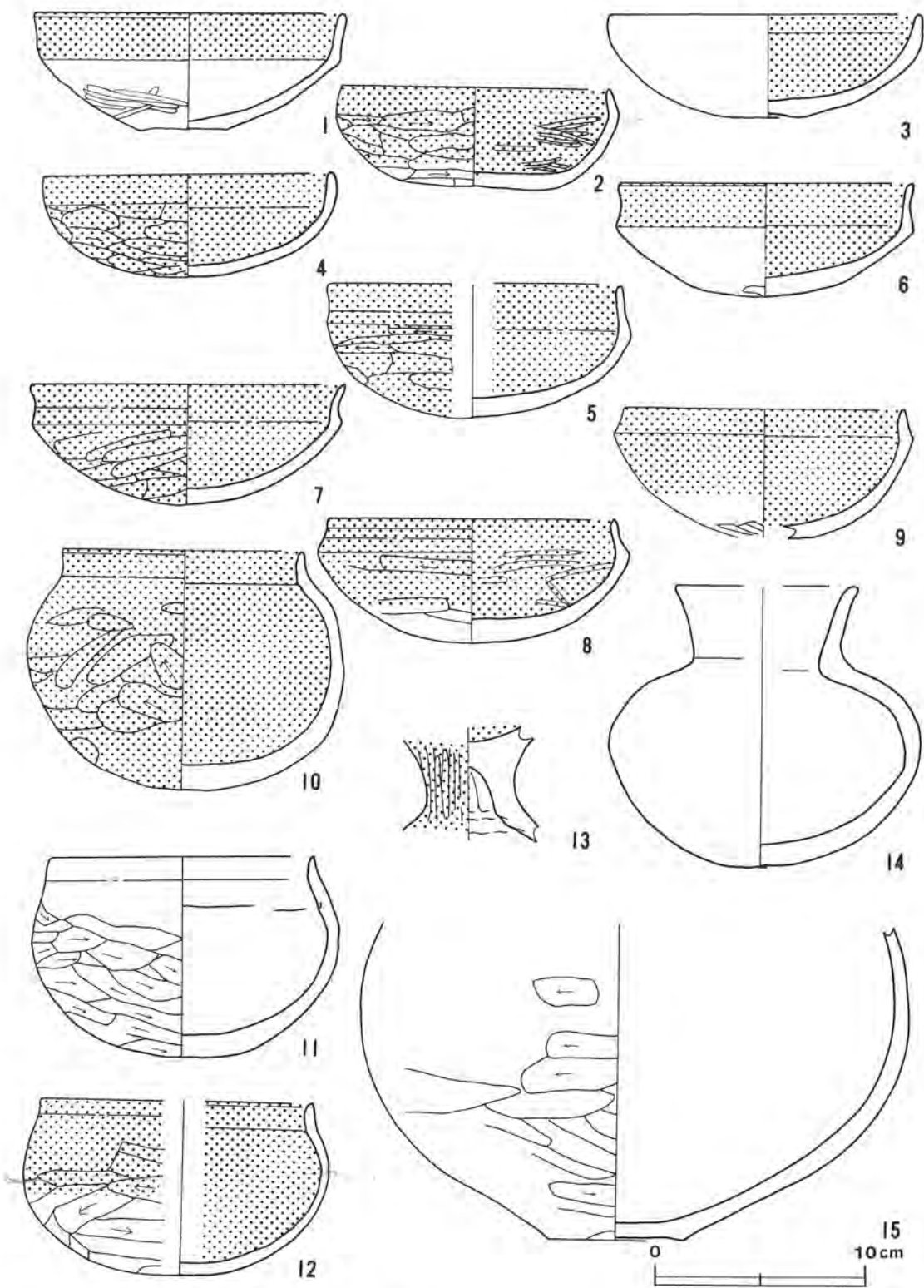
- | | | |
|----|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量。 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量。 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子多量。 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量。 |
| 9 | 褐色 | ローム粒子多量。 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子多量。 |

第11号住居跡貯蔵穴土層解説

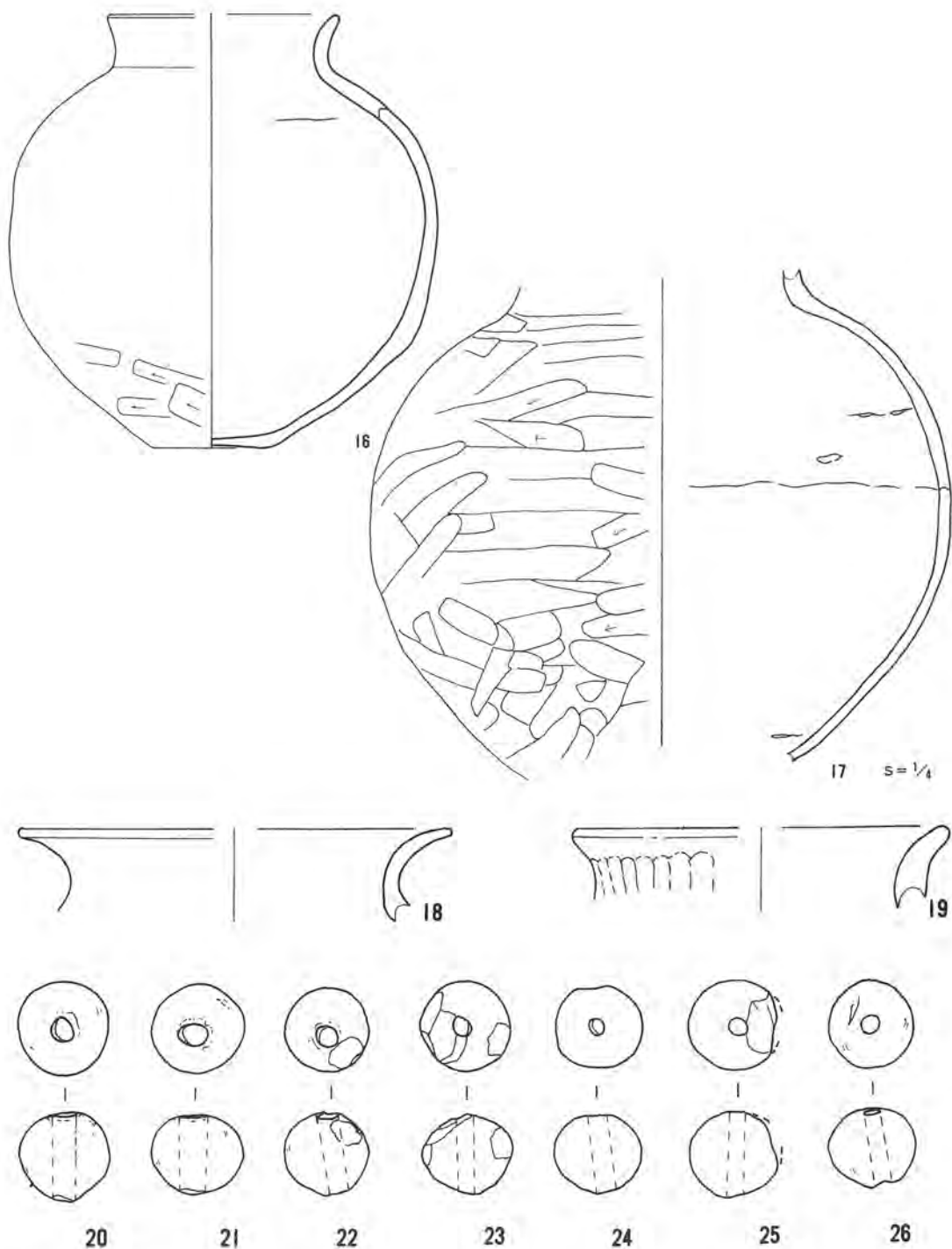
- | | | |
|---|----|---------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 2 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量。 |
| 3 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量。 |
| 4 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック微量。 |
| 5 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック微量。 |
| 6 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子多量。 |



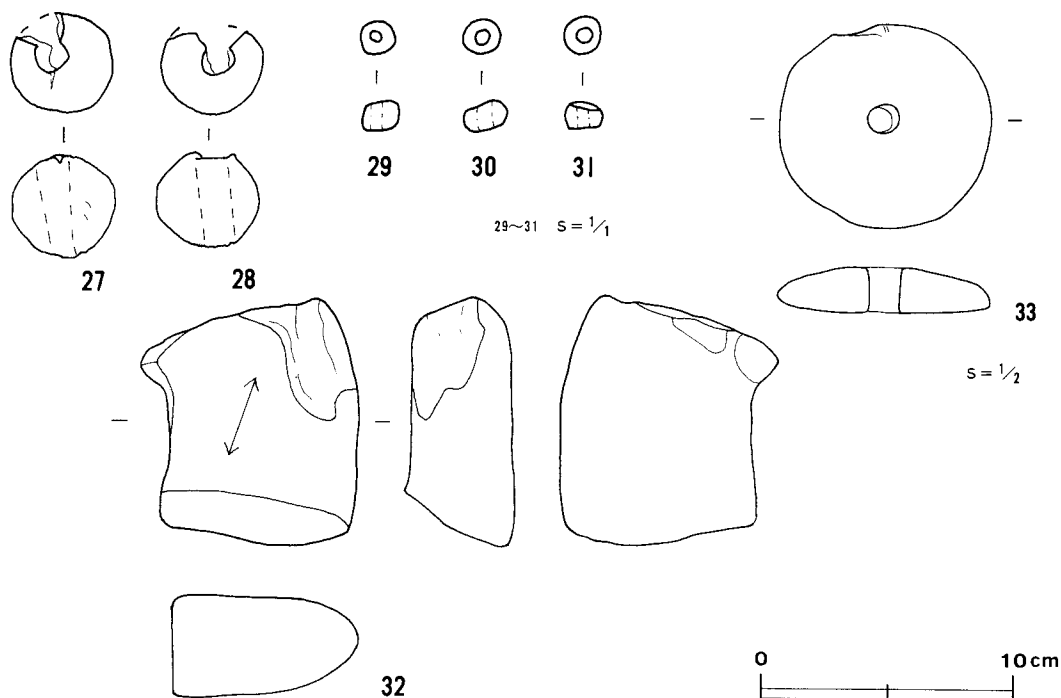
第35图 第11号住居跡実测图



第36图 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第37图 第11号住居跡出土遺物実測図(2)



第38図 第11号住居跡出土遺物実測図(3)

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	坏 土師器	A 15.0 B 5.7 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後雑なナデ、内面横ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 良好	P170 100%
2	坏 土師器	A 12.7 B 4.8	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面雑なヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P172 60%
3	坏 土師器	A 14.9 B 5.0 C 3.3	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部ヘラ削り。体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P171 60%
4	坏 土師器	A 13.8 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 橙褐色 普通	P173 100%
5	坏 土師器	A [7.2] B 6.2	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P175 60% 内面摩擦の煤付着
6	坏 土師器	A 14.0 B 5.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P174 90%
7	坏 土師器	A 15.1 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P176 100%
8	坏 土師器	A 13.8 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、内面雑なヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P177 95% 内・外面摩擦

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第36図 9	坏 土 師 器	A 13.4 B (6.1)	底部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との 境に弱い稜を持つ。口縁部は内 傾する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。口縁部内・外面横ナ デ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P178 90%
10	坩 土 師 器	A 11.7 B 11.4	丸底。体部は内彎して立ち上 がり、口縁部は直立する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。口縁部内・外面横ナ デ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P179 100%
11	坩 土 師 器	A 12.7 B 9.6	丸底。体部は内彎して立ち上 がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。口縁部内・外面横ナ デ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 良好	P180 100%
12	坩 土 師 器	A [13.0] B 8.3	体部及び口縁部欠損。丸底。体 部は内彎して立ち上がり、口縁 部はほぼ直立する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。口縁部内・外面横ナ デ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P181 60%
13	高 土 師 器	E (5.5)	脚部破片。脚部は円筒状を呈す る。	脚部外面ヘラ削り後ナデ、内面 ナデ。坏部内面ナデ。脚部外面 及び坏部内面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P183 10%
14	壺 土 師 器	A [8.7] B 13.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、上位に最 大径を持つ。口縁部は外傾す る。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナ デ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P184 90% 外面摩耗
15	甕 土 師 器	B (15.0) C 6.1	底部から体部の破片。平底。体 部は球形状を呈する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ヘ ラナデ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P187 20%
第37図 16	甕 土 師 器	A [13.8] B 26.1 C 6.8	体部一部欠損。平底。体部は球 形状を呈し、口縁部は外反す る。	底部及び体部外面ヘラ削り後ヘ ラナデ、内面ヘラナデ。口縁部 内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい黄橙色 普通	P185 90%
17	甕 土 師 器	B (29.6)	体部破片。体部は球形状を呈す る。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面 ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P186 30%
18	甕 土 師 器	A [19.6] B (4.3)	口縁部破片。口縁部は外反す る。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P188 5%
19	甕 土 師 器	A [17.0] B (3.8)	口縁部破片。口縁部は外反す る。	頸部外面ヘラ削り。口縁部内・ 外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P189 5% 外面煤付着

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)		
第37図20	球 状 土 錘	3.9	3.9		1.0	58.4	SI11	DP 6
21	球 状 土 錘	3.5	4.1		1.2	51.2	SI11	DP 7
22	球 状 土 錘	3.8	3.7		0.9	46.8	SI11	DP 8
23	球 状 土 錘	3.6	4.1		0.9	52.4	SI11	DP 9
24	球 状 土 錘	3.5	3.9		0.8	46.3	SI11	DP10
25	球 状 土 錘	3.9	(3.9)		0.8	(55.0)	SI11	DP11
26	球 状 土 錘	3.6	3.8		0.8	47.2	SI11	DP12
第38図27	球 状 土 錘	4.0	4.1		1.3	(51.6)	SI11	DP13
28	球 状 土 錘	3.8	4.0		1.3	(33.2)	SI11	DP14
29	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	SI11	DP33

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第35図30	白玉	0,5	0,4		0,2	0,1	滑石	SI11	Q34
31	白玉	0,5	0,4		0,2	0,1	滑石	SI11	Q35
32	砥石	9,9	8,6	4,1		541,6	砂岩	SI11	Q38
33	紡錘車	5,7	5,4	1,2	0,8	49,2	滑石	SI11	Q32

第12号住居跡(第39～41図)

位置 J3b₃区。

規模と平面形 長軸6.94m, 短軸6.76mの方形。

長軸方向 N-88°-E。

壁 壁高は37～64cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。耕作によるトレンチャーによって、帯状の攪乱を受けている。壁溝は全周しており、上幅14～23cm, 深さ4～6cmで、断面形はU字状である。

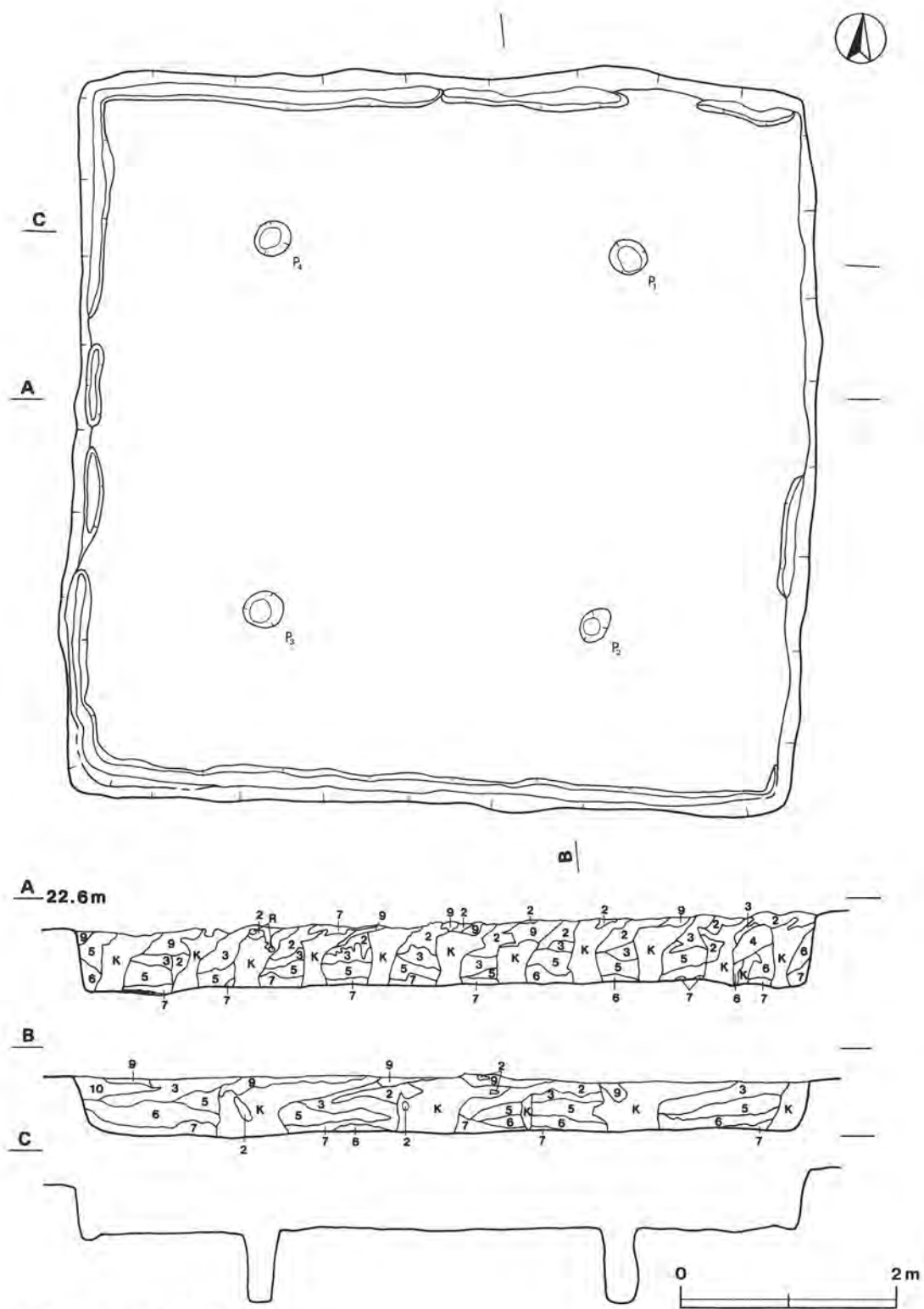
床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。4か所のピットを囲むように、床面が火熱を受け赤変硬化している。

ピット 4か所。P₁～P₄は、径35～38cm, 深さ60～70cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。

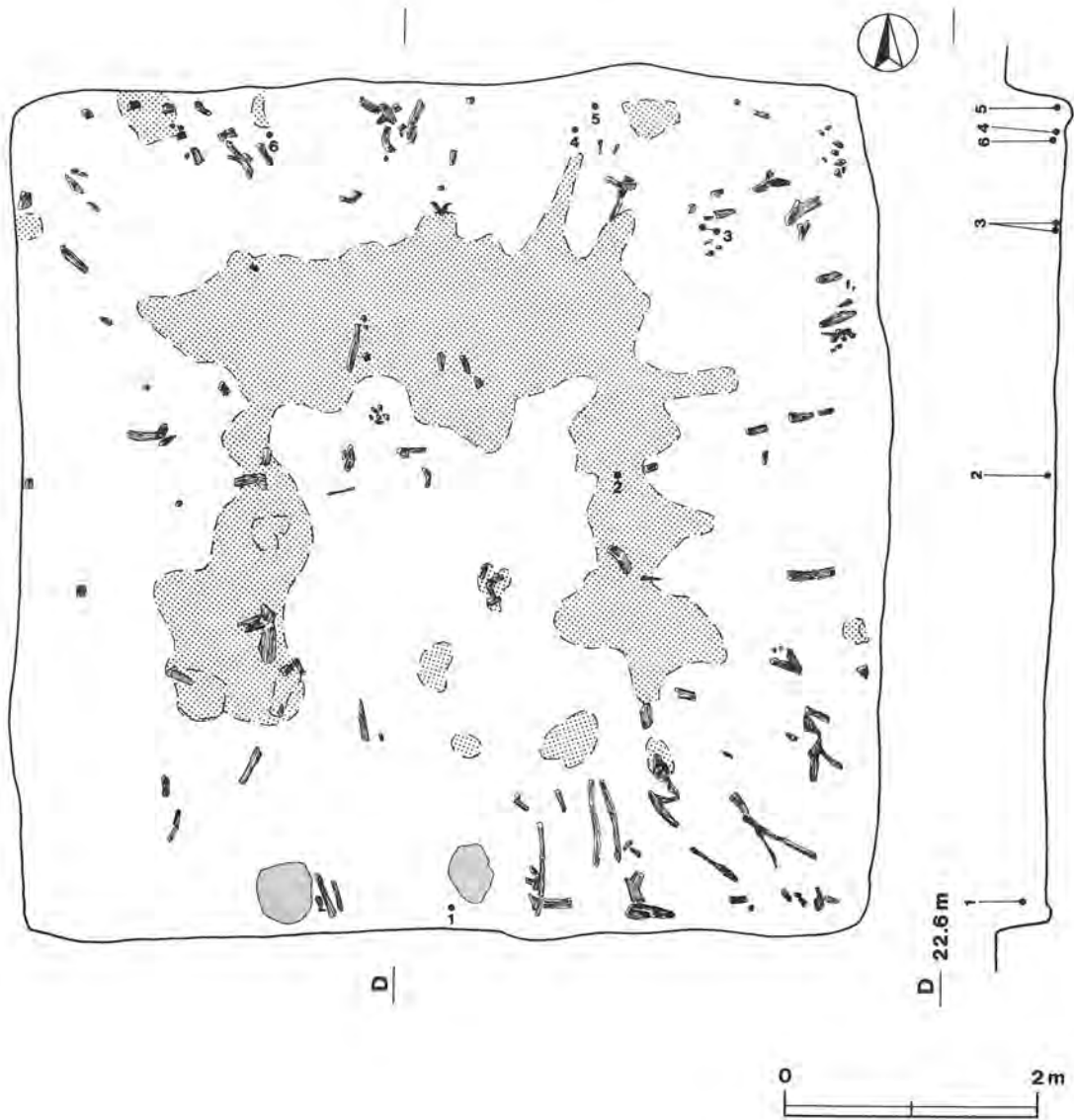
覆土 耕作によるトレンチャーの攪乱をかなり受けている。覆土は、ローム粒子、ローム小ブロックを含む黒褐色土、暗褐色土、褐色土が入り乱れて堆積している。特に、6層は焼土粒子を多く含んだ層である。各壁沿いの床面上から炭化材が検出されている。北壁と中央から南側の下層に焼土塊及び南壁際の下層に粘土塊がみられる。覆土中の遺物は少量であるが、下層から床面直上にかけて土師器片が多く出土している。覆土中から砥石、黒曜石が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片は、いずれも小破片である。石製品は第41図-7の砥石が床面から5cm高いところから出土している。床面直上の土師器は1の坏が正位の状態で南壁際の中央から、2の坏は中央の東側から出土している。また、3～5の坏は北東コーナー付近から出土している。6の鉢は北壁の北西コーナー寄りから出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると、ローム小ブロック、ローム粒子を含む層が入り乱れて堆積していること、また、床面直上に炭化材、焼土塊がみられ、床面が火熱を受け赤変していることから、焼失後埋め戻されたものと思われる。炉は、床面が火熱を受け赤化しているため、確認できなかった。当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



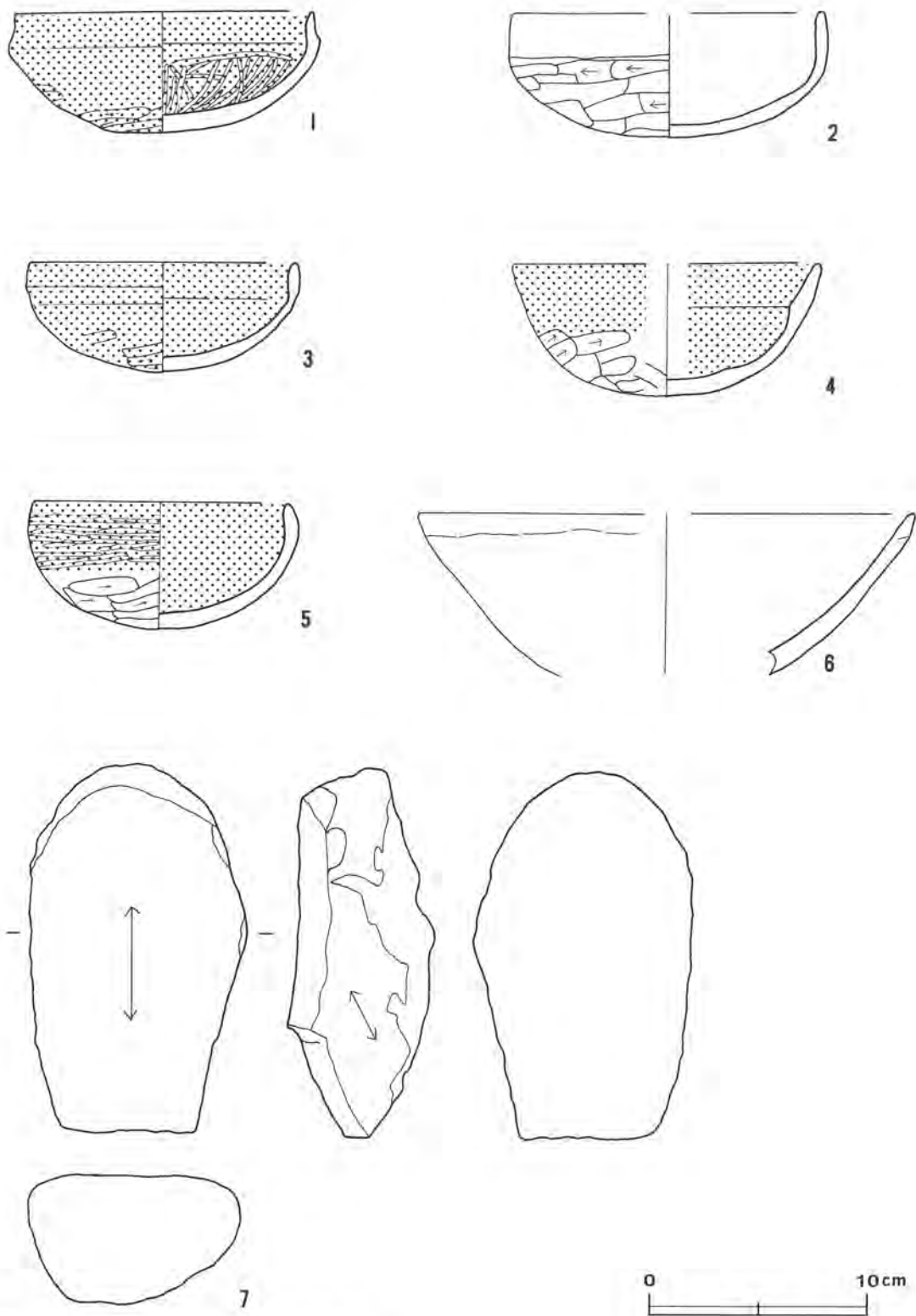
第39图 第12号住居跡実測图



第12号住居跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック極微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック極少量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化材極微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子少量。
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量。
- 7 褐色 ローム粒子多量。
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量。
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量，炭化材中量，焼土粒子・炭化粒子微量。

第40図 第12号住居跡遺物出土位置図



第41图 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第41図 1	坏 土 師 器	A 13.8 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	190 100%
2	坏 土 師 器	A [14.4] B 5.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P191 40%
3	坏 土 師 器	A 12.4 B 5.1	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は段を持ち、ほぼ直立する。	底部及び体部へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P192 70% 内面摩耗
4	坏 土 師 器	A [14.2] B 6.1	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部へラ削り後へラナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P193 60% 二次焼成 内面摩耗
5	坏 土 師 器	A 11.7 B 6.0	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部へラ削り後ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、上位へラ磨き、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P194 60% 内面摩耗
6	鉢 土 師 器	A [22.9] B (7.4)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P195 10% 二次焼成 煤付着

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第41図7	砥 石	17.0	10.0	6.0		1209.7	砂 岩	SI12	Q39

第14号住居跡(第42・43図)

位置 K2b₅ 区。

重複関係 本跡は南西部において第18号土坑を掘り込んでいます。

規模と平面形 長軸4.24m、短軸3.20mの長方形。

長軸方向 N-44°-W。

壁 壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

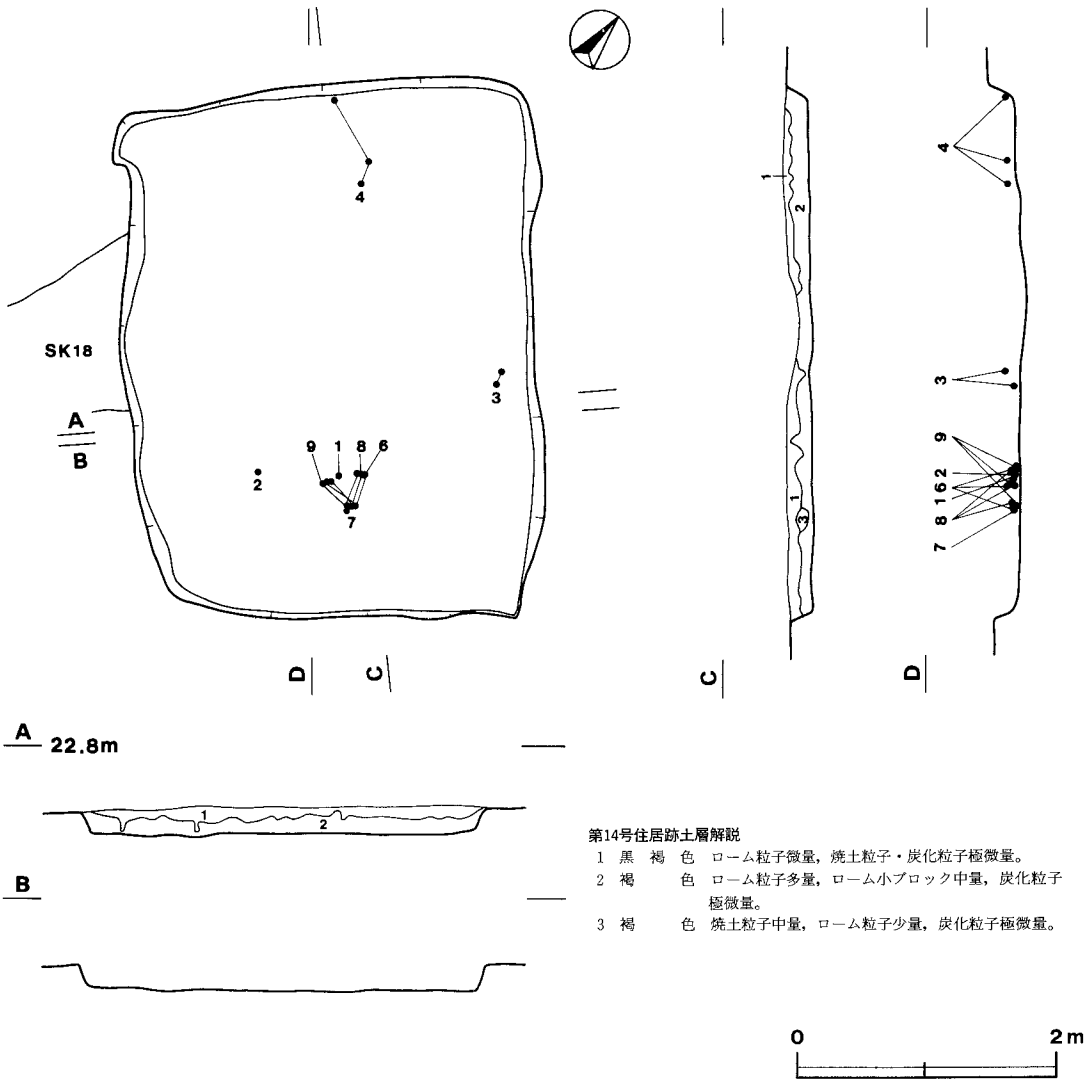
床 ほぼ平坦であり、踏み固められた部分は認められない。中央部は根による攪乱が著しい。

覆土 基本的に2層からなり、2層、1層の順に堆積する。上層から下層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が散布している。

遺物 覆土中から第43図-4・5が出土している。床面直上の遺物は、中央から南東側に集中してみられる。1の土師器坏は正位の状態で6と9の甕の間から出土している。2の坏は逆位の状態で出土している。8の甕は中央の南東側から出土したものが接合している。6と9は並ぶように逆位の状態で出土している。7の甕は逆位の状態で出土している。3の坏は北東壁の中央から出土したものが接合している。

所見 遺物は床面上にいずれも逆位の状態で並んで集中して出土していることから、本跡の廃棄

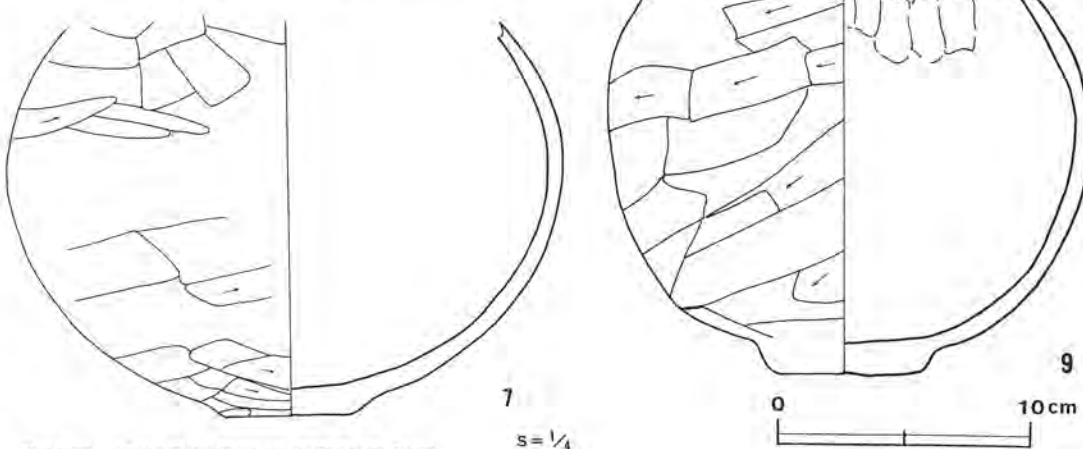
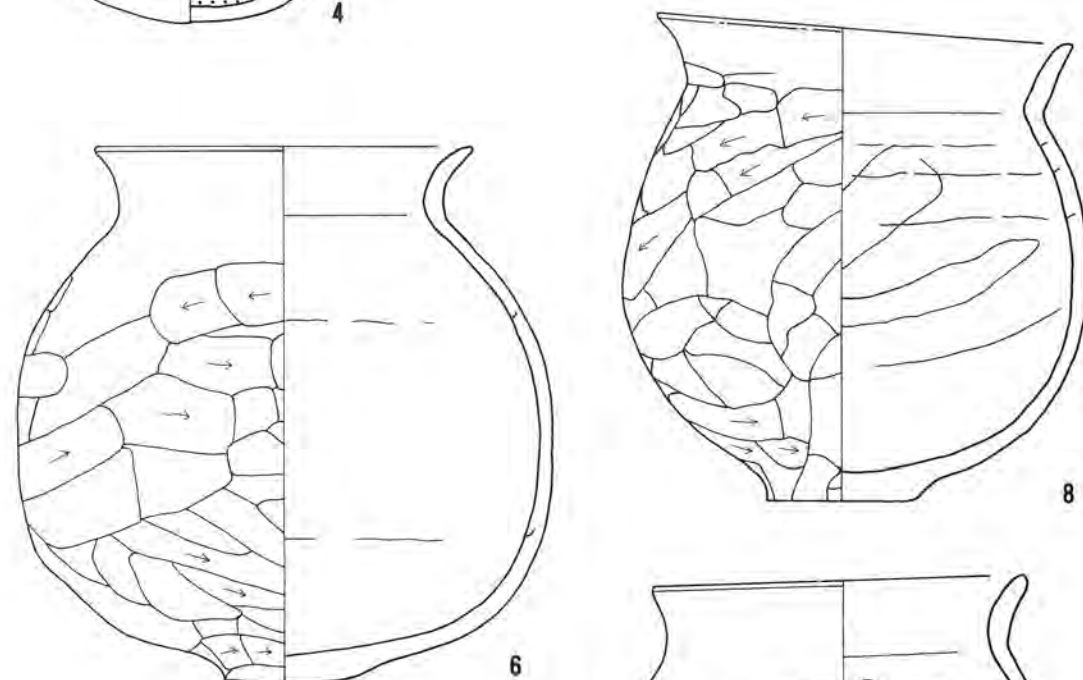
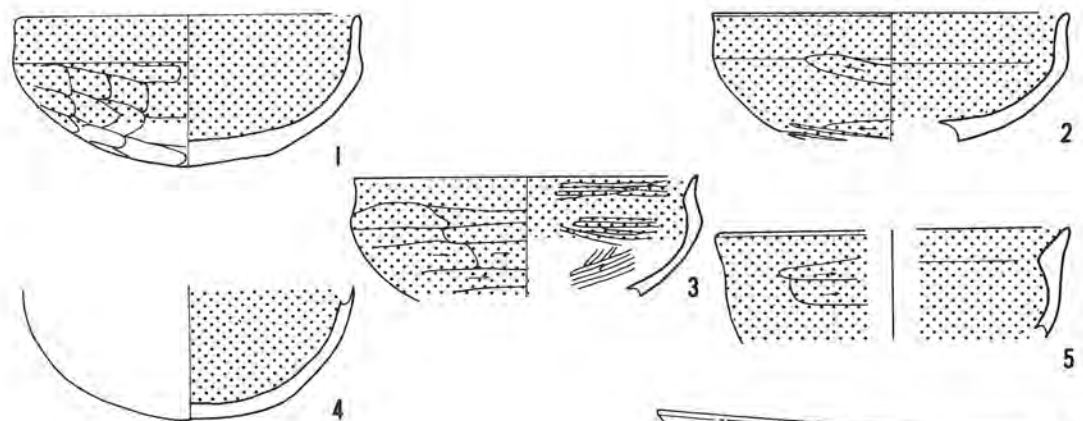
時に伴う遺物と思われる。本跡は、炉が確認されず住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



第42図 第14号住居跡実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	坏 土 師 器	A 13.8 B 6.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P210 80%
2	坏 土 師 器	A 14.1 B (5.0)	底部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 橙色 良好	P211 70% 底部砥石痕



第43图 第14号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 43 図 3	坏 土 師 器	A [13.6] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤色 普通	P213 15%
4	坏 土 師 器	B (5.2)	底部から体部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P212 40%
5	埴 土 師 器	A [14.1] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 普通	P214 5%
6	甕 土 師 器	A 15.0 B 20.3 C 4.8	体部一部欠損。突出した平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P216 95%
7	甕 土 師 器	B (20.6) C 6.8	底部から体部の破片。平底。体部は球形状を呈する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P215 40% 内面摩耗
8	甕 土 師 器	A 16.6 B 18.7 C 6.2	体部一部欠損。突出した平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外傾する。	底部へラ削り。体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P217 90%
9	甕 土 師 器	A 15.1 B 19.6 C 5.8	体部一部欠損。突出した平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P218 90%

第15号住居跡(第44～46図)

位置 I5d6区。

規模と平面形 長軸7.30m、短軸6.72mの方形。

主軸方向 N-45°-W。

壁 壁高は46～50cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は全周しており、上幅11～22cm、深さ2～8cmで、断面形はU字状である。

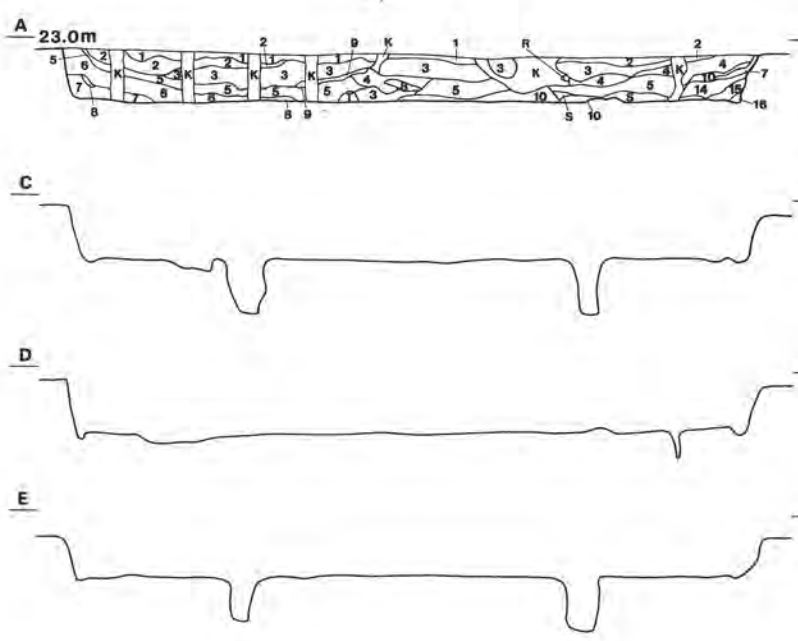
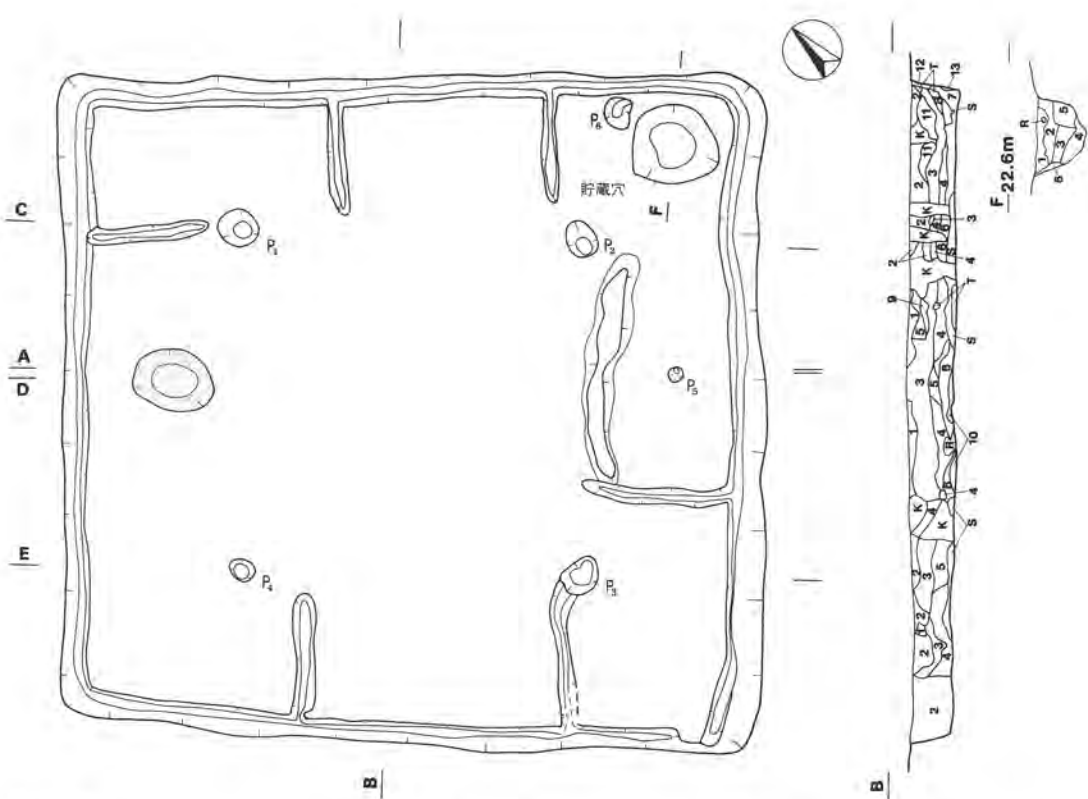
床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。中央寄り東側と西側の床面は、火熱を受け赤変硬化している。馬の背状の高まりは、南東壁から180cm離れたところに幅43cm、高さ6cmで、壁に沿って延びており、位置や形態から出入口施設に関係するものと思われる。間仕切り溝は、幅12～22cm、深さ8～16cmで、四方の壁からP₁～P₄に向かって6条ある。

ピット 6か所。P₁～P₄は、径27～45cm、深さ40～60cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。P₅は、径17cm、深さ31cmで、規模や位置から梯子ピットと思われる。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径97cm、短径87cm、深さ55cmで、円筒状に掘り込まれている。

炉 中央から北西寄りにある。長径91cm、短径67cmで、床面を8cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉床は、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 耕作によるトレンチャーの攪乱を受けている。床面上には焼土粒子を多量に含む8層と炭



第15号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量，炭化材少量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子極微量。
- 3 極暗褐色 ローム粒子多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量。
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子多量，炭化材中量，焼土小ブロック極微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，炭化材極微量。
- 6 明褐色 ローム粒子多量，焼土粒子極微量。

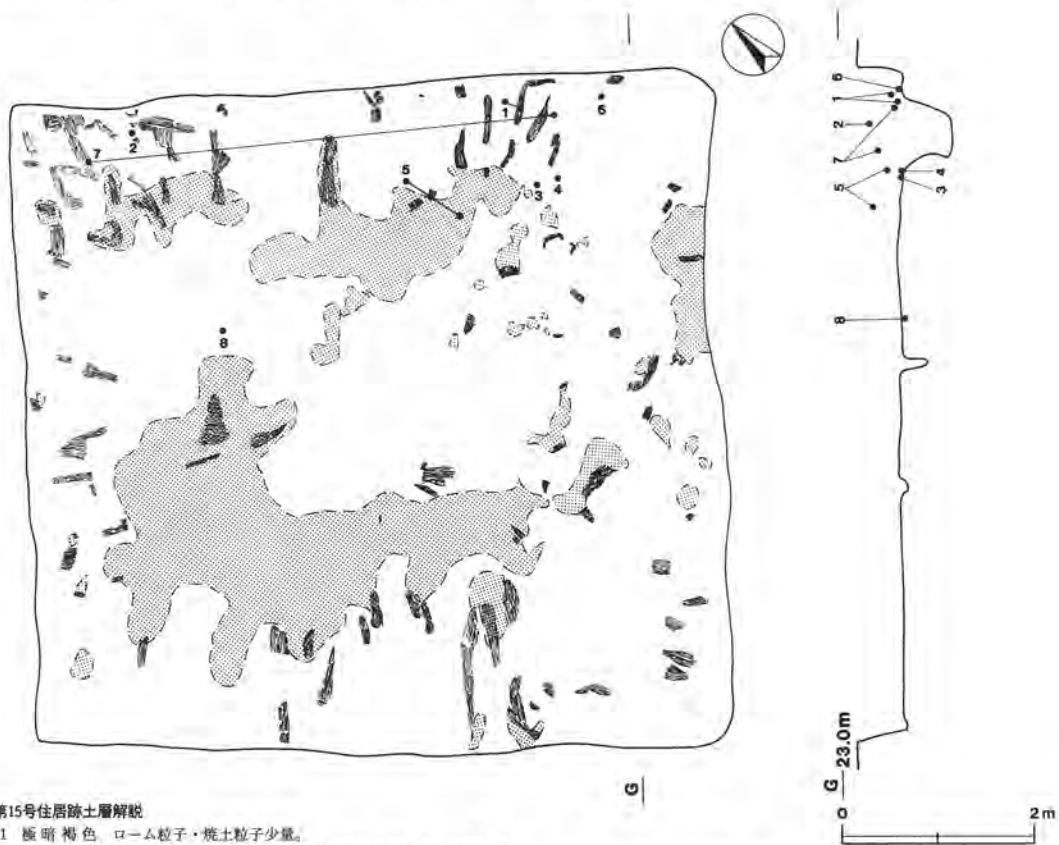


第44図 第15号住居跡実測図

化粒子を多量に含む10層が薄く堆積する。他の層はローム小ブロック等を含む褐色土層と黒褐色土層が入り乱れて堆積している。覆土の上層から下層にかけて同時期の土師器片、白玉が出土している。各壁周辺の床面上には炭化材、焼土塊がある。

遺物 覆土中からは第46図-1~5・7・10が出土している。床面直上の遺物は、6の土師器甕が正位の状態です東コーナー付近の壁際から出土している。8の甕・9の鉢はつぶれた状態で中央部北側から出土している。

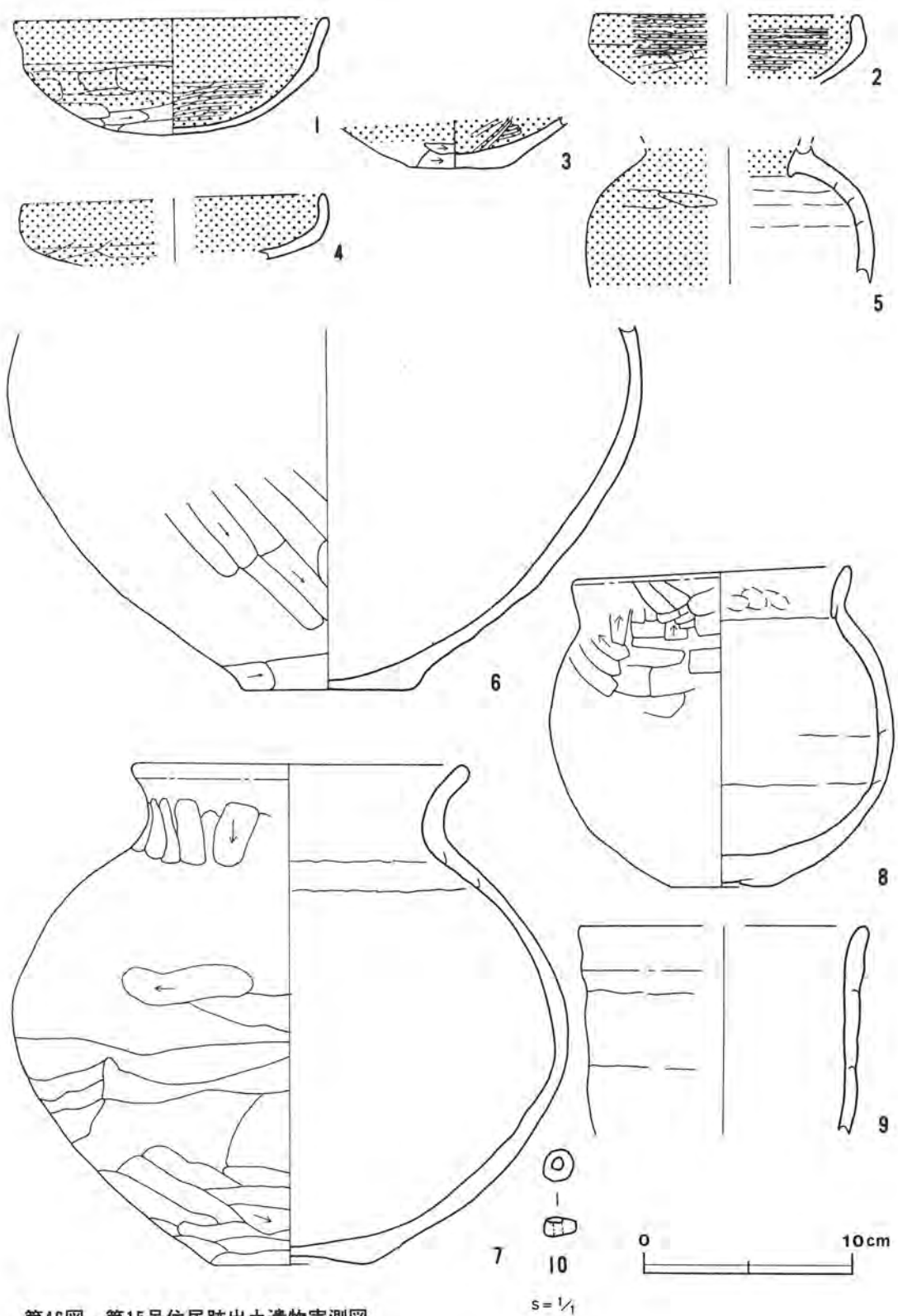
所見 覆土の堆積状態をみると床面上から8層、10層に炭化材、焼土塊などがみられ、その上にブロック状の層が堆積していることから、当住居跡は、焼失後しばらくした後、人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第15号住居跡土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量。 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量。 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量。 | 12 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 13 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量。 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量。 | 14 黒褐色 | 炭化粒子多量、炭化材中量、ローム粒子・焼土粒子少量。 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量。 | 15 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化材・炭化粒子極微量。 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量。 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量。 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量。 | | |
| 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量。 | | |
| 10 黒褐色 | 炭化粒子多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化材少量。 | | |

第45図 第15号住居跡遺物出土位置図



第46图 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第46図 1	坏 土 師 器	A 14.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P220 90% 二次焼成
		B 5.6				
2	坏 土 師 器	A 12.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後、雑なへラ磨き、内面密なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ後へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P222 10%
		B (3.4)				
3	坏 土 師 器	B (2.3)	底部破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P219 15%
		C 4.6				
4	坏 土 師 器	A [14.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコ リア・砂粒 赤褐色 普通	P221 20%
		B (2.4)				
5	壺 土 師 器	B (6.6)	体部破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部へラ削り後ナデ、内面ナデ。外面及び口縁部内面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい黄橙色 普通	P224 10%
6	甕 土 師 器	B (17.4)	底部から体部の破片。平底。体部は球形状を呈する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にふい褐色 普通	P226 30% 内面摩耗
		C 8.4				
7	甕 土 師 器	A 16.2	体部一部欠損。平底。体部は球形状を呈する。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P225 90%
		B 24.1				
8	甕 土 師 器	A 13.5	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は球形状を呈する。口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部外面横へラ削り、内面横ナデ。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P227 90% 内面摩耗
		B 15.3				
9	鉢 土 師 器	A [13.8]	体部から口縁部の破片。体部はほぼ直立して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面粗いへラ削り、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P228 10% 外面摩耗
		B (10.0)				

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第46図10	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI15	Q40

第18号住居跡(第47～49図)

位置 K2a6区。

規模と平面形 長軸6.48m, 短軸5.96mの方形。

主軸方向 N-45°-W。

壁 壁高は36～66cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝はほぼ全周しており、上幅12～28cm, 深さ4～10cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は、幅16～24cm, 深さ8～16cmで、北東壁からP₁, P₂に向かって2条, 南西壁から中央に向かって1条, 南西壁からP₄に向かって1条, 北西壁から中央に向かって1条がみられる。

ピット 4か所。P₁～P₄は、径30～35cm, 深さ60～73cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。

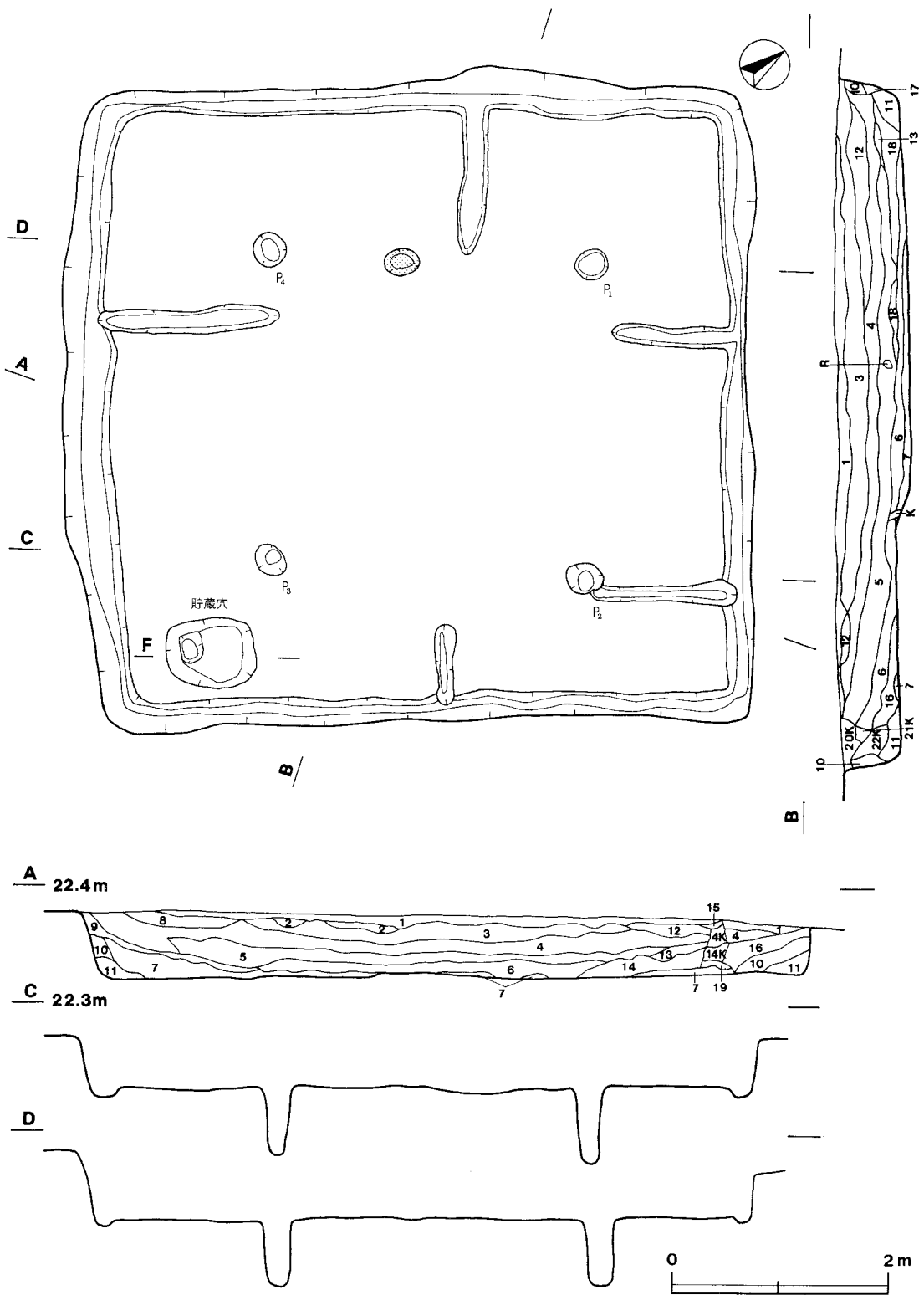
貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径82cm, 短径66cm, 深さ54cmで、円筒状に掘り込まれており、一部分に窪みがある。貯蔵穴内覆土中層から炭化材がみられた。

炉 中央から北西寄りにある。長径34cm, 短径22cmで、床面を6cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は3層からなり、1層にぶい赤褐色, 2層暗赤褐色, 3層にぶい褐色であり、どの層も焼土粒子, 炭化粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

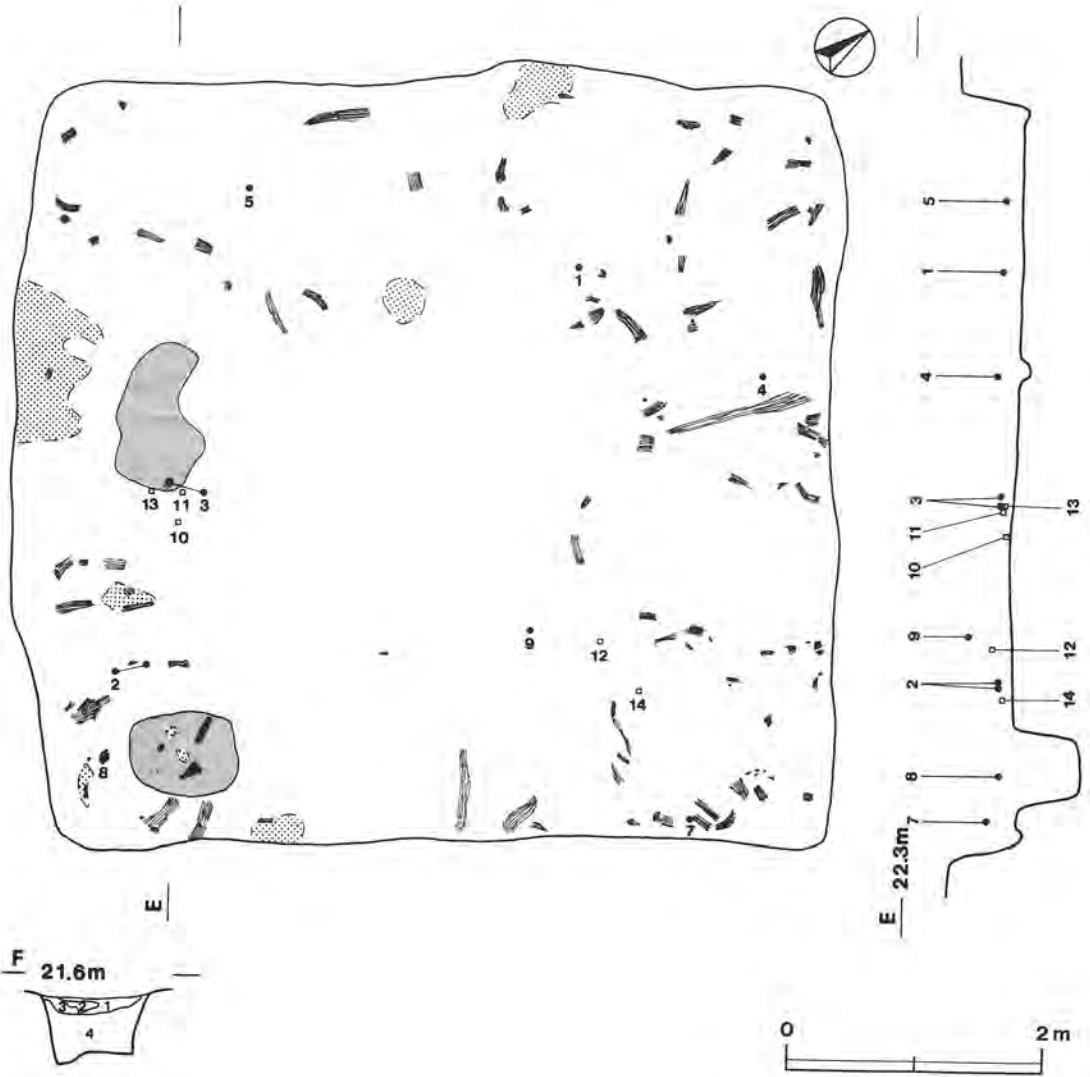
覆土 壁際から褐色土が流れ込み、床面上には炭化材, 焼土粒子を含む層が10cm程の厚さで堆積している。その上に暗褐色土層がある。上層から下層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が散布している。南東壁寄りの中層には粘土塊がみられる。

遺物 覆土中からは第49図-1・4・5・9・12が出土している。床面直上の遺物はほとんどないが、床面から5cm程の高さから、多く遺物が出土している。2の土師器坏は南コーナーから出土したものが接合している。7の坏, 14の砥石は東コーナーから出土している。3の坏, 10・11の双孔円板, 13の白玉はほぼ同じレベルで中央の南西側から出土している。8の塊は正位の状態で南コーナー付近から出土している。6の坏は正位の状態で貯蔵穴覆土中から出土している。

所見 床面上の炭化材や焼土塊, 貯蔵穴内の炭化材などの出土状況から焼失したものと思われる。当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



第47图 第18号住居跡実測图



第18号住居跡土層解説

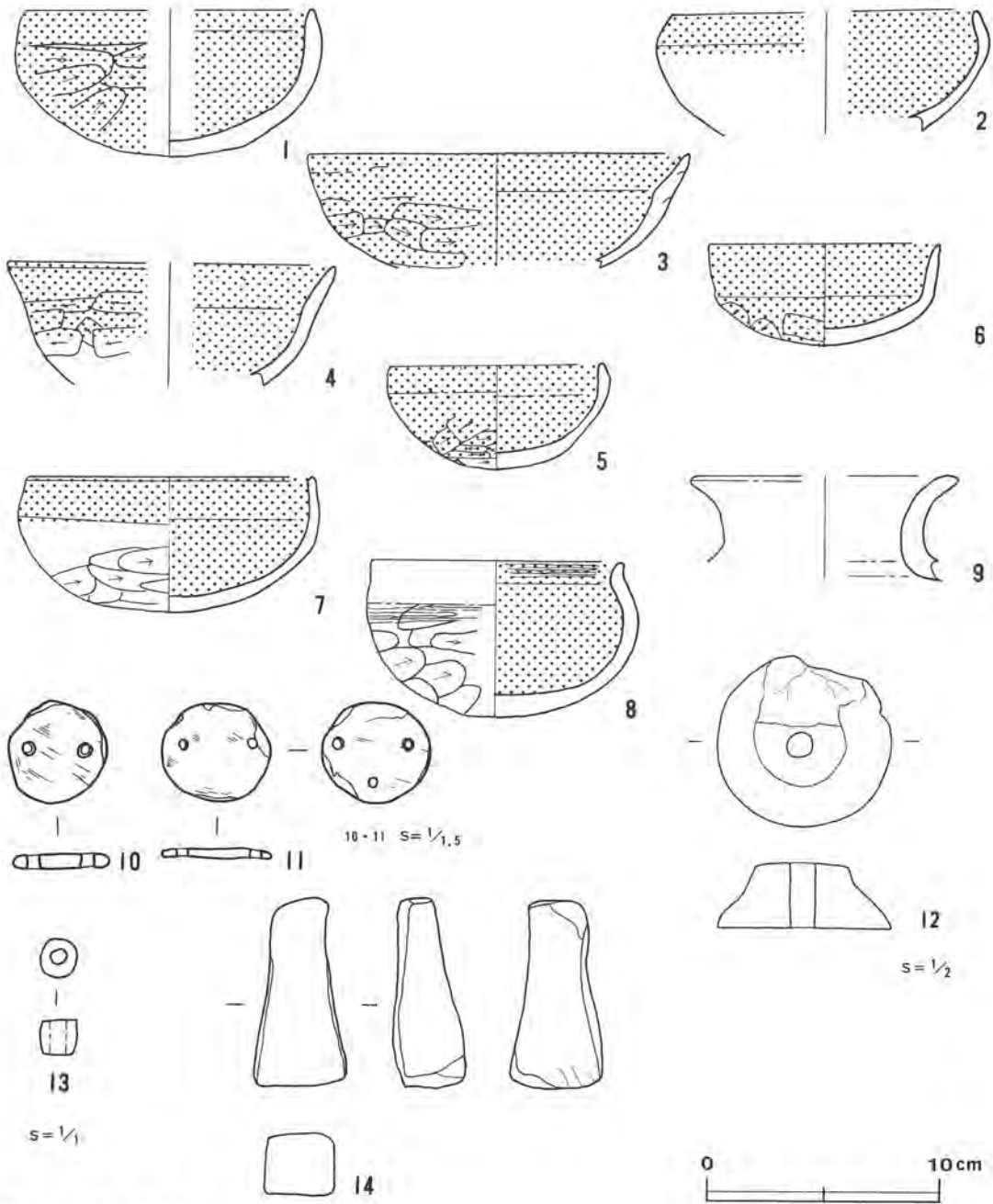
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量。
- 2 極暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量。
- 3 黒褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量。
- 4 極暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量。
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量。
- 6 極暗褐色 炭化材・炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量。
- 7 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 8 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子極微量。
- 9 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 10 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，炭化材極微量。
- 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量。
- 12 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 13 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量。
- 14 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量。

- 15 暗褐色 ローム粒子極微量。
- 16 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 17 明褐色 ローム粒子多量。
- 18 暗褐色 ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量，焼土粒子微量。
- 19 暗褐色 炭化材多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量。
- 20 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量。
- 21 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量。
- 22 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。

第18号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量。
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量。
- 3 におい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量。
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。

第48図 第18号住居跡遺物出土位置図



第49図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	坏 土師器	A [12.5] B 6.3	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部及び体部外面へフ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P245 70% 二次焼成

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第49図 2	坏 土 師 器	A 13.2 B (5.3)	体部及び口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P246 30% 二次焼成
3	坏 土 師 器	A 16.4 B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P247 40% 二次焼成
4	坏 土 師 器	A [14.2] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P248 20% 二次焼成
5	坏 土 師 器	A 9.2 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P256 100%
6	坏 土 師 器	A 10.0 B 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P250 100% 内面摩耗
7	坏 土 師 器	A 12.2 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 良好	P272 100%
8	坏 土 師 器	A 10.8 B 6.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後へラ磨き。口縁部外面へラ磨き、内面ナデ。内面赤彩。	長石・石英・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P249 100% 内面摩耗 煤付着
9	甕 土 師 器	A [11.6] B (4.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P251 5%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第49図10	双 孔 円 板	2.2	2.1	0.3	0.3	2.4	滑 石	SI18	Q42
11	双 孔 円 板	2.1	2.3	0.2	0.2	2.8	滑 石	SI18	Q43
12	紡 錘 車	5.0	4.9	1.9	0.7	51.3	滑 石	SI18	Q45
13	臼 玉	0.6	0.6		0.2	0.2	滑 石	SI18	Q44
14	砥 石	8.2	4.0	3.1		116.8	安 山 岩	SI18	Q46

第19号住居跡(第50・51図)

位置 K 2 f 区。

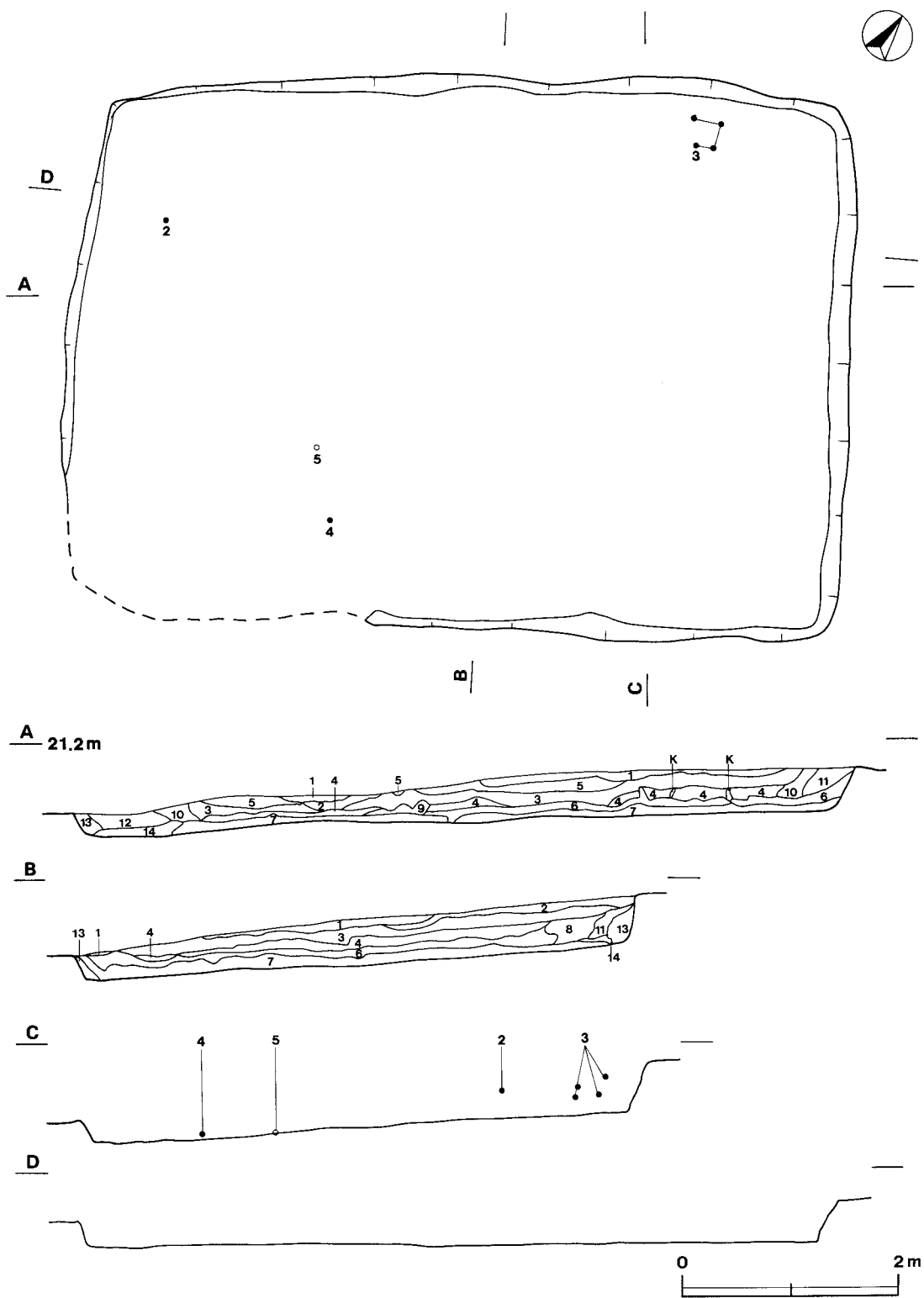
規模と平面形 長軸7.30m、短軸5.30mの長方形。

長軸方向 N-58°-E。

壁 壁高は24~48cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。南コーナーは斜面部のため確認することができなかった。

床 床面は、ほぼ平坦で斜面に沿っていくぶん南側に傾斜し、踏み固められた面はみられない。

覆土 斜面に沿って壁際からの流れ込みの層である。上層から下層にかけて同時期の土師器片が散布している。また、覆土中から縄文式土器片、石鏃、チャートの剥片が出土している。南東壁際の中層からは粘土塊、北コーナーの中層には焼土塊がみられる。



第50图 第19号住居跡実測图

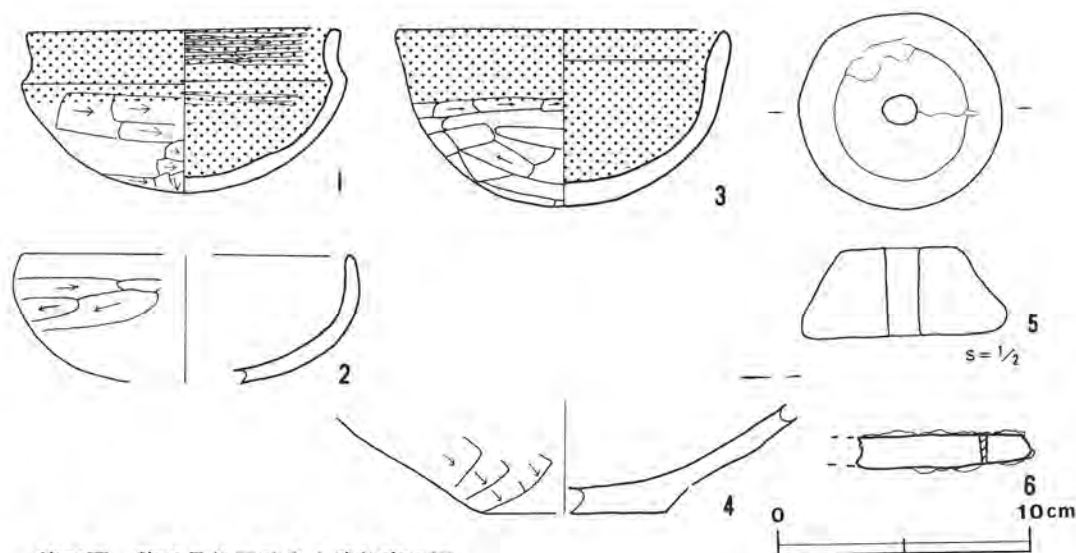
第19号住居跡土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量。
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量。
- 7 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。

- 8 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量。
- 9 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 11 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 12 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量。
- 13 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量。
- 14 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。

遺物 覆土中からは第51図-1~3・6が出土している。床面直上から出土した土師器はほとんど破片である。4の土師器甕片, 5の土製紡錘車は住居跡の中央の南側から出土している。

所見 本跡は, 炉が確認されず, 床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると, 住居跡とすることは困難であるが, この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末のものである。



第51図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号 住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	坏 土師器	A 12.5 B 6.5	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ, 内面へラ磨き。口縁部外面ナデ, 内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P252 70%
2	坏 土師器	A [13.2] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にょい橙褐色 普通	P253 20%
3	坏 土師器	A 13.2 B 7.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P254 90%
4	甕 土師器	B (4.4)	底部及び体部破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ, 内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にょい赤褐色 普通	P255 10%

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)		
第51図5	紡 錘 車	5,2	5,4	2,4	0,9	60,7	SI19	DP18

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)		
第51図6	不明鉄製品	6,9	1,7	0,3	8,6	SI19	M7

第20号住居跡(第52・53図)

位置 K2d4区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸(2.94)mの方形。

長軸方向 N-38°-W。

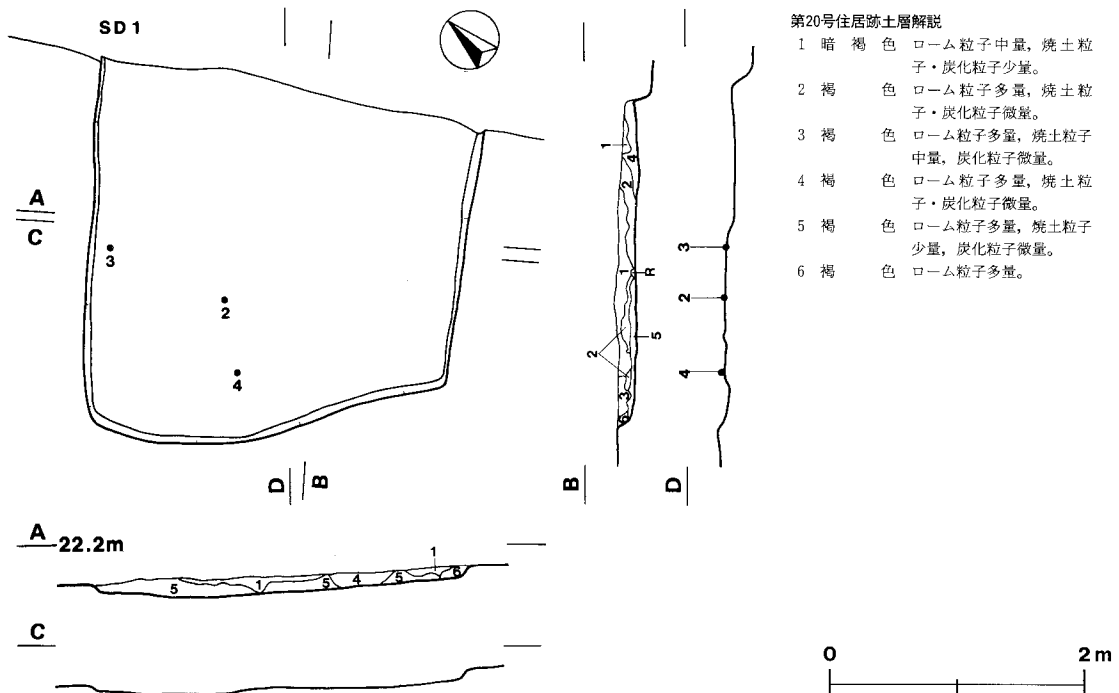
壁 壁高は4~8cmで, 耕作によって上面は攪乱を受けているため, 立ち上がりは明確ではない。北東壁は根切り溝によって削られている。

床 ほぼ平坦であり, 踏み固められた面はみられない。

覆土 攪乱を受けているために, 堆積状況は不明確である。

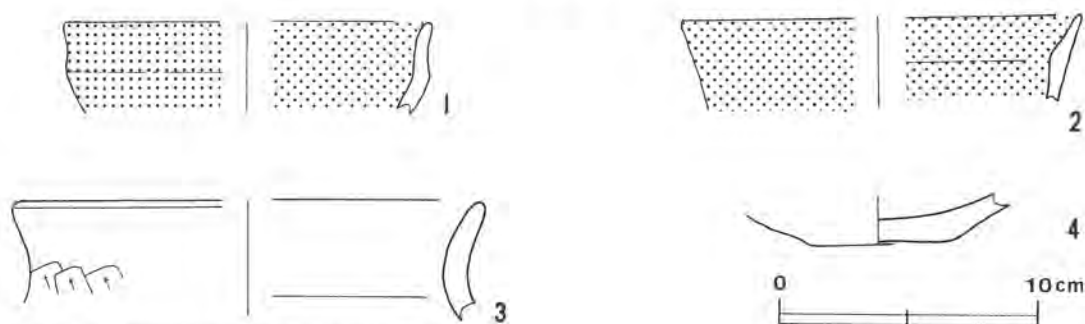
遺物 出土した土師器片, 須恵器片で実測できたものは, 第53図-1~4である。床面直上から土師器片は出土しているが, いずれも細片である。

所見 本跡は, 炉が確認されず, 床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると, 住



第52図 第20号住居跡実測図

居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末のものである。



第53図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第53図 1	坏 土 師 器	A [14.4] B (3.6)	口縁部破片。口縁部はわずかに外反する。体部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P257 5%
2	坏 土 師 器	A [11.4] B (3.5)	口縁部破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面に稜を持つ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P258 5%
3	甕 土 師 器	A [18.6] B (4.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P259 5%
4	甕 土 師 器	B (1.8) C 5.8	底部破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P260 10%

第21号住居跡(第53・55図)

位置 I2j₉区。

規模と平面形 長軸6.14m、短軸5.00mの長方形。

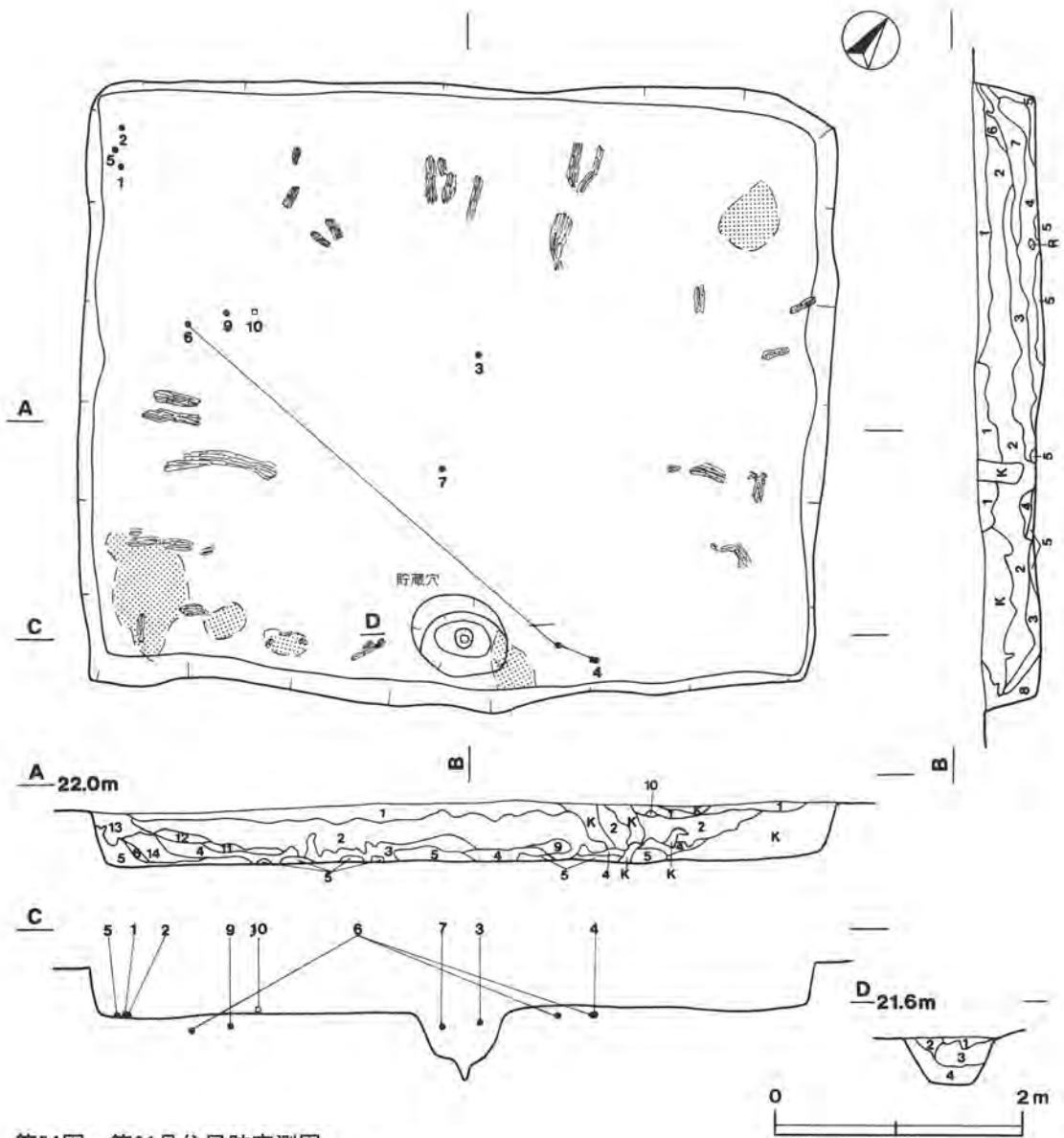
長軸方向 N-33°-W。

壁 壁高は40~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。北西壁は根切り溝によって削られている。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。

貯蔵穴 南東壁の中央付近に付設されている。長径84cm、短径65cm、深さ57cmで、円筒状に掘り込まれている。

覆土 耕作によるトレンチャーの攪乱を受けている。床面直上にはローム粒子を含む層が薄く、1・2層が覆土の大部分をしめている。上層から下層にかけて同時期の土師器片が出土している。覆土中からは鉄滓、縄文式土器片が出土している。南東壁際、南西壁際の下層には焼土塊が



第54図 第21号住居跡実測図

第21号住居跡土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量。
- 2 極暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量。
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化材微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子極微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量。
- 8 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 9 暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子中量。

- 10 褐色 ローム粒子中量。
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極中量, 焼土粒子少量。
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量。
- 13 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量。
- 14 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。

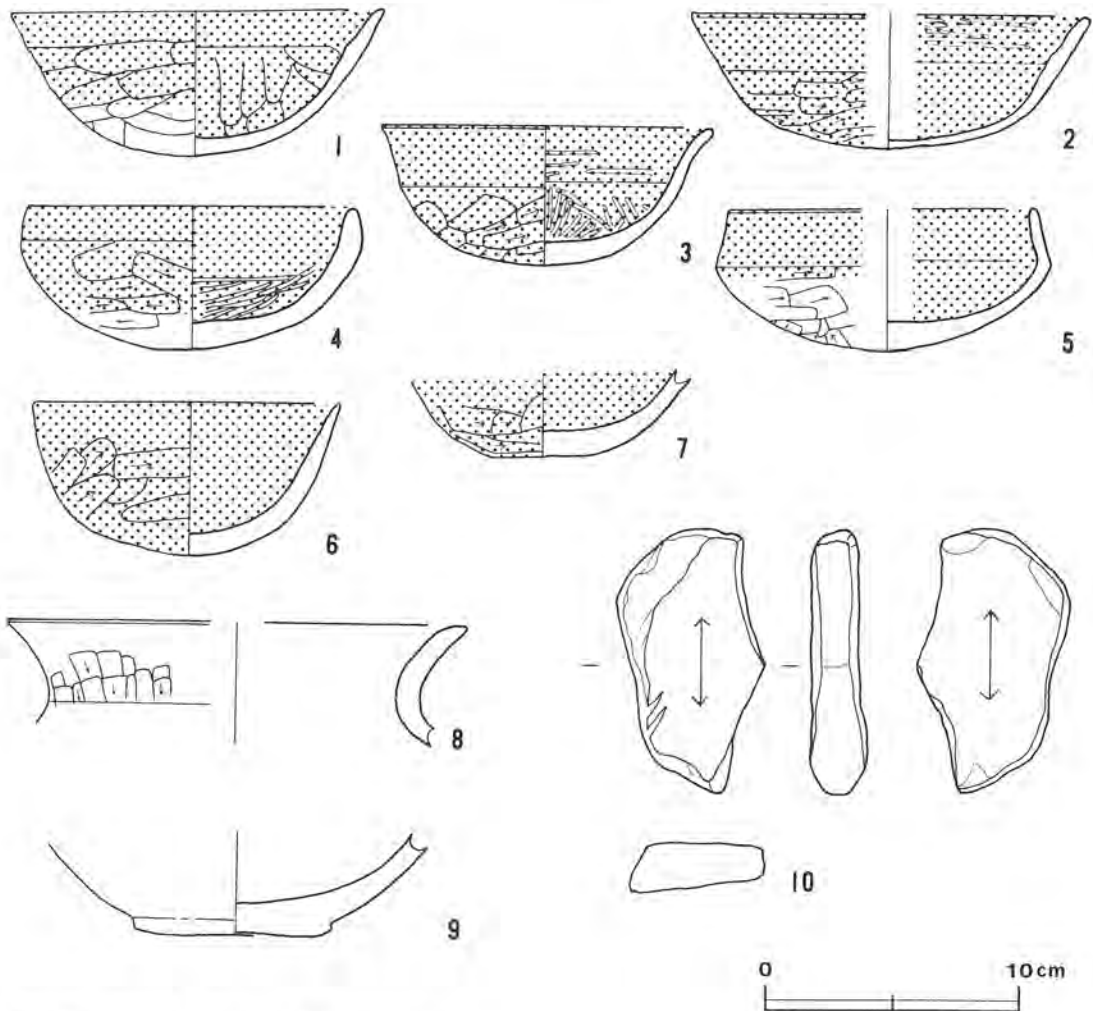
第21号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量。
- 2 暗褐色 炭化材多量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量。
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。

みられる。各壁の周辺の下層からは炭化材が出土している。

遺物 覆土中から出土した遺物のほとんどが破片である。床面直上の遺物は、第55図-1・5の土師器坏が正位の状態で、2の坏が逆位の状態で西コーナーの壁際から出土している。3の坏は正位の状態で住居跡中央から出土している。6の坏、9の甕、10の砥石は中央の南西側から出土している。7の坏は中央の南側から出土している。4の坏は正位の状態で南東壁際の東コーナー寄りから出土している。

所見 本跡は、覆土の堆積状況や床面直上の焼土塊、炭化材などから、焼失後自然に埋没したものと思われる。炉は確認されず、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第55図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第55図 1	坏 土 師 器	A 14.8 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 良好	P261 100% 外面煤付着
2	坏 土 師 器	A [15.8] B 5.3	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾している。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部外面ナデ、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P262 60% 二次焼成
3	坏 土 師 器	A 13.1 B 5.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部外面横ナデ、内面雑なへラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P263 80% 二次焼成
4	坏 土 師 器	A 13.9 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P264 80%
5	坏 土 師 器	A [12.0] B 5.6	体部から口縁部一分欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P265 60%
6	坏 土 師 器	A 12.1 B 6.0	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P266 90% 二次焼成
7	埴 土 師 器	B (3.3) C 4.0	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P267 20%
8	甕 土 師 器	A [18.2] B (4.8)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P268 5%
9	甕 土 師 器	B (4.2) C 7.7	底部破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 灰褐色 普通	P269 10%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第55図10	砥 石	10.4	6.0	1.9		164.0	安 山 岩	SI21	Q47

第22号住居跡(第56～58図)

位置 J3e₄ 区。

規模と平面形 長軸5.24m, 短軸3.98mの長方形。

主軸方向 N-54°-E。

壁 壁高は6～26cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。南東壁・北西壁の半分、南西壁は根切り溝によって壁上面が一部削られている。

床 ほぼ平坦であり、ロームブロックが所々にみられるが、よく踏み固められた面は認められない。耕作のトレンチャーにより攪乱を受けている。

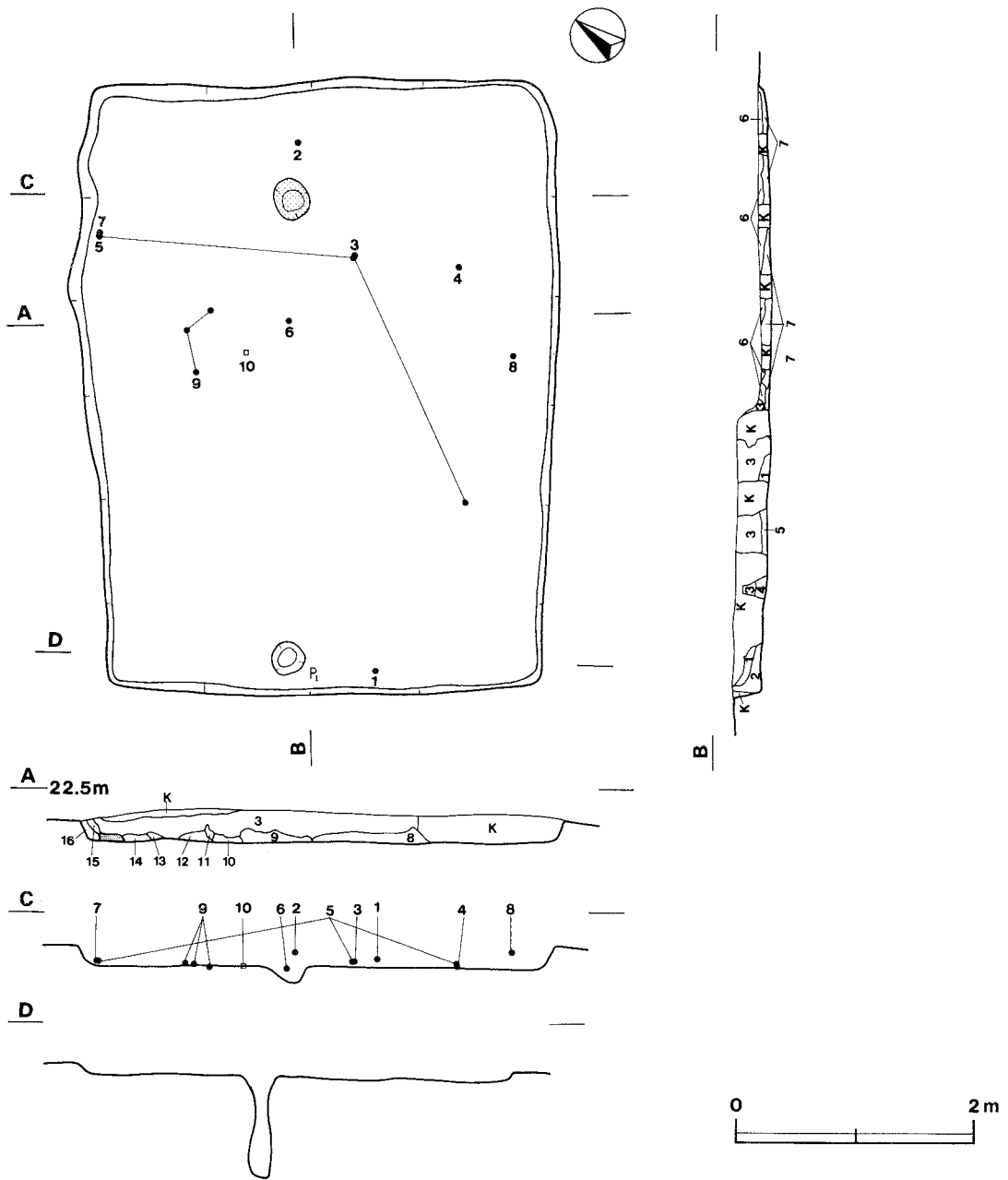
ピット P₁は、径29cm, 深さ90cmで、規模や配置から梯子ピットと思われる。

炉 中央から北東寄りにある。長径37cm, 短径30cmで、床面を14cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は2層からなり、1層赤褐色、2層にぶい赤褐色であり、どの層も焼土粒子、炭化粒子を含む。炉床は火熱を受けいくぶん赤変している程度である。

覆土 耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているため、堆積状況はとらえにくいだが、3層が厚く堆積し覆土の大部分を占める。床面から下層にかけての3層以外の層が薄く堆積する。中層から下層にかけて土師器片が多く出土している。覆土中からは縄文式土器片が出土している。南西壁際の下層には粘土塊がみられる。

遺物 住居跡中央から西コーナーにかけての覆土下層に、第57図-1～3・5・6第58図-7～9が出土している。6の土師器甕、9の甕は破片がまとまった状態で出土している。床面直上の遺物は、4の甕が正位の状態で南東壁の東コーナー寄りから出土している。10の白玉が住居跡中央付近から出土している。

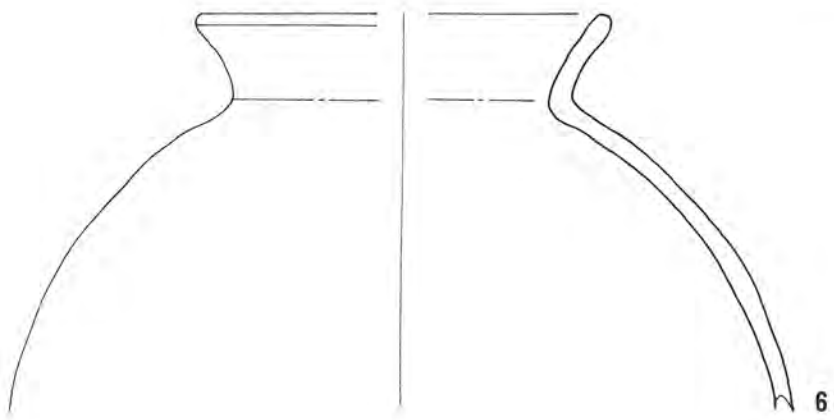
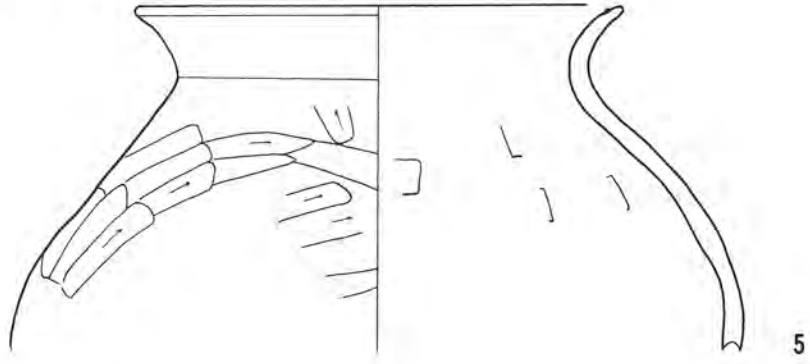
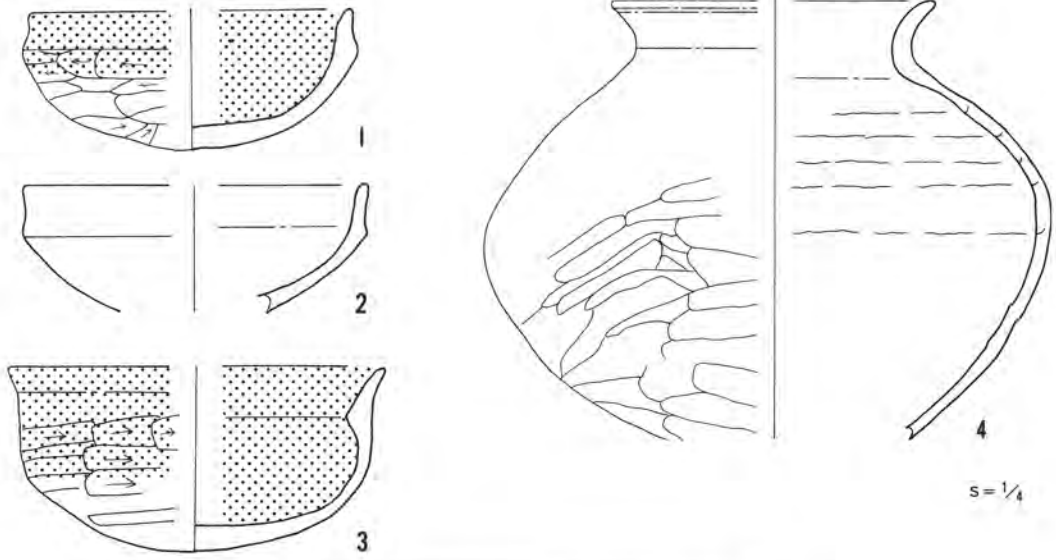
所見 住居跡の西側の下層から土師器片の細片が多く出土していることから、住居廃棄後、一括した遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



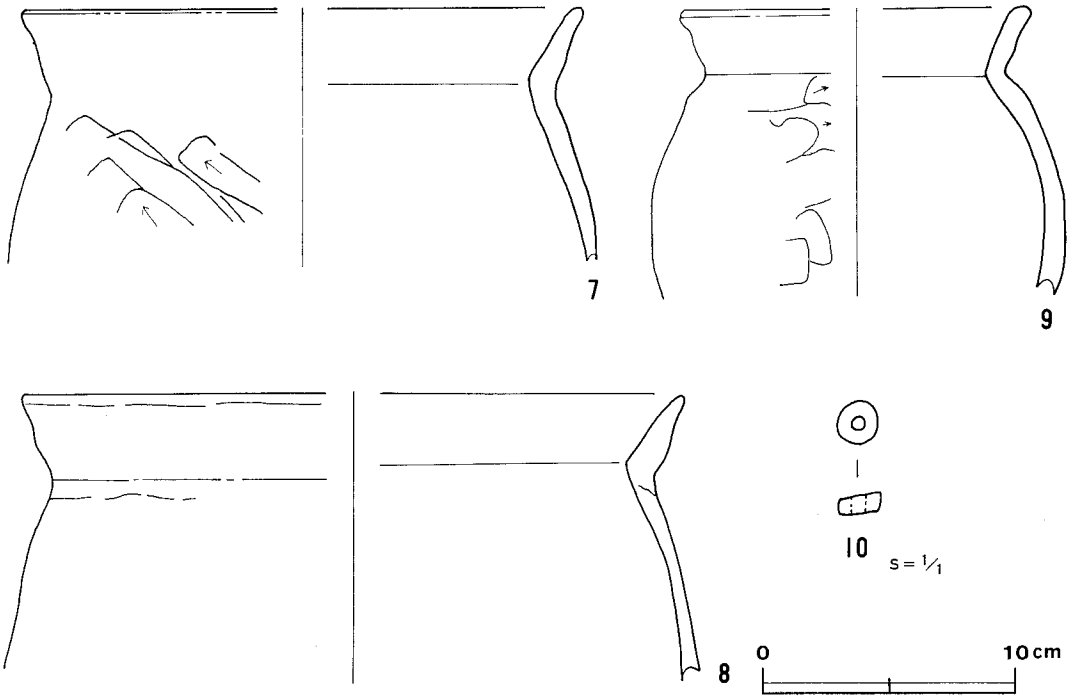
第22号住居跡土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量。 | 10 明褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量。 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量。 |
| 4 赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量。 | 12 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子極微量。 | 13 褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。 | 14 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック極微量。 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 15 褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 16 黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量。 |

第56図 第22号住居跡実測図



第57图 第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第58図 第22号住居跡出土遺物実測図(2)

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	坏 土師器	A [12.8] B 5.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P270 50%
2	坏 土師器	A [13.7] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P271 20%
3	壺 土師器	A [14.9] B 7.3	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 良好	P273 60%
4	甕 土師器	A [17.0] B (23.0)	底部欠損。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P274 70%
5	甕 土師器	A 19.4 B (13.6)	体部中位から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P275 40%
6	甕 土師器	A [16.5] B (15.2)	体部中位から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面へラ削り後丁寧なナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P276 40% 外面煤付着
第58図 7	甕 土師器	A [16.4] B (11.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	体部内・外面へラナデ。口縁部横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P277 10% 外面摩耗

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 8	甕 土師器	A 22.4 B 10.1	体部から口縁部の破片。体部は内巻しながら立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面へラ削り、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にふい褐色普通	P278 10%
9	甕 土師器	A [14.0] B (11.4)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒明赤褐色普通	P279 30%

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第58図10	白 玉	0.6	0.6	0.3	0.2	0.1	滑石	SI22	Q48

第23号住居跡(第59～61図)

位置 J3g₂区。

規模と平面形 長軸5.56m, 短軸5.50mの方形。

主軸方向 N-49°-W。

壁 壁高は40～60cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝はほぼ全周しており、上幅10～17cm, 深さ2～6cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。

ピット 5か所。P₁～P₄は、径30～52cm, 深さ48～82cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は、性格不明である。

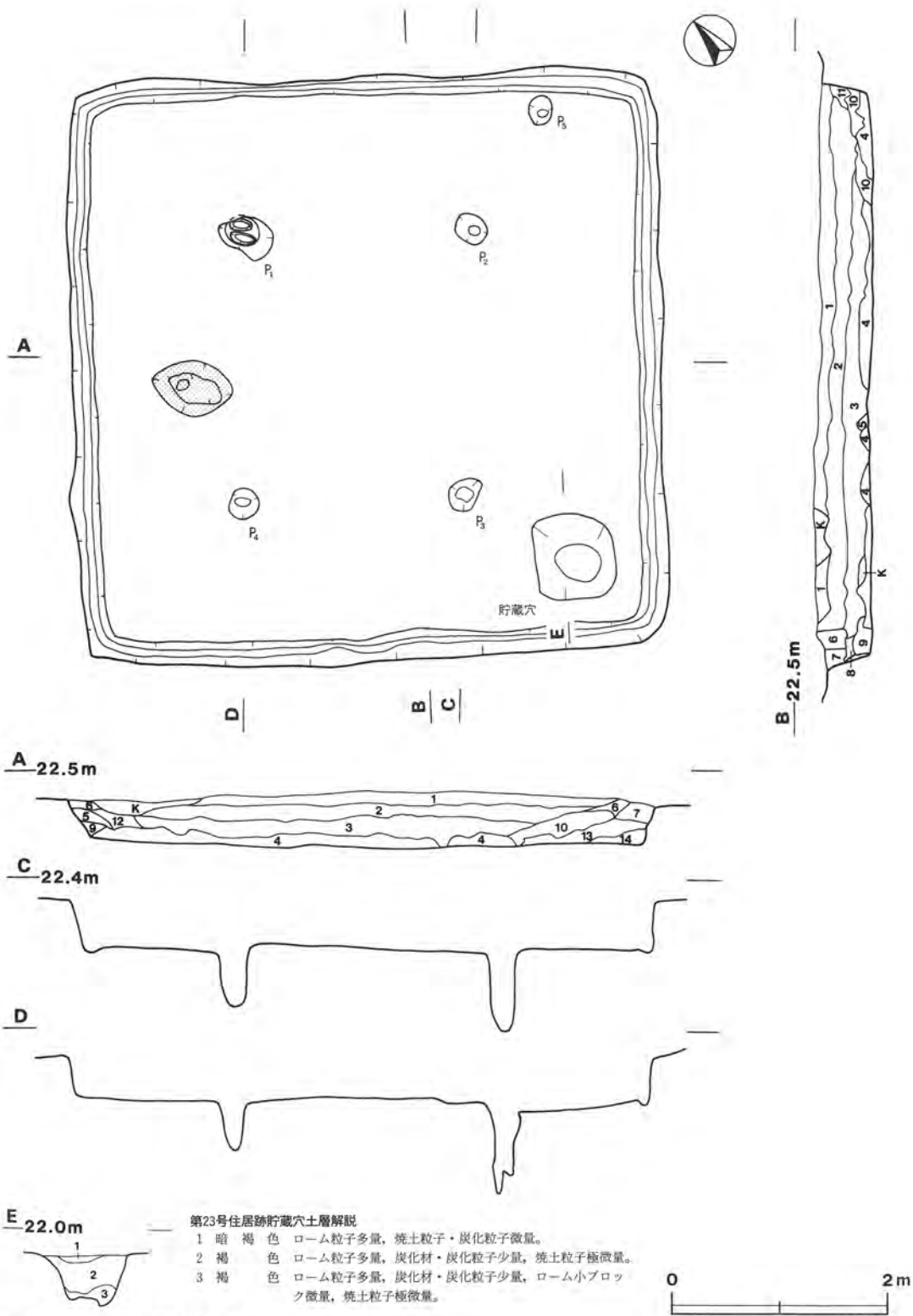
貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径81cm, 短径75cm, 深さ49cmで、断面形はU字状である

炉 中央から北西寄りにみられる。長径75cm, 短径51cmで、床面を7cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は3層からなり、1層暗赤褐色、2層極暗赤褐色、3層褐色であり、各層とも焼土粒子、炭化粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変している。

覆土 壁際と床面上に褐色土が堆積するが、覆土の大部分は黒褐色土層と暗褐色土層で占められる。上層から中層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片がみられる。各壁際とその周辺の下層から床面上にかけて焼土塊と炭化材がみられる。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは、第61図-2・3である。床面直上の遺物は、1の土師器坏、4の甕、5の甕片が南東壁の中央壁際とその周辺から出土している。1は逆位の状態で出土している。4は壁際にたてかけたように正位の状態で出土している。3の塊が逆位の状態で南コーナー付近から出土している。

所見 覆土の堆積状況をみると床面上には焼土塊、炭化材がみられ、床面直上から遺物の出土が少ないことから、住居が廃棄された後に焼失し、その後自然堆積したものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第59図 第23号住居跡実測図



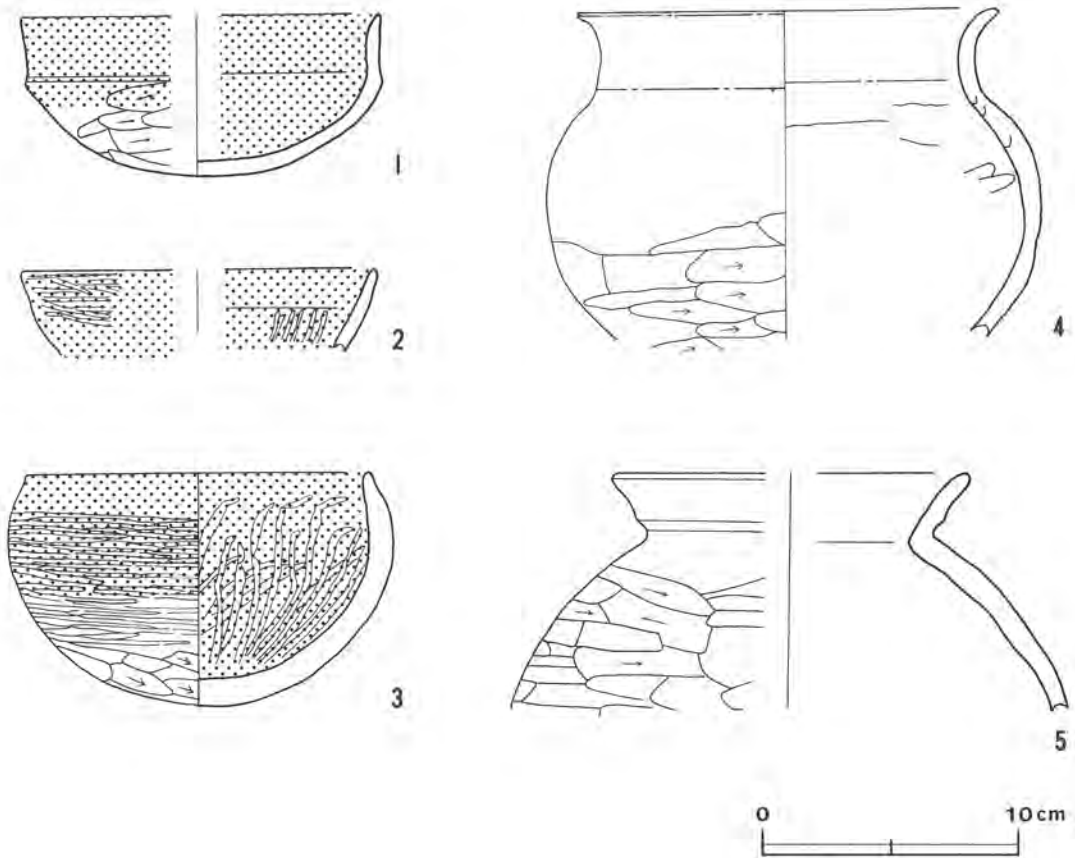
第60図 第23号住居跡遺物出土位置図

第23号住居跡土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。 | 9 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物中量、ローム中・小ブロック少量。 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量。 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量。 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム中ブロック微量。 | 12 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量。 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量。 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中・小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量。 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量。 | 14 黒褐色 | 炭化材多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量。 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量。 | | |
| 8 褐色 | ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量。 | | |

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	坏 土器	A 14.1 B 6.3	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P280 60%
2	坏 土器	A [14.0] B (3.4)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部内・外面雑なへラ磨き。口縁部外面雑なへラ磨き、内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色普通	P281 10%



第61図 第23号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 3	埴 土 師 器	A [13.6] B 9.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面雑なヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P282 100% 内・外面煤付着
4	埴 土 師 器	A 16.6 B (13.0)	体部下位から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P284 70% 外面煤付着
5	埴 土 師 器	A [14.0] B (9.3)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、頸部に弱い稜を持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P285 30% 外面煤付着

第25号住居跡（第62～64図）

位置 I5c0区。

規模と平面形 長軸8.12m，短軸7.94mの方形で，南東部中央に張り出し部付設。張り出し部は，長軸0.62m，短軸0.58mの方形である。

主軸方向 N-45°-W。

壁 壁高は34～54cmで，ほぼ外傾して立ち上がっている。壁溝は，南東壁から北西壁中央の北側にみられ，ほぼ半周しており，上幅10～18cm，深さ5～10cmで，断面形はU字状である。南東壁中央に張り出しがあり，床面から24cm高くなっている。位置や形態から出入口施設と思われる。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は，幅20～33cm，深さ8～20cmで中央に向かって北東壁から3条，南東壁から2条，南西壁から2条みられる。

ピット 5か所。P₁～P₄は，径18～19cm，深さ34～47cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。P₅は性格不明であり，P₆は本跡に伴わない。北東壁寄りに長径142cm，短径66cm，深さ27cmで楕円形の落ち込みがみられる。

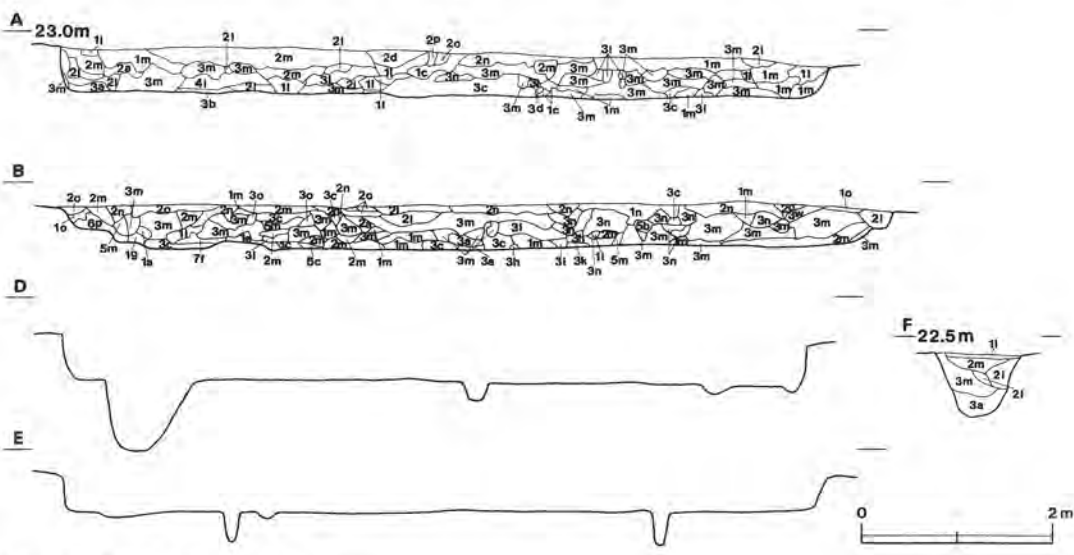
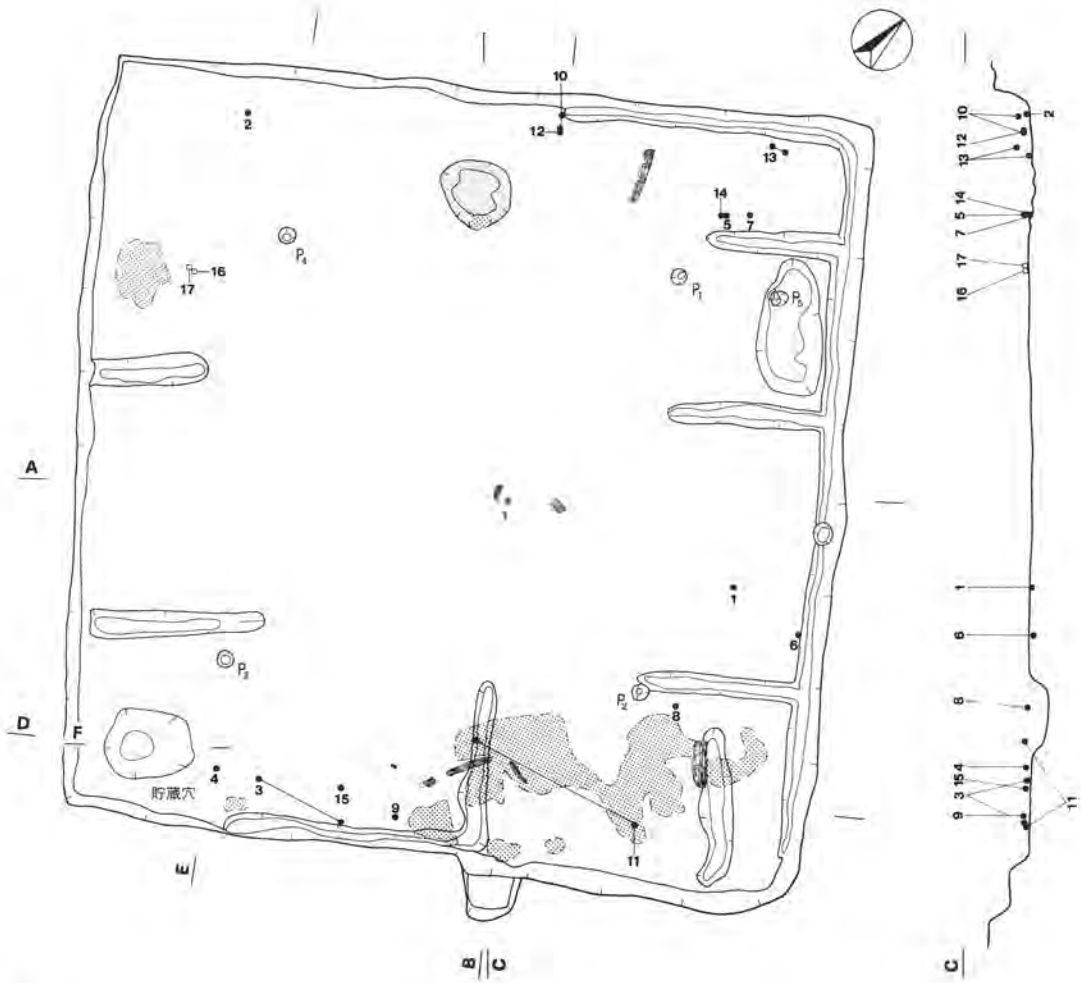
貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径94cm，短径74cm，深さ72cmで，断面形はU字状である。

炉 中央から北西寄りにある。長径81cm，短径73cmで，床面を8cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は3層からなり，1層赤褐色，2層赤褐色，3層褐色であり，1・2層には焼土ブロック，焼土粒を多量に含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 上層から下層にかけて，暗褐色土層，黒褐色土層，褐色土層がブロック状に入り乱れて堆積している。褐色土層は，ローム粒子，ローム小ブロック等を含む。上層から中層にかけて同時期の土師器片が少量混入し，下層から床面にかけて多量の土師器片，砥石や炭化種子が出土している。張り出し部付近から北東壁の下層には焼土塊と炭化材がみられる。

遺物 覆土中の遺物は第63図-18・第64図-10・12で，いずれも覆土下層から出土したものである。床面直上の遺物は，5の土師器坏，7の須恵器高坏，13・14の土師器甕が北コーナー付近から出土している。7は1m程離れていたものが接合している。1の坏，6の土師器塊，8の壺が北東壁の東コーナー寄りから出土している。1は正位の状態，8は斜位の状態で出土している。3・4の坏，9・11・15の甕は張り出し部から南東壁に沿って出土している。2の土師器坏は西コーナー付近から出土している。16・17の白玉が床面から5cmの高さで南西壁の西コーナー寄りから出土している。

所見 覆土の堆積状況を見ると床面上に焼土塊，炭化材がみられ，ローム粒子，ローム小ブロックを含む褐色土等がブロック状に堆積することなどから，焼失後，埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

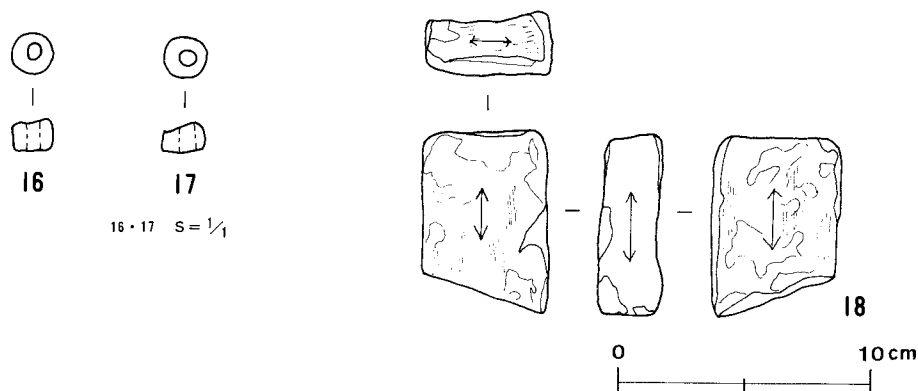


第62図 第25号住居跡実測図

第25号住居跡・貯蔵穴土層表

色 調	含 有 物	
1 暗褐色	a	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子
2 黒褐色	b	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子
3 褐色	c	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子
4 黒色	d	ローム粒子・焼土粒子・炭化物
5 明褐色	e	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化材
6 黄褐色	f	焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子
7 明赤褐色	g	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子
	h	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子
	i	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子
	j	ロームブロック・ローム粒子・炭化物
	k	ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子
	l	ローム粒子・炭化粒子
	m	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子
	n	ロームブロック・ローム粒子
	o	ローム粒子
	p	なし

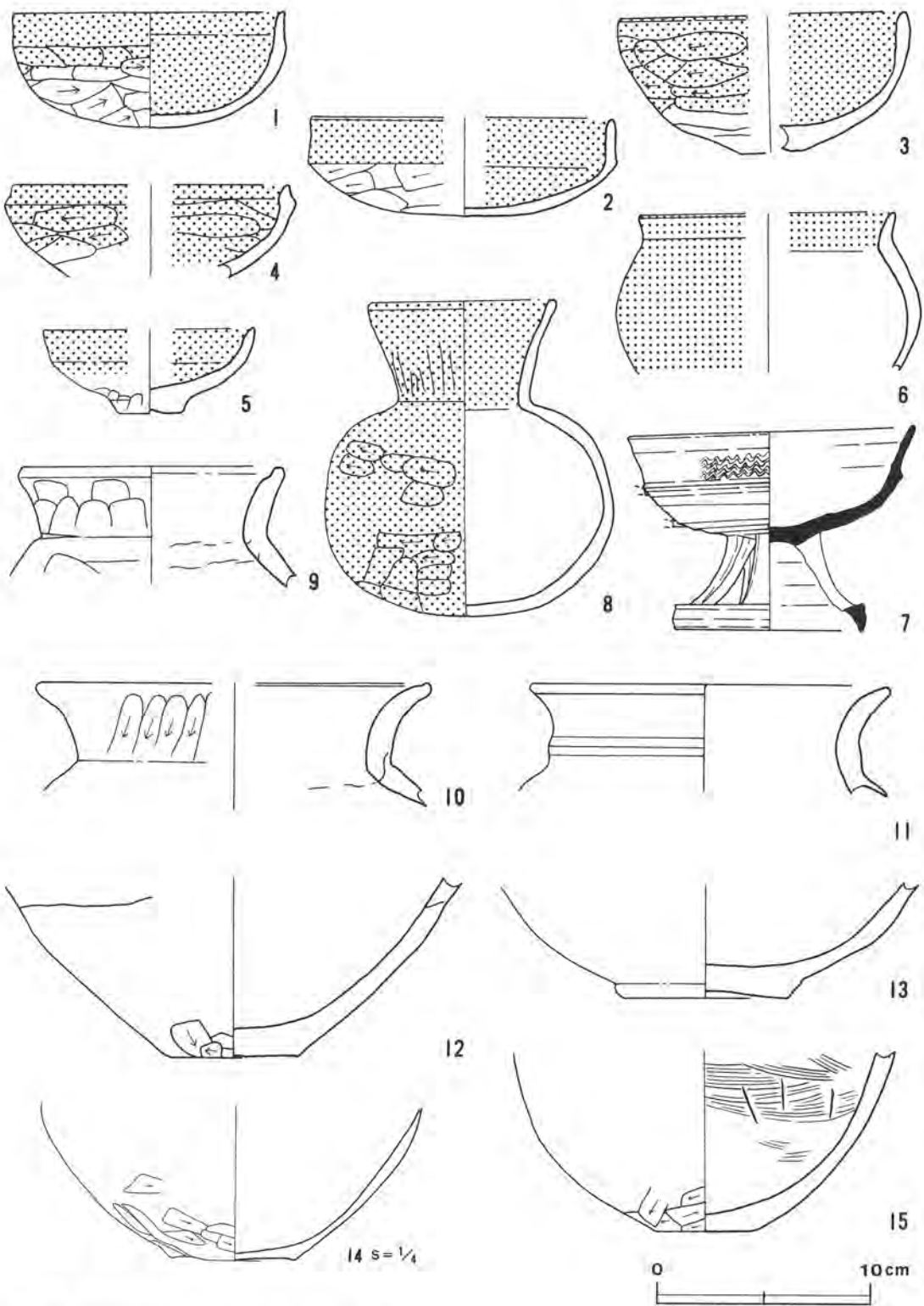
※ 土層図中において同記号を使用したものについては、含有物の分量や特性（粘性、しまり）の相違によって分層している。



第63図 第25号住居跡出土遺物実測図 (2)

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第64図 1	坏 土 師 器	A 12.9 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P290 100%
2	坏 土 師 器	A [14.3] B 4.7	底部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P292 50%
3	坏 土 師 器	A [13.5] B 6.5 C [2.4]	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P291 60%
4	坏 土 師 器	A [13.0] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P293 30%



第64图 第25号住居迹出土遗物实测图 (1)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第64図 5	坏 土 師 器	A [9.8] B 4.0 C [3.2]	底部から口縁部の破片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P294 20%
6	埴 土 師 器	A [12.0] B (7.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P297 30% 外面摩耗 外面煤付着
7	無蓋高 須恵器	A 13.5 B 9.3 D 9.1 E 4.7	坏部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に緩やかに外反し、三角形の三方透かしを持つ。端部に凸線を持つ。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に凸線を持つ。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。坏部に把手の痕跡有り。	巻き上げ、水挽き成形。坏体部外面左回転へラ削り、口縁部に7本1条の櫛描波状文を持つ。坏部内面自然釉。	長石・砂粒 紫灰色 良好	P298 70%
8	壺 土 師 器	A 8.8 B 14.8	丸底。体部は球形状を呈し、口縁部は外傾して開く。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P299 100%
9	甕 土 師 器	A 12.4 B (5.6)	体部上位から口縁部の破片。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P306 10% 頸部砥石痕
10	甕 土 師 器	A [18.4] B (5.8)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P301 10%
11	甕 土 師 器	A 17.0 B (5.0)	口縁部破片。頸部と口縁部との境に弱い稜線を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P300 5%
12	甕 土 師 器	B (8.4) C 5.9	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 灰褐色 普通	P305 10%
13	甕 土 師 器	B (5.5) C 8.0	底部から体部下位の破片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P303 10%
14	甕 土 師 器	B (10.9) C 8.5	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P302 20%
15	甕 土 師 器	B (8.4) C 4.9	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 明赤褐色 普通	P304 20%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第63図16	白 玉	0.6	0.6	0.4	0.2	0.2	滑 石	SI25	Q50
17	白 玉	0.6	0.6	0.4	0.2	0.1	滑 石	SI25	Q51
18	砥 石	7.3	5.1	7.3		148.0	砂 岩	SI25	Q52

第26号住居跡（第65・66図）

位置 J5a7区。

規模と平面形 長軸8.20m，短軸7.90mの方形。

主軸方向 N-52°-W。

壁 壁高は13～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は全周しており，上幅7～19cm，深さ2～10cmで，断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は，幅17～38cm，深さ8～14cmで，中央に向かって北東壁から5条，南東壁から1条，南西壁から2条，北西壁から4条みられる。南東壁中央寄りに幅約38cm，高さ約6cmの方形の帯状の高まりがみられ，位置や形態から出入口施設と思われる。

ピット 5か所。P₁～P₄は，径31～48cm，深さ49～60cmで，規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は，径25cm，深さ8cmで，規模や配置から梯子ピットと思われる。

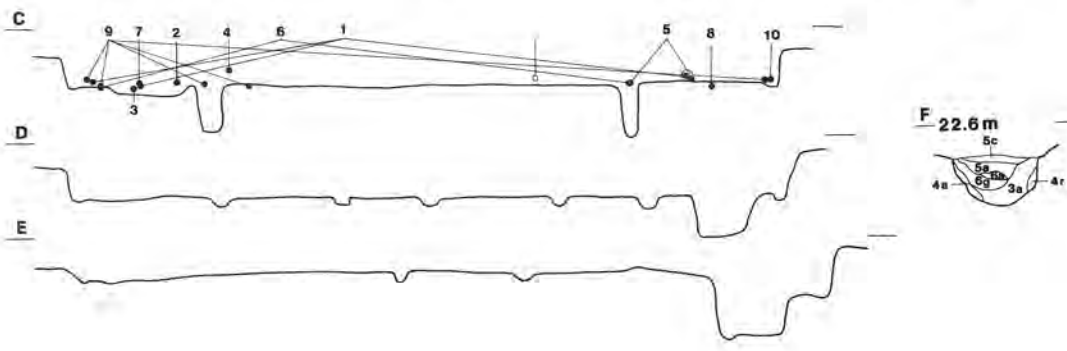
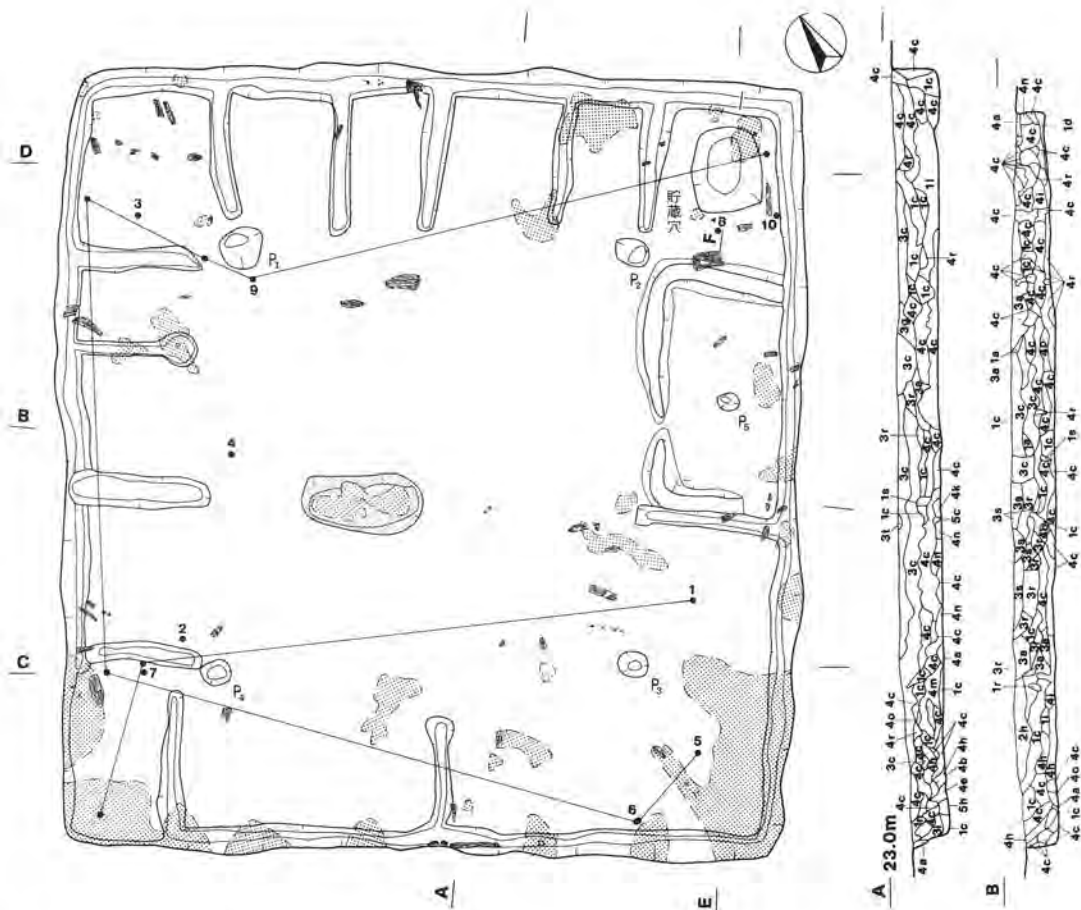
貯蔵穴 東コーナー付近に付設されている。長径91cm，短径72cm，深さ46cmで，断面形はU字状である。

炉 ほぼ中央にある。長径127cm，短径64cmで，床面を15cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は6層からなり，1層黄褐色，2層褐色，3層赤褐色，4層赤褐色，5層明赤褐色，6層褐色であり，焼土ブロック，焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 壁際から下層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含む褐色土がブロック状に堆積している。住居跡中央部の中層から上層には黒褐色土が堆積している。上層から下層にかけて同時期の土師器片及び炭化種子，縄文式土器片，磨製石斧，磨石が出土している。床面直上から出土した土師器片は，覆土中から出土した土師器片よりも多い。南東壁際から南西壁際の下層と北コーナーの下層に焼土塊，炭化材がみられる。

遺物 実測できたものは，覆土中から出土した第66図-2・4床面直上から出土した1・3・5～10の土師器である。3の土師器壺，9の甕は北コーナー付近から出土している。9は西コーナー付近，東コーナー付近のものと接合する。8の甕，10の甕は貯蔵穴の周辺から出土している。5・6の土師器高坏は南コーナー付近から出土しており，西コーナー付近で出土したものと接合している。1の坏，7の高坏は西コーナー付近から出土している。また，炭化種子は西コーナーの覆土下層と南コーナー付近の床面直上から出土している。

所見 北東壁の間仕切り溝5条は，溝内の覆土に焼土を含むものと含まないものがあり，設置された時期が異なるようである。覆土の堆積状態をみると床面上には炭化材，焼土塊などがみられ，1次堆積土層中にローム小ブロック，ローム粒子が含まれることから，当住居跡は，焼失後埋め戻され，その後自然に埋没したものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第65图 第26号住居跡実測图



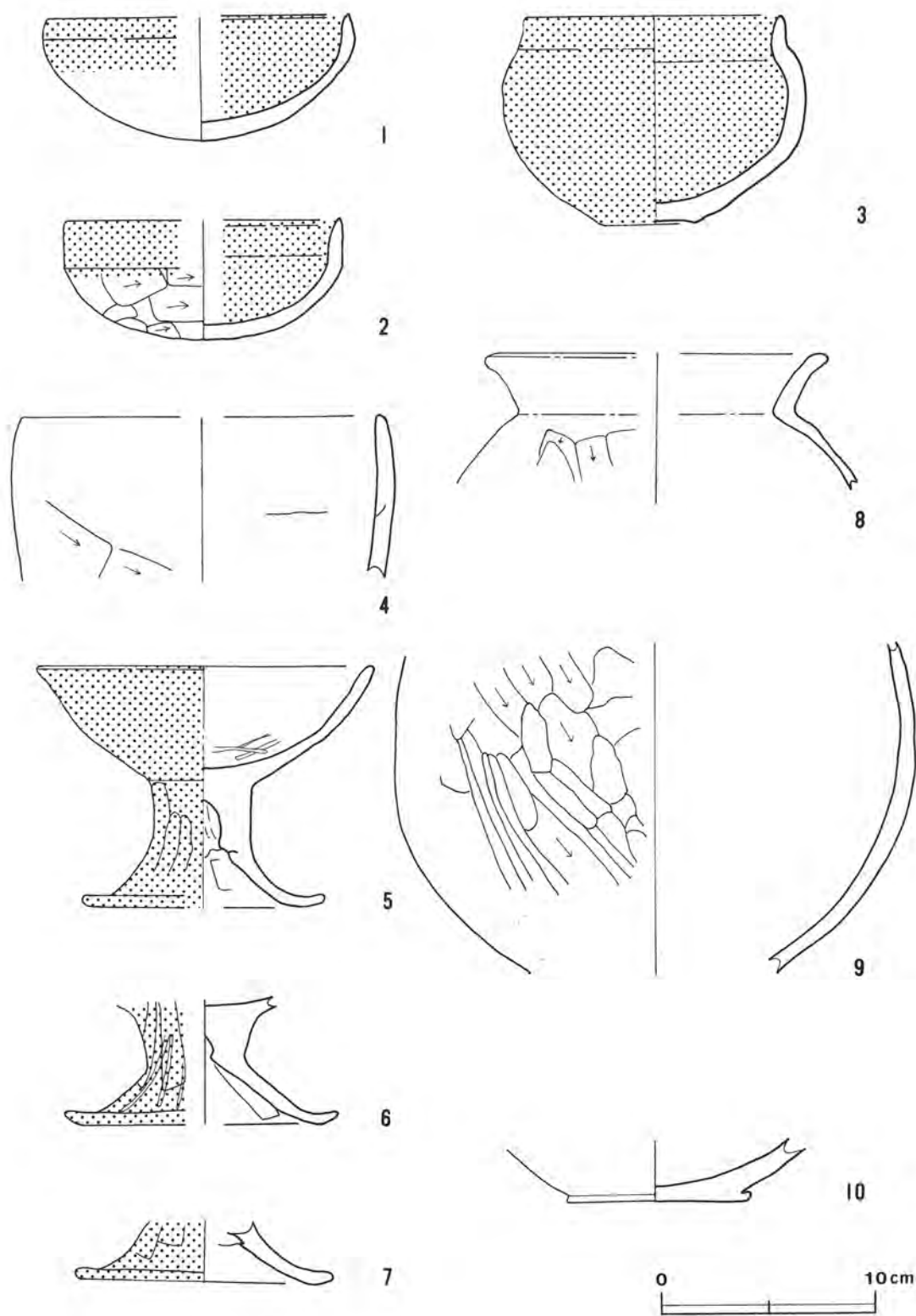
第26号住居跡・貯蔵穴土層表

色 調	含	有	物	
1 暗褐色	a	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	k	ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子
2 極暗褐色	b	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子	l	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子
3 暗褐色	c	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	m	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子
4 褐色	d	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物	n	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子
5 明褐色	e	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック	o	ローム粒子・炭化物・炭化粒子
6 暗赤褐色	f	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子	p	ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子
	g	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子	q	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子
	h	ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子	r	ローム粒子・炭化粒子
	i	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	s	ローム粒子
	j	ローム粒子・焼土ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子	t	なし

※ 土層図中において同記号を使用したものについては、含有物の分量や特性（粘性，しまり）の相違によって分層している。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第66図 1	坏 土 師 器	A [14.0] B 5.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 良好	P307 40%
2	坏 土 師 器	A [12.8] B 5.6	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P308 30%
3	埴 土 師 器	A 11.8 B 9.7 C 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P310 95% 外面煤付着
4	鉢 土 師 器	A [16.8] B (7.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	体部外面へラ削り後へラナデ，内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P311 5%
5	高 土 師 器	A 15.7 B 11.2 C [11.2]	脚部一部欠損。脚部は中位まで柱状を呈し，下位で大きく開き端部は反る。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	脚部下位内・外面ナデ，中位以上へラ削り。坏部外面へラ削り後丁寧なナデ，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P312 80%
6	高 土 師 器	B (6.1) D 12.7 E 3.2	脚部破片。脚部はラッパ状に開き，端部は反る。	脚部外面へラ削り後雑なへラ磨き，内面へラナデ。外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P313 20%
7	高 土 師 器	B (2.8) D 12.0	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラ削り後ナデ，内面へラナデ。外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P314 10%
8	甕 土 師 器	A [16.0] B (6.4)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面へラ削り後へラナデ，内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい褐色 普通	P316 5%
9	甕 土 師 器	B (15.6)	体部破片。体部は球形状を呈する。	体部外面へラ削り後へラナデ，内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P315 30%



第66图 第26号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第66図 10	土師器	B (2.9) C 8.2	底部破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P317 PL 5%

第27号住居跡（第67～69図）

位置 J5b0区。

規模と平面形 長軸8.12m，短軸7.76mの方形。

主軸方向 N-42°-W。

壁 壁高は40～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がり，壁溝はほぼ全周しており，上幅10～23cm，深さ1～6cmで，断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は，幅20～38cm，深さ6～12cmで，中央に向かって北東壁から3条，南東壁から1条，南西壁から2条，北西壁から3条みられる。南東壁中央寄りには，幅約38cm，高さ約12cmの方形の帯状の高まりがみられ，位置や形態から出入口施設と考えられる。

ピット 6か所。P₁～P₄は，径41～50cm，深さ56～67cmで，規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は，径44cm，深さ18cmで，規模や位置から梯子ピットと思われる。P₆は，位置からみて補助柱穴と思われる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は，東コーナー付近に付設されており，長径92cm，短径64cm，深さ45cmで，断面形はU字状である。貯蔵穴2は，南東壁中央付近に付設されており，長径75cm，短径63cm，深さ41cmで，断面形はU字状である。

炉 ほぼ中央にある。長径124cm，短径48cmで，床面を7cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は8層からなり，1層褐色，2層にぶい赤褐色，3層褐色，4層褐色，5層褐色，6層赤褐色，7層褐色，8層褐色であり，焼土ブロック，焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 壁際から下層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含む褐色土がブロック状に堆積している。住居跡中央部の上層から中層にかけて黒褐色土と暗褐色土が堆積しており，上層から下層にかけて同時期の土師器の細片が多く出土している。特に床面直上から下層にかけて多く出土している。

遺物 覆土中から出土した遺物は，第68図-2・3・7・9・12・13・16～18・第69図-21～27・29である。床面直上の遺物は，11の土師器坏が北西壁の北コーナー寄りから出土している。4・6・8・14・15の坏，19の高坏は西コーナー付近から出土している。6・8は西コーナー付近で

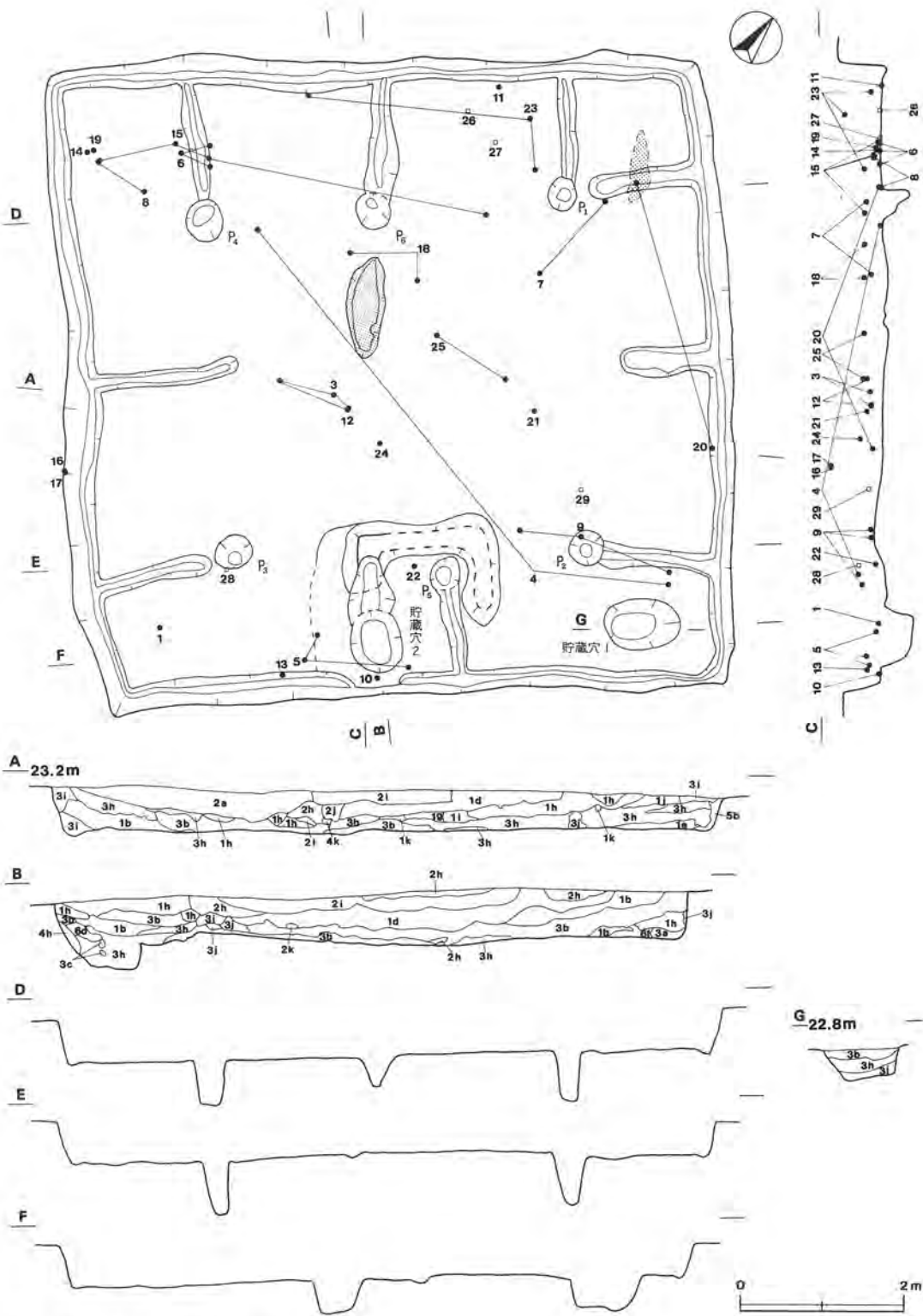
出土したものが接合している。15は西コーナー付近と住居跡中央の北側で出土したものが接合している。1の坏は南コーナー付近から出土している。5・10の坏は南東壁の中央付近から出土している。5は同壁周辺で出土したものが接合している。20の高坏は北東壁の中央付近から出土しており、北コーナー付近で出土したものと接合している。26・27の白玉が北西壁，28の白玉がP₃付近，29の白玉がP₂付近から出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると、壁際から下層にかけてローム小ブロック、ローム粒子を含むブロック状の層が堆積していることや、出土遺物は破片が多く、離れた地点で接合している割合が高いことなどから、当住居跡は、廃棄後人為的に埋め戻す過程で遺物が投棄され、その後自然に埋没したものである。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

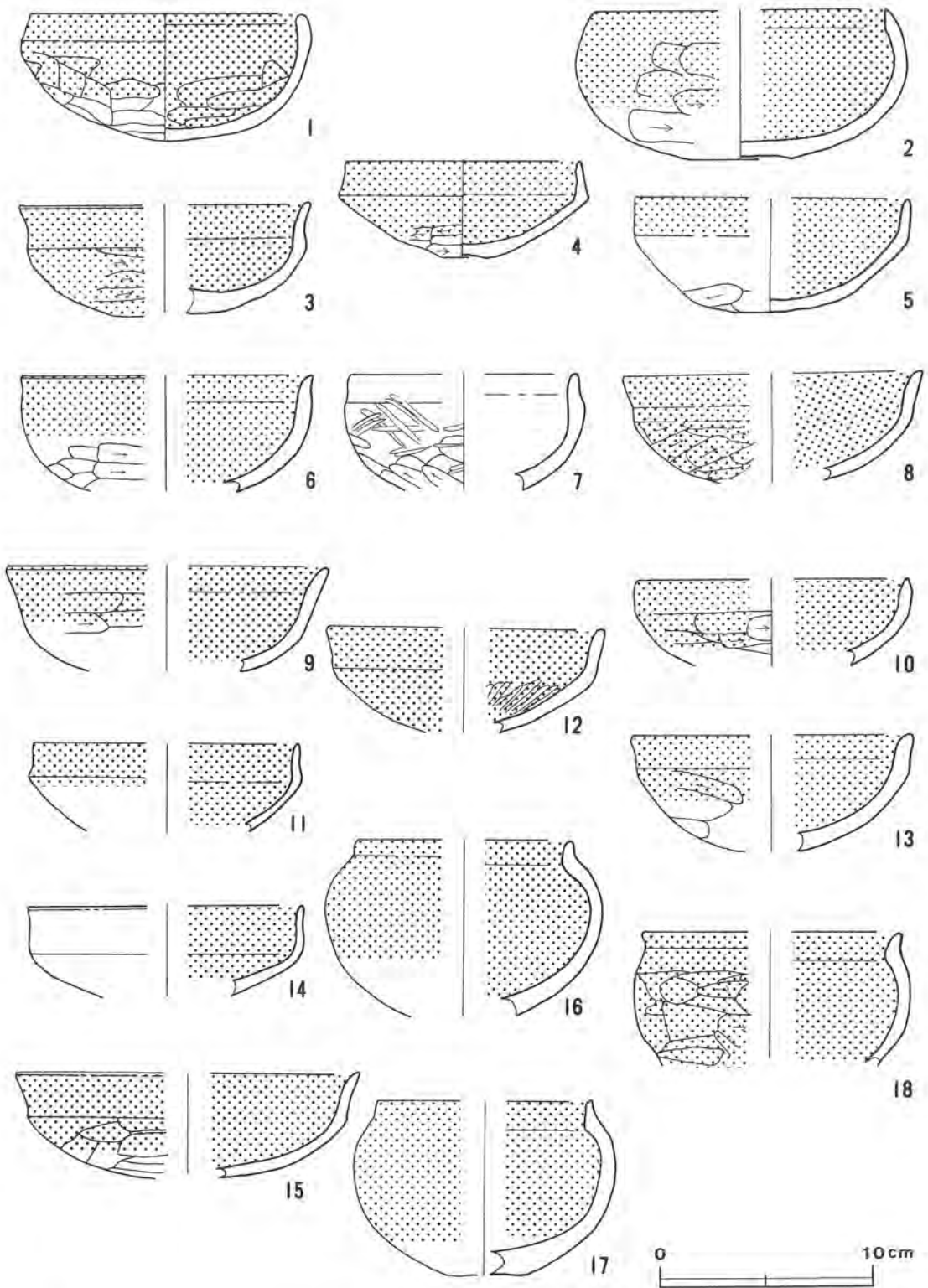
第27号住居跡・貯蔵穴土層表

色 調	含 有 物
1 暗褐色	a ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子
2 黒褐色	b ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子
3 褐色	c ローム粒子・焼土粒子・炭化物
4 明褐色	d ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子
5 黄褐色	e ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子
6 赤褐色	f ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子
	g ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子
	h ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子
	i ローム粒子・炭化粒子
	j ロームブロック・ローム粒子
	k ローム粒子

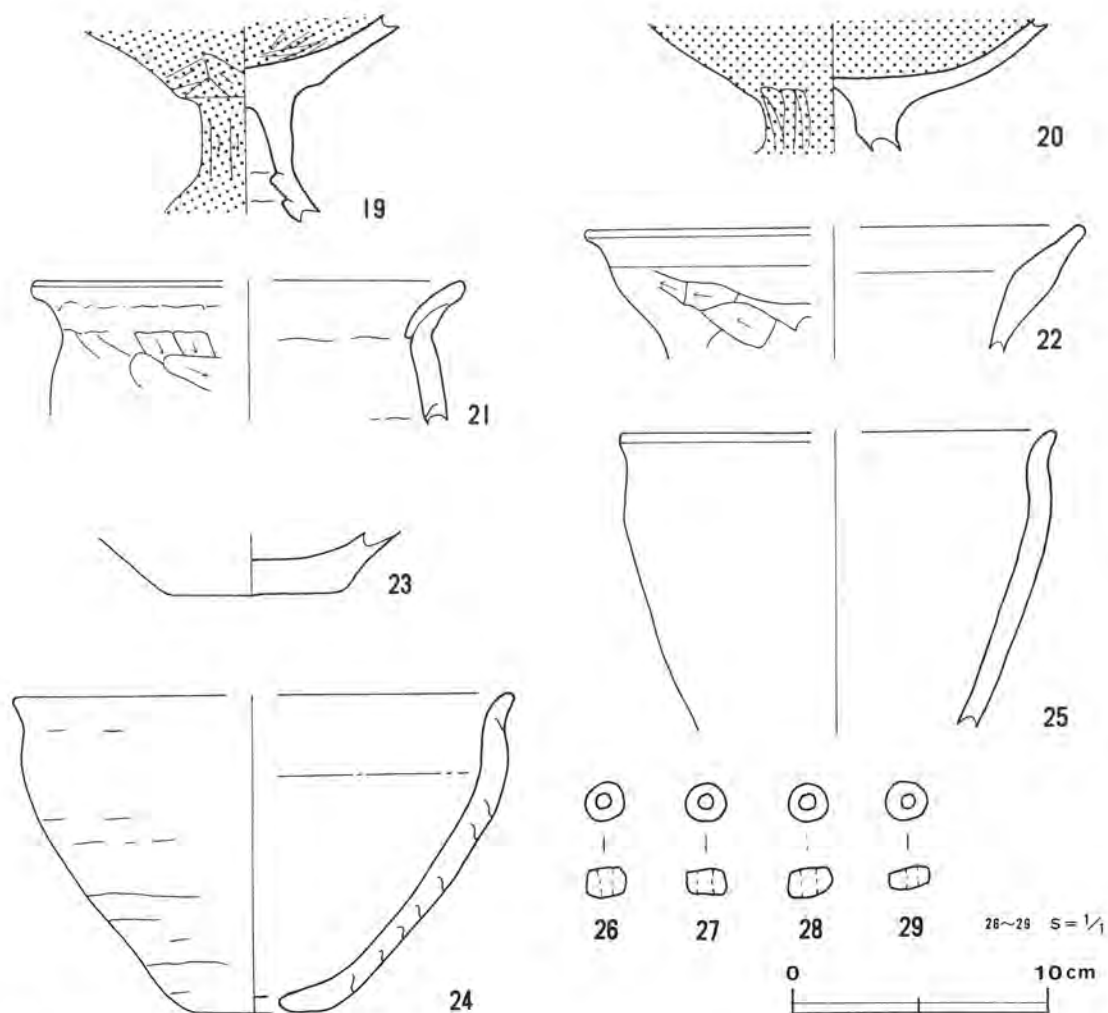
※ 土層図中において同記号を使用したものについては、含有物の分量や特性（粘性、しまり）の相違によって分層している。



第67图 第27号住居跡実測图



第68图 第27号住居跡出土遺物実測图 (1)



第69図 第27号住居跡出土遺物実測図 (2)

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	坏 土 師 器	A 12.8 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P318 100%
2	坏 土 師 器	A [13.7] B 7.1 C 4.5	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P319 60%
3	坏 土 師 器	A [13.6] B 5.1	体部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P320 20%
4	坏 土 師 器	A 11.0 B 4.5 C 2.1	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P322 60% 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 5	坏 土師器	A [12.9] B (5.4)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部及び体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P321 40%
6	坏 土師器	A [13.6] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P323 20%
7	坏 土師器	A 10.4 B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面へら削り後雑なへら磨き、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P325 30%
8	坏 土師器	A [13.9] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P324 20% 内面摩耗
9	坏 土師器	A [16.4] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P326 15%
10	坏 土師器	A [12.7] B (4.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P327 10%
11	坏 土師器	A [12.5] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P328 10%
12	坏 土師器	A [13.0] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へら削り後丁寧なナデ、内面へら磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P329 10%
13	坏 土師器	A [13.0] B (5.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P330 10%
14	坏 土師器	A [13.0] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P331 10% 二次焼成
15	坏 土師器	A [16.2] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P332 15% 二次焼成
16	埴 土師器	A [10.0] B (8.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P335 40% 外面摩耗
17	埴 土師器	A [10.0] B 8.3 C [3.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部及び体部外面へら削り後丁寧なナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P336 30% 一部摩耗
18	埴 土師器	A [12.1] B (6.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P337 15%
第69図 19	高 土師器	B (7.8)	脚部から環部下位の破片。脚部は中位まで柱状を呈し、下位で開く。環部は、脚部との境に弱い稜を持ち、外傾して開く。	脚部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。環部外面へら削り後ナデ、内面へら磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P338 40%
20	高 土師器	B (5.2)	脚部から環部下位の破片。脚部は短い柱状を呈する。環部は内彎して立ち上がる。	脚部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。環部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P339 30%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第69図 21	甕 土 師 器	A [17.2] B (5.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい黄褐色普通	P340 10%
22	鉢 土 師 器	A [16.5] B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P342 5%
23	甕 土 師 器	B (2.4) C 7.0	底部破片。平底。	底部へラ削り後へラナデ。	長石・石英・砂粒にぶい黄褐色普通	P344 5%
24	甕 土 師 器	A [19.6] B 12.5 C 5.7	底部から口縁部の破片。単孔式。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	底部木葉痕。体部外面へラ削り後へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P346 40%
25	甕 土 師 器	A [17.4] B (12.0)	体部から口縁部の破片。単孔式。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒褐色普通	P347 10%

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第69図26	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI27	Q56
27	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI27	Q58
28	白 玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI27	Q57
29	白 玉	0.6	0.5		0.2	0.1	滑 石	SI27	Q55

第28号住居跡（第70～73図）

位置 J6b₄区。

重複関係 本跡の南西壁部が、第29号住居跡の北東部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸6.12m、短軸5.04mの長方形。

主軸方向 N-37°-E。

壁 壁高は34～56cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝はほぼ全周しており、上幅10～18cm、深さ3～7cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は、幅18～34cm、深さ6～8cmで、中央に向かって南東壁から1条、南西壁から1条、北西壁から1条みられる。南西壁の間仕切りは、馬の背状の高まりと直行するように溝が掘り込まれている。馬の背状の高まりは、幅約37cm、高さ約6cmであり、位置や形態から出入口施設と思われる。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。長径49cm、短径45cm、深さ30cmの円形で、断面形はU字状である。

炉 中央から北東にある。長径66cm、短径54cmで、床面を9cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床

炉である。炉内覆土は4層からなり、1～3層明赤褐色、4層褐色であり、焼土粒子、炭化粒子を含み、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 壁際から下層にかけてローム小ブロック、ローム粒子を含む褐色土が堆積する。住居跡中央部の中層から上層にかけて暗褐色土が堆積している。上層から下層にかけて、同時期の土師器片が出土している。特に、北東壁の床面上から下層にかけて一括して多量の遺物が出土している。このほかに、覆土中から縄文式土器片が出土している。住居跡中央から南西壁の下層にかけて炭化材がみられる。

遺物 覆土中から出土した遺物は、第72図-11・第73図-19である。床面直上の遺物は、10・12・14・15の土師器坏、16・17の埴、18・20・21～24の甕が北東壁の北コーナー寄りから出土している。このうち15・16は斜位の状態、12・14は重なって正位の状態、21は正位の状態、22・23は逆位の状態で出土している。22は覆土上層から出土したもの、12・23は南コーナーの下層から出土したものが接合している。4・6～9の坏は東コーナー付近から出土している。6は逆位の状態、7は斜位の状態、9は正位の状態である。南コーナーでは5・13の坏、南西壁の中央寄りで3の坏、住居跡中央付近で1の坏が出土し、1は南西壁の中層から出土したものと接合している。西コーナー付近では2の坏が出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると床面直上から炭化材などがみられ、覆土下層の1次堆積土層中にローム小ブロック、ローム粒子が含まれることや、床面直上の遺物と上層の遺物の接合関係などから、当住居跡は、焼失後人為的に埋め戻される過程で北東壁に一括した遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第29号住居跡（第70・74図）

位置 J6b₃区。

重複関係 本跡の北東側が第28号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸（2.83）m、短軸2.50mの方形。

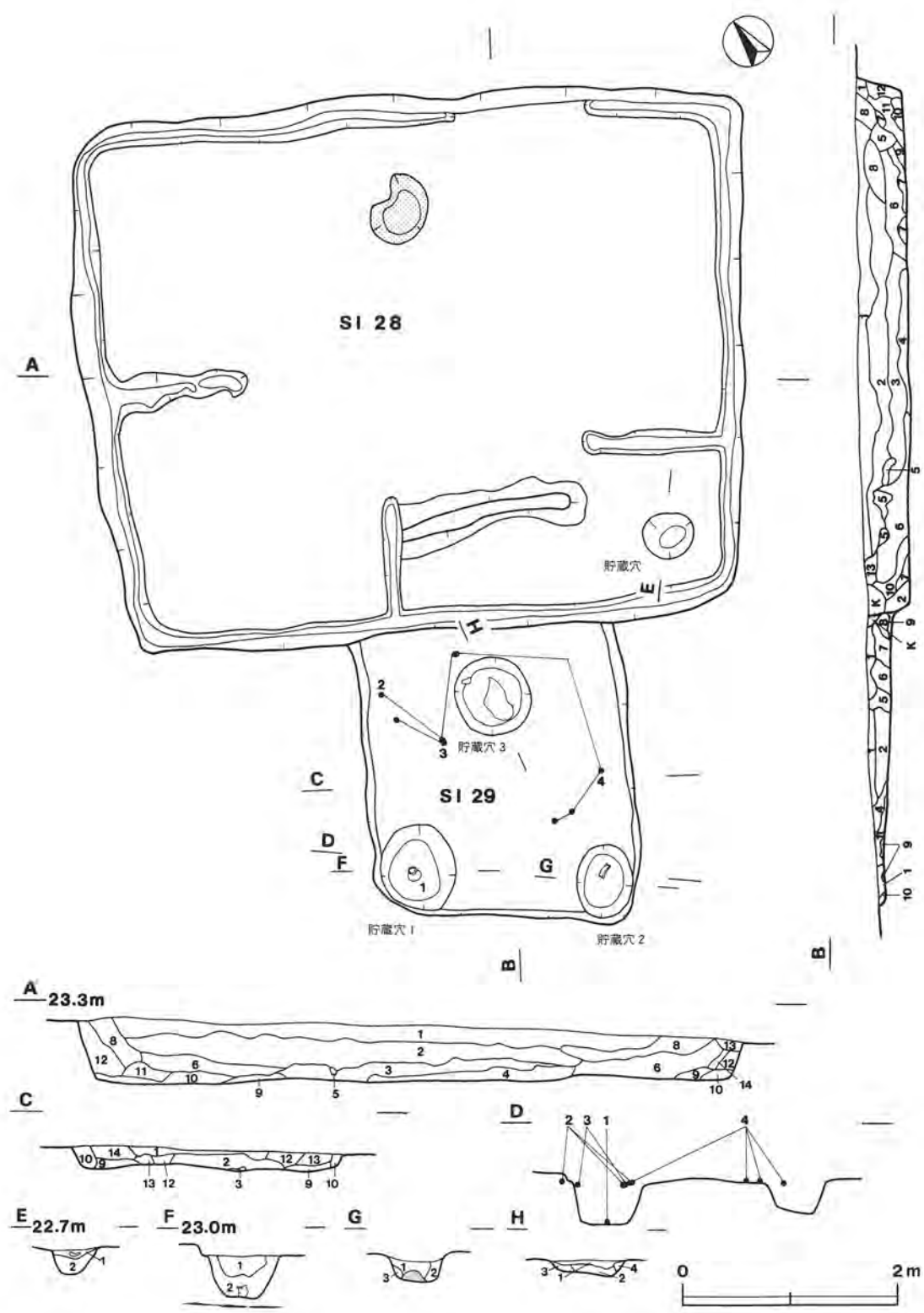
長軸方向 N-34°-E。

壁 壁高は5～7cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。

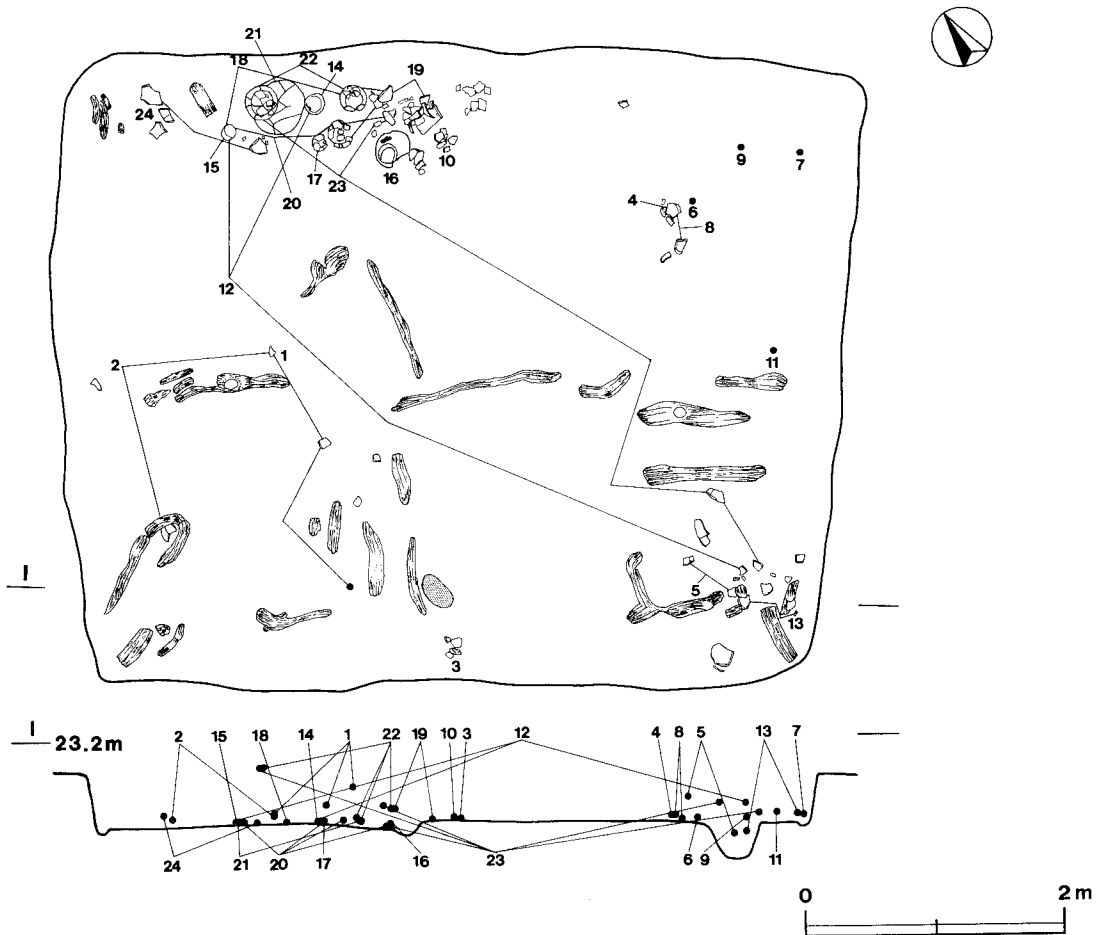
床 ほぼ平坦であり、踏み固められた面はみられない。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は西コーナーに付設され、長径84cm、短径71cm、深さ41cmの楕円形で、断面形はU字状である。貯蔵穴2は南コーナーに付設され、長径68cm、短径54cm、深さ29cmの楕円形で、断面はU字状である。貯蔵穴3は中央から北東に付設され、長径75cm、短径73cm、深さ16cmの円形で、皿状に掘り窪められている。

覆土 上層から下層にかけて、褐色土層と暗褐色土層がブロック状に堆積している。土層中には



第70图 第28・29号住居跡実測图



第28号住居跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・炭化物少量。
- 10 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量。
- 11 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量。
- 12 褐色 ローム粒子極多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 13 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 14 褐色 ローム粒子中量。

第28号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。

第29号住居跡貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。

第29号住居跡貯蔵穴2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子微量。

第29号住居跡貯蔵穴3土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量。
- 2 明褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量。
- 3 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量。
- 4 明褐色 ローム中ブロック多量。

第71図 第28号住居跡遺物出土位置図

ローム小ブロックやローム粒子を含んでいる。北西壁下の中央から一括して多量の遺物が出土している。

遺物 床面直上の遺物は、北西壁下の中央付近で第74図-2・3の土師器甕がつぶれた状態で出土している。4の甕は南東壁の南コーナー寄りから出土しており、北西壁付近から出土したものと接合している。1の壺は斜位の状態で貯蔵穴1の底面から出土している。

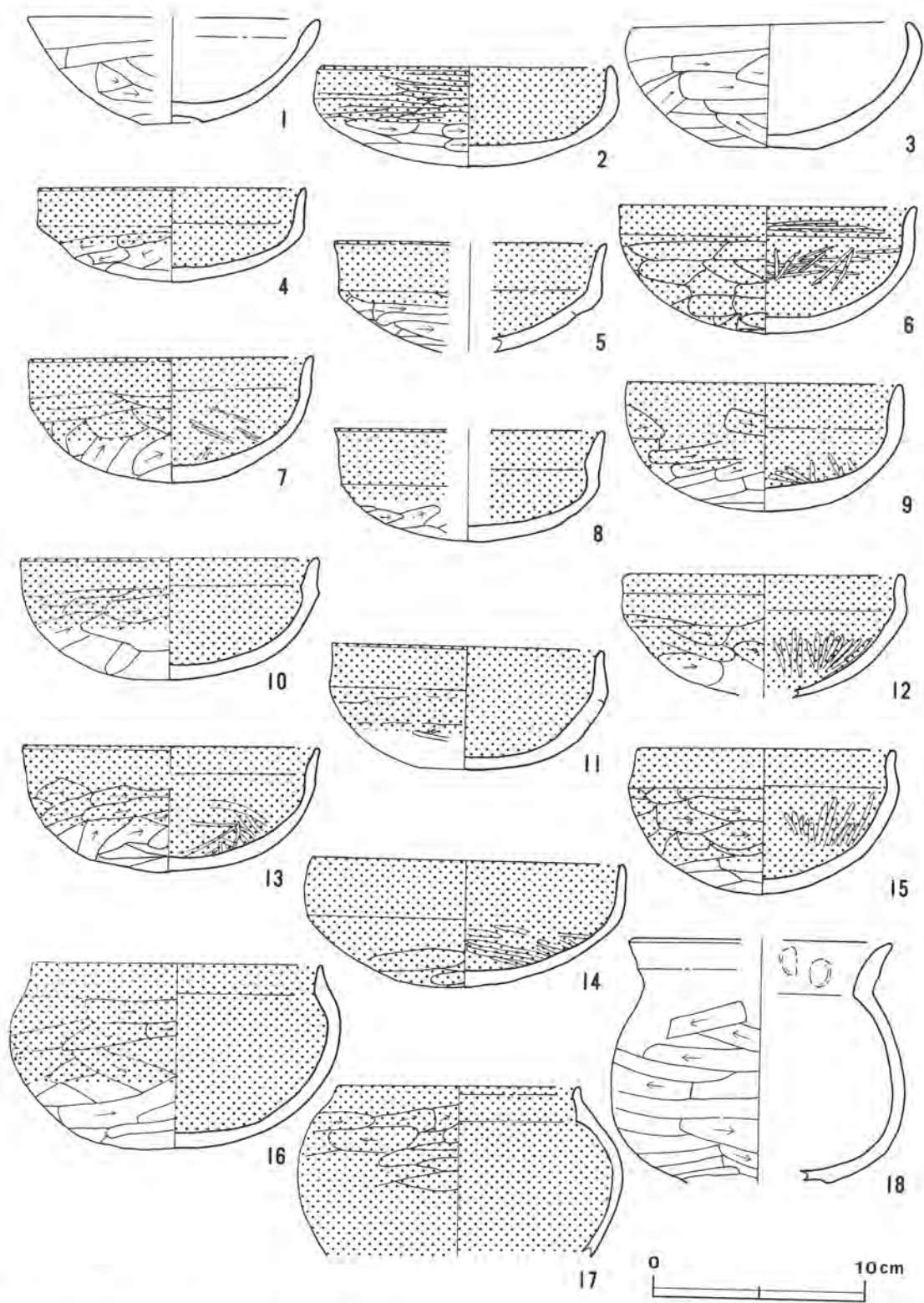
所見 覆土はローム小ブロックやローム粒子を含んだブロック状の層が堆積しており、床面直上からは、一括して遺物が出土していることなどから、本跡は、遺物が投棄されたあとに人為的に埋め戻されたものと思われる。炉は確認されず、床面はあまり硬化した面がみられない状況から判断すると、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第29号住居跡土層解説

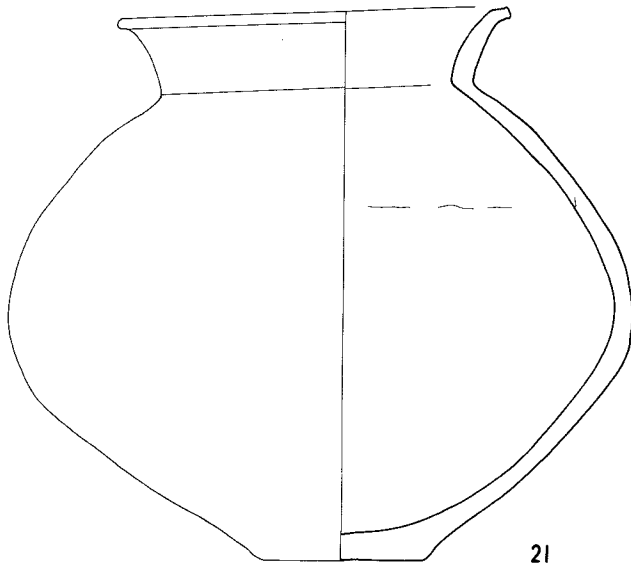
- | | | | | | |
|---|-----|--|----|-----|------------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量。 | 8 | 褐色 | ローム粒子極多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子極多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 10 | 褐色 | ローム粒子極多量。 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 11 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量。 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量。 | 13 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量。 | 14 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量。 |

第28号住居跡出土遺物観察表

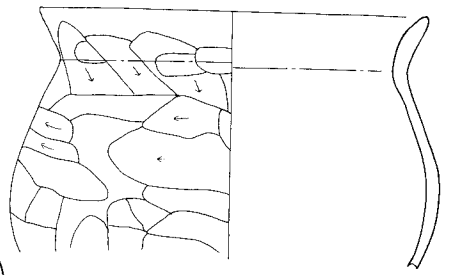
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	土師器	A [14.0] B 4.6 C 3.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P348 50%
2	土師器	A 13.8 B 4.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後複雑なへら磨き、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ後へら磨き、内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P350 60% 内面摩耗
3	土師器	A 19.2 B 6.1 C 4.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P349 100% 二次焼成
4	土師器	A 12.8 B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P351 60%
5	土師器	A [13.0] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P352 15% 内面摩耗



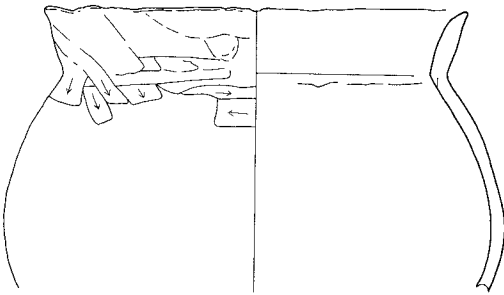
第72図 第28号住居跡出土遺物実測図 (1)



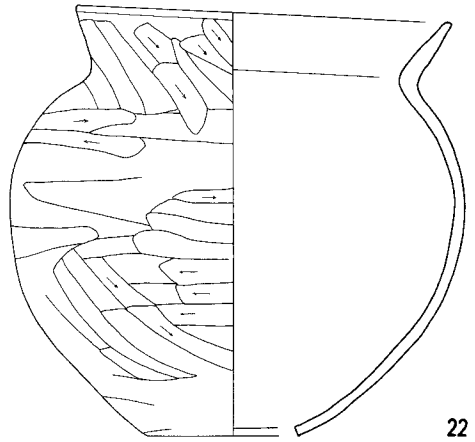
21



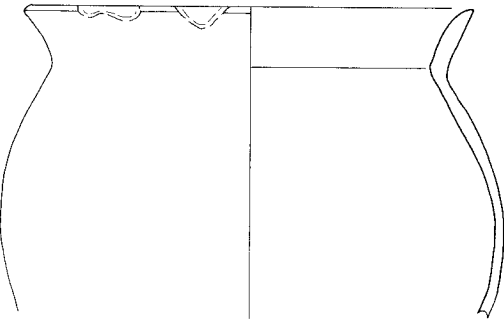
20



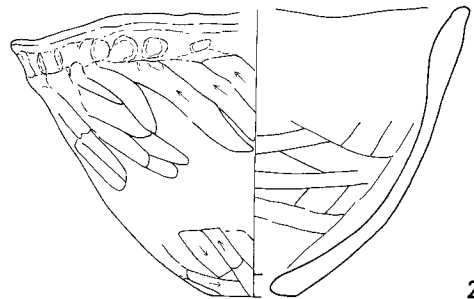
19



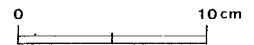
22



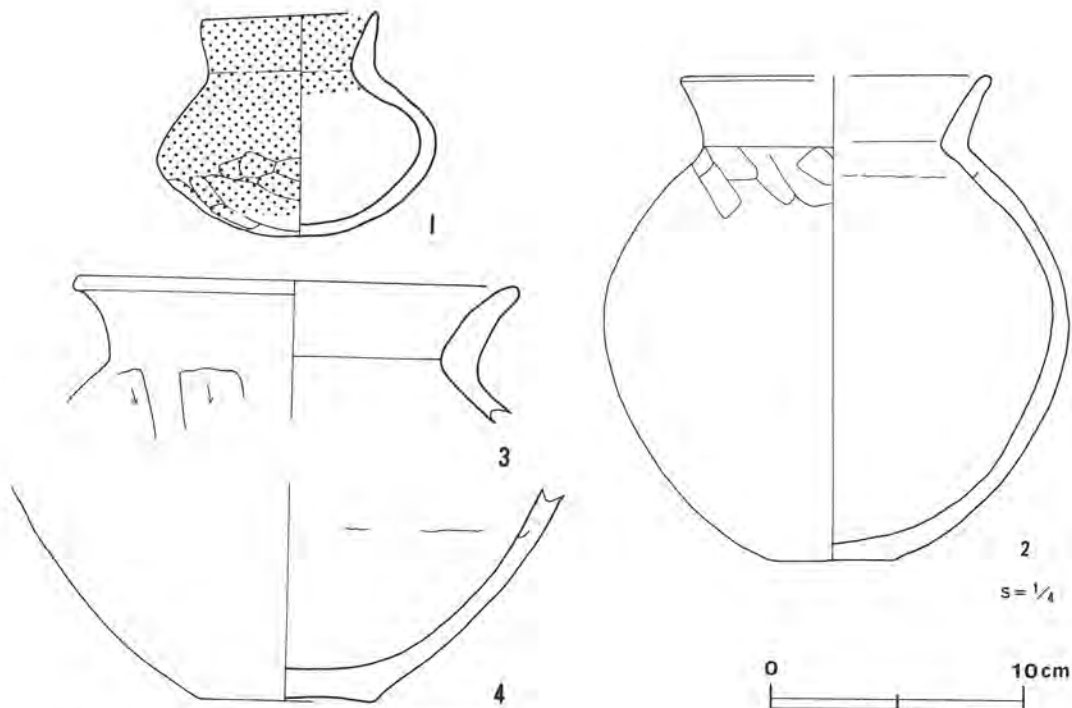
23



24



第73図 第28号住居跡出土遺物実測図 (2)



第74図 第29号住居跡出土遺物実測図 (3)

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72回 6	坏土師器	A 14.2 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P355 100%
7	坏土師器	A 13.4 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P354 100%
8	坏土師器	A [12.7] B (5.4)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P353 60%
9	坏土師器	A 12.8 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P356 100%
10	坏土師器	A 14.1 B 5.8	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P357 90%
11	坏土師器	A 12.8 B 5.8	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P358 90% 外面輪積み痕
12	坏土師器	A 13.4 B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P360 50%
13	坏土師器	A 13.9 B 6.1	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P359 80%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第72図 14	坏 土 師 器	A 11.9	体部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部はわずか に外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラ磨き。口縁部内・ 外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P361 95%
		B 6.8				
15	埴 土 師 器	A 13.7	体部及び口縁部一部欠損。丸底。 体部は内彎して立ち上がり、 口縁部はほぼ直立する。口 縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面ナデ。口縁部内・外面 横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P362 90% 二次焼成 煤付着
		B 8.8				
16	埴 土 師 器	A 13.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は ほぼ直立する。口縁部内面に弱 い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面ナデ。口縁部内・外面 横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P363 90%
		B 8.8				
17	埴 土 師 器	A 11.4	体部から口縁部の破片。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は 内傾する。口縁部内面に稜を持 つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 ナデ。口縁部内・外面横ナデ。 内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P364 30% 二次焼成 煤付着
		B (9.8)				
18	甕 土 師 器	A [12.4]	底部から口縁部の破片。平底。 体部は内彎して立ち上がり、頸 部との境に弱い稜を持つ。口縁 部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラナデ。口縁部内面 に指頭痕。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 普通	P371 60% 外面剝落
		B 11.5				
第73図 19	甕 土 師 器	A 22.4	体部から口縁部の破片。体部は 球形状を呈し、口縁部は「く」 の字状に外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 へラナデ。頸部外面へラナデ。 口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P366 30%
		B 14.9				
20	甕 土 師 器	A 20.1	体部から口縁部の破片。体部は 球形状を呈し、口縁部は「く」 の字状に外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 へラナデ。口縁部内・外面へラ ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P367 45%
		B (13.4)				
21	甕 土 師 器	A 20.8	体部及び口縁部一部欠損。平底。 体部は球形状を呈し、最大 径を中位に持つ。口縁部は「く」 の字状に外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラナデ。口縁部内・ 外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 不良	P365 70% 煤付着
		B 29.4				
		C 9.0				
22	甕 土 師 器	A 20.0	体部一部欠損。無底式。体部は 球形状を呈し、口縁部は「く」 の字状に外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 へラナデ。口縁部外面横ナデ後 へラ削り、内面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P368 90%
		B 21.8				
		C 8.0				
23	甕 土 師 器	A 23.8	体部から口縁部の破片。無底 式。体部は球形状を呈し、口縁 部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 へラナデ。口縁部内・外面横ナ デ。口縁部に指頭痕。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P369 40% 底部破片有り
		B (16.4)				
24	甕 土 師 器	A [24.4]	体部及び口縁部一部欠損。単孔 式。体部は内彎して立ち上 がり、口縁部はわずかに外反す る。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 へラナデ。口縁部内・外面横ナ デ。口縁部外面に指頭痕。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P370 50% 体部に刳痕
		B 15.5				
		C 4.6				

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第74図 1	壺 土 師 器	A 7.0	丸底。体部はソロバン玉状を呈 し、口縁部はわずかに外傾す る。	底部及び体部外面へラ削り後丁 鞆なナデ。口縁部内・外面ナ デ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 普通	P372 100%
		B 9.0				
2	甕 土 師 器	A 16.4	口縁部及び体部一部欠損。平底。 体部は球形状を呈し、口縁 部は「く」の字状に外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラナデ。口縁部内・ 外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P373 60%
		B 25.6				
		C 5.9				
3	甕 土 師 器	A 17.6	口縁部破片。口縁部は「く」の 字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P374 20%
		B (5.1)				
4	甕 土 師 器	B (8.6)	底部から体部下位の破片。平底。 体部は内彎して立ち上 がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P375 30%
		C 6.9				

第30号住居跡（第75～77図）

位置 J6b₆区。

規模と平面形 長軸6.48m、短軸4.72mの長方形。

主軸方向 N-42°-E。

壁 壁高は22～50cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、ほぼ全周しており、上幅8～30cm、深さ1～10cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。南西壁中央寄りに幅約48cm、高さ4cmの馬の背状の高まりが鉤の手状にみられる。位置や形態から出入口施設と思われる。間仕切り溝は、幅22～27cm、深さ10～13cmで、中央に向かって北西壁から1条、北東壁から1条、南西壁から1条みられる。南西壁からの1条の間仕切りについては、馬の背状の高まりに直行していることから、出入口施設に関係するものと思われる。

ピット 4か所。P₁～P₃は、径31～62cm、深さ19～44cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₄は、径44cm、深さ26cmで、補助柱穴と思われる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、西コーナー付近に付設され、長径88cm、短径78cm、深さ41cmの楕円形で、断面形はU字状である。貯蔵穴2は、北コーナー付近に付設され、長径72cm、短径69cm、深さ44cmの円形で、断面形はU字状である。貯蔵穴2の覆土は、ローム小ブロック、ローム粒子などを含む褐色土からなり、埋め戻されたものと思われる。

炉 2か所。F₁は、中央から北東寄りにあり、長径57cm、短径44cmで、楕円形の地床炉である。炉床は、ほとんど掘り窪められてなく床面が火熱を受け赤変した程度である。F₂は、中央から東寄りにみられ、長径67cm、短径52cmで、楕円形の地床炉である。炉床は、掘り窪められてなく床面が火熱を受け赤変した程度である。

覆土 上層から中層にかけて部分的に攪乱が入る。覆土の構成は、住居跡中央部の上層から中層にかけて暗褐色土、壁際から下層にかけてローム小ブロックやローム粒子を含む褐色土が堆積する。遺物のほとんどは土師器片で、中層から下層にかけて同時期の土師器片がまとまってみられる。ほかに縄文式土器片、黒曜石の破片がわずかに出土している。南西壁の南コーナー寄りの下層中から炭化材と焼土が検出されている。

遺物 床面直上から出土した遺物は少量である。ほとんどの遺物は、北コーナーと東コーナーの床面から20cmの高さの範囲で出土しており、これらの遺物は接合関係がみられる。第76図-2・4・5・6・12の土師器坏、13の壺、14・15・18の甕は北コーナー付近から出土している。15は中層から下層にかけて出土した土師器片が接合している。1・3・7・8・9の坏、17の甕、21の須恵器甕は東コーナー付近から出土している。1は逆位の状態で出土しており、21は第31号住居跡から出土した5の甕片と接合している。20の須恵器甕は南コーナーの下層から出土してい

る。10・11の土師器坏，16・19の甕が西コーナーの下層から出土している。これらの遺物は，周
辺から出土したものが接合されている。

所見 覆土の堆積状態をみると壁際から下層にかけて炭化材・焼土・ローム小ブロックやローム
粒子を含み，各コーナーごとに遺物が集中して出土していることや，隣接する第31号住居跡から
出土した須恵器片と接合していることから，当住居跡は，焼失後人為的に埋め戻される過程で遺
物が投棄されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第30号住居跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化
粒子微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロッ
ク・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 8 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量。
- 9 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化
粒子微量。
- 10 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量。

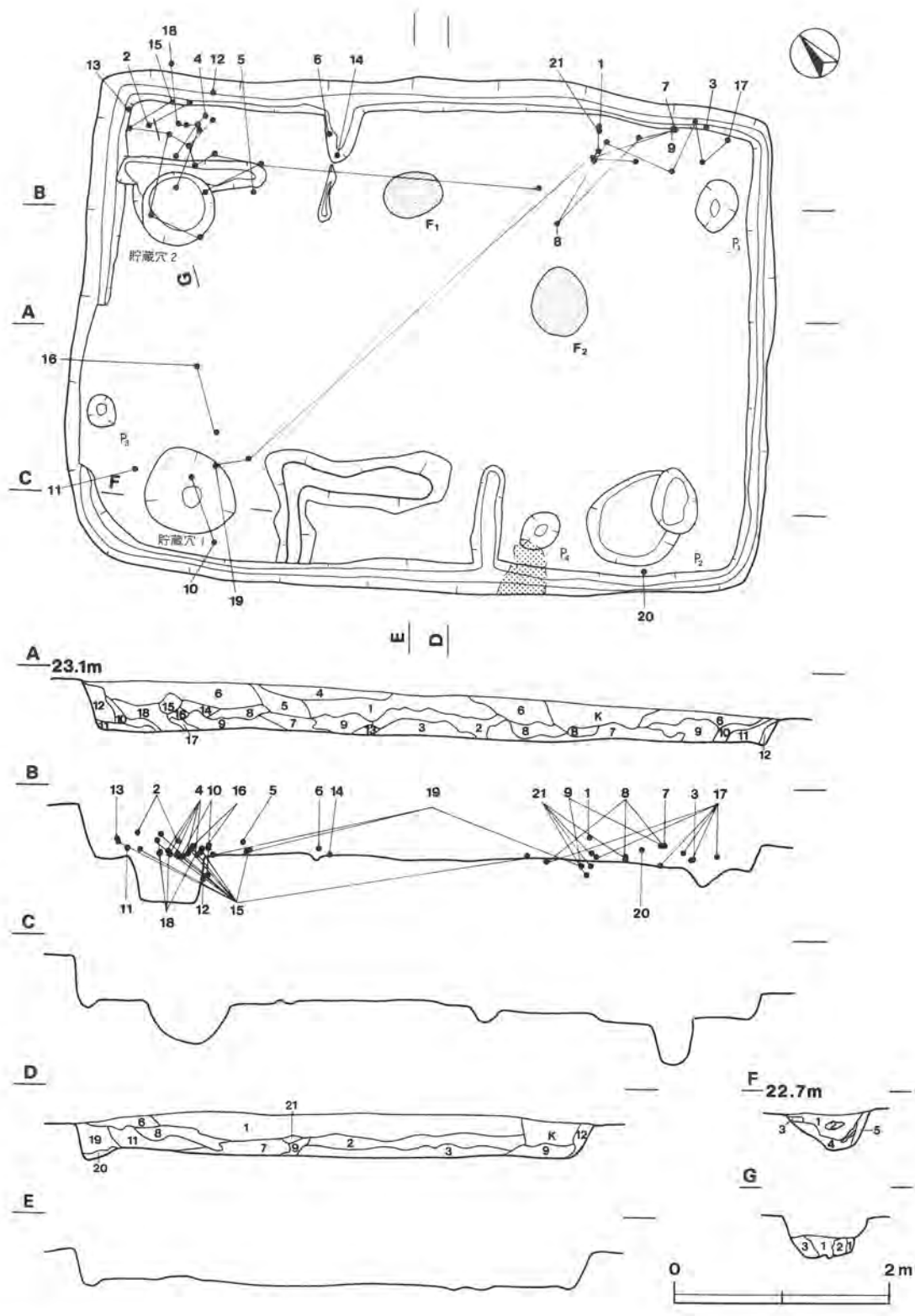
第30号住居跡貯蔵穴1土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量。
- 2 にぶい褐色 ローム粒子・粘土粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 3 黄褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。

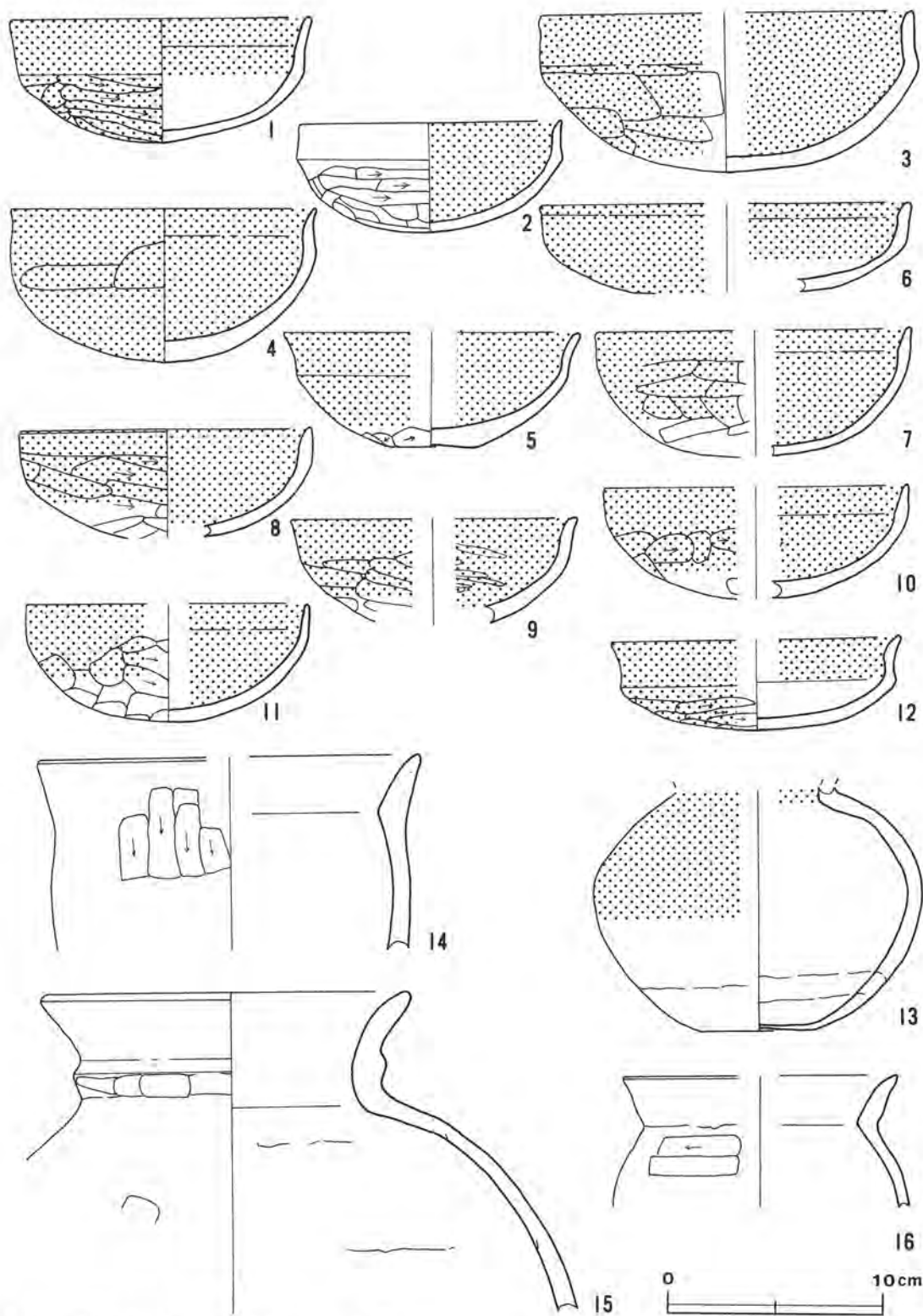
- 11 褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック微量。
- 12 褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化
粒子微量。
- 13 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 14 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 15 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量。
- 16 褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子
微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 18 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量。
- 19 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化
粒子微量。
- 20 褐色 ローム粒子多量。
- 21 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量。

第30号住居跡貯蔵穴2土層解説

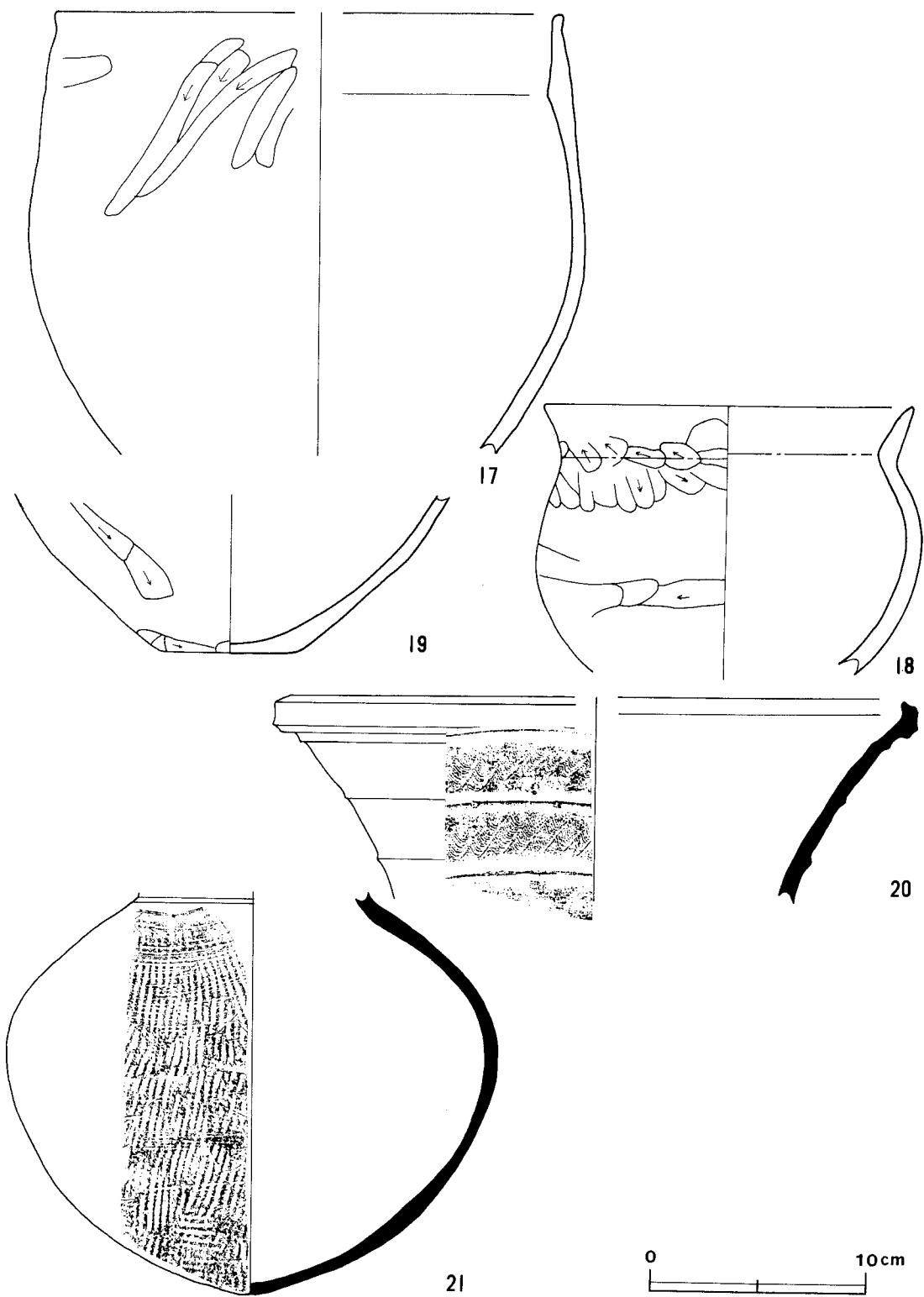
- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量。



第75図 第30号住居跡実測図



第76图 第30号住居跡出土遺物実測図 (1)



第77图 第30号住居跡出土遺物実測・拓影図 (2)

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土師器	A 14.0 B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P376 100%
2	坏 土師器	A 12.2 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P377 100%
3	坏 土師器	A [17.5] B 7.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい褐色 普通	P379 80% 外面煤付着
4	坏 土師器	A 14.2 B 7.0	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P378 90% 外面煤付着
5	坏 土師器	A [13.8] B 5.3 C 4.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P380 40%
6	坏 土師器	A [17.2] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P386 20% 二次焼成
7	坏 土師器	A 14.6 B 6.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 明赤褐色 普通	P382 30%
8	坏 土師器	A 13.6 B (5.0)	底部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P381 60%
9	坏 土師器	A [13.3] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面難なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P387 20%
10	坏 土師器	A [14.2] B (5.2) C [3.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P383 30% 外面摩耗
11	坏 土師器	A [13.1] B 5.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 にふい黄橙色 普通	P384 30%
12	坏 土師器	A [13.4] B 4.2	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい黄橙色 普通	P385 30%
13	壺 土師器	B (11.2) C 5.2	口縁部欠損。平底。体部は球形状を呈する。	底部及び体部外面へラ削り後丁寧なナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P388 80%
14	甕 土師器	A [17.8] B (9.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P392 5%
15	甕 土師器	A 17.3 B (15.0)	体部上位から口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部と口縁部との境に強い稜を持ち、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P389 40%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 16	甕 土師器	B (7.5) C [6.4]	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P394 10% 外面煤付着
第77図 17	甕 土師器	A [23.8] B (20.9)	体部上位から口縁部破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短くわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P390 30%
18	甕 土師器	A 17.3 B (12.8)	体部から口縁部破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒にふい橙色普通	P391 30%
19	甕 土師器	B (7.5) C [6.4]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒にふい黄橙色普通	P393 10%
20	甕 須恵器	A [30.0] B (9.7)	口縁部破片。頸部は外傾し、3本の弱い稜を持ち、口縁部は外反する。口縁部は上下に拡張する。	巻き上げ、水挽き。口縁部外面に櫛状工具による波状文を2段に配する。	長石・砂粒 黄灰色 良好	P395 5%
21	甕 須恵器	B 19.0	底部から体部の破片。丸底。体部外面は全面に平行線叩き目が見られる。	巻き上げ、叩き。頸部ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P396 25% SI-31出土須恵器片と接合

第31号住居跡 (第78・79図)

位置 J6d8区。

規模と平面形 長軸3.36m、短軸2.64mの長方形。

長軸方向 N-39°-W。

壁 壁高は6~28cmで、外傾して立ち上がっている。南コーナー付近は削平されているため、壁はほとんど残っていない。

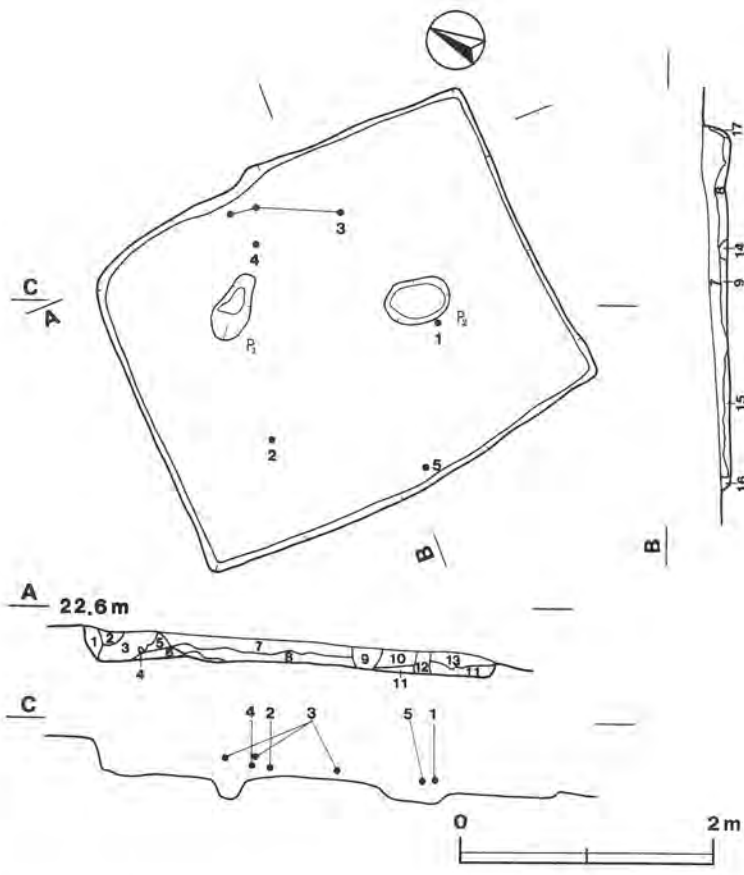
床 床面は、ほぼ平坦で斜面に沿っていくぶん南側に傾斜し、踏み固められた面はみられない。

ピット 2か所。P₁、P₂ともに性格不明である。

覆土 削平されているため覆土の遺存状態はあまり良くないが、7・8層が覆土の大部分を占め、その他の層は壁際にみられる。上層から下層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が出土しているが、特に8層上面に多量の土師器の細片がみられる。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第79図-1の土師器坏、2の壺、3の甕、4の甗である。これらの遺物は破片で出土し、接合されたものである。床面から出土した遺物は細片である。

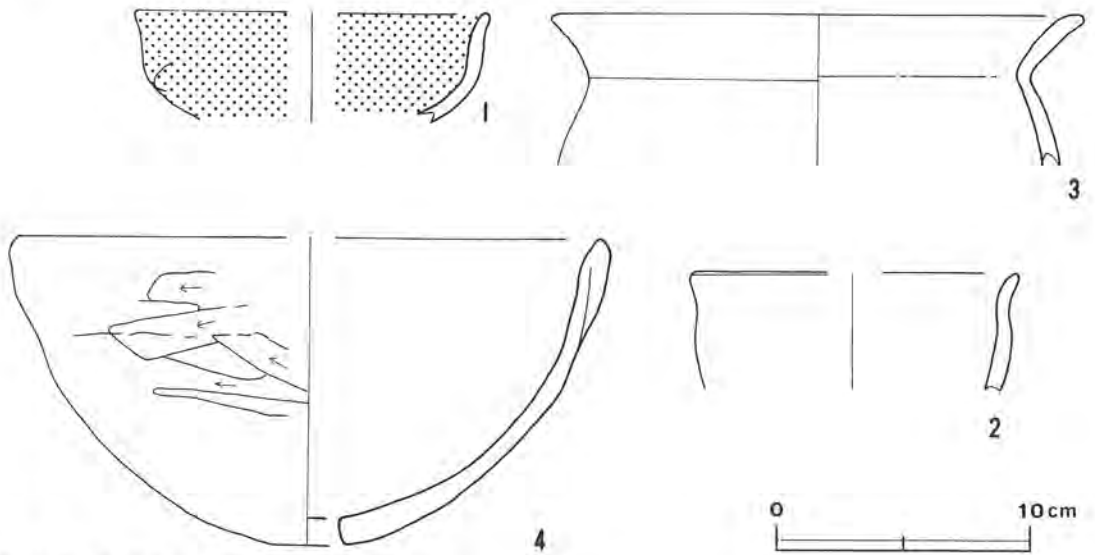
所見 遺物は8層上面から多量に出土していることや、第30号住居跡出土の須恵器片と接合していることから、8層が堆積した後に遺物の投棄が行われたものと思われる。本跡は炉が確認されず、床面があまり硬化した面がみられない状況から判断すると、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末のものである。



第31号住居跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 7 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・黒色土極微量。
- 10 暗褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 14 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・黒色土極微量。
- 15 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 16 褐色 ローム粒子中量。
- 17 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。

第78図 第31号住居跡実測図



第79図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	坏 土師器	A [14.0] B (4.3)	口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P397 10%
2	埴 土師器	A [12.9] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒赤色普通	P398 5%
3	甕 土師器	A 11.0 B (6.0)	口縁部破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P399 20%
4	甗 土師器	A [23.8] B 12.2	底部から口縁部の破片。単孔式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒にぶい橙色普通	P401 30%

第32号住居跡（第80～82図）

位置 J6a9区。

規模と平面形 長軸4.86m，短軸4.22mの長方形。

長軸方向 N-35°-E。

壁 壁高は10～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 床面は、ほぼ平坦であり、踏み固められた面はみられない。

ピット 3か所。P₁～P₃はすべて性格不明である。

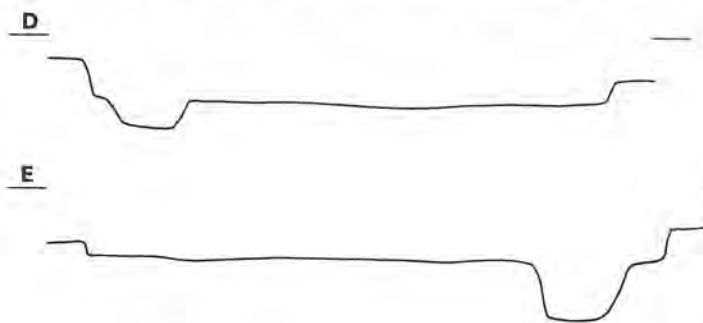
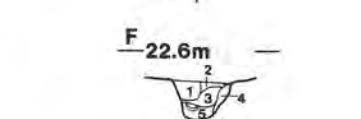
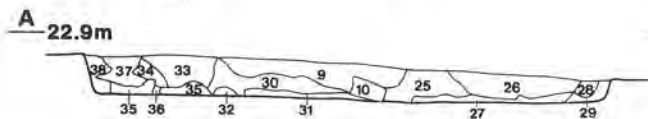
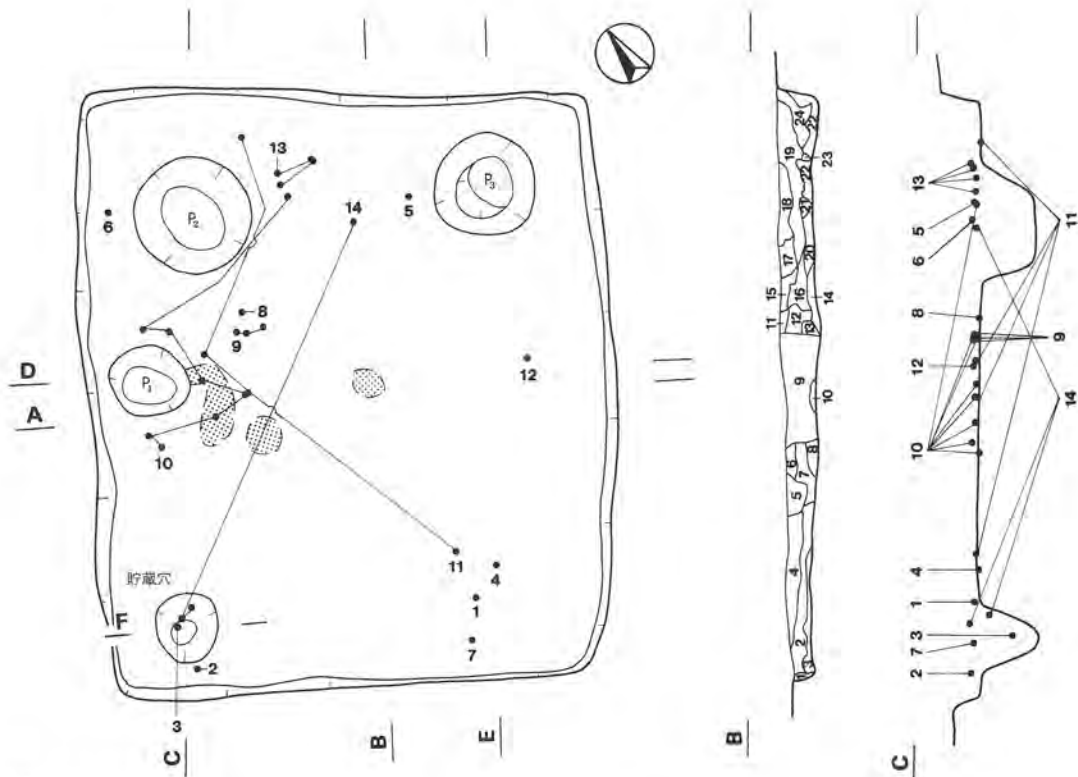
貯蔵穴 西コーナーに付設されている。直径57cm，短径50cm，深さ47cmの楕円形で、断面形はU字状である。

覆土 上層から下層までローム小ブロックやローム粒子等を含み、ブロック状に堆積している。

下層から床面直上にかけて同時期の土師器片と縄文時代の石鏃，磨石が出土している。土師器片は細片が多く、床面から10cmの高さの範囲内で集中して出土している。

遺物 覆土中から出土した遺物は第81図-2・6・9・12である。床面直上の遺物は、5の土師器坏，13・14の甕が北東壁の中央付近から出土している。14は西コーナーと貯蔵穴内から出土したものと接合している。1・4の坏，7の埴は南コーナー付近から出土している。1・4はつぶれた状態，7は逆位の状態出土している。8の高坏，10・11の甕は住居中央の北西寄りから出土している。11は南コーナー付近と北東壁から出土したものが接合している。3の坏は貯蔵穴内から出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると、上層から下層までローム小ブロックやローム粒子等を含み、ブロック状に堆積していることや、床面直上から土師器の細片が出土していることから、本跡は遺物の投棄後人為的に埋め戻されたものと思われる。炉は確認されず、床面もあまり硬化した面が



第32号住居跡貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量。



第32号住居跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 6 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 10 褐色 ローム土・暗褐色土多量。
- 11 暗褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 14 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量。
- 15 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 16 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック・炭化物極微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。

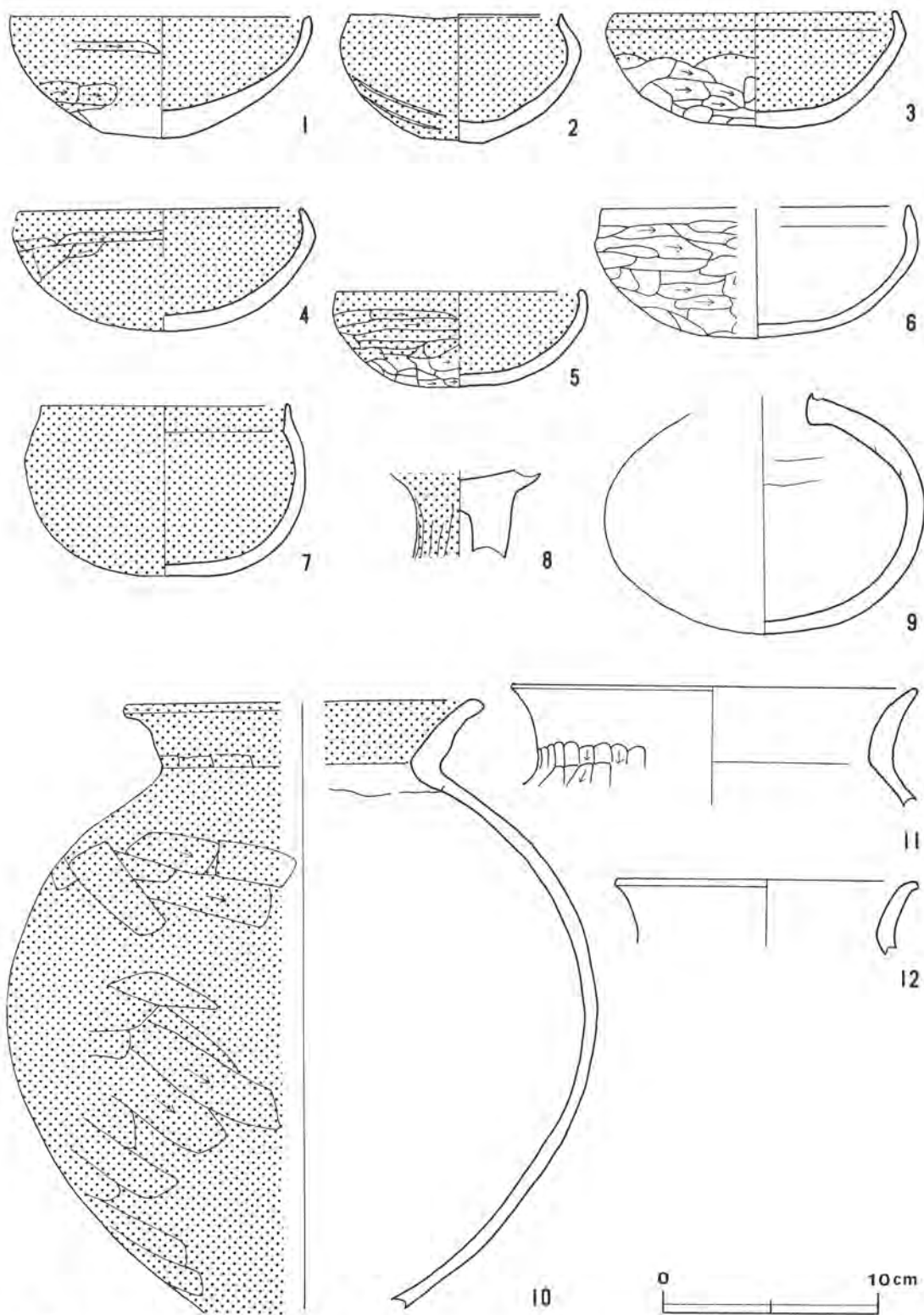
第80図 第32号住居跡実測図

18	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。	30	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量。
19	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。	31	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量。
20	褐色	ローム粒子少量。	32	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
21	褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量。	33	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
22	褐色	ローム土多量, 炭化粒子極微量。	34	黒褐色	ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。
23	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。	35	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量。
24	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。	36	褐色	ローム粒子中量。
25	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量。	37	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量。
26	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。	38	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
27	褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック少量。			
28	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。			
29	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック微量。			

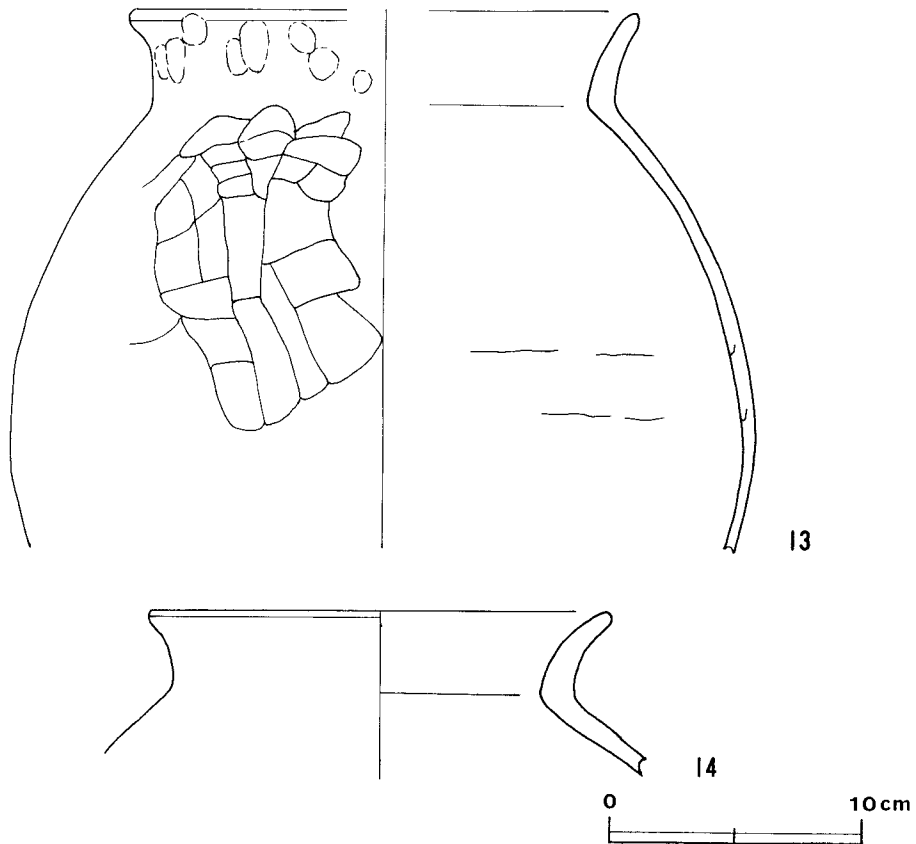
みられない状況から判断すると、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	坏土師器	A 14.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 明赤褐色 普通	P402 90% 二次焼成
		B 5.6				
		C 3.8				
2	坏土師器	A 9.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾し、口唇部はつまみだされている。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P403 100% 体部砥石痕
		B 5.9				
		C 2.9				
3	坏土師器	A 13.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P404 70% 二次焼成
		B 5.4				
4	坏土師器	A 13.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P405 75%
		B 5.8				
5	坏土師器	A 11.4	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P406 75%
		B 4.4				
		C 3.3				
6	坏土師器	A [14.3]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P407 30%
		B 6.0				
7	埴土師器	A 11.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P409 95% 外面煤付着
		B 8.0				
		C 4.0				
8	高土師器	B (4.1)	脚部破片。脚部は円柱状を呈する。	脚部外面へラ削り、内面ナデ。外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P410 10%
9	壺土師器	B (10.9)	底部から体部の破片。丸底。体部は球形状を呈する。	底部及び体部外面へラ削り後丁寧なナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P411 60%
10	壺土師器	A 16.7	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。頸部に稜を持ち、口縁部は反外する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P412 40%
		B (28.3)				



第81图 第32号住居跡出土遺物実測图 (1)



第82図 第32号住居跡出土遺物実測図 (2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 11	甕 土師器	A 19.0 B (5.4)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P414 20%
12	甕 土師器	A [14.2] B (3.4)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい褐色 普通	P416 5% 外面煤附着
第82図 13	甕 土師器	A [20.0] B (20.4)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。口縁部に指頭痕。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P413 30%
14	甕 土師器	A 18.3 B (6.7)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 浅黄橙色 普通	P415 10%

第33号住居跡 (第83・84図)

位置 J7C₁区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.13mの長方形。

長軸方向 N-35°-E。

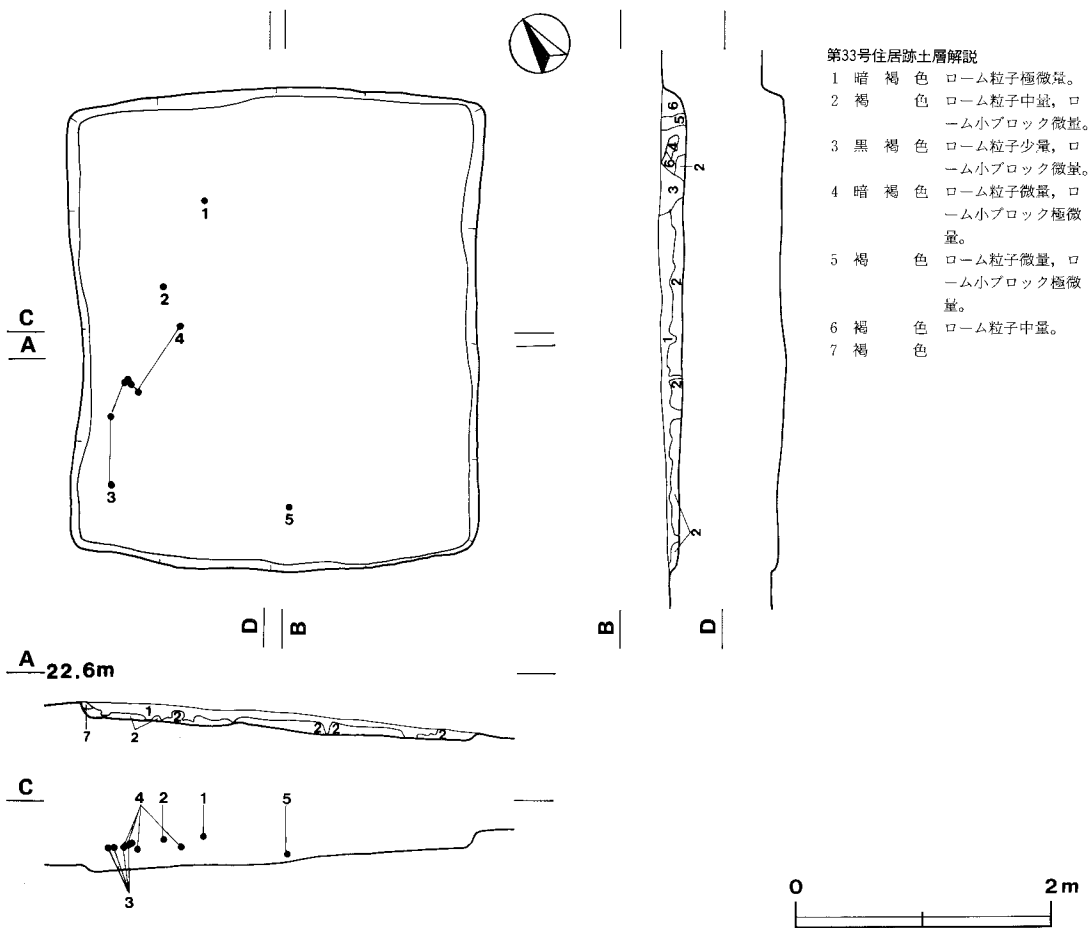
壁 壁高は5~17cmで, 斜面部に位置するため, わずかに確認できる程度である。

床 床面は, ほぼ平坦であるが, 斜面に沿っていくぶん傾斜する。踏み固められた面はみられない。

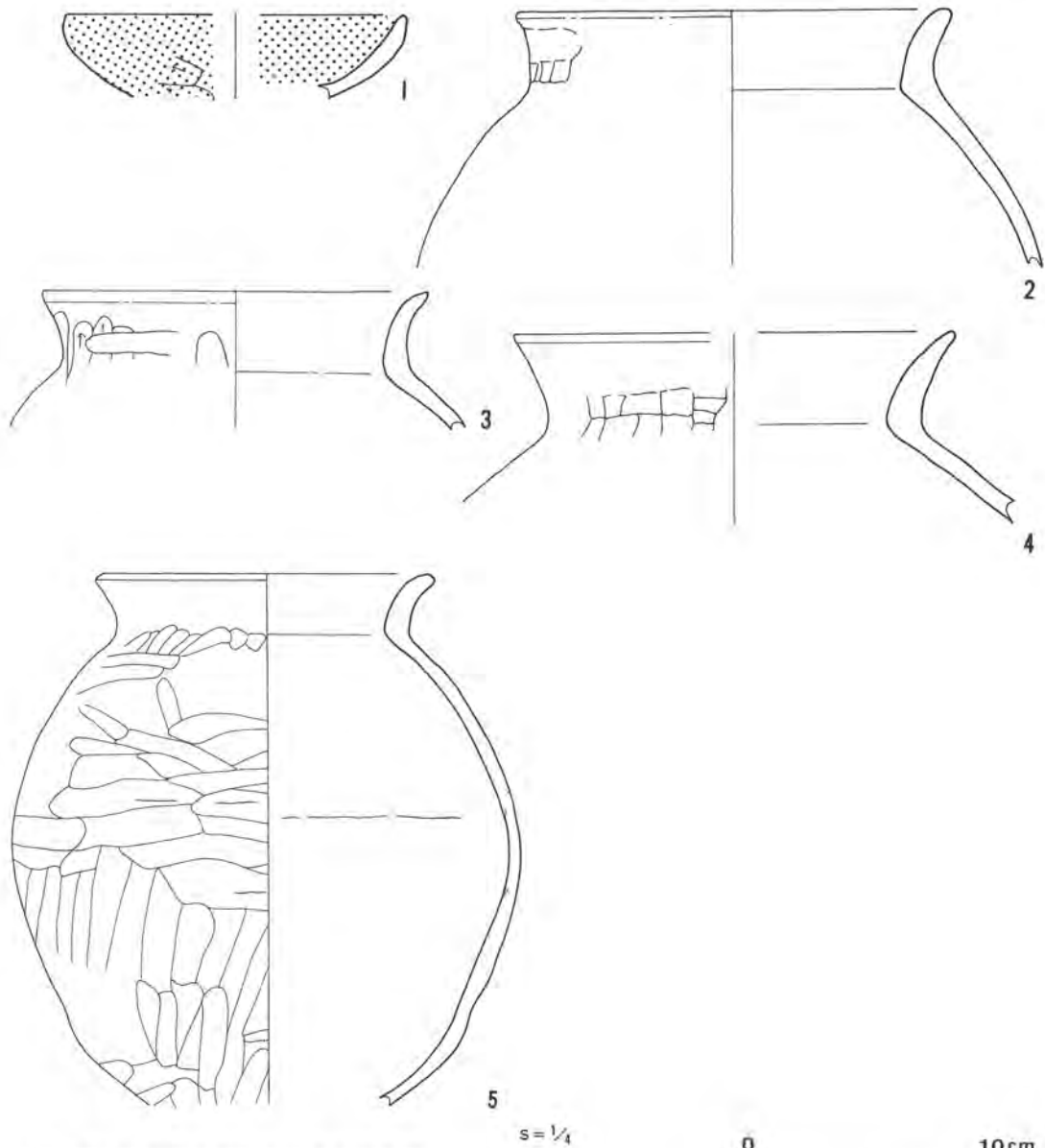
覆土 上面は削平され, 覆土はわずかに残るだけである。1層中には同時期の土師器片が多くみられる。覆土中からは縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち, 実測できたのは第84図-1~5である。これらの遺物は住居跡中央部から北西壁下と西コーナー付近から出土している。床面直上から出土した遺物は細片である。出土遺物はほとんど破片であり, 大部分が甕片である。

所見 本跡は, 小規模であり, 炉, 柱穴等は確認できず, 状況から判断すると住居跡とすること



は困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。遺物は多量の土師器片が出土し、その大部分は、甕片がしめている。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第84図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	坏 土師器	A 14.0 B (3.5)	体部から口縁部の破片。体部は内嚮して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	F417 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 2	甕 土師器	A 15.8 B (5.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P419 20%
3	甕 土師器	A 15.8 B 5.6	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰白色 普通	P418 20%
4	甕 土師器	A [18.0] B (8.0)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P421 10%
5	甕 土師器	A 18.7 B (29.3)	底部及び体部一部欠損。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。頸部外面ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P458 60%

第34号住居跡（第85・86図）

位置 I4i7区。

規模と平面形 長軸6.56m，短軸5.20mの長方形。

主軸方向 N-138°-W。

壁 壁高は22～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は全周しており，上幅7～18cm，深さ1～8cmで，断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。間仕切り溝は，幅20cm，深さ7cmで，中央に向かって北西壁から1条みられる。中央部に床面が火熱を受け赤変硬化した部分が3か所みられる。

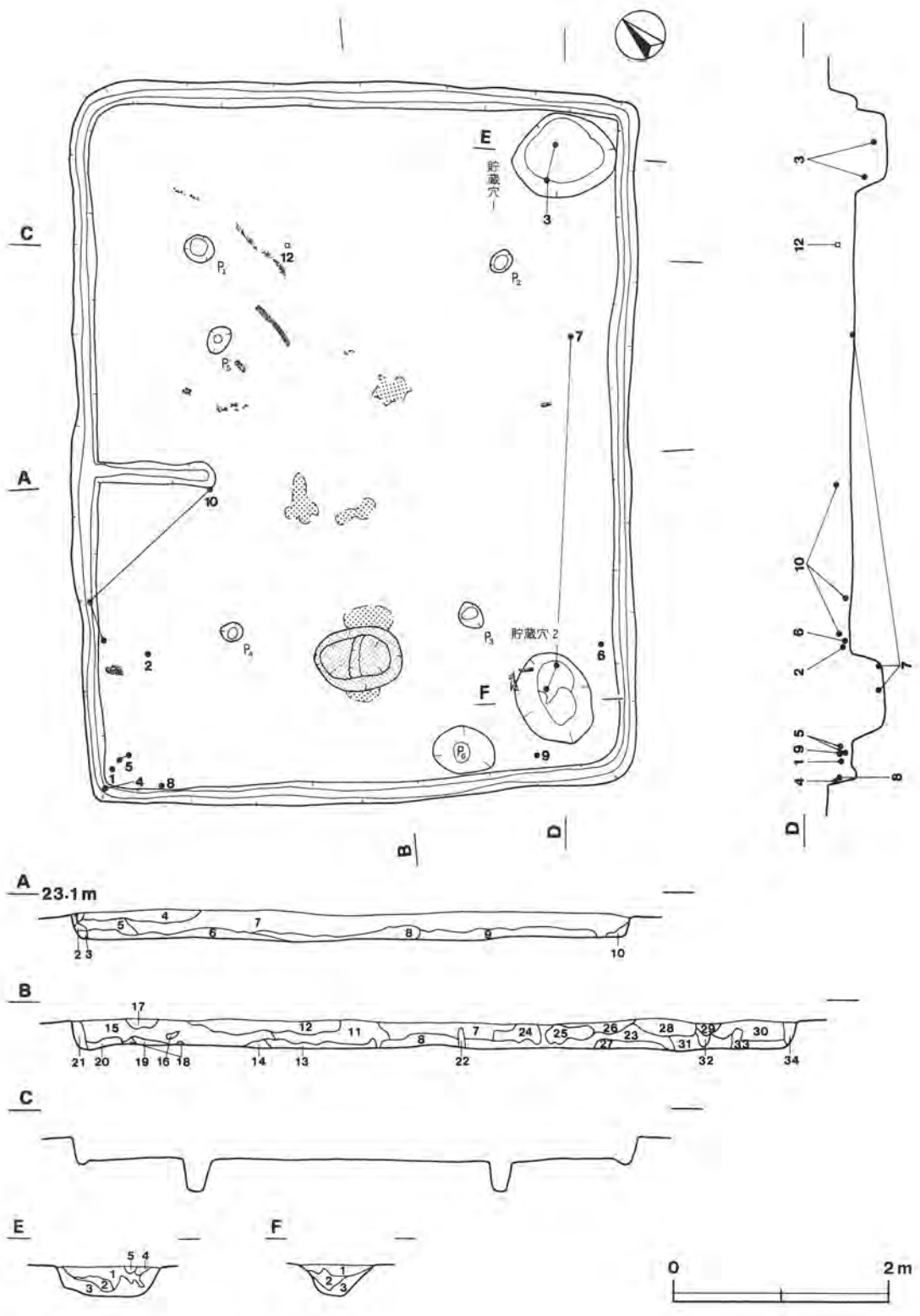
ピット 6か所。P₁～P₄は，径21～28cm，深さ23～28cmで規模や配列から支柱穴と思われる。P₅・P₆は，性格不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は，東コーナーに付設されており，長径98cm，短径79cm，深さ30cmの楕円形で，断面形はU字状である。貯蔵穴2は，南コーナーに付設されており，長径89cm，短径67cm，深さ30cmの楕円形で，断面形はU字状である。

炉 中央から南西寄りにある。長径83cm，短径60cmで，床面を17cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は6層からなり，1層暗赤褐色，2～4層褐色，5層にぶい赤褐色，6層褐色であり，焼土粒子，炭化粒子を含む。炉床は火熱を受けいくぶん赤変している程度である。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含む層がみられる。北東側の土層は褐色土，暗褐色土，黒褐色土がブロック状に堆積する。下層上面から床面上にかけて同時期の土師器片と，縄文式土器片，敲石，スタンプ状石器が出土している。住居跡中央から西側寄りの床面上から炭化材が出土している。

遺物 覆土中から出土した遺物は第86図-1～6・8～12である。ほとんどの遺物は西コーナー付近から出土している。1の土師器坏は正位の状態で出土している。10の須恵器甕は上層と下層



第85图 第34号住居跡実測图

から出土したものが接合している。床面直上の遺物は、7の甕が南東壁下の中央付近から出土しており、貯蔵穴2の覆土内から出土したものと接合している。

所見 覆土の堆積状態をみると、上層から下層にかけてローム小ブロック、ローム粒子などを含むことや床面直上から炭化材が検出されたり、床面が赤化していることから、当住居跡は焼失後、人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第34号住居跡土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 16 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子極微量。 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化粒子極微量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量。 | 18 明褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量。 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 19 褐色 | ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量、炭化粒子極微量。 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量、焼土粒子極微量。 | 20 暗褐色 | ローム粒子微量、ローム中ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 21 褐色 | ローム粒子微量。 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量、ローム小ブロック・焼土粒子極微量。 | 22 黒褐色 | ローム粒子極微量。 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子極微量。 | 23 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量。 |
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量。 | 24 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量。 |
| 10 褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 | 25 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化粒子極微量。 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 | 26 黒褐色 | ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子微量、炭化粒子極微量。 | 27 暗褐色 | 炭化物多量、ローム粒子中量、ローム小ブロック微量。 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子極微量。 | 28 暗褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 14 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量。 | 29 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子極微量。 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック・焼土粒子極微量。 | 30 黒褐色 | ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| | | 31 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子極微量。 |
| | | 32 黒褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック極微量。 |
| | | 33 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量。 |
| | | 34 褐色 | ローム粒子少量。 |

第34号住居跡貯蔵穴1土層解説

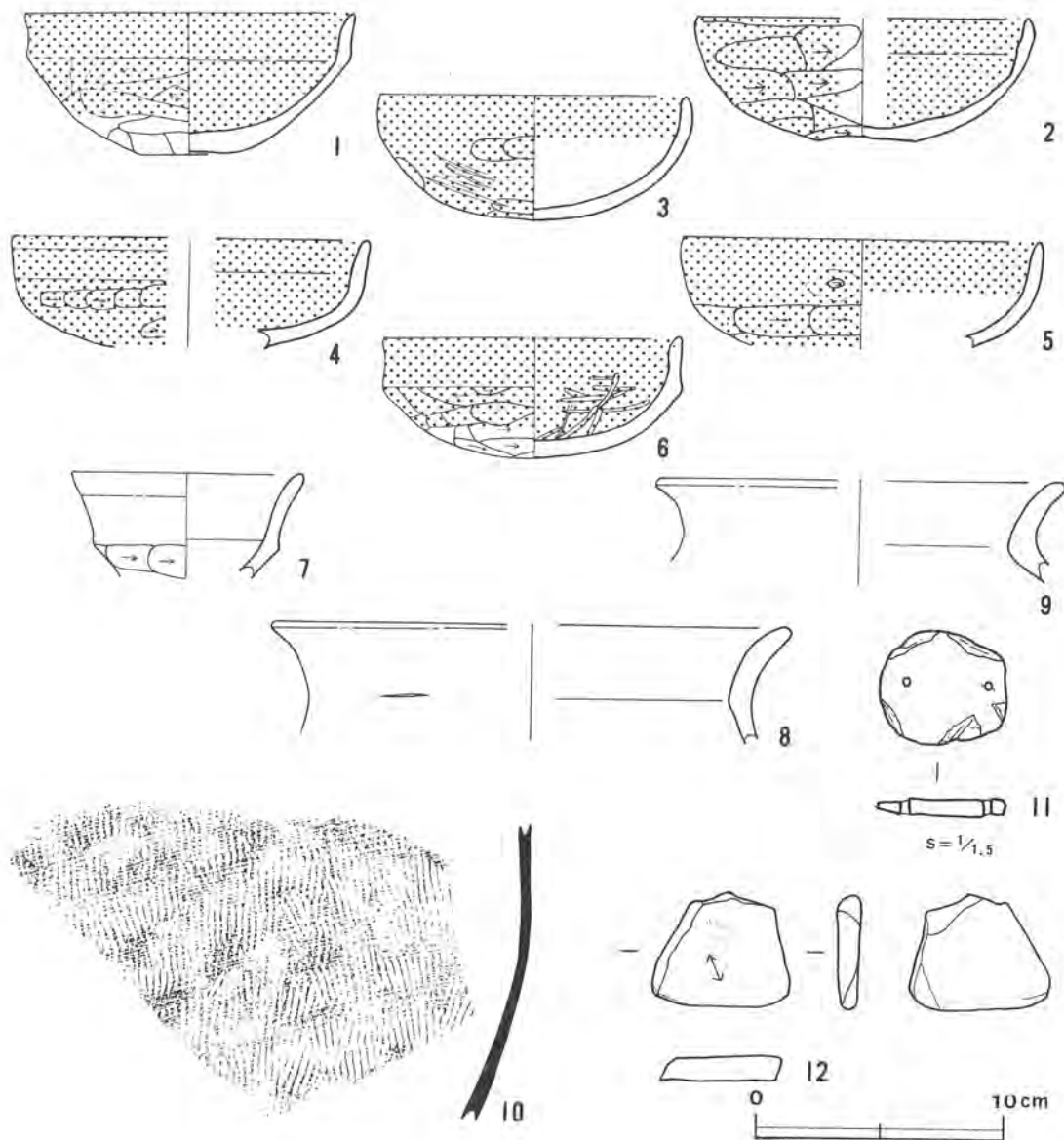
- | | |
|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量。 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量。 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量。 |

第34号住居跡貯蔵穴2土層解説

- | | |
|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量、ローム粒子中量、炭化材少量、焼土粒子微量。 |
| 2 褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・炭化材少量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量。 |

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	坏師器 土師器	A 13.2 B 5.7 C 3.8	平底。体部は内嚢して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P425 100%
2	坏師器 土師器	A [13,7] B 4.9 C 4.1	平底。体部は内嚢して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 に黄褐色 普通	P426 40%
3	坏師器 土師器	A 12.2 B 5.0	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内嚢して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 黄褐色 普通	P427 70% 砥石痕



第86図 第34号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 4	坏 土 節 器	A [14.5] B 4.4	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ。口縁部外面横ナデ後ナデ、内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P429 25%
5	坏 土 節 器	A 14.4 B (4.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P430 25% 靱痕
6	坏 土 節 器	A 11.9 B 4.9	体部及び口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面雑なへラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P428 60%
7	甑 土 節 器	A 9.4 B (4.3)	頸部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り後ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P431 20%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 8	甕 土師器	A [21.0] B (4.7)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P432 5%
9	甕 土師器	A [21.0] B (4.7)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P433 5%
10	須 恵器		体部片。	外面平行叩き、内面ナデ。	長石・砂粒 灰色 良好	P434 5%

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第86図11	双孔円板	2.6	2.3	0.4	0.2	3.6	滑石	SI34	Q64
12	砥石	5.1	4.7	0.9		31.5	砂岩	SI34	Q61

第35号住居跡（第87・88図）

位置 I7g₁区。

規模と平面形 長軸8.66m，短軸8.10mの方形。

主軸方向 N-56°-W。

壁 壁高は16～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。南東壁中央寄りに，幅56cm，高さ8cmの馬の背状の高まりが鉤の手状にみられる。位置や形態から出入口施設と思われる。間仕切り溝は，幅14～24cm，深さ6～14cmで，中央に向かって南東壁から1条，南西壁から1条，北西壁から2条みられる。南東壁の間仕切りについては，馬の背状の高まりと直行することから出入口施設に関係するものと思われる。

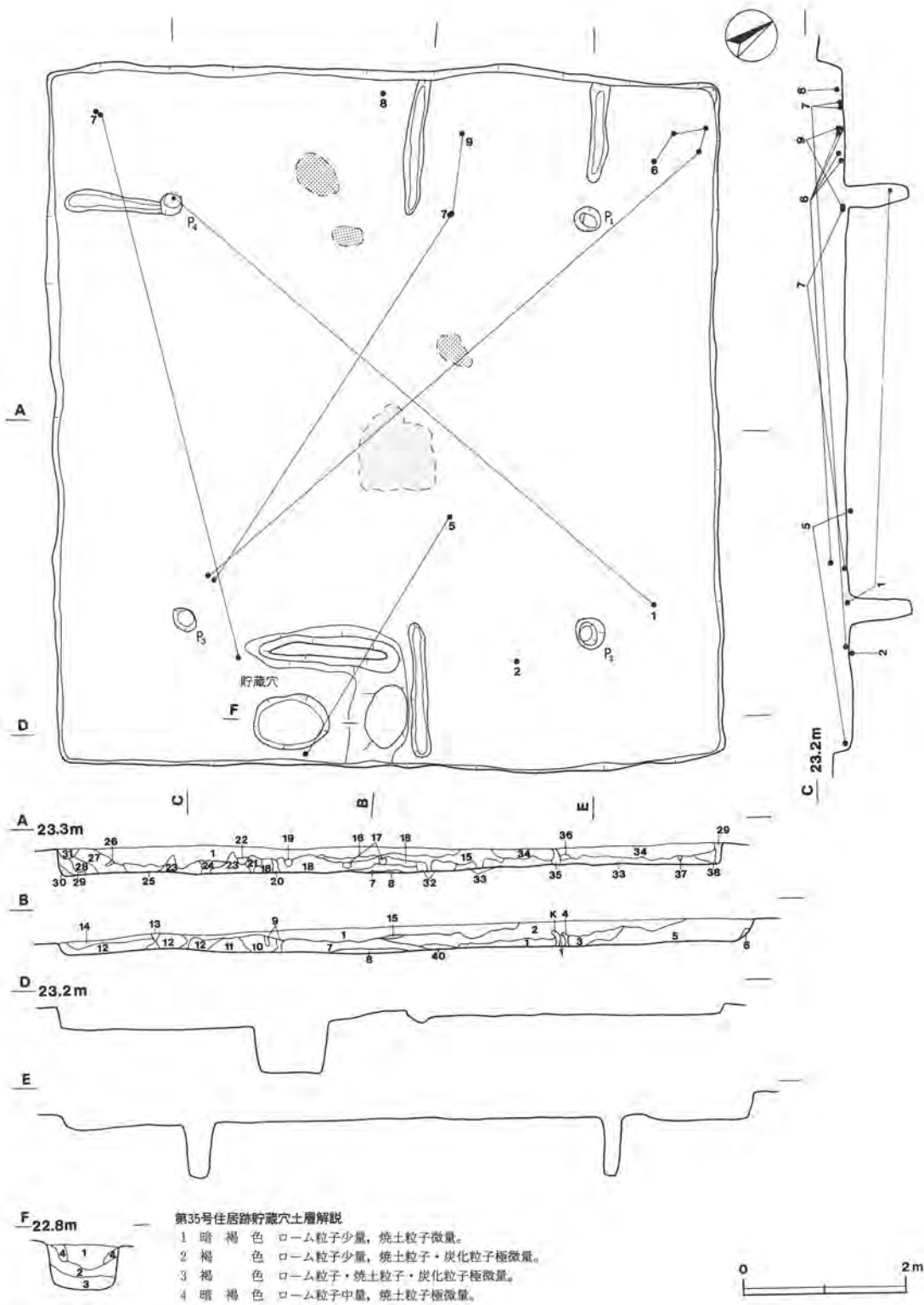
ピット 4か所。P₁～P₄は径29～42cm，深さ66～76cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南西壁の中央付近に付設されている。長径93cm，短径68cm，深さ62cmの楕円形で，円筒状に掘り込まれている。

炉 ほぼ中央にある。長径112cm，短径103cmで，床面を8cm程皿状に掘り窪めた不整形の地床炉である。炉内覆土は4層からなり，1層にぶい褐色，2層明赤褐色，3・4層にぶい赤褐色であり焼土ブロックを含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 中層から下層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含む暗褐色土と褐色土がブロック状に堆積している。中層から床面にかけて同時期の土師器片や縄文式土器片，黒曜石の剥片が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片と須恵器片のうち実測できたのは第88図-3・4・6～9で



第87図 第35号住居跡実測図

ある。床面直上の遺物は、2の土師器坏が東コーナー付近から出土している。5の甕は南東壁際の中央寄りから出土している。1の坏は半完形でP₄の覆土内から正位の状態で出土している。1は東コーナー付近で出土したものと接合している。炉内覆土から炭化種子が出土している。

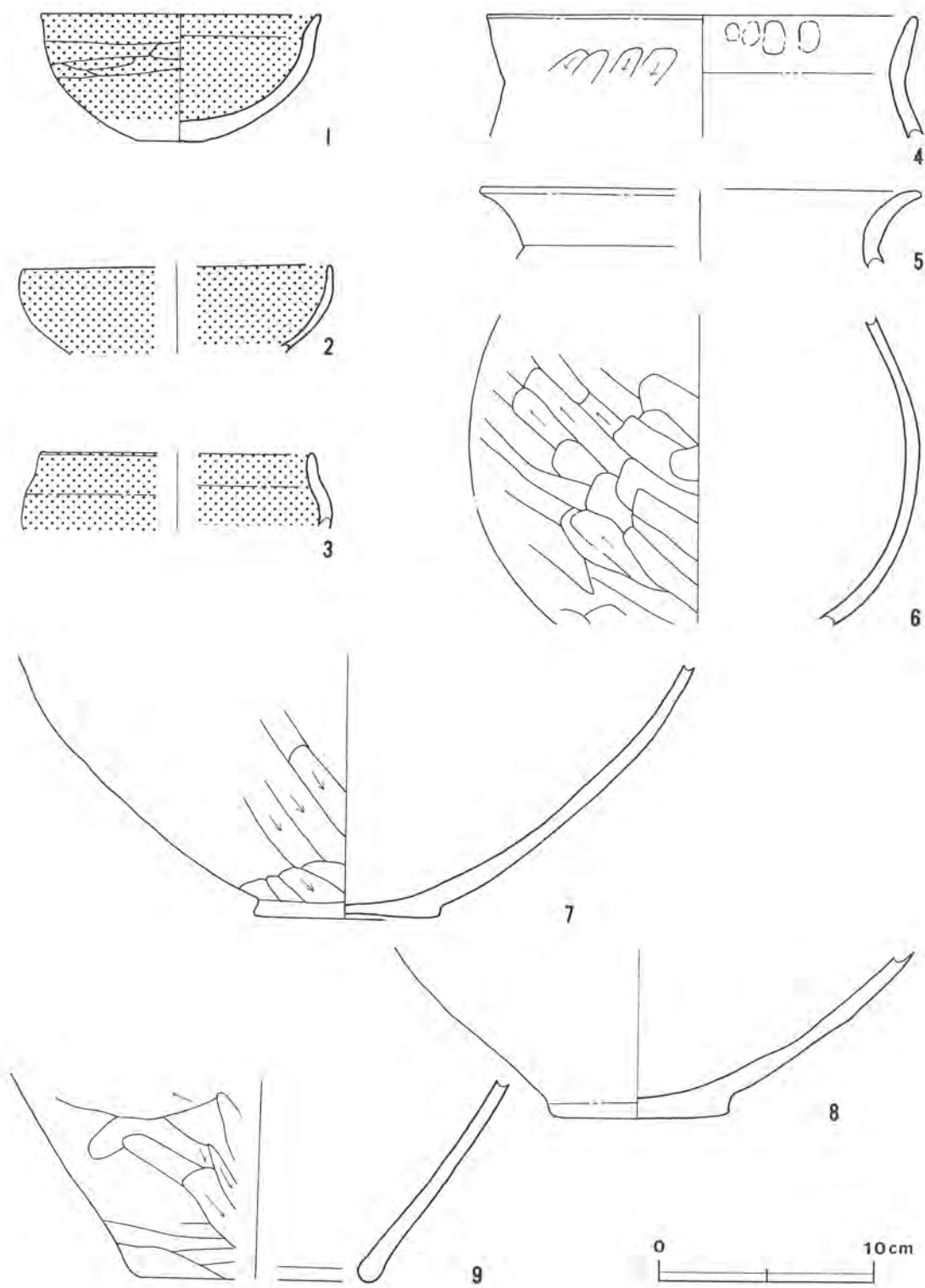
所見 P₄の覆土内から出土した1の坏は、床面直上から出土した坏片と接合していることから、P₄の柱の抜き取りが行われ、その後1が投棄されたものと思われる。堆積状況を見ると中層から下層までブロック状に堆積することから人為的に埋め戻され、上層は自然に埋没したものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第35号住居跡土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 | 21 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 22 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 23 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 暗褐色土極微量。 | 24 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子・黒褐色土極微量。 | 25 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量。 | 26 黒褐色 | ローム粒子極微量。 |
| 7 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量。 | 27 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 8 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。 | 28 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 29 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量。 | 30 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 31 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子極微量。 |
| 12 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。 | 32 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量。 | 33 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 14 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 | 34 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 | 35 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量。 |
| 16 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 36 暗褐色 | ローム粒子微量, 黒褐色土極微量。 |
| 17 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。 | 37 暗褐色 | ローム粒子微量。 |
| 18 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 38 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 19 暗褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 | 39 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 20 褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 | 40 褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量。 |

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	土師器 坏	A 12.9 B 4.8 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P435 99% P ₄ 底面
2	土師器 坏	A [14.4] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P436 5% 外面磨耗
3	土師器 坏	A [12.8] B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P437 10%



第88图 第35号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第88図 4	甕 土 師 器	A 20.0 B (5.7)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内面に指頭痕。	長石・石英・砂粒 におい橙色 普通	P441 5%
5	甕 土 師 器	A [20.4] B (3.4)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 におい赤褐色 普通	P443 5%
6	甕 土 師 器	B (14.3)	体部破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P439 50% 外面摩耗
7	甕 土 師 器	B (11.2) C 8.6	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 におい黄褐色 普通	P438 30%
8	甕 土 師 器	B (7.8) C 8.3	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 暗褐色 普通	P440 30% 内・外面摩耗
9	甕 土 師 器	B (9.2) C [10.9]	底部から体部破片。無底式。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 におい黄褐色 普通	P445 10%

第36号住居跡（第89・90図）

位置 16c₀区。

規模と平面形 長軸6.30m，短軸4.74mの長方形。

主軸方向 N-37°-E。

壁 壁高は16～32cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は，南西壁下から一部みられ，上幅14cm，深さ4cmで，断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。馬の背状の高まりは，幅56cm，高さ6cmで，南西壁に沿ってみられる。間仕切り溝は，幅28cm，深さ10cmで，南西壁に1条みられ，馬の背状の高まりと直行することから，出入口施設に関係するものと思われる。中央部から北東側と東側に火熱を受け赤変硬化した床面がみられる。

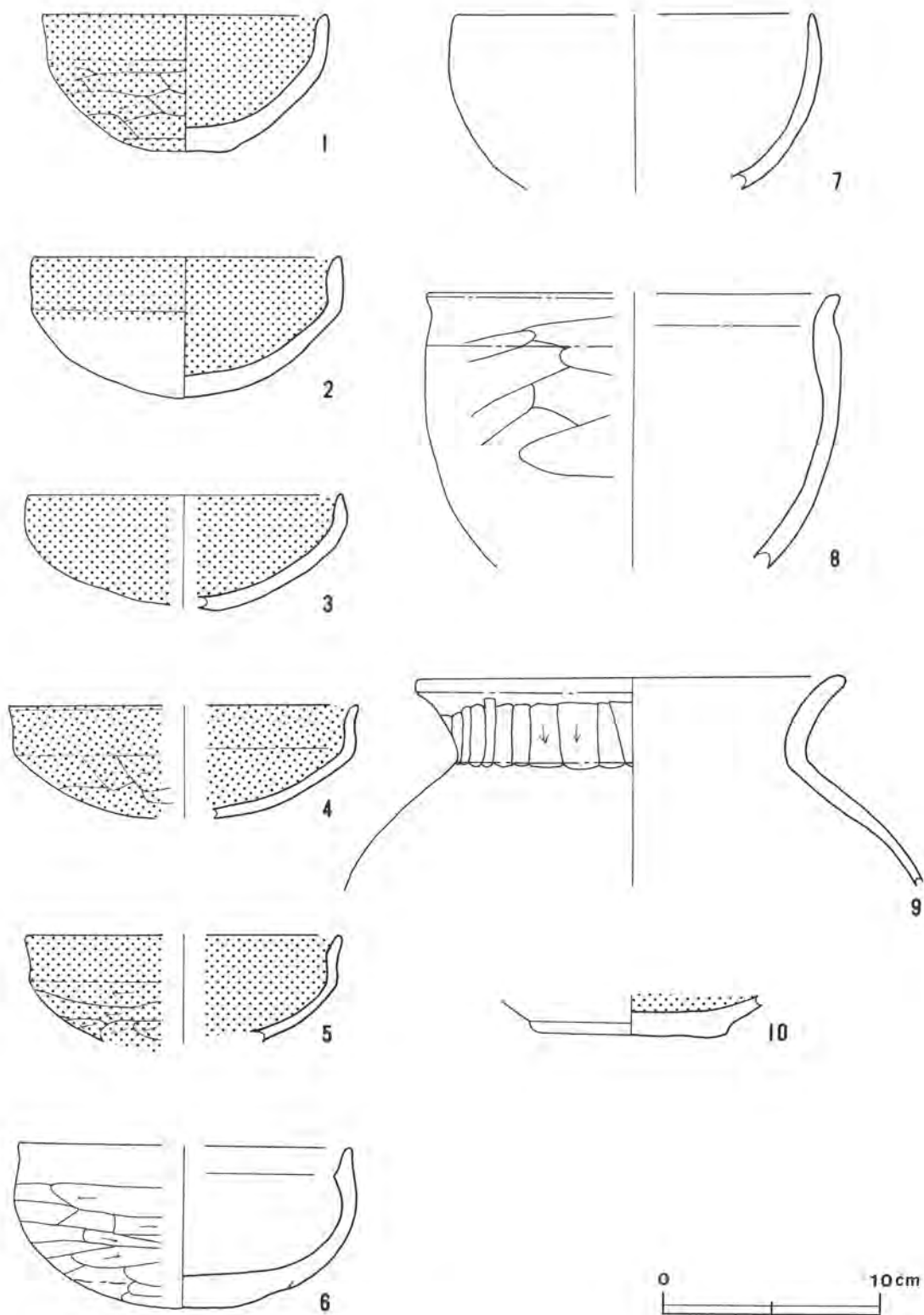
ピット 4か所。P₁～P₄は長径73～108cm，短径59～101cm，深さ30～67cmの楕円形で，性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー寄りに付設されており，長径83cm，短径74cm，深さ56cmの楕円形で，断面形はU字状である。

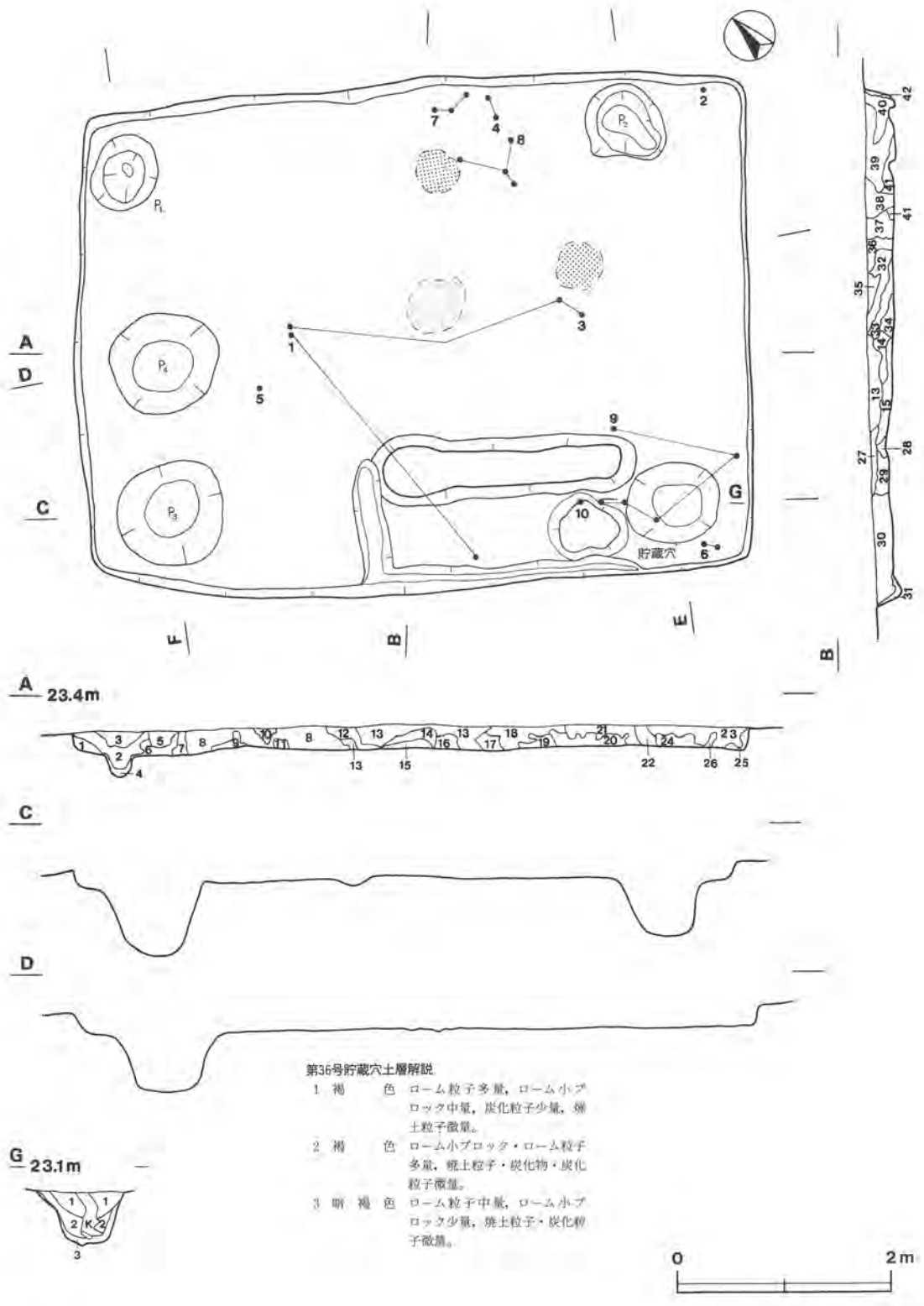
炉 中央にある。規模は，長径63cm，短径51cmで，楕円形の地床炉，炉床は，掘り窪められてなく床面が火熱を受け赤変硬化している。

覆土 上層から下層までローム小ブロック，ローム粒子を含む黒色土，暗褐色土，褐色土がブロック状に堆積している。上層から下層まで同時期の土師器片や縄文式土器片が出土している。特に，床面上から5cmの高さの範囲内から土師器片が多く出土している。

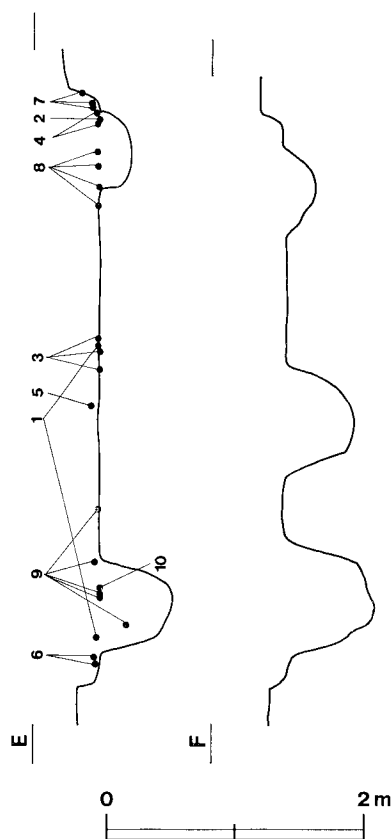
遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第89図-5・6である。床面直上の遺



第89图 第36号住居迹出土遗物实测图



第90図-1 第36号住居跡実測図



第36号住居跡土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。	16	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・暗褐色土極微量。
2	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。	17	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・黒褐色土微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
3	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。	18	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
4	褐色	ローム粒子微量, ローム大ブロック・炭化粒子極微量。	19	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。
5	極暗褐色	ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。	20	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
6	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量。	21	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
7	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量。	22	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
8	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。	23	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
9	黒褐色	ローム粒子微量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。	24	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
10	黒褐色	ローム粒子微量。	25	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
11	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。	26	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
12	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。	27	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
13	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。			
14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。			
15	暗褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。			

28	黒褐色	ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。	37	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
29	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。	38	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量。
30	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。	39	黒褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
31	褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, 炭化粒子・黒褐色土極微量。	40	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
32	褐色	ローム粒子少量, ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。	41	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
33	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。	42	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
34	褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土小ブロック極微量。			
35	暗褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。			
36	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。			

第90図-2 第36号住居跡実測図

物は、4の土師器環、7の埴、8の鉢が北東壁の中央寄りから出土している。2の環は正位の状態東コーナーから出土している。6の埴、9・10の甕は南コーナー付近から出土している。1の環は正位の状態南東壁の中央付近から出土している。3の環は中央の北東寄りから出土している。3は中央から北西側で出土したものと接合している。

所見 堆積状態をみると上層から下層までローム小ブロック、ローム粒子を含む層がブロック状に堆積していることや床面上から下層にかけて土師器の細片が多いことから、人為的に埋め戻さ

れる過程で遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第89図 1	坏 土 師 器	A 13.1 B 6.4 C 3.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P448 95%
2	坏 土 師 器	A 14.1 B 6.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P449 100% 二次焼成
3	坏 土 師 器	A 14.4 B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P450 40% 外面摩耗
4	坏 土 師 器	A [16.0] B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P451 40%
5	坏 土 師 器	A [14.6] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P452 20%
6	埴 土 師 器	A [15.4] B 7.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P453 60%
7	埴 土 師 器	A [16.4] B (8.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 オリーブ褐色 普通	P454 30% 二次焼成
8	鉢 土 師 器	A [19.0] B (12.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P455 30% 二次焼成
9	甕 土 師 器	A 19.8 B (9.8)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P456 20%
10	甕 土 師 器	B (1.9) C 9.0	底部片。平底。	底部外面へラ削り、内面へラナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P457 5%

第37号住居跡 (第91・92図)

位置 J7a2区。

規模と平面形 長軸2.69m、短軸2.27mの隅丸長方形。

長軸方向 N-36°-E。

壁 壁高は32~47cm。ほぼ垂直に立ち上がっている。

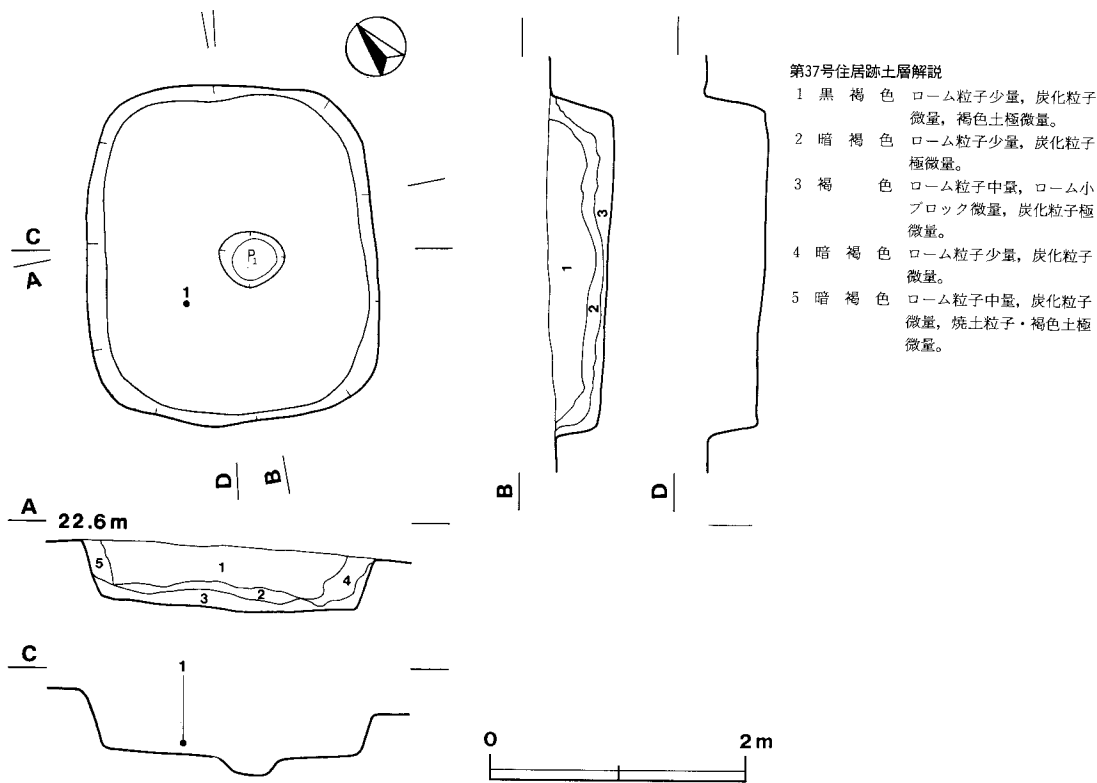
床 床面は、ほぼ平坦であるが、踏み固められた面はみられない。

ピット P₁は、径52cm、深さ13cmで、性格不明である。

覆土 基本的に3層からなり、壁際から床面にかけて3層が堆積する。次に2層、1層の順で堆積する。1層から3層上面にかけて同時期の土師器片が散布している。覆土中から縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第92図-1の甕である。1は西コーナ付近の3層上面から出土している。床面直上から出土した遺物はみられない。

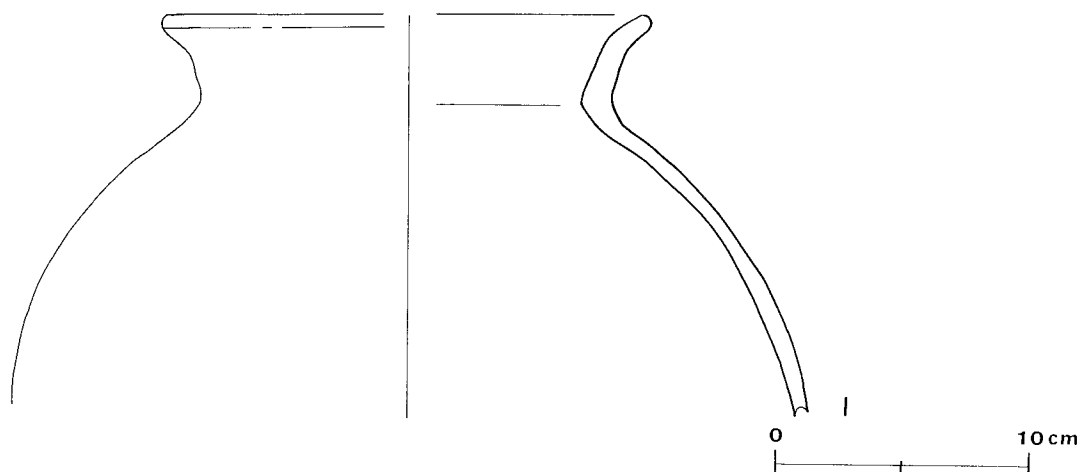
所見 覆土の堆積状態をみると、遺物は3層上面から1層にまたがって出土していることから、3層が自然に堆積した後に、遺物が流れ込んだものと思われる。本跡は、炉が確認されず、床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると、住居跡とすることは困難であるが、この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第91図 第37号住居跡実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 1	甕 土師器	A [19.0] B (16.0)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P459 30%



第92図 第37号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡 (第93・94図)

位置 16d₆区。

規模と平面形 長軸2.92m，短軸2.38mの長方形。

長軸方向 N-39°-W。

壁 壁高は9～17cmで，ほぼ外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，踏み固められた面はみられない。

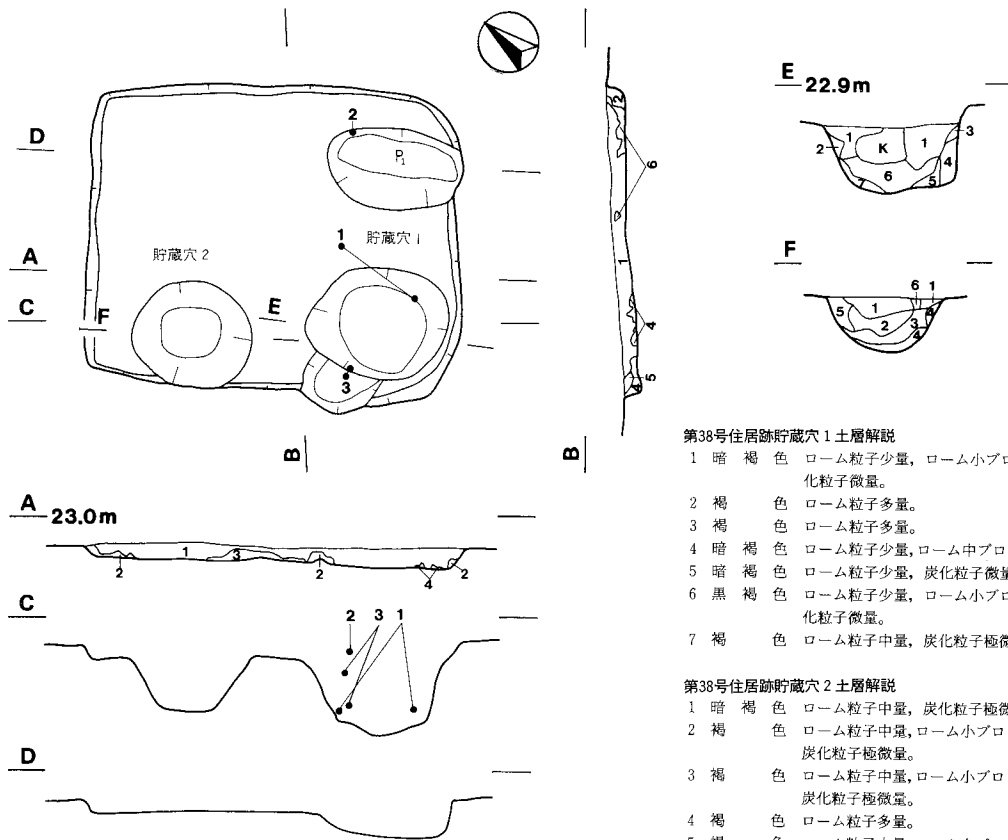
ピット P₁は，東コーナーに付設されており，長径110cm，短径55cm，深さ19cmの楕円形で，断面形はU字状である。性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は，南コーナーに付設され，西側に木の根による攪乱を受けている。長径115cm，短径89cm，深さ60cmの楕円形で，断面形はU字状である。貯蔵穴2は，西コーナー寄りに付設されている。長径95cm，短径85cm，深さ54cmの楕円形で，断面形はU字状である。

覆土 1層の暗褐色土層が大部分をしめる。住居跡中央の床面上に2・3層が薄く堆積する。上層から下層にかけて同時期の土師器片が散布している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第94図-2である。床面直上から出土した遺物は細片である。1の土師器坏，3の甕は貯蔵穴1の覆土内から出土している。1は正位の状態で出土している。3は貯蔵穴1の上面から出土したものと接合している。

所見 本跡は，炉が確認されず，床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると，住居跡とすることは困難であるが，この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。また，規模は小規模であるにもかかわらず，貯蔵穴のしめる割合が非常に大きい。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第38号住居跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 4 明褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極微量。

第38号住居跡貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量。
- 3 褐色 ローム粒子多量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量。
- 6 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子極微量。

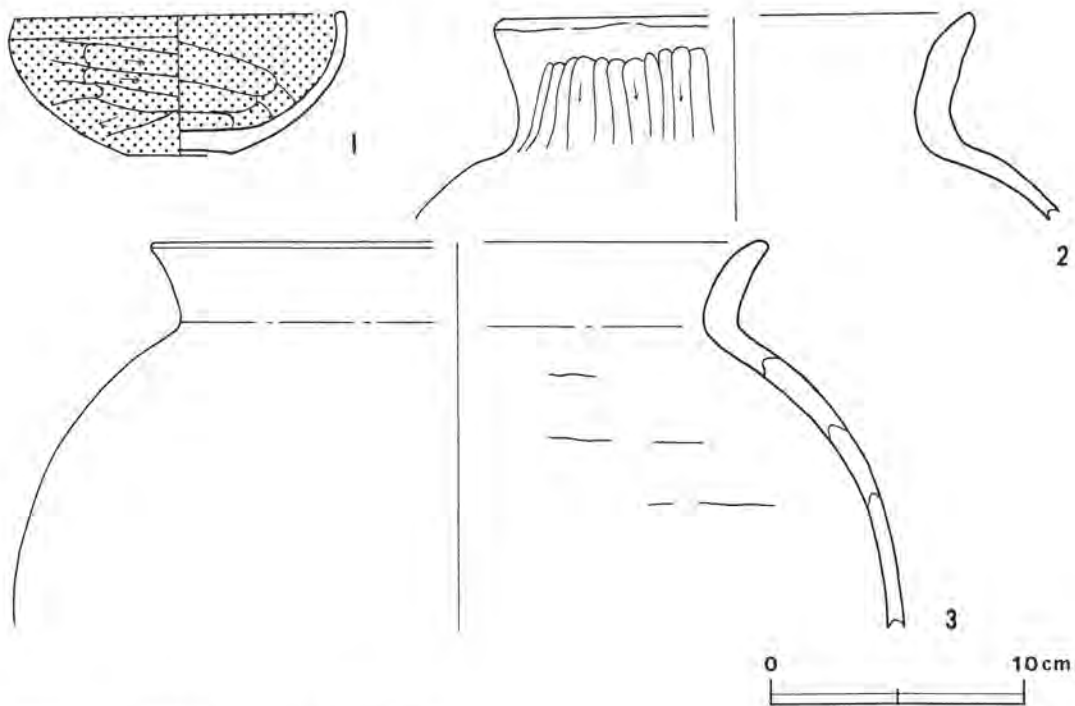
第38号住居跡貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量。
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子少量。

第93図 第38号住居跡実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	坏土師器	A 12.8 B 5.5 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ，内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P461 95%
2	甕土師器	A [19.0] B (7.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P464 10%
3	甕土師器	A [24.4] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ，内面へラナデ。頸部外面へラ削り，口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P463 10%



第94図 第38号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡（第95・96図）

位置 J2b₇区。

規模と平面形 長軸2.60m，短軸2.54mの方形。

長軸方向 N-3°-W。

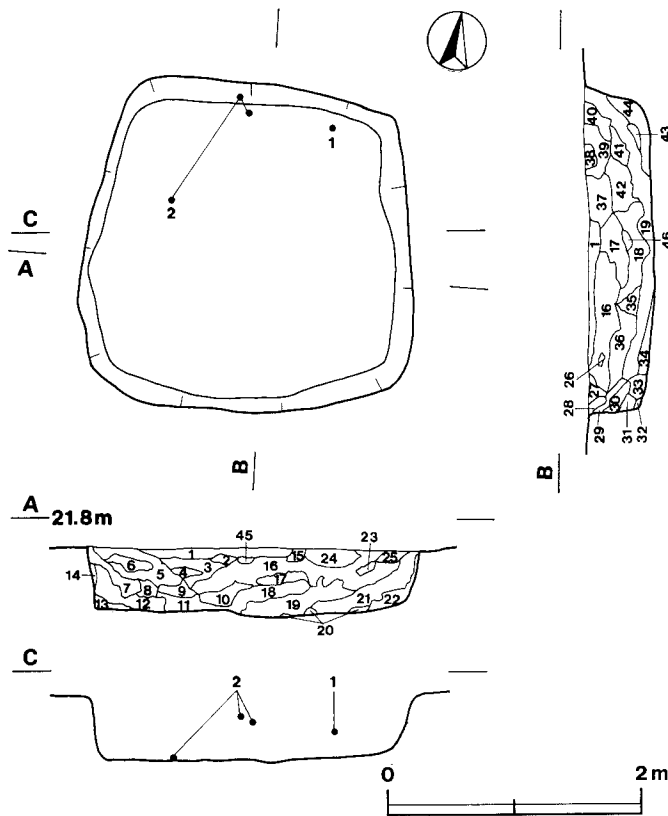
壁 壁高は48~52cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，踏み固められた面はみられない。

覆土 壁際から黒褐色土と暗褐色土が流れ込んだ下層がみられ，上層から中層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含んだ層がブロック状に堆積する。中層から下層に同時期の土師器片が散布する。覆土中から縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第96図-1の土師器坏，2の鉢である。1は北壁際の北東コーナー付近から出土している。2は住居跡中央の西側から出土し，北壁際で出土した遺物と接合している。床面直上から出土した遺物はない。

所見 本跡は，炉が確認されず，床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると，住居跡とすることは困難であるが，この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。遺物は少量出土したにすぎず，床面から浮いていることから，流れ込んだ遺物と思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

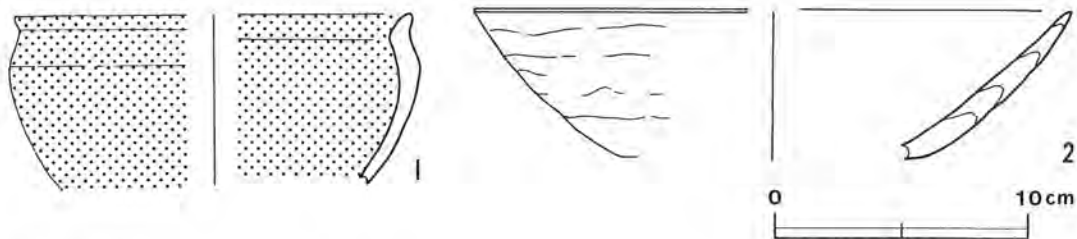


第39号住居跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・黒褐色土極微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒褐色土極微量。
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・黒褐色土極微量。
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒褐色土中ブロック少量。
- 11 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・黒褐色土極微量。
- 13 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 暗褐色土極微量。
- 14 黄褐色 ローム粒子微量。
- 15 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量, 暗褐色土極微量。
- 16 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量, 黒褐色土極微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。

- 18 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。
- 19 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量, 黒褐色土極微量。
- 20 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 21 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 22 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・褐色土極微量。
- 23 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 24 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 25 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・褐色土極微量。
- 26 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 27 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 28 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。
- 29 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・暗褐色土・黒褐色土極微量。
- 30 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。
- 31 褐色 黒褐色土小ブロック中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量。
- 32 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 33 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・褐色土極微量。
- 34 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 35 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒褐色土少量, 炭化粒子極微量。
- 36 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子・黒褐色土極微量。
- 37 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック微量, ローム中ブロック・炭化粒子極微量。
- 38 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 39 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・褐色土極微量。
- 40 褐色 ローム粒子少量, ローム大・小ブロック微量。
- 41 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒褐色土中ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 42 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極微量。
- 43 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 黒褐色土極微量。
- 44 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 45 暗褐色 ローム粒子中量, 黒褐色土小ブロック少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 46 褐色 ローム粒子。黒褐色土中ブロック少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量。

第95図 第39号住居跡実測図



第96図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	埴 土器	A [15,6] B (6,4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P465 5%
2	鉢 土器	A [23,5] B (5,8)	体部から口縁部の破片。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部内・外面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P466 5% 内・外面煤付着

第40号住居跡（第97・98図）

位置 C8e₉区。

規模と平面形 長軸8.05m、短軸7.88mの方形。

主軸方向 N-41°-E。

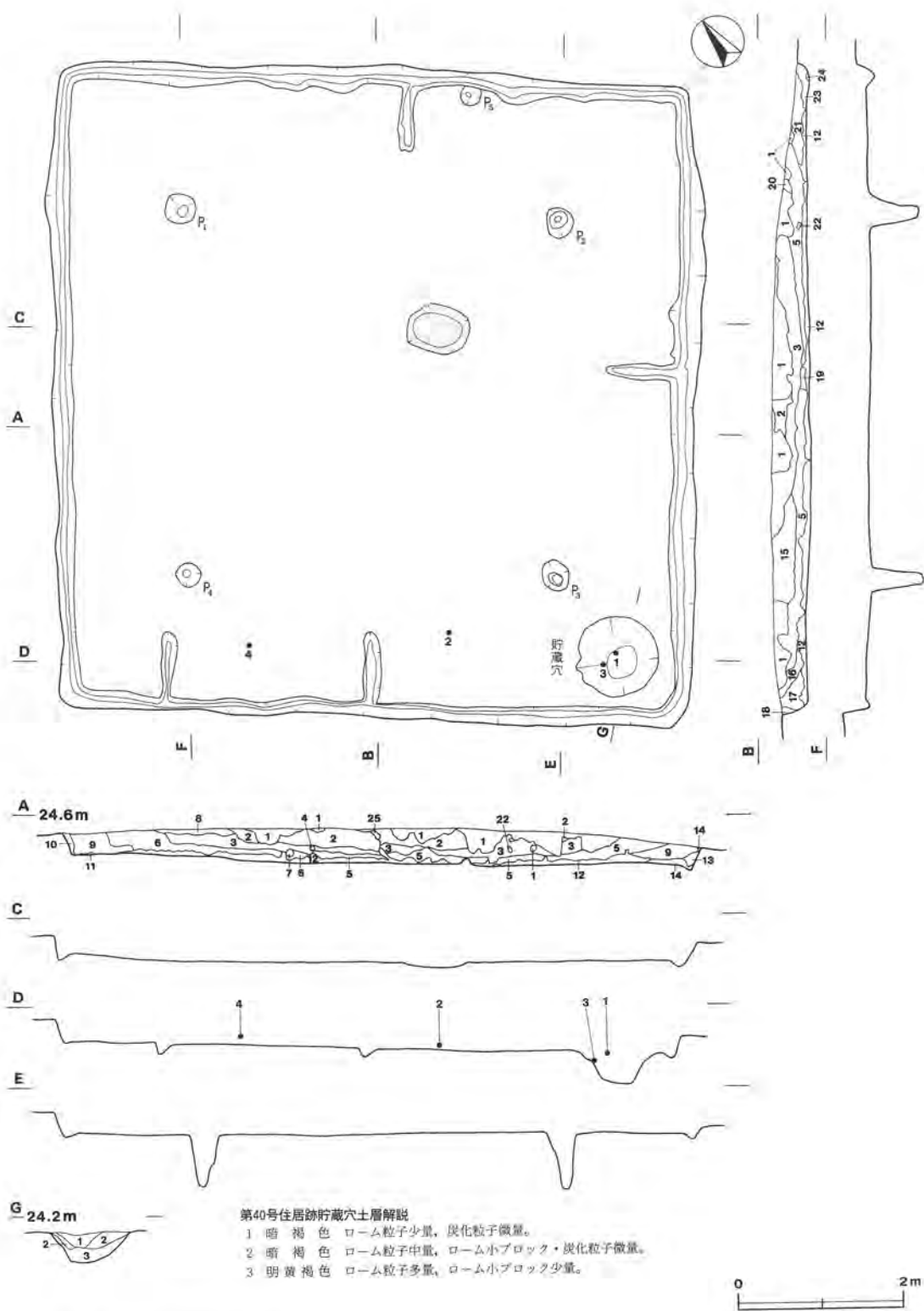
壁 壁高は5~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がっているが、耕作による攪乱のため、壁の上面はわずかに残る程度である。壁溝はほぼ全周しており、上幅9~23cm、深さ2~11cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、踏み固められた面はみられない。間仕切り溝は、幅18~21cm、深さ10~16cmで、中央に向かって北東壁から1条、南東壁から1条、南西壁から2条みられる。

ピット 5か所。P₁~P₄は、径31~41cm、深さ62~70cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。P₅は、性格不明である。

第40号住居跡土層解説

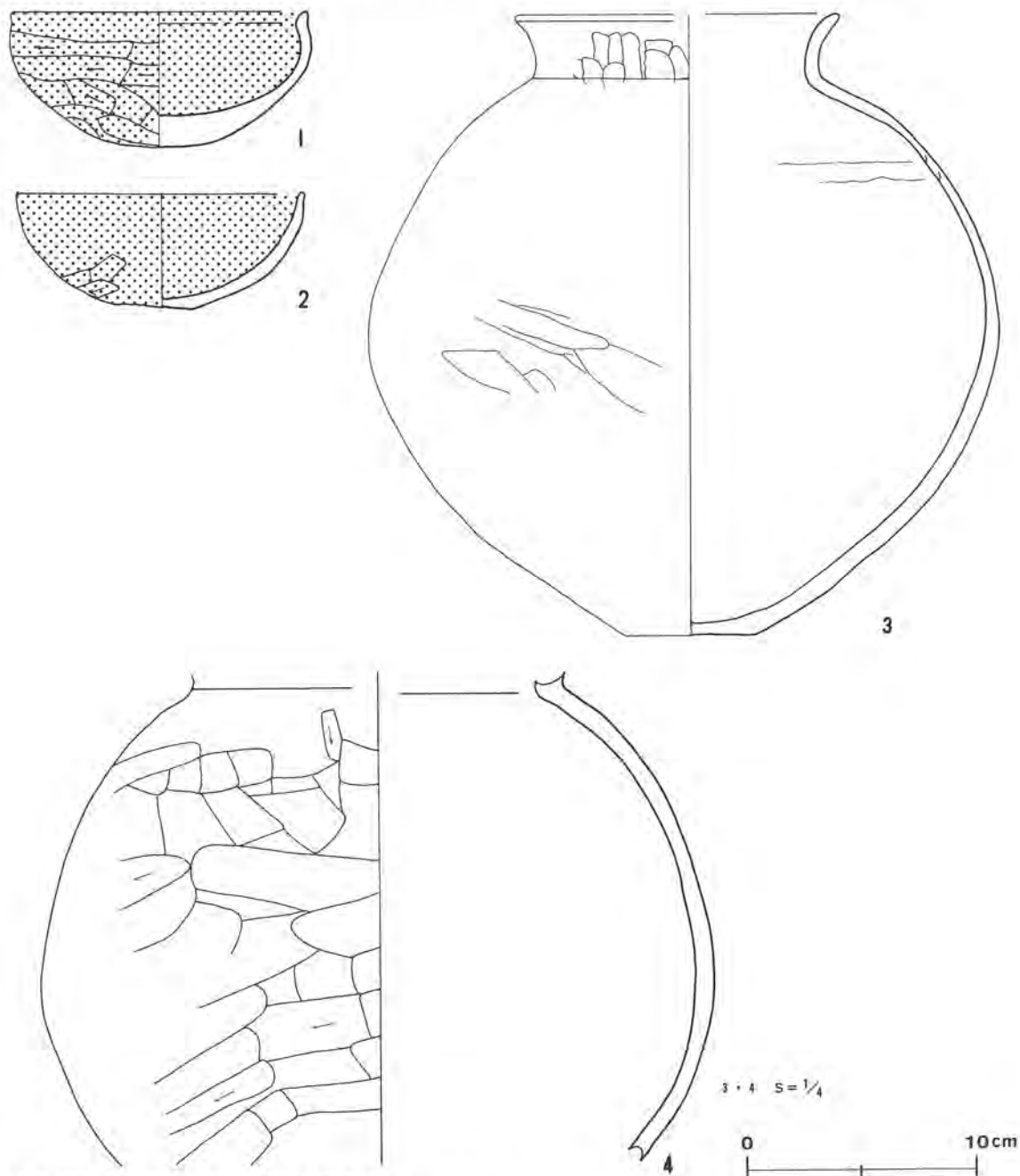
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物微量。	13 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量。	14 明褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量。
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量。	15 黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。
4 明褐色	ローム粒子多量、炭化粒子極微量。	16 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量。
5 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量。	17 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量、ローム小ブロック極微量。
6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量、ローム小ブロック極微量。	18 明褐色	ローム壁。
7 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子極微量。	19 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、焼土粒子極微量。
8 黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。	20 黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量。
9 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量。	21 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量。
10 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子極微量。	22 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化粒子極微量。
11 明褐色	ローム。	23 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
12 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化粒子極微量。	24 褐色	ローム粒子微量、ローム小ブロック極微量。
		25 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子極微量。



第97図 第40号住居跡実測図

貯蔵穴 南コーナーに付設されており、長径103cm、短径101cm、深さ40cmの円形で、断面形はU字状である。

炉 ほぼ中央にある。長径78cm、短径60cmの楕円形で、床面を6cm程皿状に掘り窪めた地床炉である。炉内覆土は10層からなり、1層黒褐色、2～5層褐色、6層暗褐色、7・8層褐色、9層暗褐色、10層褐色であり、焼土粒子を含む。炉床は火熱を受けわずかに赤変している程度である。



第98図 第40号住居跡出土遺物実測図

覆土 上層から中層にかけて耕作により部分的に攪乱を受けている。覆土は壁際から流れ込んだ層があるが、基本的に4層からなり、12・5・3・2層の順に堆積する。上層から床面上にかけて同時期の土師器片、須恵器片が散布する。覆土中から炭化種子、縄文式土器片が出土している。南コーナー付近の下層で焼土塊がみられる。

遺物 覆土中から出土した土師器片で実測できたのは第98図-4である。南西壁の中央寄りで床面直上5cmの高さから、2の土師器坏は斜位の状態で出土している。3の甕は横位の状態で貯蔵穴上面から出土している。1の坏は正位の状態で貯蔵穴内から出土している。炭化種子は北西壁の西コーナー寄りの床面直上から下層にかけて5点出土している。

所見 堆積状態をみると焼土塊は下層中に検出されることから、埋没する過程で投げ込まれたものと思われる。当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	坏 土師器	A 13.0 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P468 100%
2	坏 土師器	A 12.8 B 5.6 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P467 100%
3	甕 土師器	A [19,1] B 36.8 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P470 85%
4	甕 土師器	B (21.8)	体部破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後へラナデ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 ぶい黄橙色 普通	P471 20%

第41号住居跡（第99・100図）

位置 D8i₄区。

規模と平面形 長軸5.50m、短軸4.46mの長方形。

主軸方向 N-48°-W。

壁 壁高は28~34cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。壁溝は、南西壁を除きほぼ半周しており、上幅9~21cm、深さ2~8cmで、断面形はU字状である。

床 凸凹であり、中央部がよく踏み固められている。馬の背状の高まりは、幅約26cm、高さ約10cmで、南東壁中央寄りに馬蹄形状にみられる。位置や形態から出入口施設と思われる。間仕切り溝は、幅21~28cm、深さ7~10cmで、中央に向かって北東壁から2条みられる。P₂付近に火熱を受け赤変硬化した床面が2か所ある。

ピット 7か所。P₁~P₄は、径22~38cm、深さ15~30cmで、規模や配列から支柱穴と考えられ

る。P₅は、径34cm、深さ28cmで、規模や配置から梯子ピットと思われる。P₆、P₇は、径18cm、深さ23cmで、性格不明である。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径86cm、短径74cm、深さ40cmの楕円形で、断面形はU字状である。

炉 中央から北西寄りにある。長径75cm、短径66cmで、床面を5cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は8層からなり、1層にぶい赤褐色、2層褐色、3・4層赤褐色、5・6層明赤褐色、7層にぶい赤褐色、8層褐色で焼土ブロック、焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック、ローム粒子を含む黒褐色土、暗褐色土、褐色土がブロック状に堆積している。中層から下層にかけて同時期の土師器片や縄文式土器片、石鏃が出土している。住居跡中央から北側の中層に少量の粘土塊がみられる。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第100図-1～3である。床面直上の遺物はいずれも細片である。4の土師器甕は北コーナー付近から出土している。床面直上から5の球状土錘、6の勾玉、7・8の白玉が出土している。5は北コーナー付近から出土している。6・8は南コーナー付近から出土している。7は住居跡中央の東側から出土している。

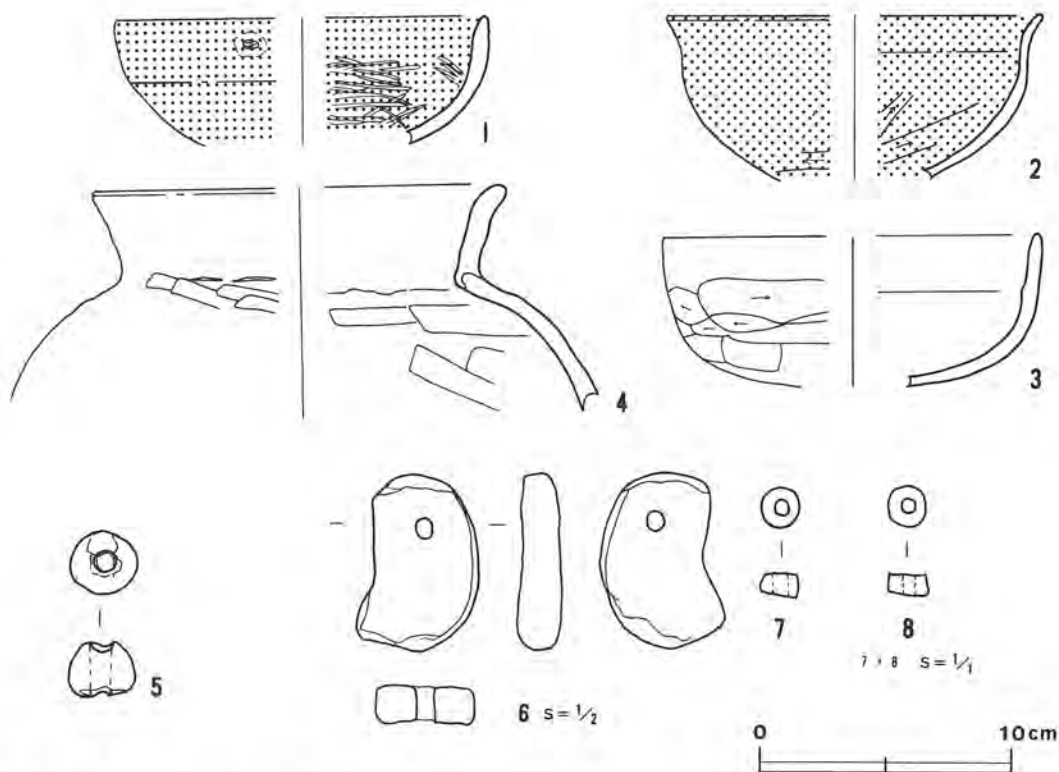
所見 堆積状態をみると上層から下層にかけてローム小ブロック・ローム粒子を含むブロック状の層が堆積することから、当住居跡は、人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	坏 土師器	A [14.7] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へら削り後ナデ、内面雑なへら磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P472 30% 稗痕
2	坏 土師器	A [15.0] B (6.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P473 25%
3	坏 土師器	A [15.0] B (6.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 ぶい褐色 普通	P474 40%
4	甕 土師器	A [16.4] B (9.2)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。頸部外面へら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P475 10%

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第100図5	球状土錘	2,2	2,1		0,9	(11,6)	SI41	DP20

図版番号	器	種	計測値					石質	出土地点	備考
			最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第100図6	勾	玉	2.4	1.6	0.5		3.7	滑石	SI41	Q68
7	臼	玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑石	SI41	Q69
8	臼	玉	0.5	0.5		0.2	0.1	滑石	SI41	Q70



第100図 第41号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡（第101～104図）

位置 D8c₂区。

規模と平面形 長軸7.80m、短軸7.48mの方形。

主軸方向 N-45°-W。

壁 壁高は16～28cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は、全周しており、上幅9～21cm、深さ2～12cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。馬の背状の高まりは、幅約76cm、高さ6cmで、南東壁の中央寄りに壁に沿ってみられる。間仕切り溝は、幅29～32cm、深さ6～14cmで、

中央に向かって北東壁から1条、南東壁から3条みられる。南東壁の中央にある間仕切りは、馬の背状の高まりと直行することから、出入口施設に関係するものと思われる。

ピット 5か所。P₁～P₄は、径51～60cm、深さ60～76cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は、性格不明である。

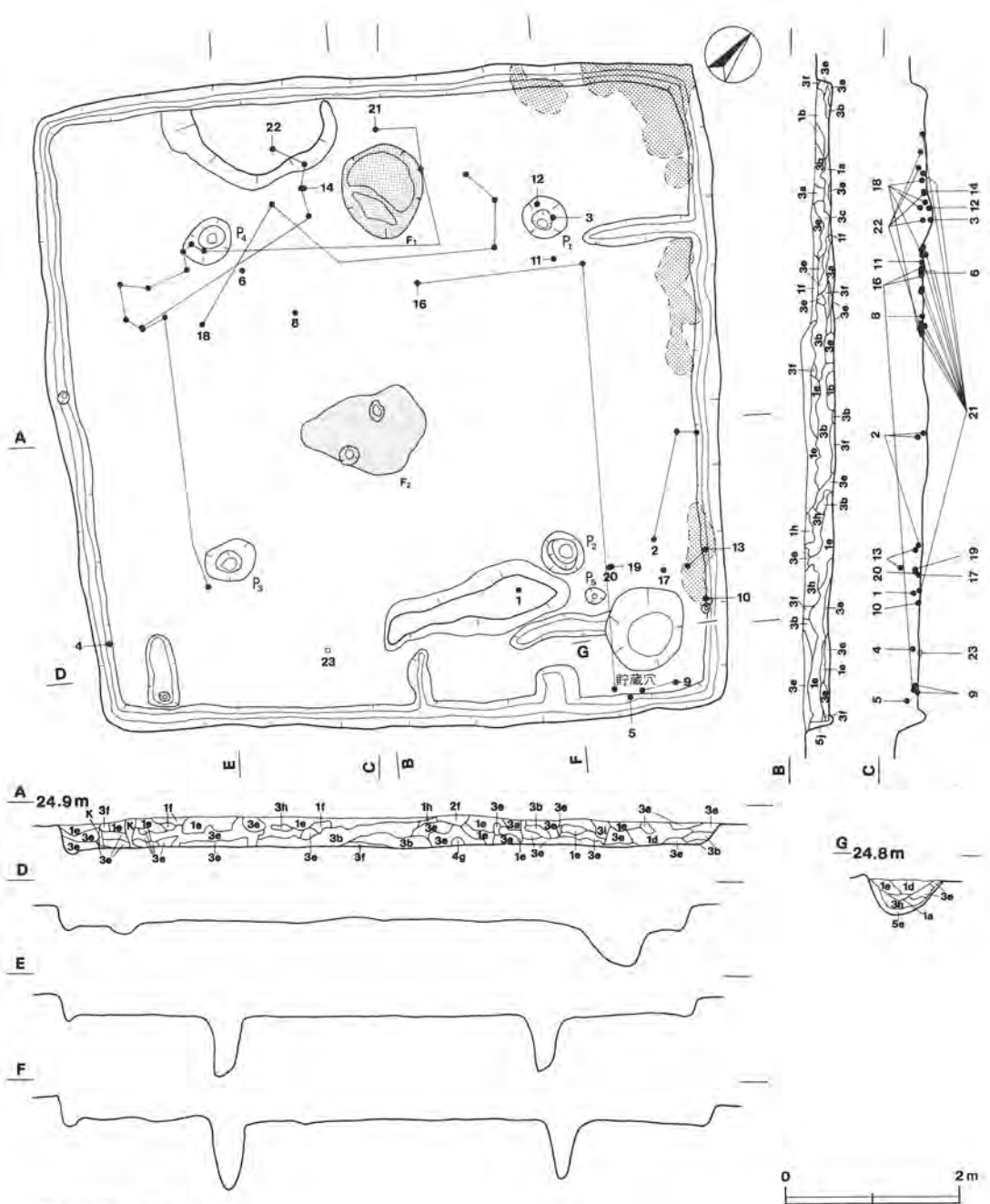
貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径102cm、短径93cm、深さ48cmの楕円形で、断面形はU字状である。貯蔵穴内に粘土塊がみられる。

炉 2か所。北西壁寄りをF₁、中央部寄りをF₂とした。F₁の規模は、長径111cm、短径95cmで、床面を8cm程皿状に掘り窪めた楕円形の地床炉である。炉内覆土は8層からなり、1層黄褐色、2層暗褐色、3層褐色、4層黄褐色、5層褐色、6・7層赤褐色、8層褐色で焼土ブロック、焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。F₂の規模は、長径146cm、短径95cmで、床面を6cm程皿状に掘り窪めた不整楕円形の地床炉である。炉内覆土は8層からなり、1・2層褐色、3層赤褐色、4層暗褐色、5～8層褐色で焼土ブロック、焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック、ローム粒子を含む黒褐色土、暗褐色土、褐色土がブロック状に堆積している。中層から下層にかけて同時期の土師器片、縄文式土器片が出土している。北コーナーから北東壁にかけての床面上に焼土塊、貯蔵穴周辺に粘土塊がみられる。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第102図-4～7・10・11・15・16である。床面直上の遺物は、12の土師器坏がP₁付近から出土している。18の甕は住居跡中央の北側から出土している。9の坏、19・20の甕は東コーナー付近から出土している。2・13の坏は北東壁の東コーナー寄りから出土している。13は焼土塊の中から正位の状態で出土している。1の坏は住居跡中央の東側から逆位の状態で出土している。13の甕は南西壁の西コーナー寄りから出土している。8の坏は住居跡中央の西側から出土している。14の塊、22の甕は北西壁の西コーナー寄りから出土している。17の甕は貯蔵穴付近の粘土塊の中から出土している。3の坏は正位の状態でP₁の覆土中から出土している。23の砥石は南東壁の南コーナー寄りから出土している。24の砥石は覆土中から出土している。

所見 P₁の覆土内から3の坏が出土していることや床面上に焼土塊があり、上層から下層までブロック状の層が堆積していることから、当住居跡は、遺物の投棄が行われ、その後焼失し、人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

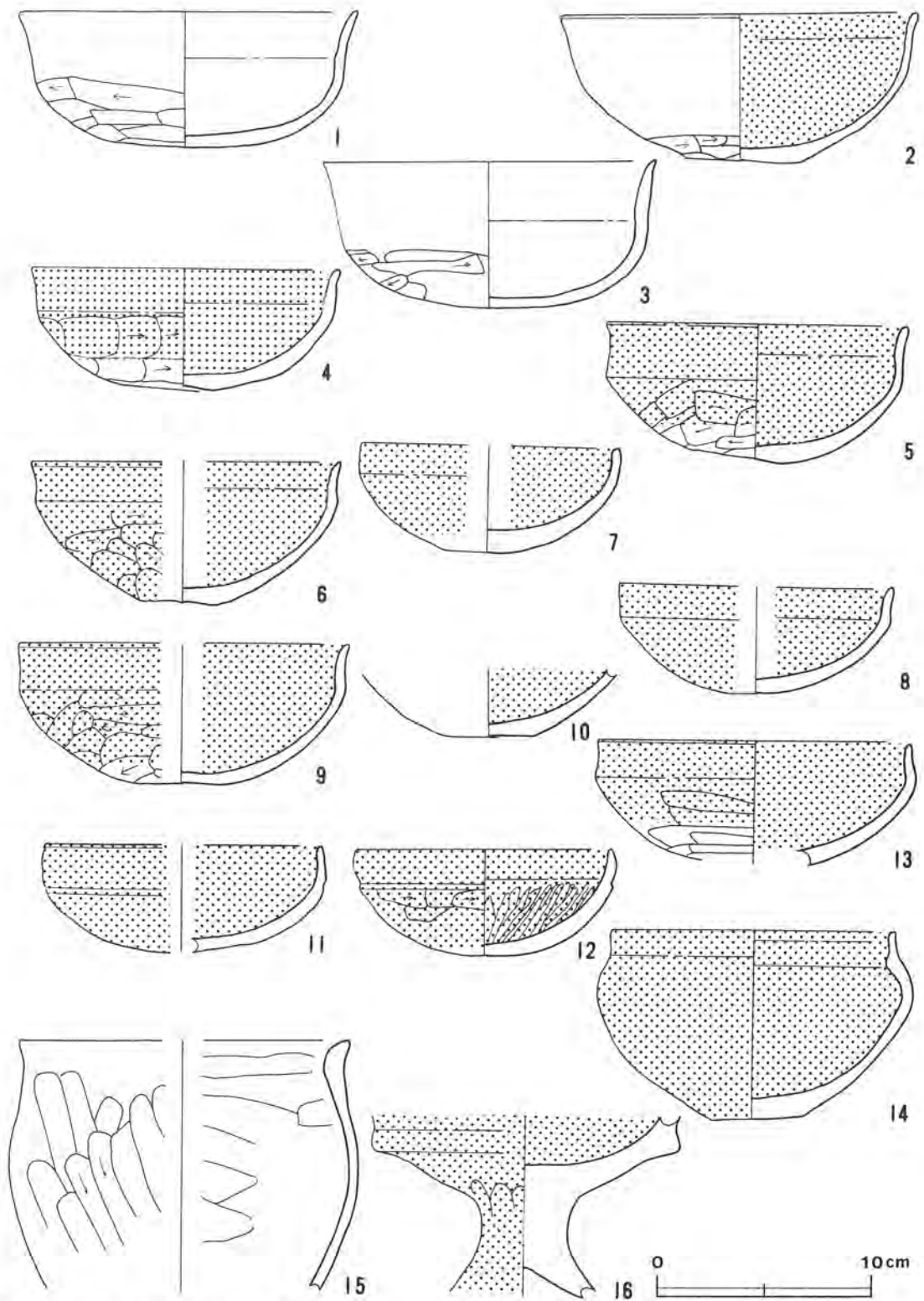


第42号住居跡・貯蔵穴土層表

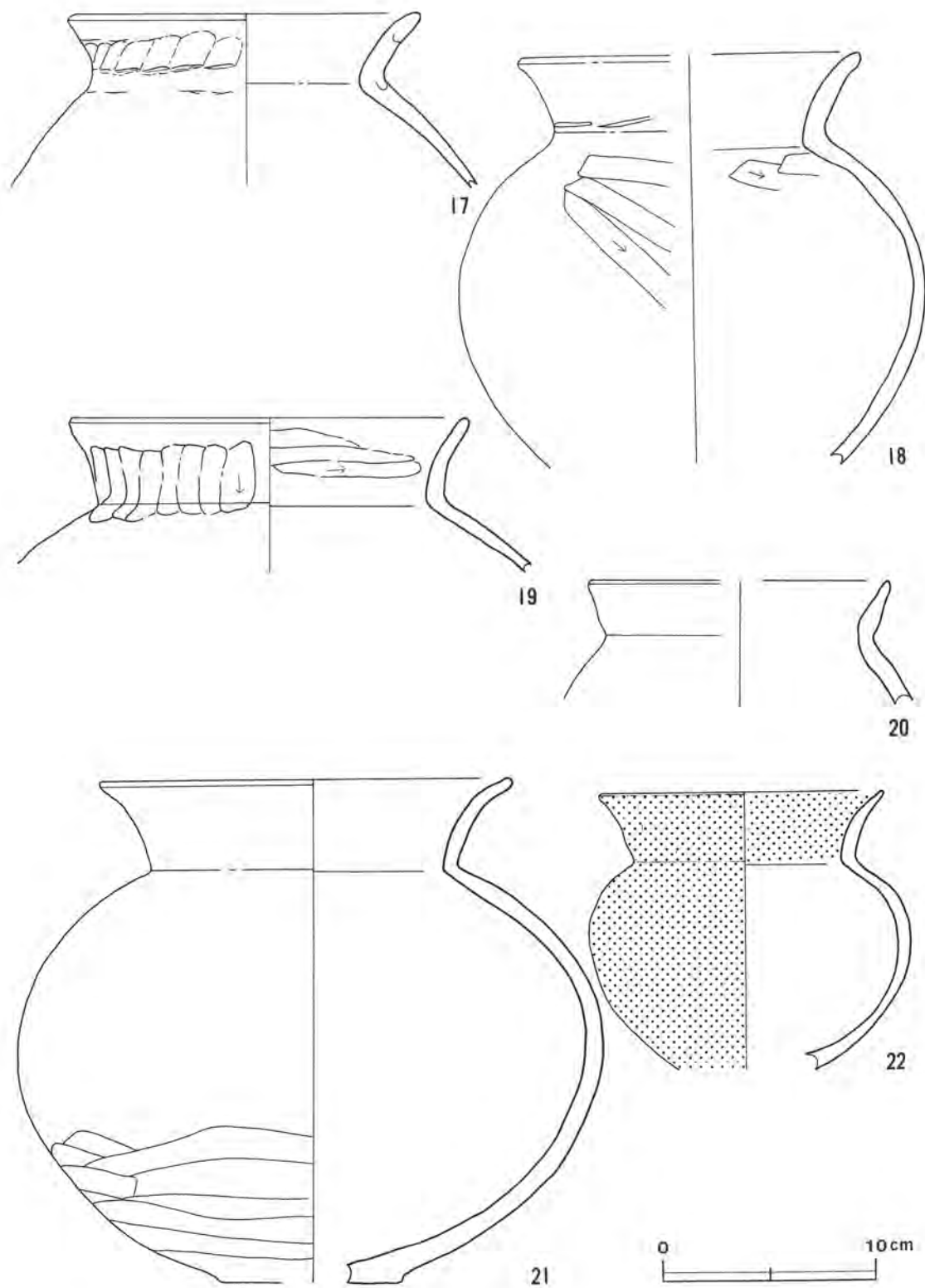
色	調	含 有 物			
1	暗褐色	a	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	f	ローム粒子・炭化粒子
2	黒褐色	b	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	g	炭化粒子
3	褐色	c	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック	h	ロームブロック・ローム粒子
4	明赤褐色	d	ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子	i	ローム粒子
5	黄褐色	e	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子	j	なし

※ 土層図中において同記号を使用したものについては、含有物の分量や特性（粘性、しまり）の相違によって分層している。

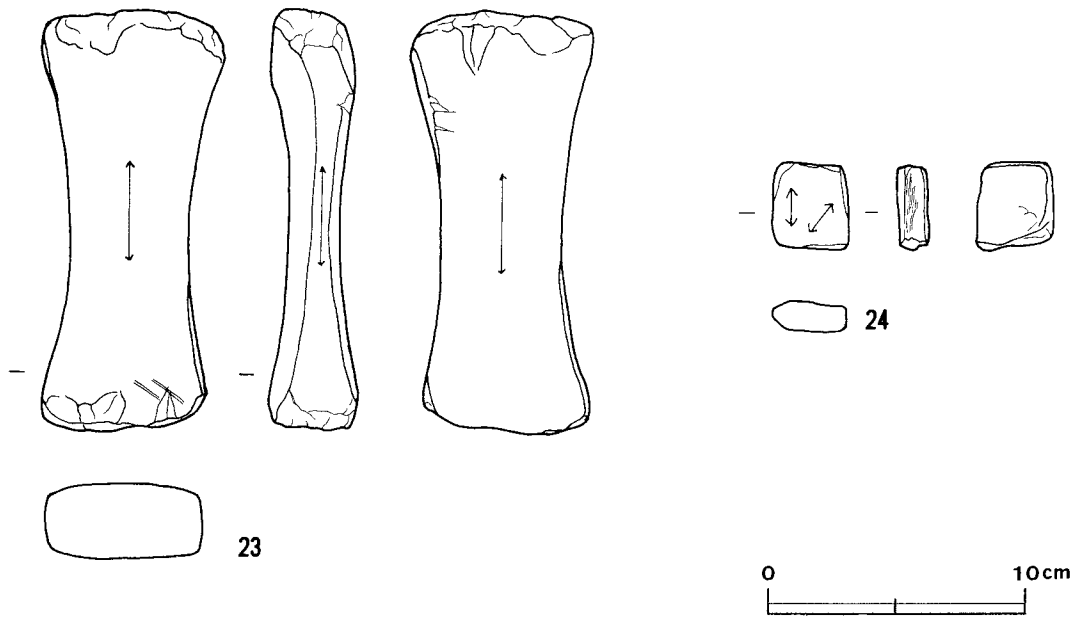
第101図 第42号住居跡実測図



第102図 第42号住居跡出土遺物実測図(1)



第103图 第42号住居跡出土遺物実測図(2)



第104図 第42号住居跡出土遺物実測図(3)

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 土師器	A 15.8 B 6.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P476 100%
2	坏 土師器	A 16.7 B 7.1 C 5.3	底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 普通	P477 95%
3	坏 土師器	A 15.4 B 6.9	底部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P478 85% 二次焼成
4	坏 土師器	A 14.4 B 5.7 C 4.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P479 100%
5	坏 土師器	A 14.0 B 6.3 C 4.1	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P480 95%
6	坏 土師器	A [14.0] B 6.8 C 3.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P481 40%
7	坏 土師器	A [12.1] B 5.1 C 3.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 普通	P482 50% 外面摩耗
8	坏 土師器	A [12.8] B 5.1 C 3.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 普通	P483 50% 外面摩耗

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第102図 9	坏 土 師 器	A [15.5] B 6.6 C [4.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P484 40%
10	坏 土 師 器	B (3.2) C 4.0	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P485 30% 砥石痕
11	坏 土 師 器	A [12.8] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部は内傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P488 30% 内面摩耗
12	坏 土 師 器	A 11.8 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P486 95%
13	坏 土 師 器	A 14.6 B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P487 70%
14	埴 土 師 器	A 12.8 B 8.8 C 4.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜を持つ。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P489 90% 外面煤付着
15	甕 土 師 器	A [15.4] B (11.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P490 25%
16	高 土 師 器	B (8.5)	脚部から坏部下位の破片。脚部は円柱状で、やや膨らみを持つ。坏部は外傾しながら立ち上がり、強い稜を持つ。	脚部外面へラナデ、内面ナデ。坏部外面へラナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコ リア・砂粒 赤色 普通	P491 40%
第103図 17	甕 土 師 器	A 16.6 B (8.2)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P494 30%
18	甕 土 師 器	A [16.0] B (19.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P493 25%
19	甕 土 師 器	A 18.9 B (7.5)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。頸部外面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P495 20%
20	甕 土 師 器	A [14.2] B (5.9)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P497 5%
21	甕 土 師 器	A 19.3 B 24.0 C [8.4]	底部欠損。平底。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P492 60%
22	甕 土 師 器	A 13.4 B (13.2)	体部から口縁部の破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面赤彩。外面赤彩痕。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P496 60% 二次焼成

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第104図23	砥 石	16.7	7.2	3.0		420.0	泥 岩	SI42	Q72
24	砥 石	3.4	3.0	1.2		19.6	泥 岩	SI42	Q73

第43号住居跡 (第105・106図)

位置 C9c₂区。

規模と平面形 長軸(2.86)m, 短軸(2.54)mの方形。

長軸方向 N-62°-W。

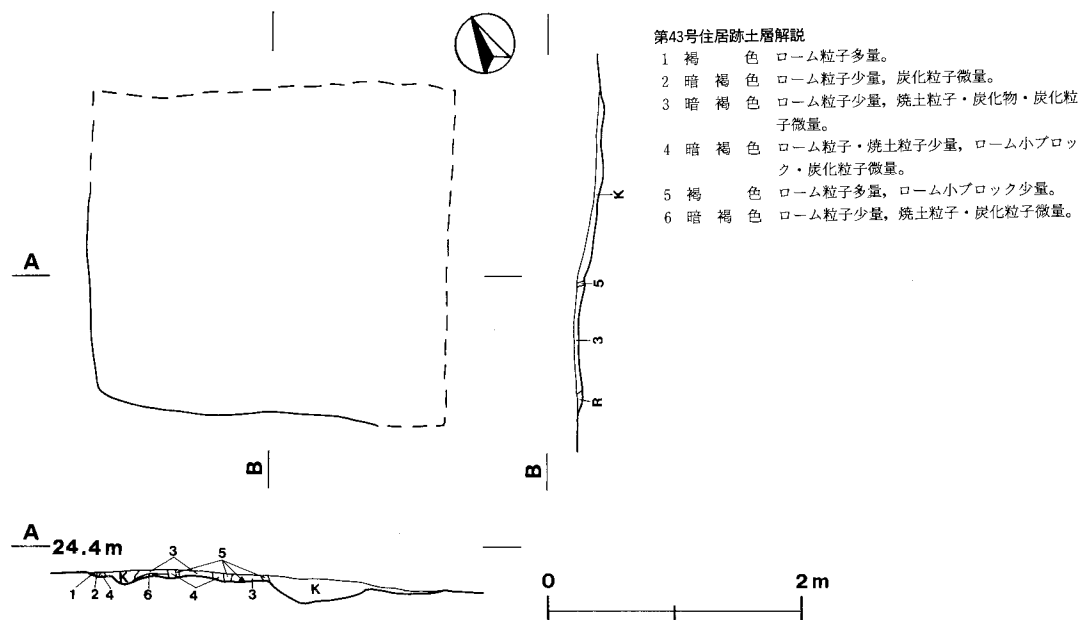
壁 壁高は4~6cmで, 耕作による攪乱を受けているため, 壁はほとんど残存していない。

床 床面は, 耕作による攪乱を受けているため, 西側の3分の1程しか残っていない。踏み固めた面はみられない。北コーナー付近の床面は焼けて赤変している。

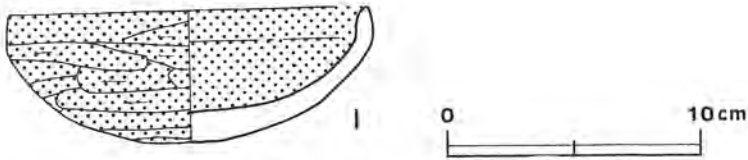
覆土 耕作による攪乱のため, 西側に厚さ5cm程残っているだけである。覆土中から土師器片が少量出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第106図-1の坏である。床面直上の遺物はいずれも細片である。

所見 本跡は, 炉が確認されず, 床面もあまり硬化した面がみられない状況から判断すると, 住居跡とすることは困難であるが, この竪穴遺構の性格が確定できないことから住居跡として扱う。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第105図 第43号住居跡実測図



第106図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 土師器	A 14.0 B 5.2 C 2.0	丸底。体部は内響して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面種ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P498 100%

第44号住居跡（第107図）

位置 C9j₁区。

重複関係 本跡が、第167号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸[3.82]m、短軸[3.68]mの方形。

主軸方向 N-76°-W。

壁 壁高は1～2cmで、耕作による攪乱を受けているため、壁はほとんど残存していない。

床 床面は、凸凹であり、中央部がよく踏み固められている。

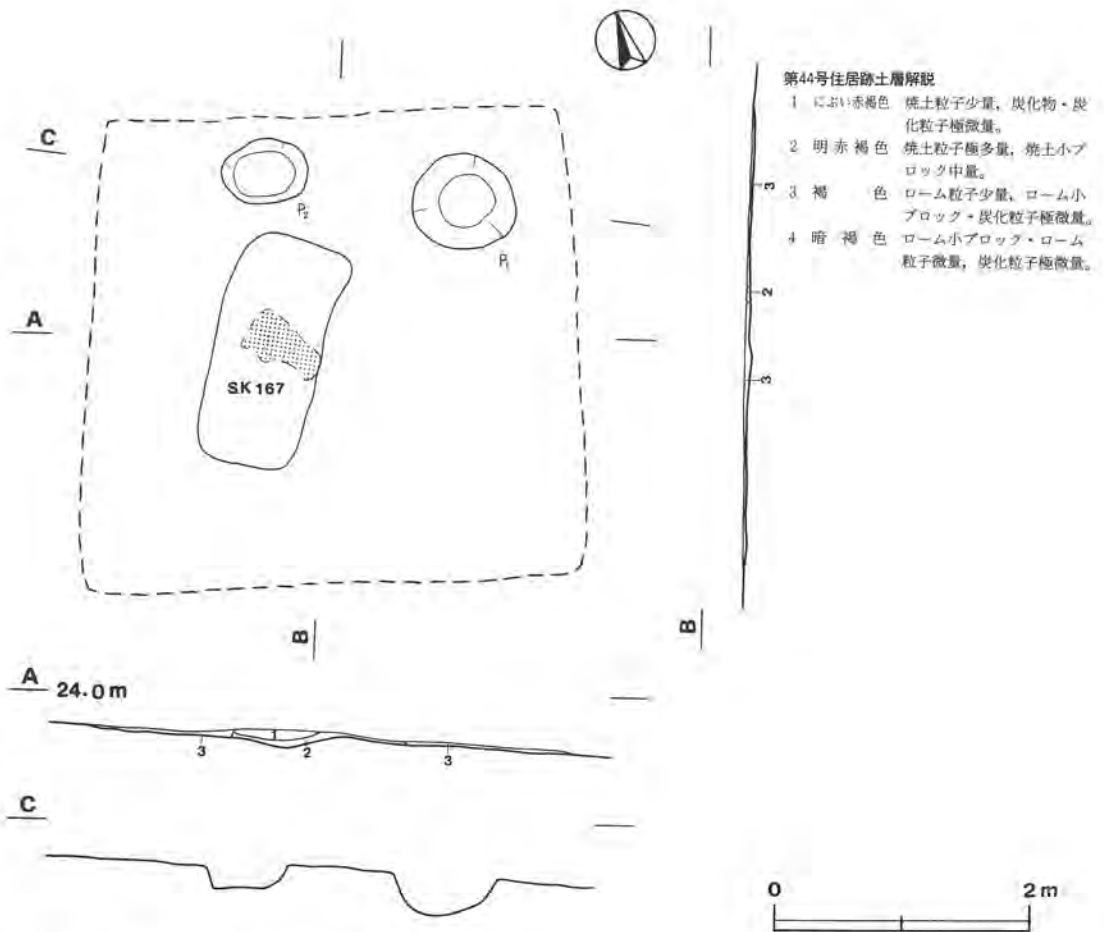
ピット 2か所。P₁、P₂は径67～85cm、深さ20～31cmで、性格は不明である。

炉 ほぼ中央にある。長径71cm、短径[65]cmで、床面を15cm程皿状に掘り窪めた不整形の地床炉である。炉内覆土は3層からなり、1層に赤褐色、2層明赤褐色、3層褐色であり、焼土小ブロック、焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変している。炉は第167号土坑の覆土を掘り込んで構築されている。

覆土 耕作による攪乱を受けているため、4cm程の厚さで残っているだけである。覆土中から同時期の土師器片が極少量と縄文式土器片が出土している。

遺物 覆土中と床面直上から極少量の土師器片は出土しているが、いずれも細片である。

所見 当住居跡は、遺物等から古墳時代中期末のものである。



第107図 第44号住居跡実測図

第45号住居跡（第108～110図）

位置 C9h₁区。

規模と平面形 長軸4.82m、短軸3.36mの長方形。

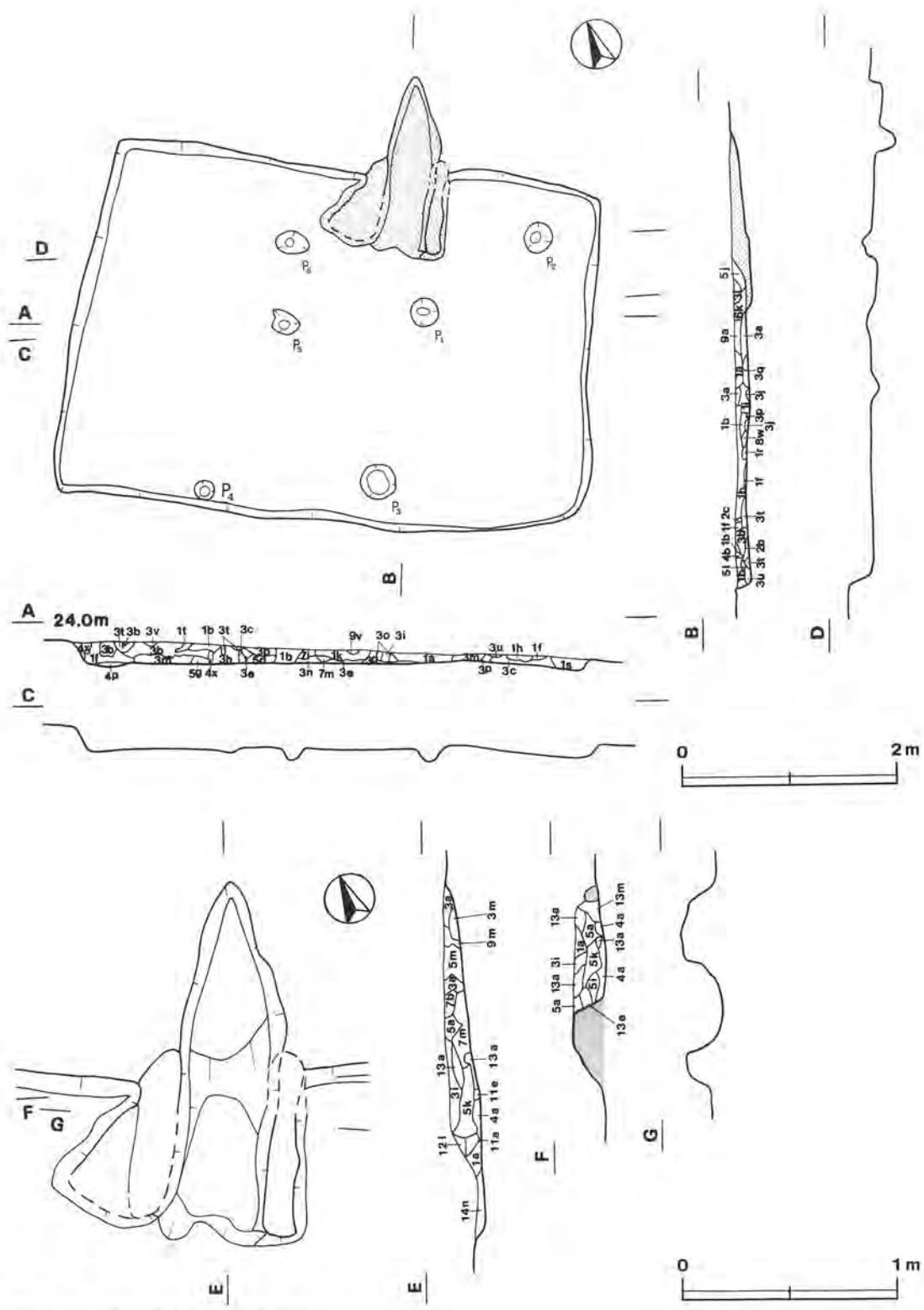
主軸方向 N-25°-E。

壁 壁高は12～24cmで、ほぼ外傾して立ち上がっている。

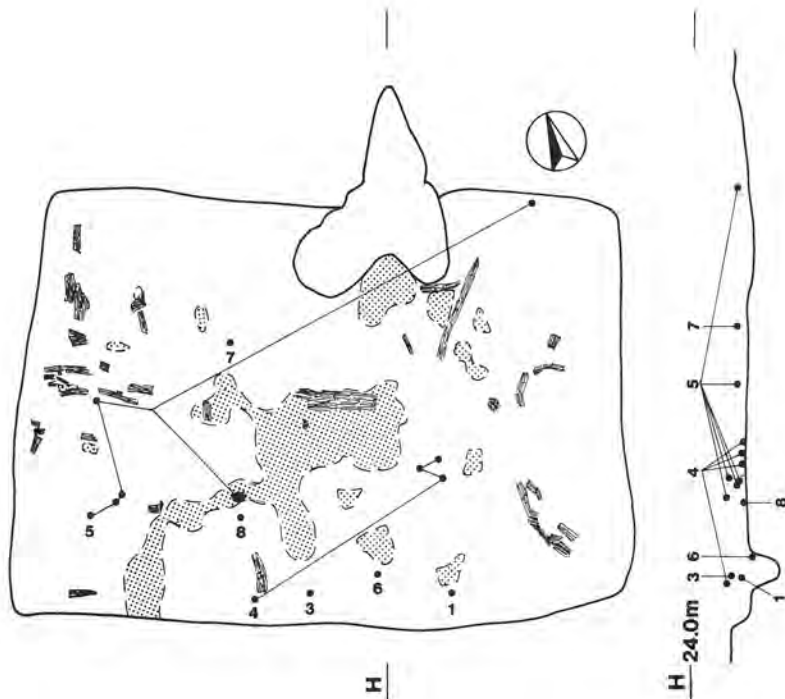
床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。

ピット 6か所。P₁～P₆は、径19～33cm、深さ8～21cm、性格は不明である。

竈 北西壁を約92cm壁外に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は、長さ117cm、幅82cmである。天井部は耕作により攪乱を受け遺存していないが、両袖部は遺存している。燃焼部からは、焼土ブロック、焼土粒子、炭化粒子が検出されている。火床は、床面を8cm掘り窪めており、熱を受け赤変している。煙道は火床から穏やかに外傾して立ち上がり、火熱によりいくぶん赤化した程度である。内壁はいくぶん焼土化している。



第108图 第45号住居跡竈実測图



第45号住居跡・覆土層表

色 調	含	有	物	
1 暗 褐 色	a	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	n	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物
2 黒 褐 色	b	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	o	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・炭化粒子
3 褐 色	c	ローム粒子・焼土粒子・炭化物	p	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子
4 黄 褐 色	d	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子	q	ロームブロック・ローム粒子
5 明 赤 褐色	e	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	r	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子
6 にぶい赤褐色	f	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	s	ロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子
7 赤 褐 色	g	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	t	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子
8 明 赤 褐色	h	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物	u	ロームブロック・炭化粒子
9 灰 褐 色	i	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	v	ロームブロック・ローム粒子・炭化物
10 極 暗 褐色	j	焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子	w	焼土ブロック
11 にぶい黄緑色	k	ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	x	ロームブロック
12 にぶい褐色	l	焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	y	ローム粒子
13 にぶい黄褐色				
14 明 褐 色	m	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子		

※ 土層図において同記号を使用したものについては、含有物の分量や特性（粘性、りおり）の相違によって分層している。

第109図 第45号住居跡遺物出土位置図

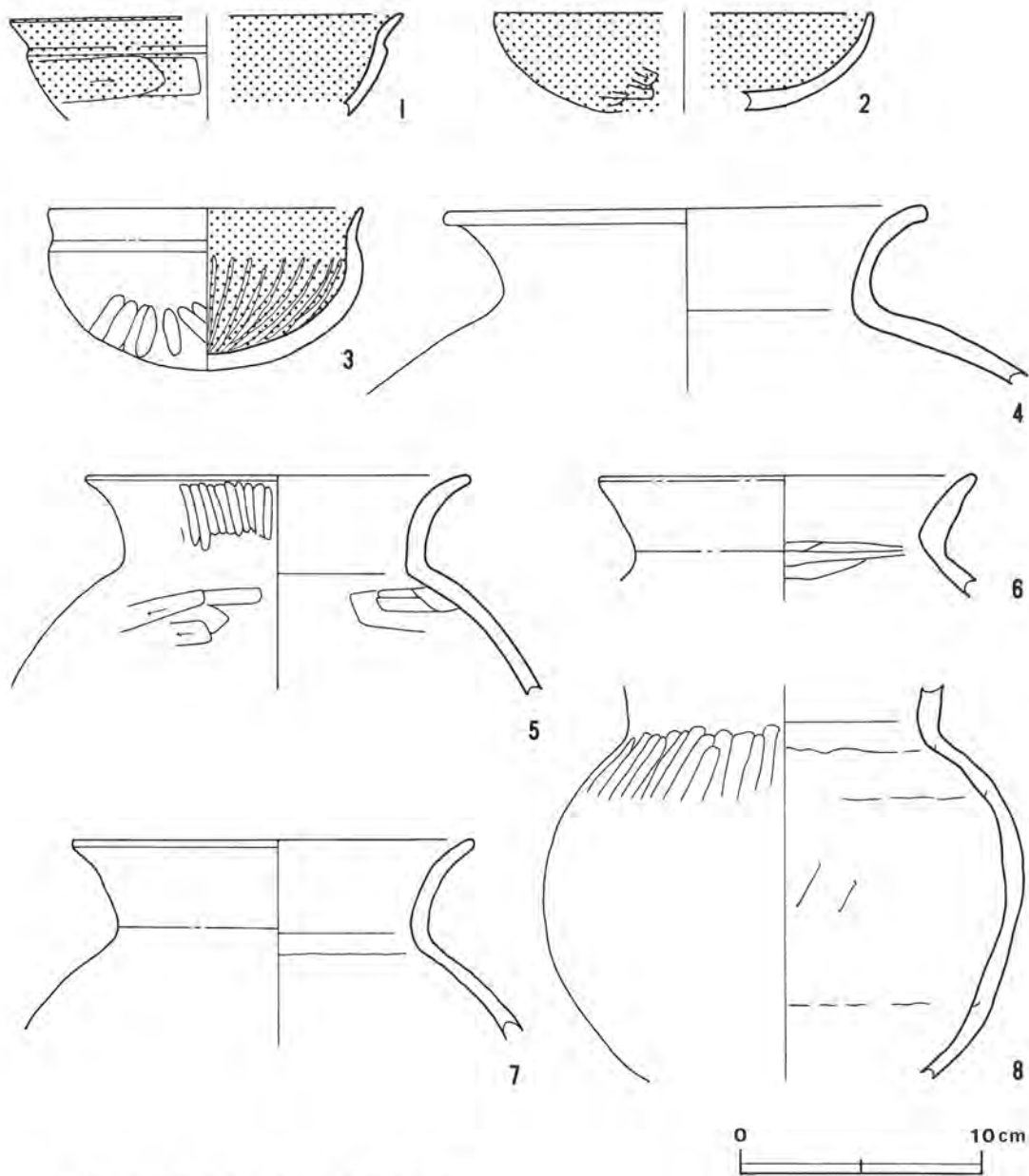
覆土 耕作による攪乱を受けているため、厚さ4～20cm程残っている。覆土は焼土小ブロック、焼土粒子を含む層やローム小ブロック、ローム粒子を含む層がブロック状に堆積している。覆土中から同時期の土師器片が出土している。中央から南西壁にかけて焼土塊がみられ、床面全体から炭化材が出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第110図-1～5・7である。床面直上の遺物はいずれも破片である。8の土師器甕は中央から南西寄りに出土している。6の土師器甕は南西壁の中央付近から出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると焼土小ブロック、ローム小ブロックなどを含む層がブロック状に堆積し、床面上に炭化材などもみられることから、当住居跡は焼失後、人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物等から古墳時代後期前半のものである。

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	坏 土師器	A [16.3] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P499 10%
2	坏 土師器	A [15.7] B (4.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P500 20%
3	埴 土師器	A 13.0 B 6.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へら削り後丁寧なナデ、内面へら磨き。口縁部内・外面横ナデ。内面赤彩。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P501 95% 内面煤付着
4	甕 土師器	A 19.4 B (7.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P502 20%
5	甕 土師器	A 15.9 B (9.3)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部外面横ナデ後へら磨き、内面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P503 30%
6	甕 土師器	A 15.3 B (5.2)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P506 10%
7	甕 土師器	A [17.0] B (8.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P504 5%
8	甕 土師器	B (16.3)	体部破片。体部は球形状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P505 60%



第110图 第45号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡（第111～113図）

位置 D8e9区。

規模と平面形 長軸6.56m，短軸4.72mの長方形。

主軸方向 N-65°-W。

壁 壁高は14～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められている。馬の背状の高まりは，幅約52cm，高さ約6cmで，南東壁の南コーナー寄りに馬蹄形状にみられる。位置や形態から出入口施設と思われる。間仕切り溝は，P₂に向かって北東壁から1条みられる。

ピット 4か所。P₁～P₄は，径32～49cm，深さ31～53cmで，規模や配列から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南コーナーに付設されており，長径84cm，短径68cm，深さ52cmの楕円形で，断面形はU字状である。

炉 中央から北西にある。長径92cm，短径48cmの楕円形で，床面を10cm程皿状に掘り窪めた地床炉である。炉内覆土は9層からなり，1層褐色，2層赤褐色，3層褐色，4・5層黄褐色，6～8層暗褐色，9層黄褐色であり焼土ブロック，焼土粒子を含む。炉床は火熱を受け赤変している。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック，ローム粒子を含む暗褐色土，褐色土がブロック状に堆積している。上層から下層にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が出土している。北西壁の下層にかけて粘土塊がみられる。

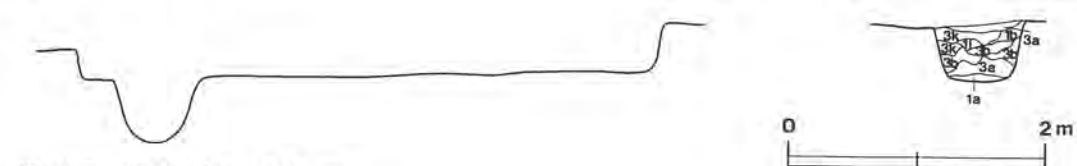
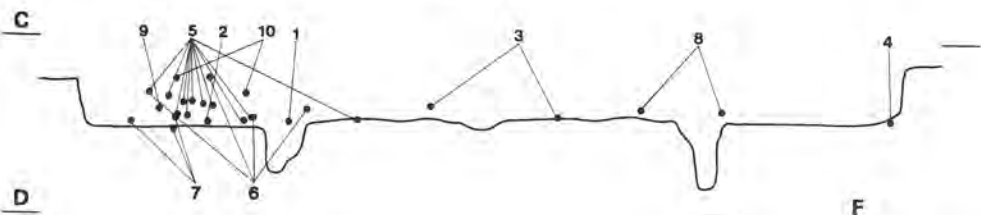
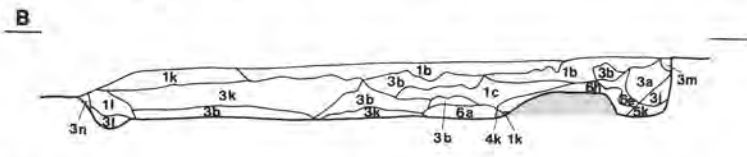
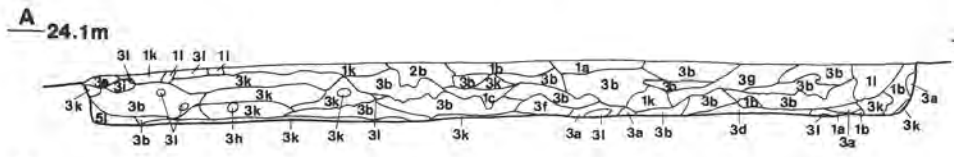
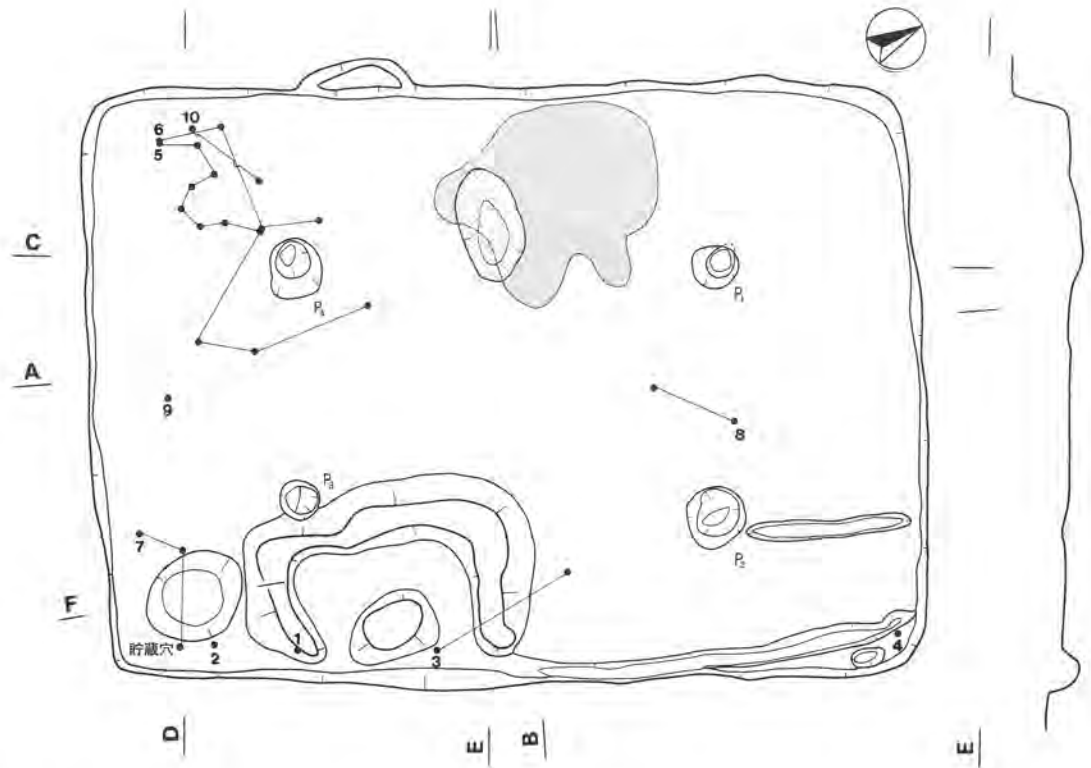
遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第112図-3～6・8・9，第113図-10である。床面直上の遺物は，1・2の土師器坏，7の甕が南コーナーの壁際から出土している。2は正位の状態で出土し，7は南西壁付近で出土したものと接合している。11の紡錘車は北西壁の北コーナー寄りの床面上10cmの高さから出土している。

所見 覆土の堆積状態をみるとローム小ブロック，ローム粒子を含むブロック状の層が堆積し，下層に遺物が多くみられることから，当住居跡は廃棄されたあと，人為的に埋め戻される過程で遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は遺物等から古墳時代中期末である。

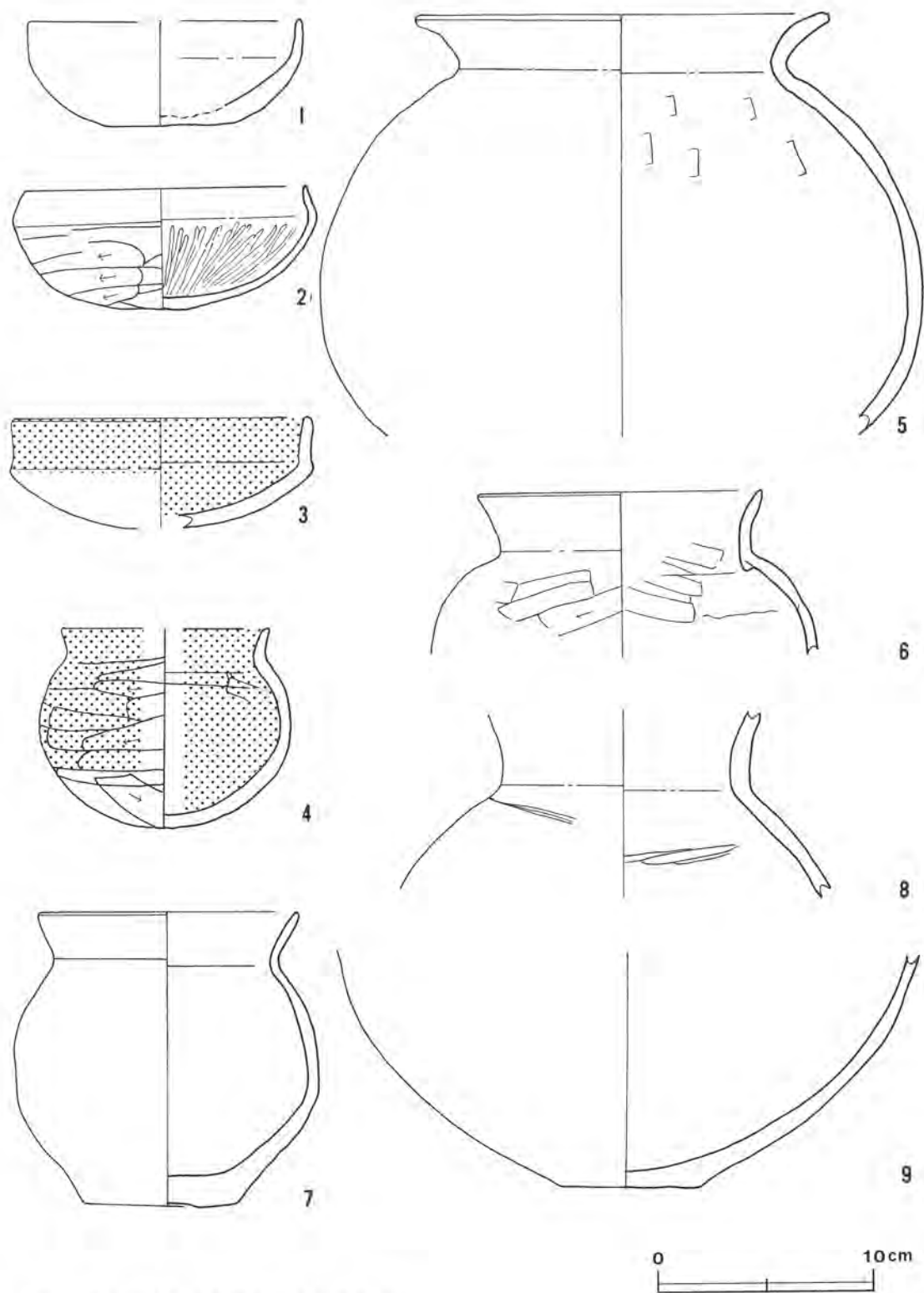
第46号住居跡土層表

色 調	含	有	物
1 暗褐色	a ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	h	ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子
2 黒褐色	b ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子	i	ローム粒子・炭化物・炭化粒子
3 褐色	c ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子	j	ロームブロック・ローム粒子・炭化物
4 明褐色	d ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物	k	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子
5 黄褐色	e ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子	l	ローム粒子・炭化粒子
6 によい黄褐色	f ローム粒子・焼土粒子	m	ロームブロック・ローム粒子
	g ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子	n	ローム粒子

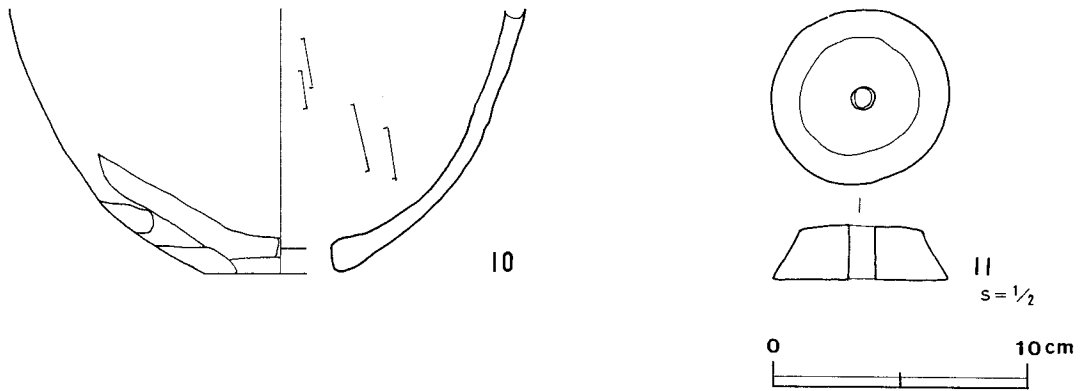
※ 土層図中において同記号を使用したものについては，含有物の分量や特性（粘性，りおり）の相違によって分層している。



第111图 第46号住居跡実测图



第112図 第46号住居跡出土遺物実測図(1)



第113図 第46号住居跡出土遺物実測図(2)

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	坏 土師器	A [12.8] B 5.0 C 5.3	底部剥落及び口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にふい橙色 普通	P507 85% 内・外面摩耗
2	坏 土師器	A 13.2 B 5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部及び体部外面へら削り後ナデ、内面へら磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 にふい橙色 普通	P508 95%
3	坏 土師器	A 13.6 B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤色 普通	P509 30%
4	埴 土師器	A [9.8] B 9.5	体部及び口縁部欠損。丸底。体部は球形を呈し、口縁部は外反する。	底部及び体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P510 70%
5	甕 土師器	A 19.0 B (20.0)	体部中位から口縁部の破片。体部は球形を呈し、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P511 40%
6	甕 土師器	A 13.3 B (7.3)	体部中位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P512 30%
7	壺 土師器	A 12.0 B 13.9 C 7.3	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	底部及び体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P514 90% 煤付着
8	甕 土師器	B (8.8)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P515 30%
9	甕 土師器	B (11.2) C 6.9	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P513 10% 外面煤付着
第113図 10	甕 土師器	B (10.4) C 5.6	底部から体部の破片。単孔式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へら削り後ナデ、内面へらナデ。	長石・石英・砂粒 にふい褐色 普通	P516 20%

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第113図11	紡錘車	4.7	4.7	1.4	0.7	45.8	滑石	SJ46	Q74

第48号住居跡 (第114・115図)

位置 J5e8区。

規模と平面形 長軸2.50m, 短軸1.92mの長方形。

主軸方向 N-37°-E。

壁 耕作による攪乱を受けているため、壁高は12cm程遺存しており、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、踏み固められた部分は認められない。

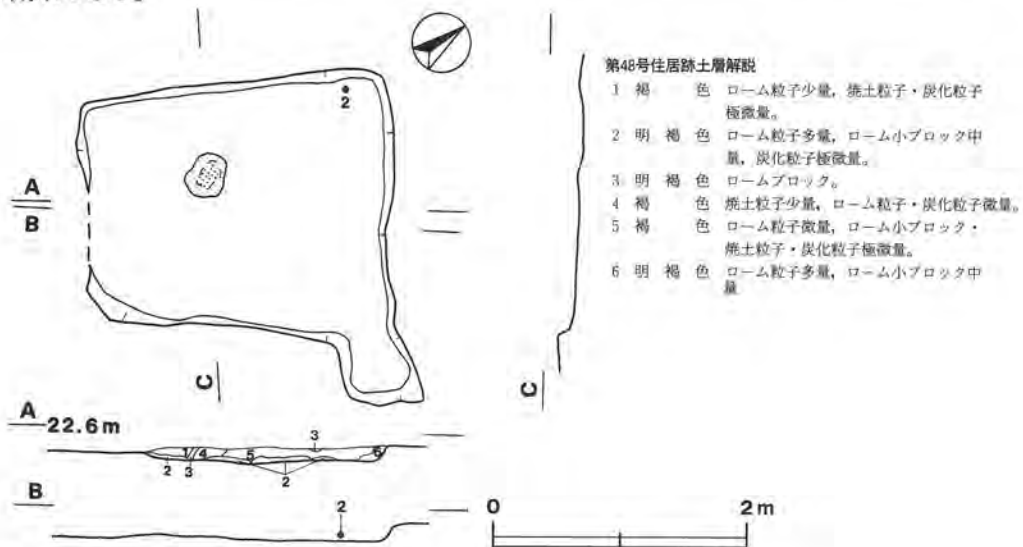
炉 北西壁の中央寄りにある。長径50cm, 短径27cmの楕円形の地床炉で、炉床は床面をいくぶん掘り窪めており、火熱を受け赤変している。

覆土 耕作による攪乱のため、残りは良くない。覆土は壁際から自然に堆積し、5層が覆土の大部分をしめる。上層から下層にかけて同時期の土師器片が散布する。

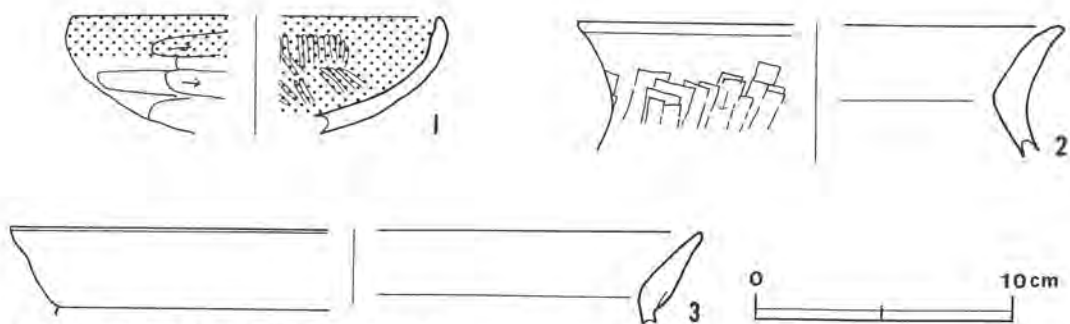
遺物 覆土中から出土した土師器片のうち実測できたのは第115図-1の坏2・3の甕である。

床面直上の遺物はいずれも破片であり、実測できたものはない。

所見 小規模であり、遺物等も少量出土したにすぎないが、炉が付設されているため住居跡と思われる。東コーナーに長軸60cm, 短軸50cmの長方形の張り出し部がみられるが、覆土もほとんど残っていないため、当住居跡に伴うものであるか確認できなかった。時期は遺物等から古墳時代中期末である。



第114図 第48号住居跡実測図



第115図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A [14.5] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面へテ削り後ナデ、内面へテ磨き。内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P524 40%
2	壺 土師器	A [19.0] B (5.4)	口縁部片。口縁部は外反する。	頸部外面へテ削り、口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P526 10%
3	壺 土師器	A [27.2] B (3.8)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 浅黄褐色 不良	P525 5%

2 平安時代の住居跡

第13号住居跡 (第116~118図)

位置 K2b₃区。

規模と平面形 長軸(3.50)m、短軸3.40mの方形。

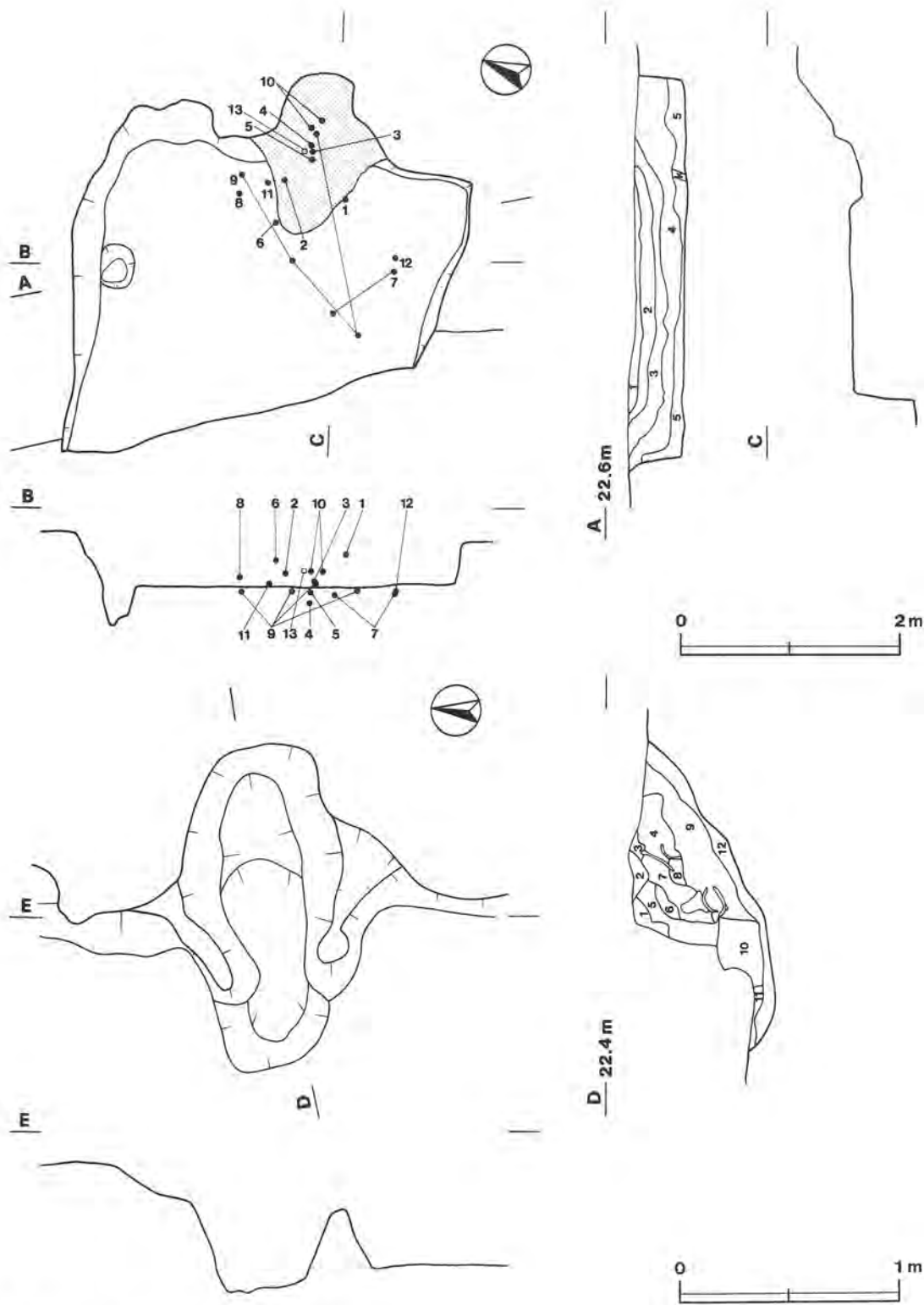
主軸方向 N-87°-E。

壁 壁高は44~54cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。北西コーナーから南壁にかけては、現代に掘り込まれた2条の根切り溝によって削られている。

床 ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。西側の床面は、根切り溝によって、削りとられている。

ピット P₁は、径41cm、深さ38cmである。性格は不明である。

竈 東壁を約76cm壁外に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ119cm、幅126cmである。天井部は崩落しているが、袖部は良く残っており、その内壁は焼けている。燃焼部の覆土は、焼土ブロック、焼土粒子、炭化粒子が堆積している。火床は、床面を11cm掘り窪めており、熱を受け赤変硬化していることから、長期間にわたり、使用したものである。煙道は、火床から緩やかに外傾して立ち上がり、内壁は焼土化している。



第116图 第13号住居跡・竈実測図

覆土 基本的に5層からなり、5層から1層の順で堆積する。上層から下層にかけて、同時期の土師器、須恵器片が出土している。覆土中から縄文式土器片が出土している。

第13号住居跡土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量，ローム粒子極微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量。

第13号住居跡覆土層解説

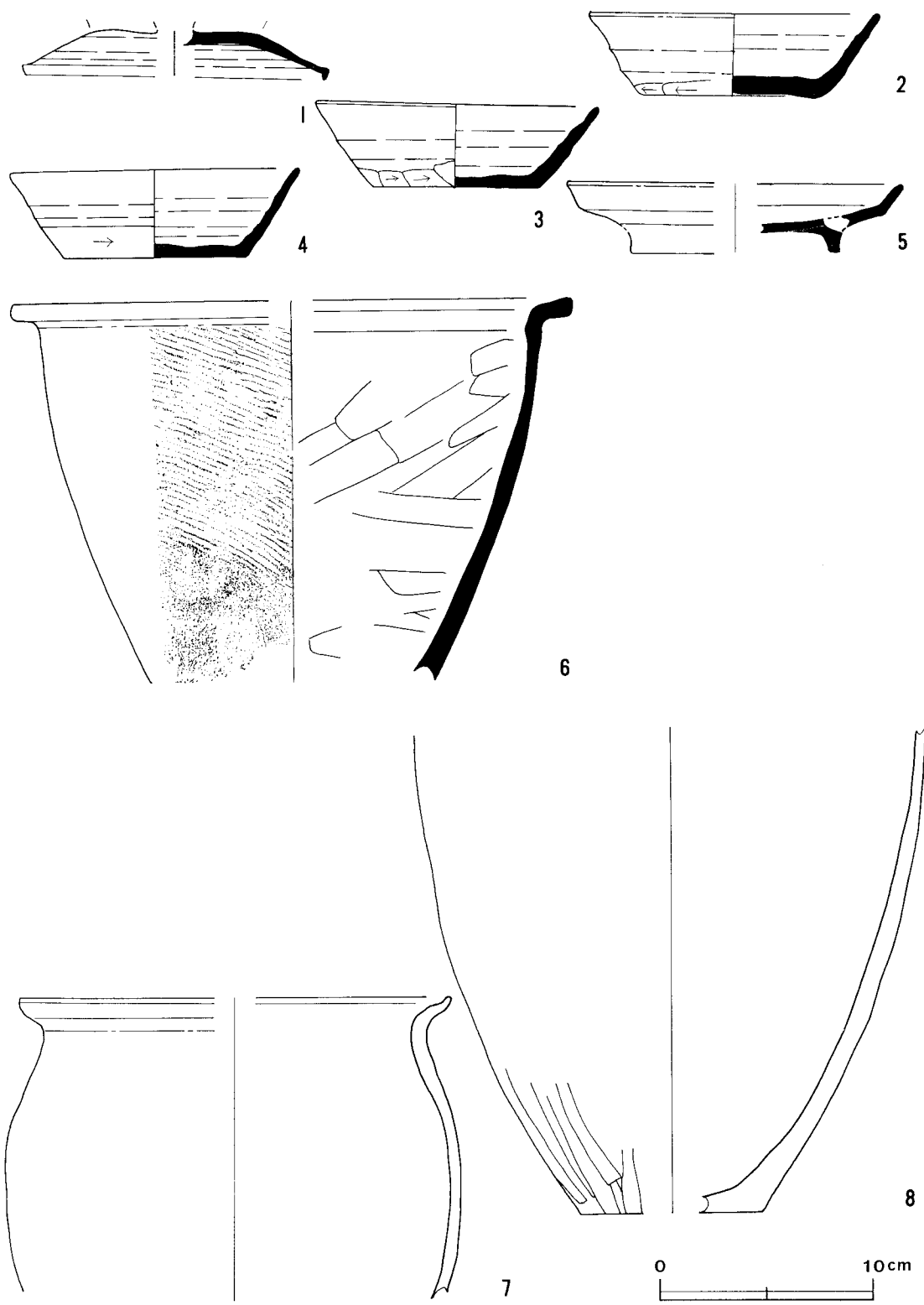
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土少量，炭化粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量，焼土粒子極微量。
- 6 にぶい褐色 砂質粘土中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 7 灰黄褐色 焼土小ブロック・炭化粒子微量，砂質粘土層。
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量。
- 9 赤褐色 焼土粒子極多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量。
- 10 明褐色 ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量。
- 11 褐色 炭化粒子極微量。
- 12 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極微量。

遺物 覆土中から出土した遺物は、第117-1・2である。床面直上の遺物は、5の須恵器盤が竈周辺から出土している。11の手捏土器は正位の状態です竈周辺から出土している。12の手捏土器は正位の状態です南壁の中央寄りから出土している。6の須恵器鉢は中央部と竈内から出土したものが接合している。7の土師器甕は中央の南側付近と竈周辺から出土したものが接合している。9の甕は竈周辺と竈内から出土したものが接合している。8の甕は竈の北側から出土している。10の甕は竈内から出土したものが接合している。竈内の支脚は、粘土を入れた3・4の須恵器杯の口縁を重ね合わせ、3の底部に13の土製支脚を積み上げて築かれている。

所見 当住居跡は、遺物等から9世紀前半のものと考えられる。

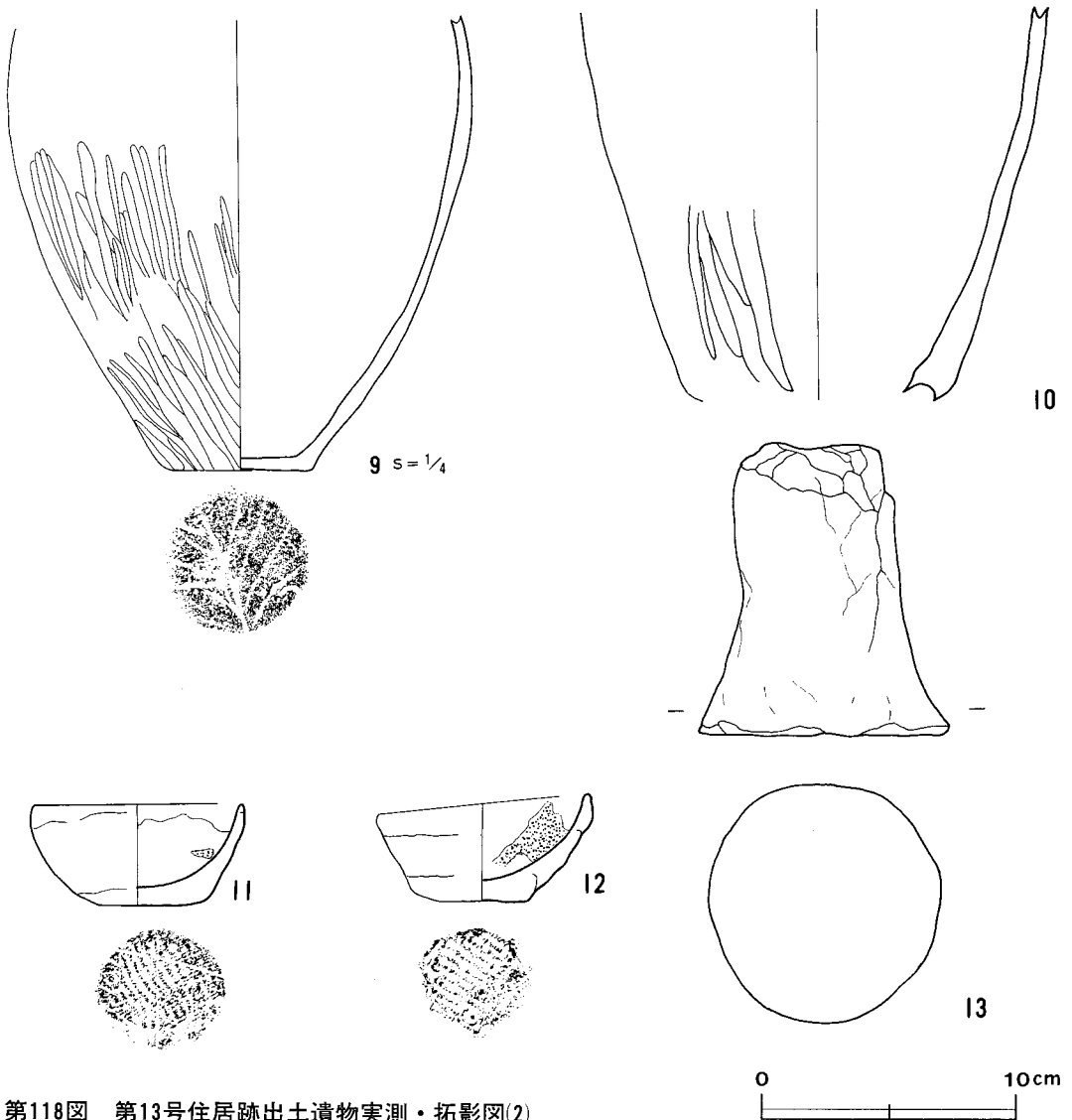
第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	坏 須恵器	A [14.0] B 2.1	天井部及び口縁部一部欠損。天井部は平坦な頂部から、なだらかに下降する。端部は屈曲し、短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P199 30%
2	坏 須恵器	A 13.7 B 3.9 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部不定方向のヘラ削り。体部下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒 黄灰色 普通	P196 90%
3	坏 須恵器	A 13.4 B 4.1 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り。体部下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P197 90%
4	坏 須恵器	A 13.6 B 4.2 C 8.4	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部一方向のヘラ削り。体部下位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒 灰白色 普通	P198 70% 二次焼成
5	盤 須恵器	A [15.8] B (3.2) C [10.0]	底部及び口縁部片。底部は平底で、短く垂下する高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	高台貼り付け。	長石・石英・雲母・砂粒 にぶい橙色 普通	P200 20% 二次焼成
第117図 6	鉢 須恵器	A [26.1] B (18.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で大きく屈曲する。口縁部は外反する。口唇部内側は上方に肥厚する。	体部外面下位平行叩き後ヘラナデ、上位平行叩き、内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 黒褐色 普通	P204 40%



第117图 第13号住居跡出土遺物実測図・拓影図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甕 土師器	A [20.5] B (14.3)	体部から口縁部片。体部上位に最大径を持ち、頸部から口縁部にかけて外反する。口唇部はわずかに外上方につまみ上げる。	体部内・外面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P205 30%
8	甕 土師器	B (22.7) C [8.4]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部及び体部外面下位斜位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にふい橙色普通	P206 30%
第118図 9	甕 土師器	B (24.1) C 7.3	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部木葉痕。体部外面中位以下斜位のヘラ磨き、内面ヘラナデ	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P208 40%
10	甕 土師器	B (15.6) C [9.1]	体部破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下位斜位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P207 15%



第118図 第13号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第118図 11	手捏土器	A 8.4 B 6.0 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部薄痕。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P202 95% 口縁部内面煤付着灯明
12	手捏土器	A 8.4 B 4.3 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部薄痕。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P203 100% 内面煤付着灯明

図版番号	器 種	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)		
第118図13	支 脚	(11.5)	9.9			(746.9)	SI13	DP15

第16号住居跡（第119・120図）

位置 K1e8区。

規模と平面形 長軸3.46m，短軸3.24mの方形。

主軸方向 N-70°-E。

壁 壁高は28～30cmで，外傾して立ち上がっている。

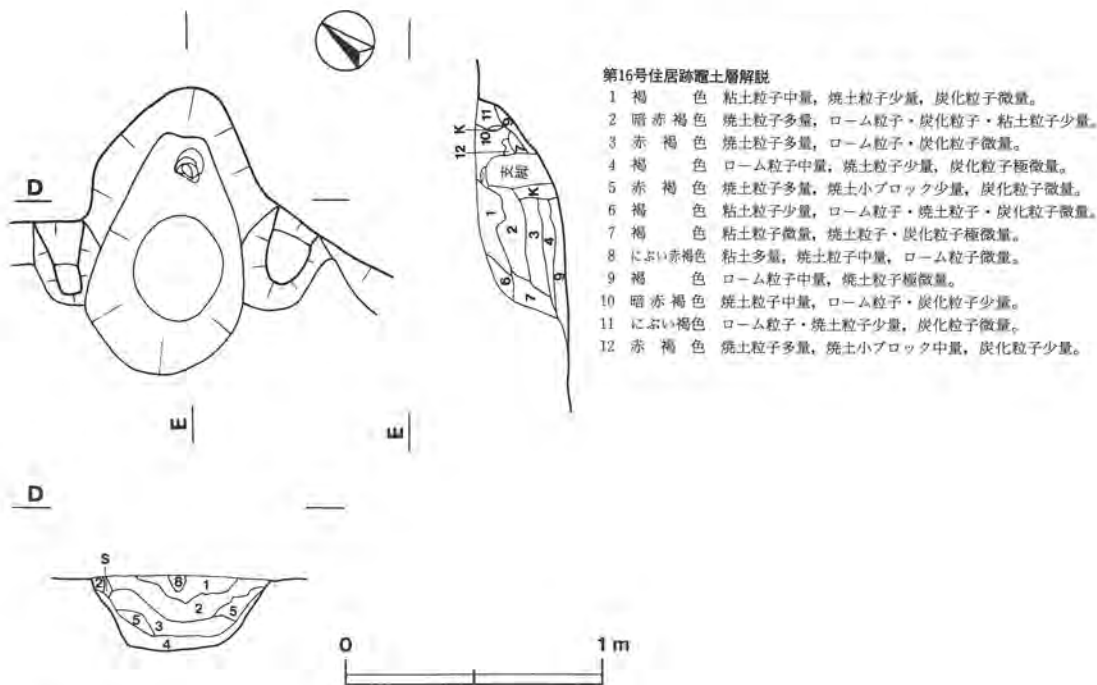
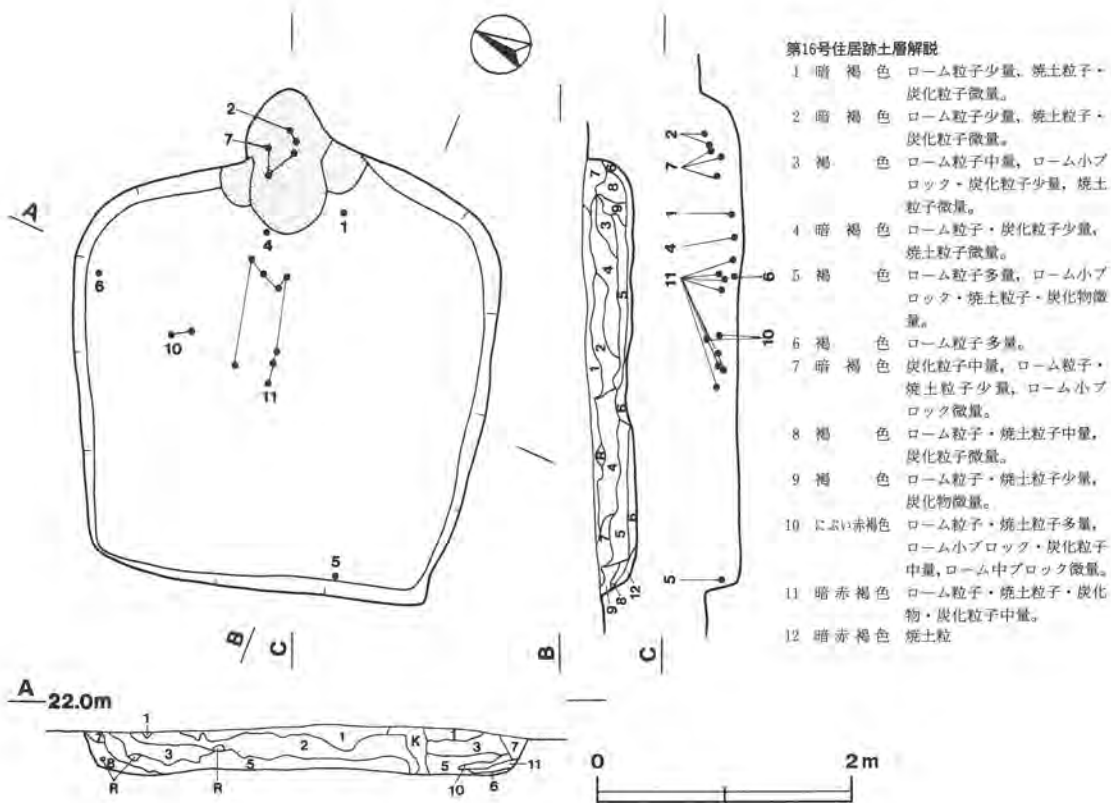
床 ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は認められない。

竈 東壁を約55cm壁外に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。規模は，長さ91cm，幅116cmである。天井部は崩落しているが，袖部は残っている。燃烧部には，焼土ブロック，焼土粒子，炭化粒子が堆積している。火床は，床面を5cm掘り窪めており，熱を受け赤変している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がり，内壁は焼土化している。

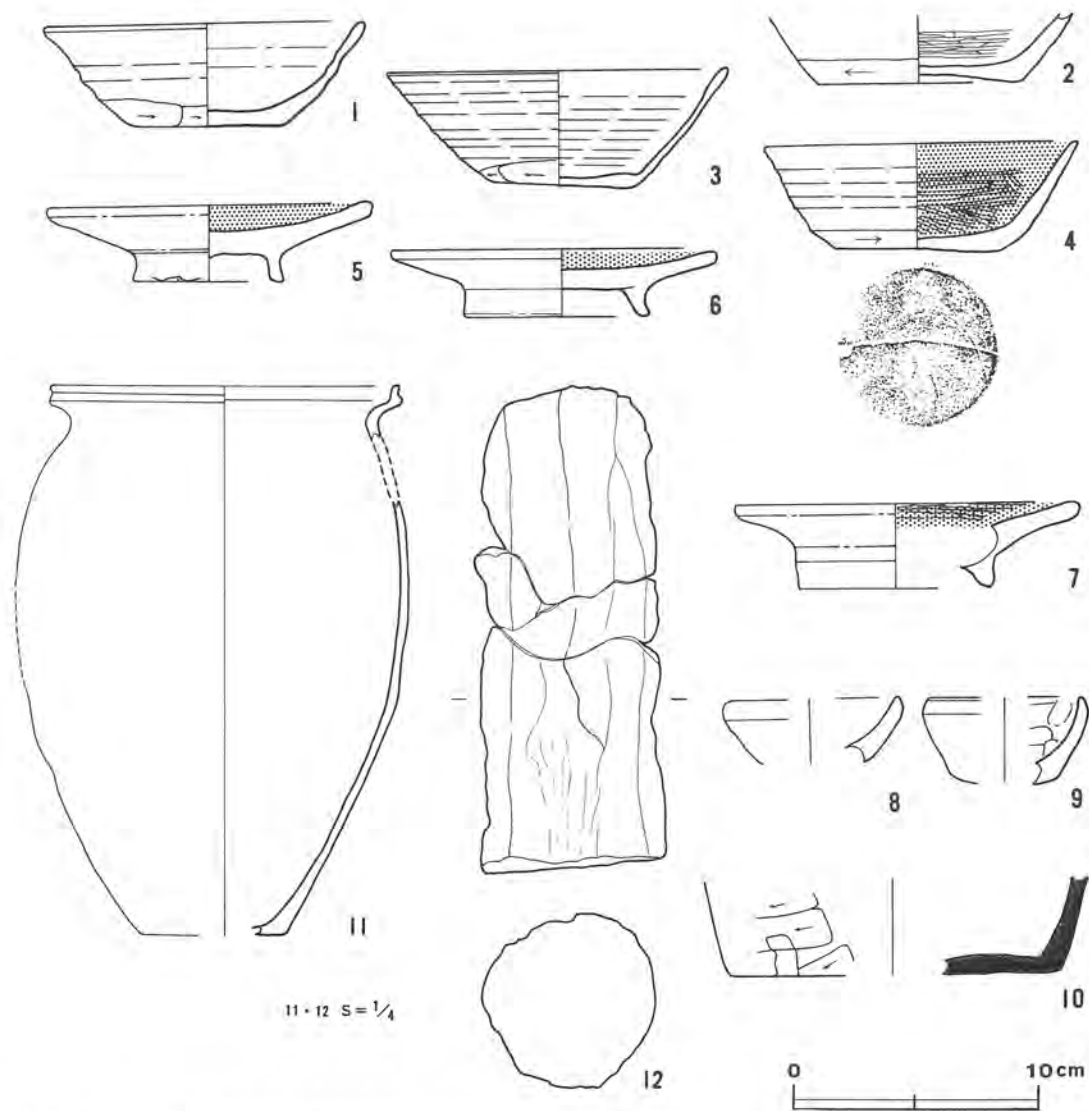
覆土 1・2・4層は流れ込みの層である。他の層は褐色を基調とし，ローム粒子，ローム小ブロック等を含む層が堆積する。上層から床面上にかけて同時期の土師器片と縄文式土器片が出土しているが，特に土師器片は上層から中層にかけて多くみられる。壁際の下層と住居跡中央の床面上には焼土塊と炭化材がみられる。

遺物 覆土中からは第120図-3・5・8～11が出土している。床面直上の遺物は1と4の土師質須恵器杯がいずれも正位の状態で竈周辺から出土している。6の土師器高台付皿は正位の状態で北東コーナー付近の壁際から出土している。7の高台付皿は竈内のものを接合したものである。竈内の支脚として2の土師器杯と12の土製支脚が使用されている。12の支脚は火床に埋め込まれ，その上に2の杯の底部が逆位の状態でかぶせて置かれていた。

所見 覆土の堆積状態をみると床面上から炭化材，焼土塊などがみられ，1次堆積土層中にローム小ブロック，ローム粒子が含まれることから，当住居跡は，焼失後人為的に埋め戻され，その後自然に埋没したものと思われる。時期は遺物等から9世紀後半と考えられる。



第119図 第16号住居跡・竈実測図



第120图 第16号住居跡出土遺物実測・拓影図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第120図 1	坏 土師質須恵	A 13.3 B 4.3 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部一方向のヘラ削り。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・砂粒にぶい赤褐色普通	P229 100%
2	坏 土師器	B (2.8) C 8.2	底部破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向のヘラ削り。体部外面下位回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	長石・石英・砂粒にぶい黄褐色普通	P230 20%
3	坏 土師質須恵	A 14.0 B 5.0 C 5.5	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向のヘラ削り。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい黄褐色普通	P231 95%
4	坏 土師質須恵	A 12.8 B 4.5 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り。体部外面下位回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・砂粒にぶい黄褐色普通	P232 100%
5	高台付皿 土師器	A 13.4 B 3.3 D 6.1 E 1.2	体部一部欠損。平底で垂下する高台が付く。体部は直線的に開く。	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい黄褐色普通	P233 95%
6	高台付皿 土師器	A 13.4 B 2.8 D 7.4 E 1.1	体部一部欠損。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に開く。	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P234 90%
7	高台付皿 土師器	A 14.2 B 3.5 D 7.8 E 1.1	底部及び体部一部欠損。平底で垂下する高台が付く。体部は緩やかに外傾して開く。	高台貼り付け。体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい褐色普通	P235 60%
8	手捏土器	A [7.2] B (2.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	体部外面雑なヘラナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P237 20% 口唇部煤付着
9	手捏土器	A [6.2] B (3.6)	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	底部磨痕。体部外面雑なヘラナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい赤褐色	236 20%
10	鉢 須恵器	B [4.0] C [13.3]	底部から体部下位の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部ヘラ削り後ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 褐灰色普通	P238 5%
11	壺 土師器	A 18.9 B [30.0] C [7.9]	体部及び口縁部片。体部上位に最大径を持ち、頸部から口縁部にかけて外反する。口唇部を外上方につまみ上げている。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい褐色普通	P239 60%

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)		
第120図12	支 脚	26.7	10.3			(1918.5)	SI16	DP16

第17号住居跡（第121・122図）

位置 K2c6区。

重複関係 本跡の西壁部を第18号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.32mの長方形。

主軸方向 N-24°-W。

壁 壁高は22～42cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は全周しており、上幅14～16cm、深さ6～7cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央から南東壁にかけてよく踏み固められている。

竈 北西壁を約20cm壁外に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は、長さ57cm、幅78cmである。天井部は崩落しているが、袖部は残されている。燃焼部には、焼土、炭化粒子が堆積している。火床は、床面を12cm掘り窪めており、熱を受け赤変している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がり、火熱を受け赤変している。内壁は焼土化している。

覆土 上層から下層にかけて部分的に木の根などによる攪乱を受けているところがあるが、壁際から流れ込みの層がみられる。上層から下層上面にかけて、同時期の土師器片、須恵器片が散布する。覆土中から管状土錘、縄文式土器片、磨石、チャートの剥片が出土している。

遺物 覆土中からは第122図-2・6・7が出土している。床面直上から出土した遺物は細片である。3の土師器甕はつぶれた状態で竈内の焚口部付近から出土している。土器転用の支脚は竈内から出土している。支脚は4の土師器甕底部2片、1の須恵器高台付坏の底部、面とりされた長方形の石、3の土師器甕の底部片の一片を順に積み重ねて構築されている。

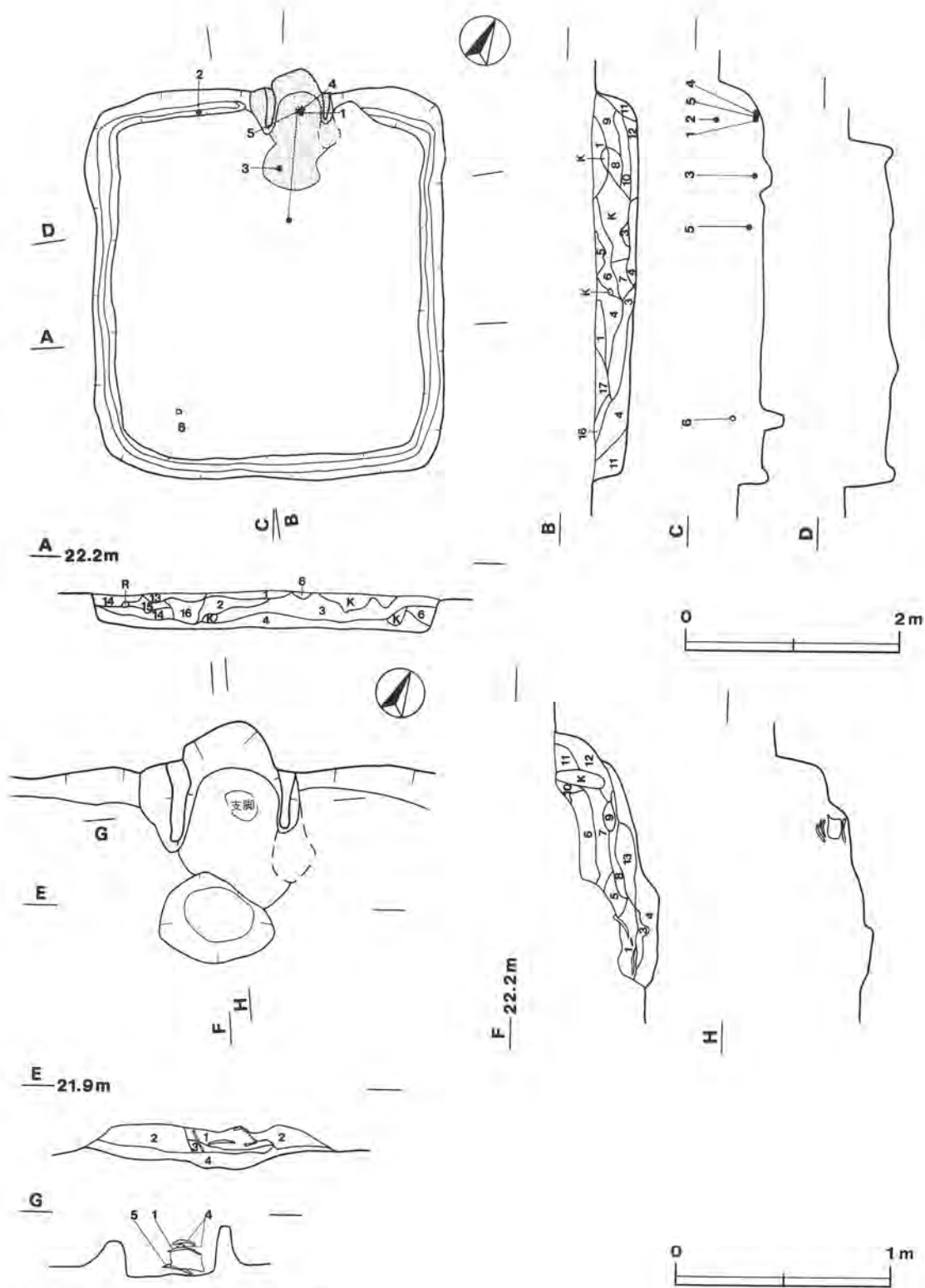
所見 当住居跡は、遺物等から8世紀後半のものと考えられる。

第17号住居跡土層解説

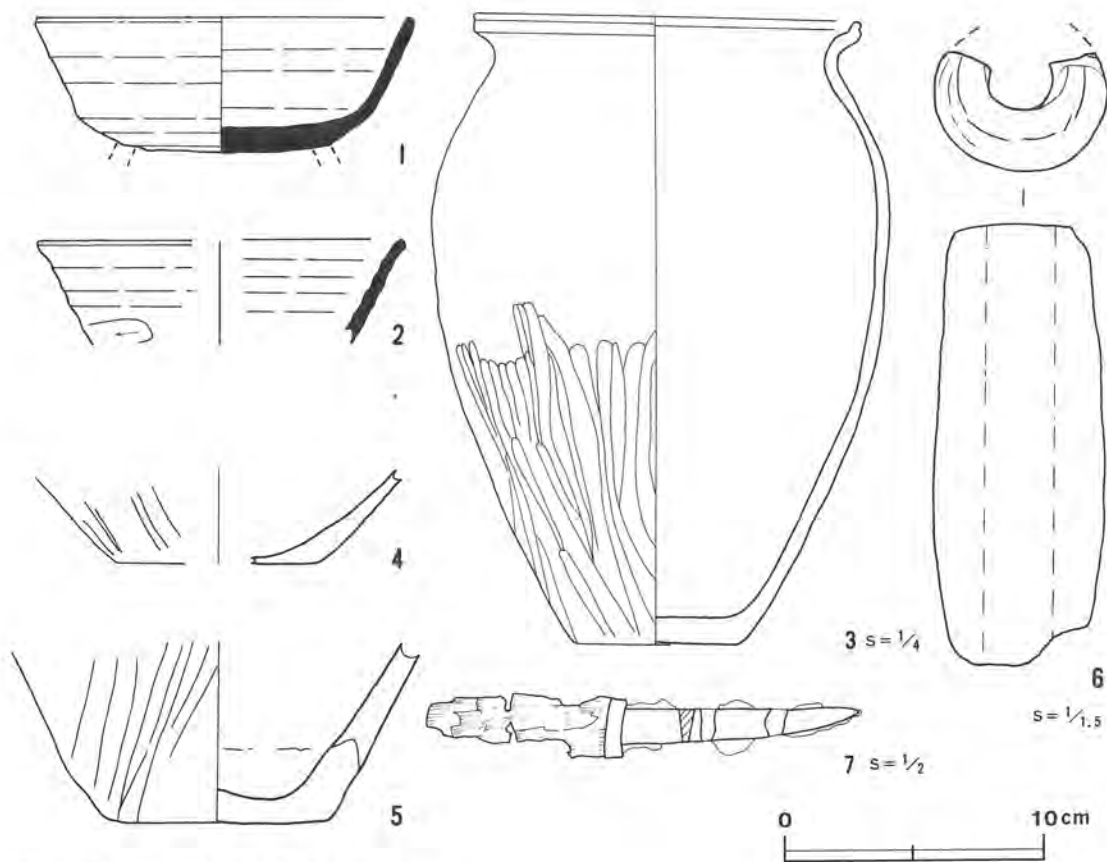
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量。
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量。
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量。
- 9 暗褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量。
- 10 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量。
- 11 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 12 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量。
- 13 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量。
- 14 暗褐色 焼土粒子中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。
- 15 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 17 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量。

第17号住居跡竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量、炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極中量、焼土粒子極微量。
- 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量。
- 6 にぶい褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子極微量。
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量。
- 8 赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量。
- 9 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量。
- 10 にぶい褐色 粘土中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量。
- 11 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 12 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量。
- 13 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子微量。



第121图 第17号住居跡・竈突測図



第122図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	高台付 須恵器	A 14.9 B (5.3)	底部から口縁部の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付 け。	長石・石英・雲母 ・砂粒 褐灰色 普通	P240 60%
2	坏 須恵器	A [11.0] B (4.1)	体部の破片。体部は外傾して立 ち上がり、口縁部はわずかに外 反する。	体部外面下位ヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P241 5%
3	壺 土師器	A 20.1 B 33.5 C 8.6	体部一部欠損。体部上位に最大 径を持ち、頸部から口縁部にか けて外反する。口唇部はわずか に外上方につまみ上げている。	体部外面中位以下に斜位のヘラ 磨き、内面ヘラナデ。口縁部内 ・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 ・砂粒 橙色 普通	P242 90%
4	壺 土師器	B (3.7) C [7.8]	底部から体部下位の破片。平 底。胴部は内嚢して立ち上 がる。	底部木葉痕。体部外面ヘラ磨 き、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 ・砂粒 にぶい橙色 普通	P243 5%
5	壺 土師器	B (7.2) C 8.8	底部から体部下位の破片。平 底。体部は内嚢して立ち上 がる。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ磨 き、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 ・砂粒 橙色 普通	P244 10%

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第122図6	管状土錐	8.8	3.5		1.3	(56.0)	SI17	DP17

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)		
第122図7	刀子	11.4	1.7	0.4	12.6	SI17	M6

第24号住居跡（第123・124図）

位置 K3a0区。

規模と平面形 長軸5.50m，短軸[3.68]mの長方形。

主軸方向 N-0°。

壁 壁高は10～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

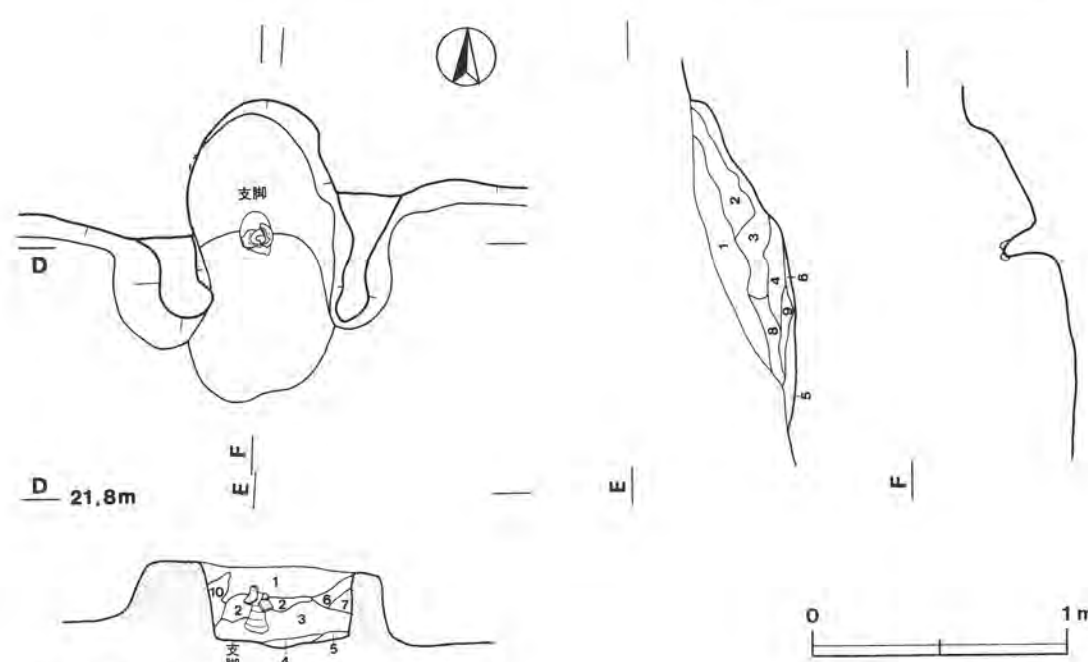
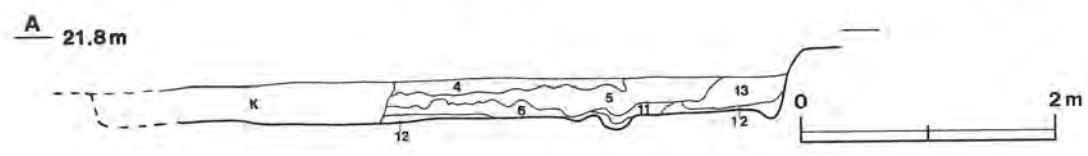
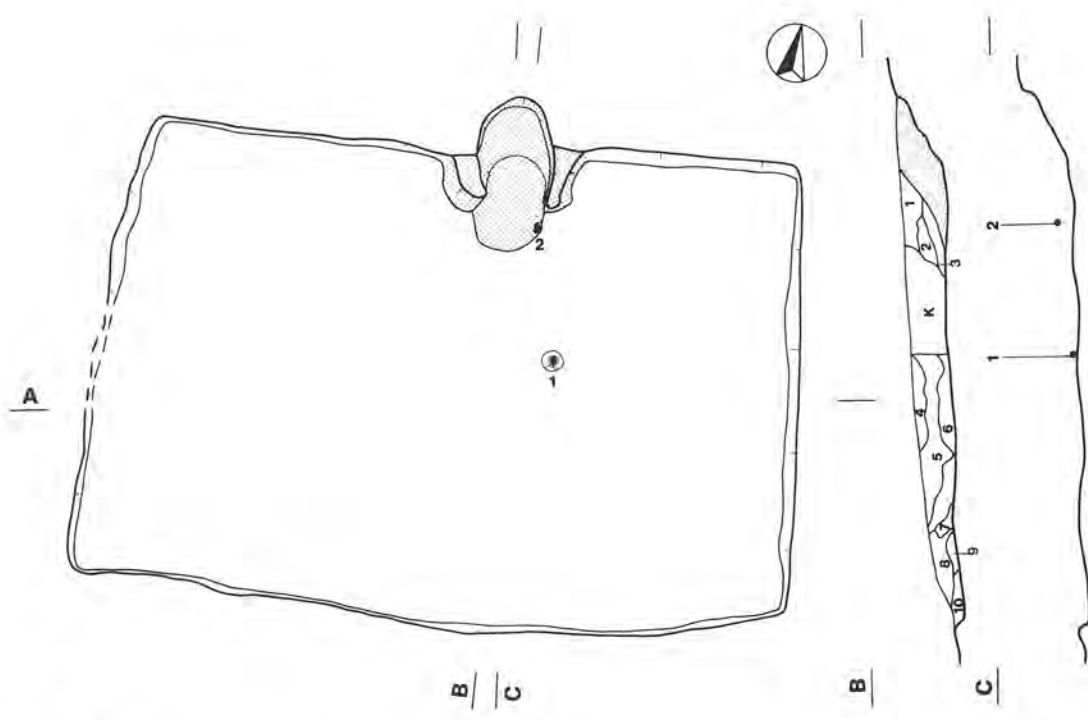
床 ほぼ平坦であり，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁を約47cm壁外に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。規模は，長さ94cm，幅114cmである。天井部は崩落しているが，袖部は残っている。燃烧部の覆土には，焼土ブロック，焼土粒子，炭化粒子が堆積している。火床は，床面を10cm掘り窪めており，熱を受け赤変している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がり，火熱を受け赤変している。内壁は焼土化している。

覆土 斜面部のため南側の覆土は流れてしまっている。また，耕作による攪乱も多く受けている。土層は，全体的に下位から褐色土，暗褐色土，黒褐色土の順に堆積する。上層から下層にかけて少量の土師器片，須恵器片，縄文式土器片等が出土している。

遺物 覆土中から土師器片は出土しているが，いずれも細片である。床面直上の遺物はいずれも須恵器片で，第124図-1の坏が逆位の状態で住居跡中央から出土している。この坏の底部には墨書がみられる。2の坏，3の高台付坏が竈内から出土している。竈の火床部から5の土製支脚と共に4の須恵器高坏盤の脚部が2片に割れ，土製の支脚の先端を覆うように出土している。

所見 当住居跡は，遺物等から8世紀後半のものと考えられる。



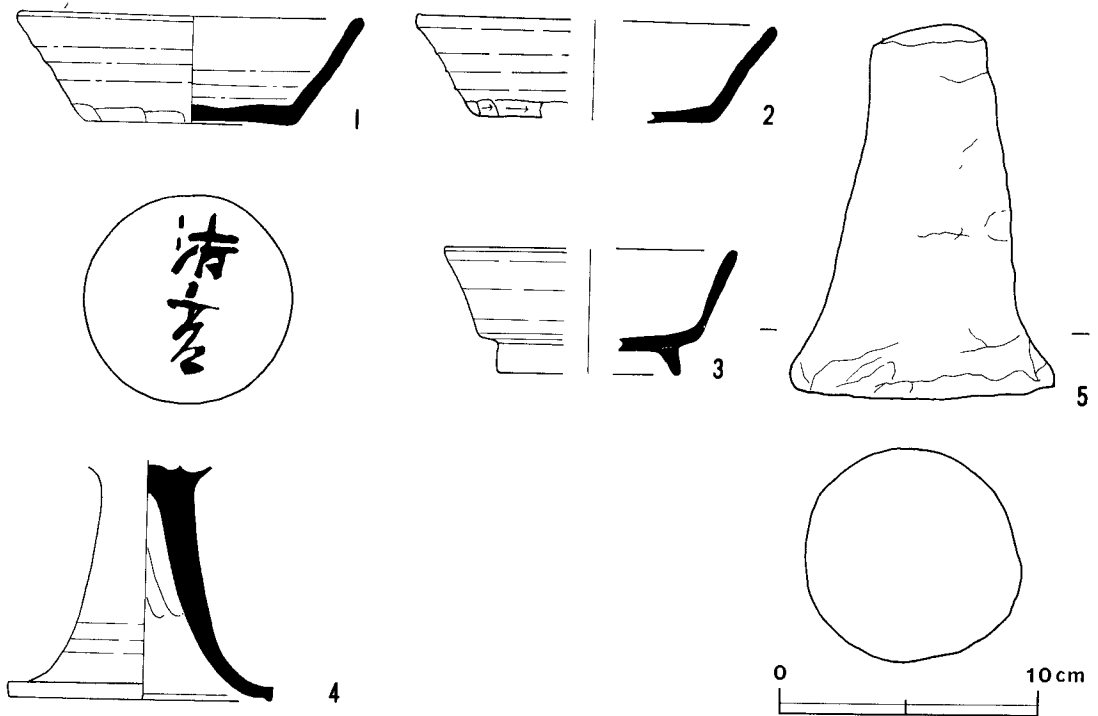
第123図 第24号住居跡・竈実測図

第24号住居跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量。
- 2 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量。
- 3 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量，焼土小ブロック極微量。
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子極微量。
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 6 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量。
- 7 黄 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子極微量。
- 8 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 9 褐 色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 10 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 11 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 12 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量。
- 13 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。

第24号住居跡露土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量。
- 2 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 3 赤 褐 色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量。
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量。
- 5 褐 色 ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子極微量。
- 6 暗 赤 褐色 焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量。
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量。
- 8 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量，ローム小ブロック極微量。
- 9 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 10 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化材極微量。



第124図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第124図 1	坏 須 恵 器	A 13.6 B 4.2 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方方向のヘラ削り。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒 浅黄色 普通	P286 100% 底部墨書
2	坏 須 恵 器	A [14.2] B 4.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	底部不定方向のヘラ削り。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P287 20%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第124図 3	高台付坏 須恵器	A [11.5] B 4.9 C 7.2 E 1.2	底部から口縁部の破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P288 5%
4	高 盤 須 恵 器	B [9.1] D 10.4	脚部片。脚部はラッパ状に開き、端部は折り返り尖る。	水挽き成形。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P289 30%

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第124図5	支 脚	14.8	10.3	8.4		817.8	SI24	DP19

第47号住居跡（第125～127図）

位置 D8f₆区。

重複関係 本跡は南東コーナーから南壁を第140号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸3.34mの方形。

主軸方向 N-16°-E。

壁 壁高は12～36cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

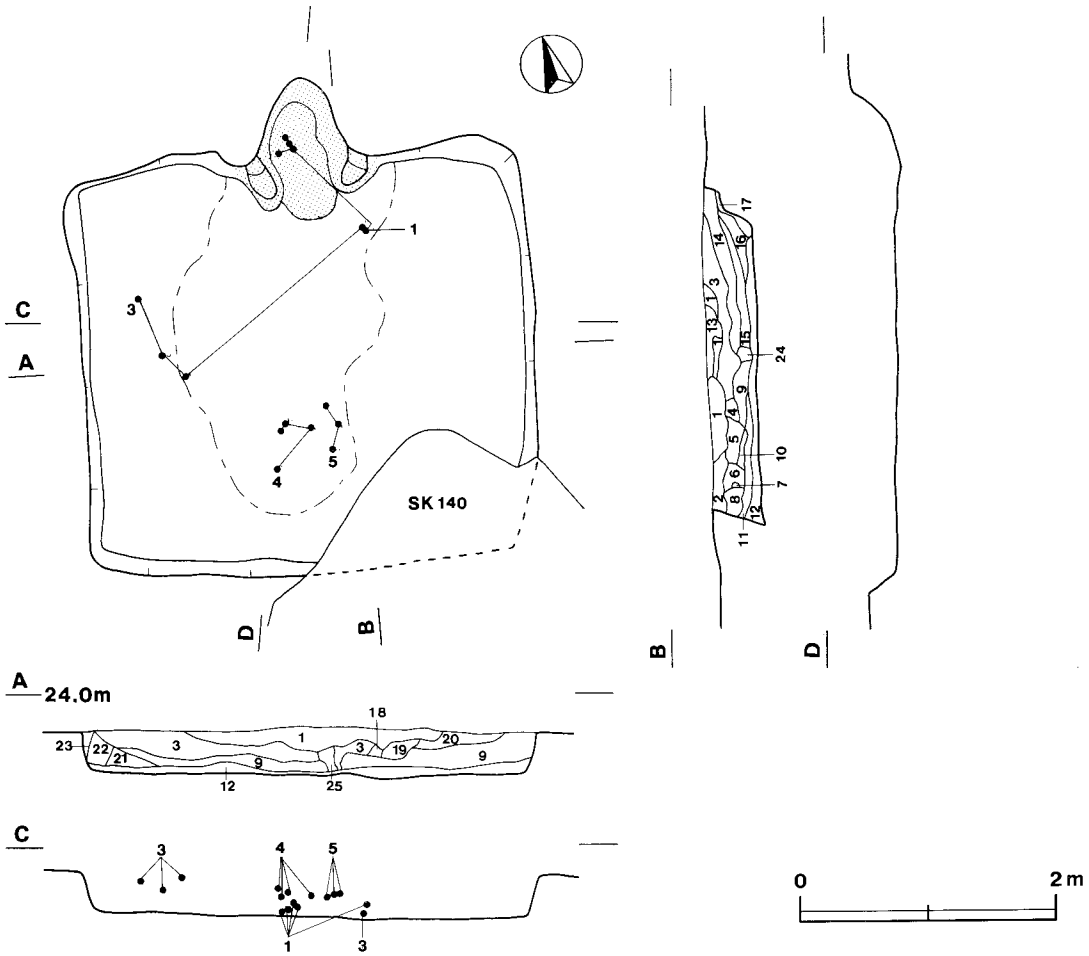
床 ほぼ平坦であり、竈から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁を約67cm壁外に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は、長さ98cm、幅94cmである。天井部は崩落しているが、両袖部は遺存している。燃烧部には、焼土ブロック、焼土粒子、炭化粒子がみられる。火床は、床面を8cm掘り窪めており、熱を受け赤変している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がり、火熱を受け赤変している。内壁は焼土化している。

覆土 基本的に4層からなり、壁際から自然に流れ込んだ層である。上層から下層にかけて土師器片、須恵器片と縄文式土器片が出土している。特に上層から中層にかけて遺物が多く出土している。

遺物 覆土中から出土した土師器片、須恵器片のうち実測できたのは第127図-1・2・4・5である。3の須恵器高盤は住居跡中央の東側から出土した坏部片と竈内から出土した坏部片・脚部片が接合している。脚部片は2分の1が欠けた状態で支脚に転用されている。

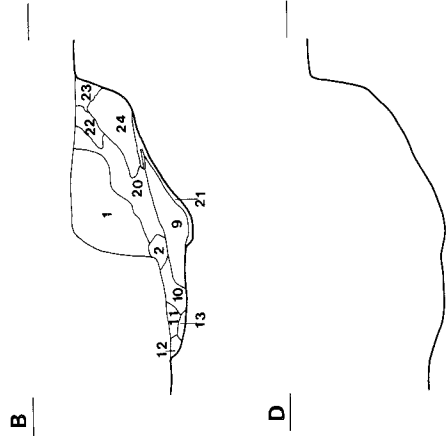
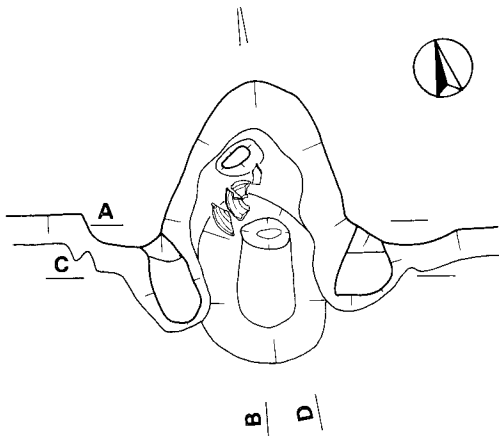
所見 当住居跡は、遺物等から8世紀後半のものと考えられる。



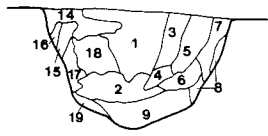
第47号住居跡土層解説

- | | | | |
|----------|--|-----------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 15 におい黄褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化物極微量。 | 16 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量。 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量。 | 17 におい褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量, ローム小ブロック・ローム粒子極微量。 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 | 18 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量。 | 19 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子・炭化物極微量。 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 20 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。 | 21 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 8 におい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量。 | 22 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。 |
| 9 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量。 | 23 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量。 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。 | 24 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 11 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | 25 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子極微量。 |
| 12 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子極微量。 | | |
| 13 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。 | | |
| 14 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 | | |

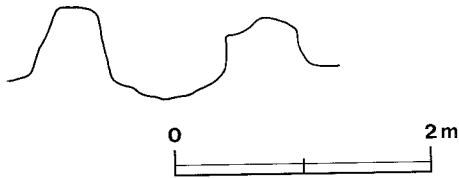
第125図 第47号住居跡実測図



A 24.0m



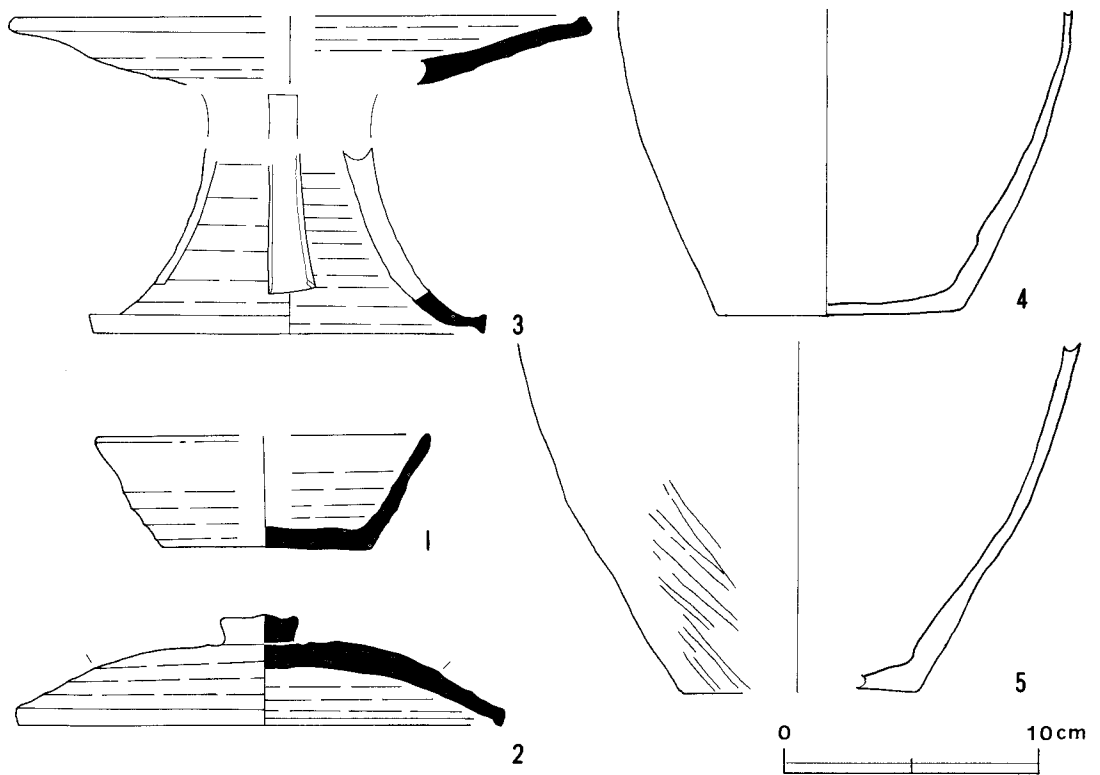
C



第47号住居跡竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極微量。
- 2 黒褐色 炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量。
- 3 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量。
- 4 にぶい黄褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 6 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 粘土大ブロック微量。
- 7 にぶい褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量。
- 8 赤褐色 焼土小ブロック多量, 粘土粒子中量, 粘土小ブロック少量。
- 9 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子極微量。
- 10 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量。
- 11 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 13 黄褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 14 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 15 橙色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量, 粘土小ブロック微量。
- 16 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量。
- 17 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子微量。
- 18 褐色 焼土粒子・粘土小ブロック少量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量。
- 19 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 20 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量, ローム粒子・炭化粒子極微量。
- 21 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量。
- 22 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量, ローム粒子極微量。
- 23 黄褐色 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量。
- 24 明赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 炭化物微量。

第126図 第47号住居跡竈実測図



第127図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 1	壊 須 恵 器	A [13.0] B 4.4 C 7.9	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、わずかに外反する。	底部外面不定方向のヘラ削り。	長石・雲母・砂粒 灰白色 普通	P518 40%
2	蓋 須 恵 器	A 19.0 B 4.2 F [3.0] G 1.1	つまみは上部が凹み、外周部が接合部よりも大きい。天井部から口縁部へなだらかに下がる。口縁部は突出する。	天井部回転ヘラ削り。	長石・砂粒 灰色 普通	P519 70%
3	高 須 恵 器	A [22.2] B [12.5] D 15.2 E (7.3)	脚部及び受部一部欠損。底部接合部は端折。脚部はなだらかなカーブを描いて立ち上がり、受部は浅い皿状を呈する。	脚部接合。脚部は四方に長方形の透しを有する。受部底部回転ヘラ削り。脚部内面及び受部外面自然釉。	長石・砂粒 灰色 普通	P521 30% 白色針状物質
4	甕 土 師 器	B (12.0) C 9.6	底部から体部下位の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部及び体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P522 50% 内・外面摩耗
5	甕 土 師 器	B (13.8) C [9.3]	底部から体部下位の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア・砂粒 橙色 普通	P523 10%

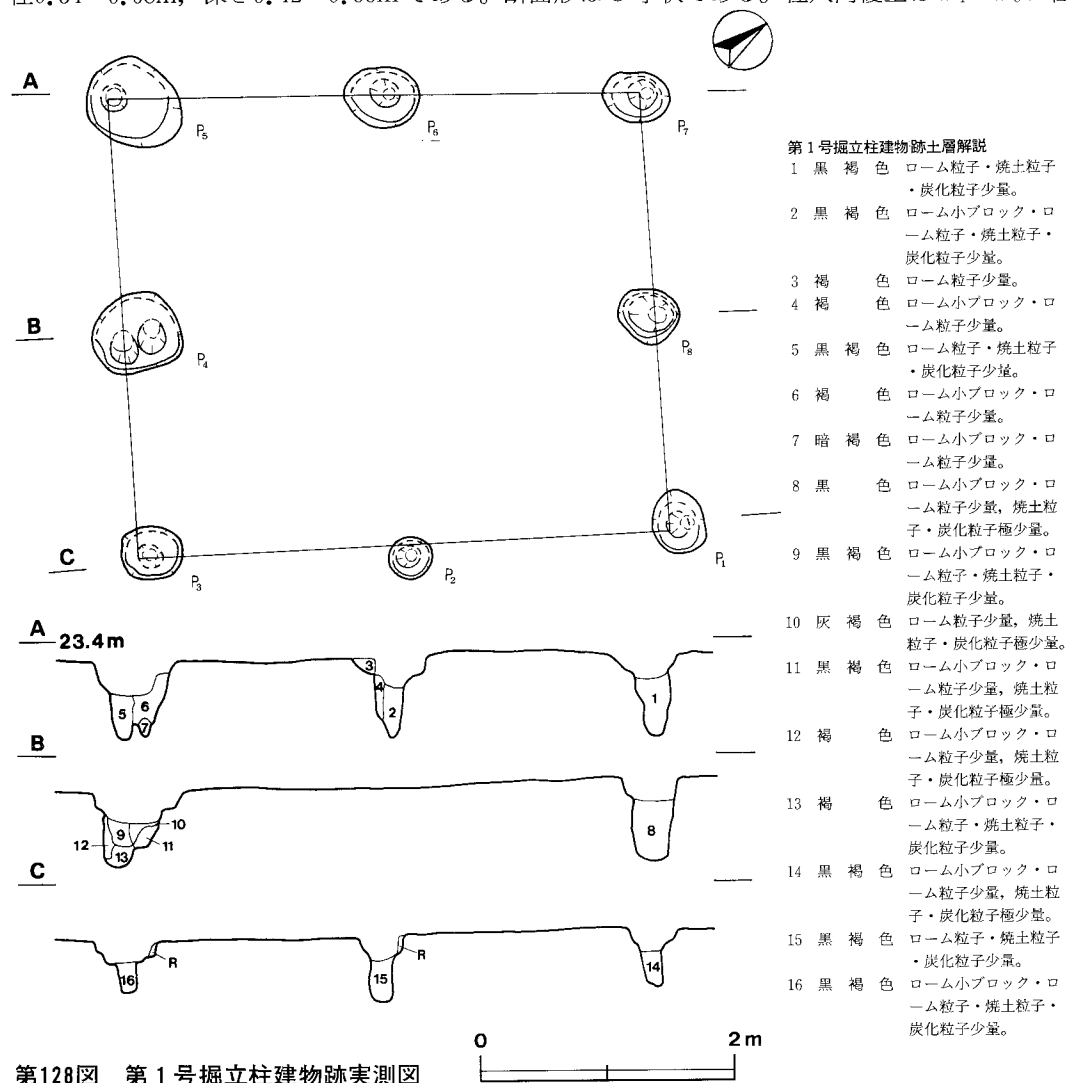
第3節 掘立柱建物跡

当調査区からは、調査区の中央部から掘立柱建物跡が2棟検出されている。以下、検出された掘立柱建物跡の特徴や主な遺物について記載していくことにする。

第1号掘立柱建物跡（第128図）

位置 I7b₃区。

規模 柱穴数は8か所であり、長方形に検出されている。南北3間(約4.17m)、東西2間(約3.65m)の南北棟の建物で、柱間寸法は、桁行2.00~2.20m、梁行1.71~1.92mである。掘方は、径0.34~0.68m、深さ0.42~0.66mである。断面形はU字状である。柱穴内覆土はP₁~P₈に柱



第128図 第1号掘立柱建物跡実測図

痕跡が確認されている。それ以外の土層は、ローム小ブロック、ローム粒子を含む褐色土が堆積している。

桁行方向 N-33°-E。

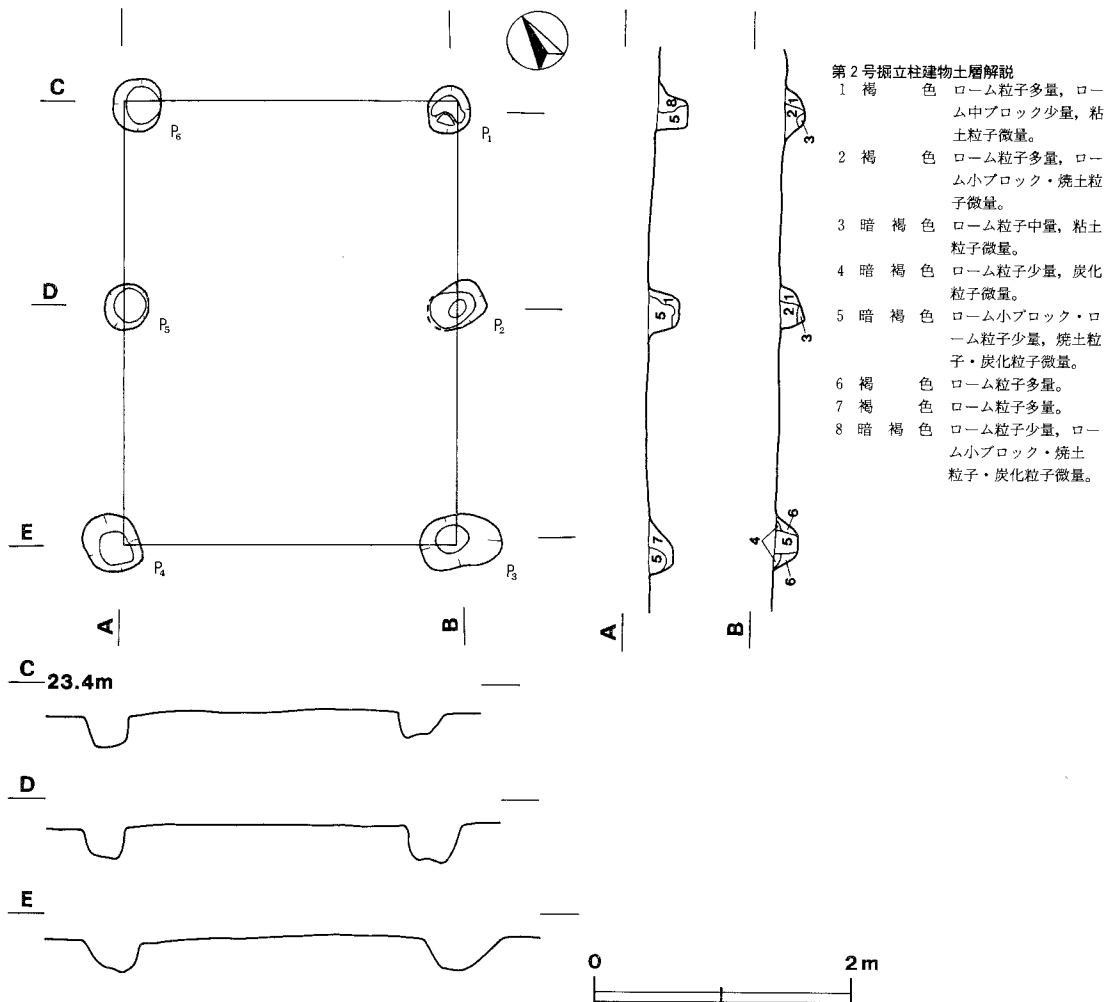
遺物 P₈の覆土中から須恵器の壺片が出土している。

所見 本跡は、P₄の柱痕下から硬くなった褐色土がみられることから、構築時に突き固めたものと思われる。時期は出土遺物から古墳時代中期末と考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (第129図)

位置 I6f₈区。

規模 柱穴数は6か所であり、長方形に検出されている。南北3間(約3.45m)、東西2間(約2.5

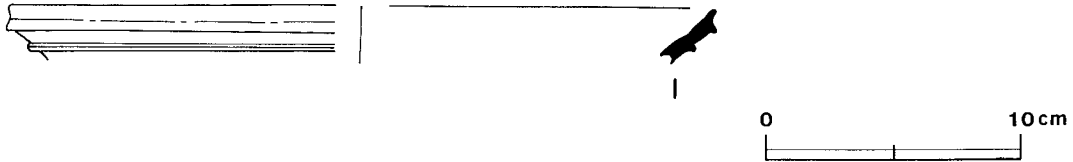


第129図 第2号掘立柱建物跡実測図

5 m)の南北棟の建物で、柱間寸法は、桁行1.53～1.90m、梁行2.52～2.54mである。掘方は、径0.38～0.64m、深さ0.21～0.31mである。断面形はU字状である。柱痕跡は確認できなかった。柱穴内覆土は、焼土粒子、炭化粒子、ローム粒子を含む暗褐色土とローム粒子・ローム小ブロックを含む褐色土が堆積している。

桁行方向 N-53°-E。

所見 本跡は、出土遺物がなく、時期性格不明である。



第130図 第1号掘立柱建物跡出土遺物

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	壺 須恵器	A [28,0] B (2,2)	口縁部破片。端部直下に突線を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。内面に自然釉。	白黄色微粒子 灰黄褐色 良好	P527 5%

第4節 土坑

当調査区のほぼ全域から土坑が162基確認された。形状や規模には各々差異が認められるが、一部を除いて伴出遺物が少なく、時期や性格の不明なものが多い。ここでは、土坑の形状や規模、覆土の状態や出土遺物に特徴があるものについて、個別に解説を加え、それ以外の土坑については、一覧表に記載した。なお、土坑番号は調査時に付した番号である。

第53号土坑（第131図）

位置 J2j₀区。

規模と平面形 長径2.26m、短径0.73m、深さ1.35mの長楕円形。

長径方向 N-26°-W。

壁面 外傾して立ち上がり、中位で段をなしている。

底面 長楕円形で平坦である。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土中から縄文式土器片、土師器片が出土している。

所見 本跡は、遺構の形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。

第86号土坑（第132図）

位置 I5i7区。

規模と平面形 長径1.12m，短径0.95m，深さ0.10mの楕円形。

長径方向 N-57°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 長楕円形で平坦である。

覆土 ローム小ブロック，ローム粒子を含むことから人為堆積と思われる。

遺物 覆土の中層から下層にかけて，土師器片が出土している。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが，性格は不明である。

第98号土坑（第132図）

位置 I3a7区。

規模と平面形 長径1.27m，短径1.13m，深さ0.14mの楕円形。

長径方向 N-24°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 楕円形で平坦である。

覆土 自然堆積と思われる。

遺物 覆土の中層から下層にかけて，土師器片が出土している。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが，性格は不明である。

第127号土坑（第131図）

位置 H6i6区。

重複関係 第128号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 長径3.23m，短径1.43m，深さ1.57mの長楕円形。

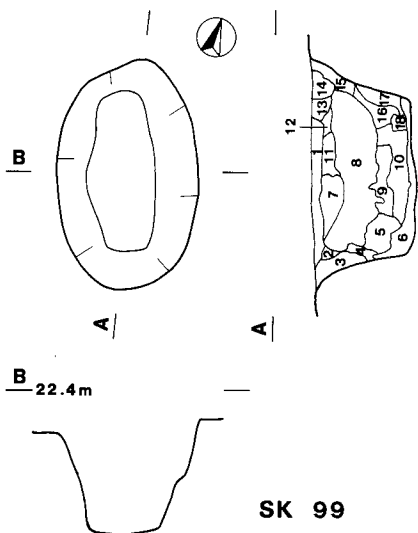
長径方向 N-38°-W。

壁面 外傾して立ち上がり，中位で段をなしている。

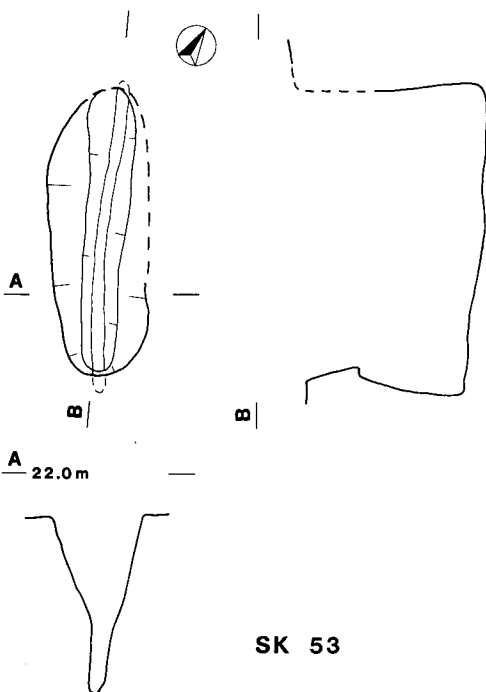
底面 長楕円形で平坦である。

覆土 自然堆積。

所見 本跡は，遺構の形態から陥し穴と考えられる。遺物が出土していないので時期は不明である。



SK 99



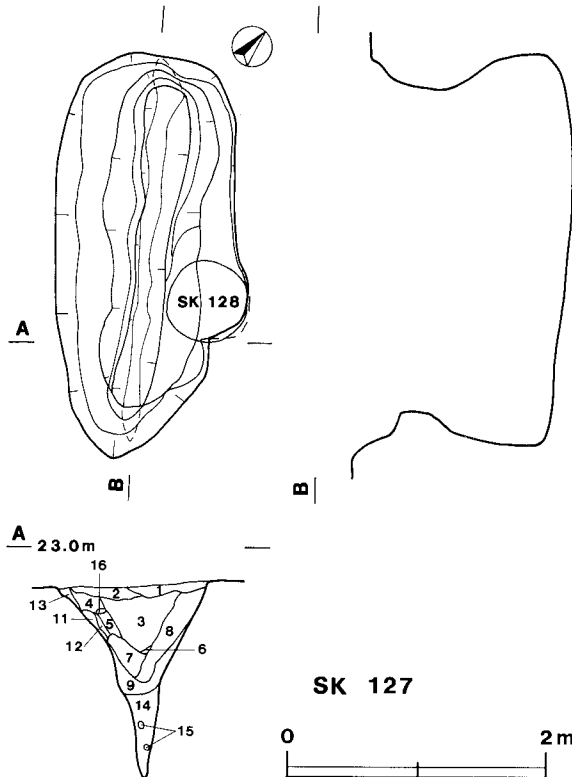
SK 53

第127号土坑土層解説

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。 |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量。 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量。 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子中量。 |

第99号土坑土層解説

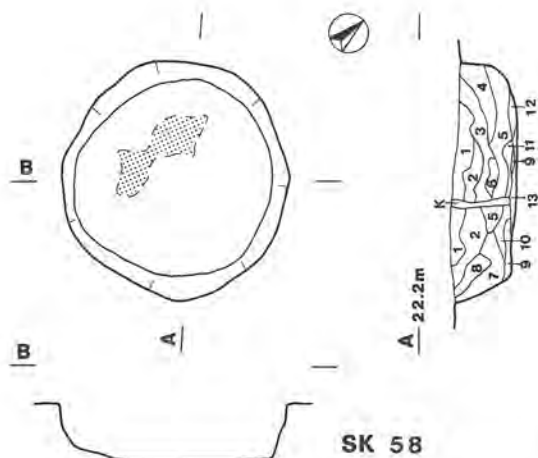
- | | | |
|----|-----|--|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子・褐色土極微量。 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子微量。 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・暗褐色土極微量。 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子・褐色土極微量。 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 8 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・暗褐色土・褐色土極微量。 |
| 9 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, ローム中ブロック極微量。 |
| 10 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・褐色土極微量。 |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 14 | 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。 |
| 15 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。 |
| 16 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。 |
| 17 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 18 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。 |



SK 127

- | | | |
|----|-----|-------------------------------|
| 7 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量。 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子多量。 |
| 9 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量。 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子多量。 |
| 11 | 明褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子多量。 |
| 12 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量。 |
| 13 | 褐色 | ローム中ブロック微量。 |
| 14 | 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。 |
| 15 | 褐色 | ローム粒子少量。 |

第131図 土坑実測図(1)



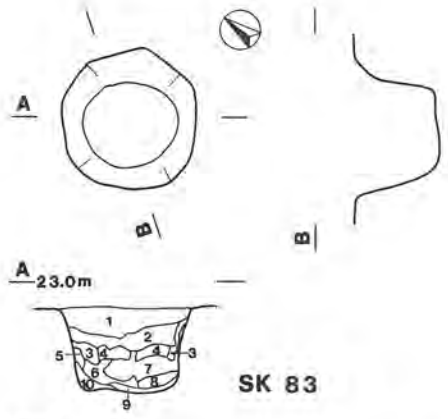
第58号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子・褐色土極微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック・炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極微量。
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 9 黄褐色 ローム粒子多量。
- 10 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック極微量。
- 11 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量。
- 12 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量。
- 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量, ローム粒子少量。



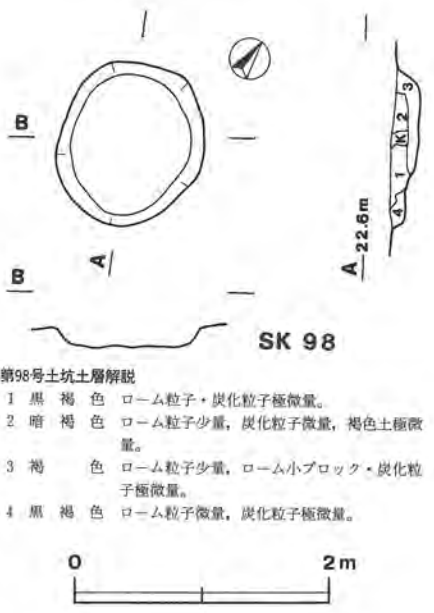
第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量。
- 3 褐色 ローム粒子極多量, ローム小ブロック少量。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量。
- 8 褐色 ローム粒子極多量。
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量。



第83号土坑土層解説

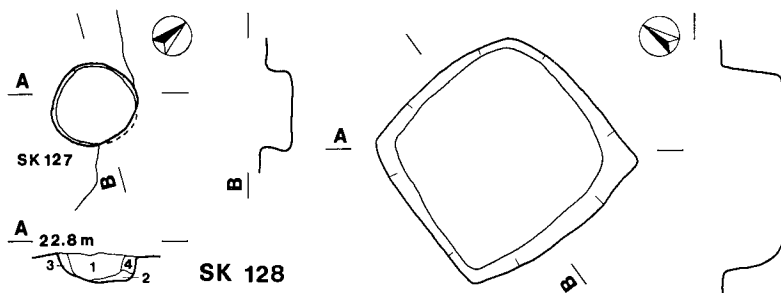
- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。
- 2 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量。
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量。
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量。
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子・黒褐色土小ブロック極微量。
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量。
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量。



第98号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 褐色土極微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 4 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子極微量。

第132図 土坑実測図(2)

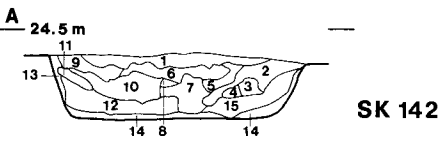


第128号土坑土層解説

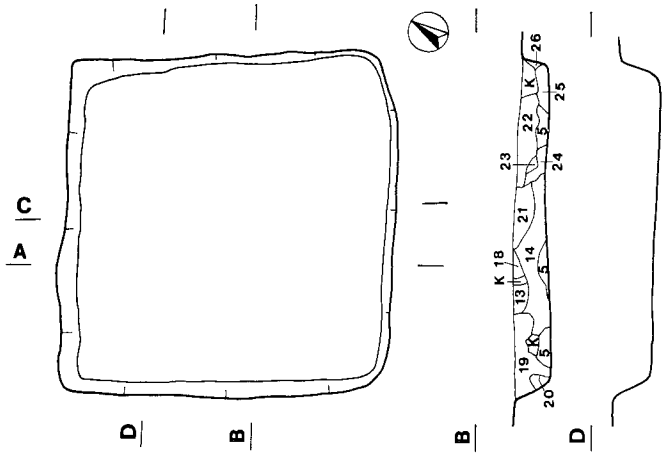
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
- 3 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量。

第142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量，焼土粒子極微量。
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，黒褐色土小ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック微量。
- 5 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック・炭化粒子極微量。



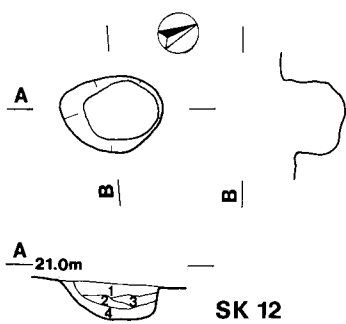
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，黒褐色土小ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子微量，炭化粒子極微量。
- 9 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量。
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極微量。
- 11 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物極微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，炭化物・褐色土極微量。
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量。
- 14 褐色 ローム粒子多量。
- 15 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量。



第166号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量。
- 2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量。
- 5 褐色 ローム粒子極多量，ローム小ブロック少量。
- 6 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 7 褐色 ローム小ブロック少量。
- 8 褐色 ローム粒子多量，炭化物微量。
- 9 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量。
- 10 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子微量。
- 11 暗褐色 ローム粒子中量。
- 12 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量。
- 13 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量。
- 14 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物微量。
- 15 暗褐色 ローム粒子中量。
- 16 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量。
- 18 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物微量。
- 19 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量。
- 20 褐色 ローム粒子多量。
- 21 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 22 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 23 暗褐色 ローム粒子中量。
- 24 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量。
- 25 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量。
- 26 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量。

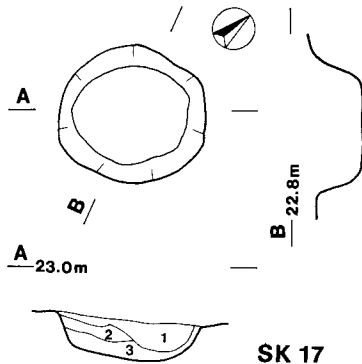
第133図 土坑実測図(3)



SK 12

第12号土坑土層解説

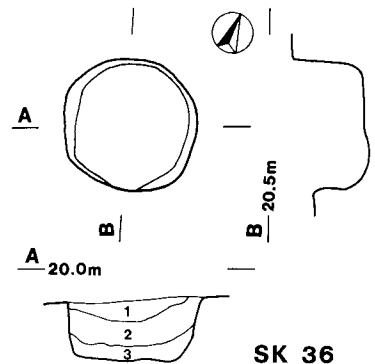
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子極少量。
- 3 黒色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子極少量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子極少量。



SK 17

第17号土坑土層解説

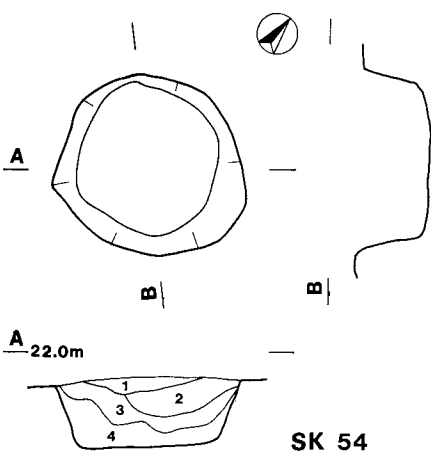
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。



SK 36

第36号土坑土層解説

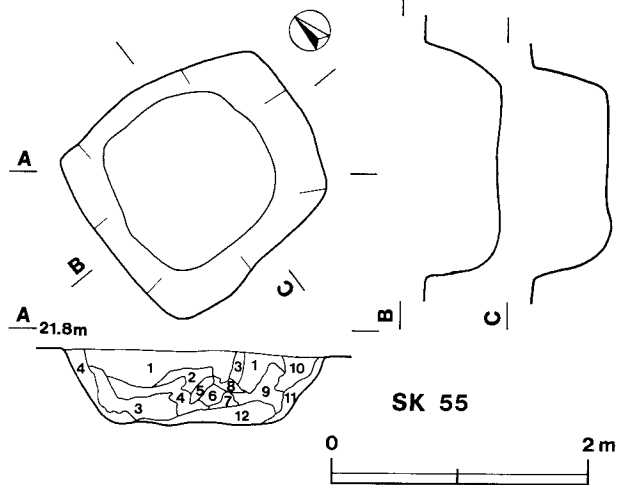
- 1 褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量。
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量,焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量。



SK 54

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック極微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量,ローム小ブロック・焼土粒子極微量。
- 3 黒褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,炭化粒子極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量,ローム中ブロック中量,ローム小ブロック少量,炭化粒子極微量。

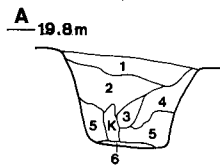
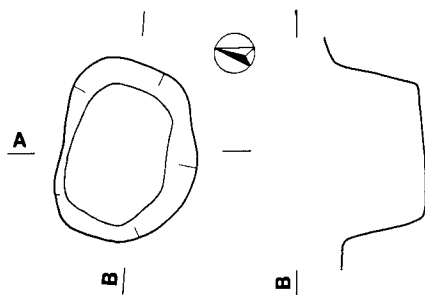


SK 55

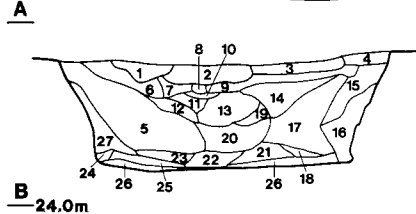
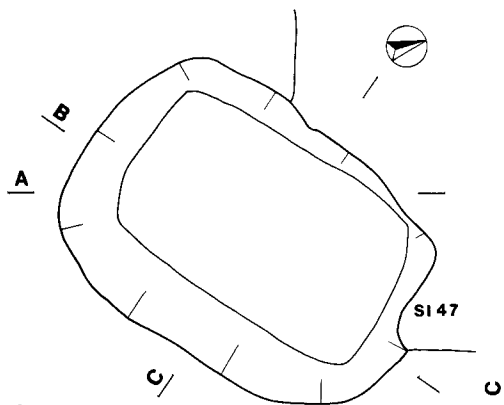
第55号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量,炭化粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子少量,炭化物極微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量。
- 4 暗褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量,炭化粒子・褐色土極微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,ローム中ブロック微量,炭化粒子極微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子微量,ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 7 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 8 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック極微量。
- 9 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック微量,炭化粒子極微量。
- 10 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量。
- 11 黄褐色 ローム粒子多量,ローム中ブロック中量,炭化粒子極微量。
- 12 暗褐色 ローム粒子微量,ローム小ブロック・炭化粒子極微量。
- 13 暗褐色 ローム粒子少量,ローム中ブロック微量,炭化粒子・褐色土極微量。
- 14 褐色 ローム中ブロック多量,ローム粒子少量。

第134図 土坑実測図(4)



SK 122



SK 140

第122号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量。
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量。
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量。
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量。
- 5 黒褐色 ローム粒子少量。
- 6 明褐色 黒褐色粒子多量。

第140号土坑土層解説

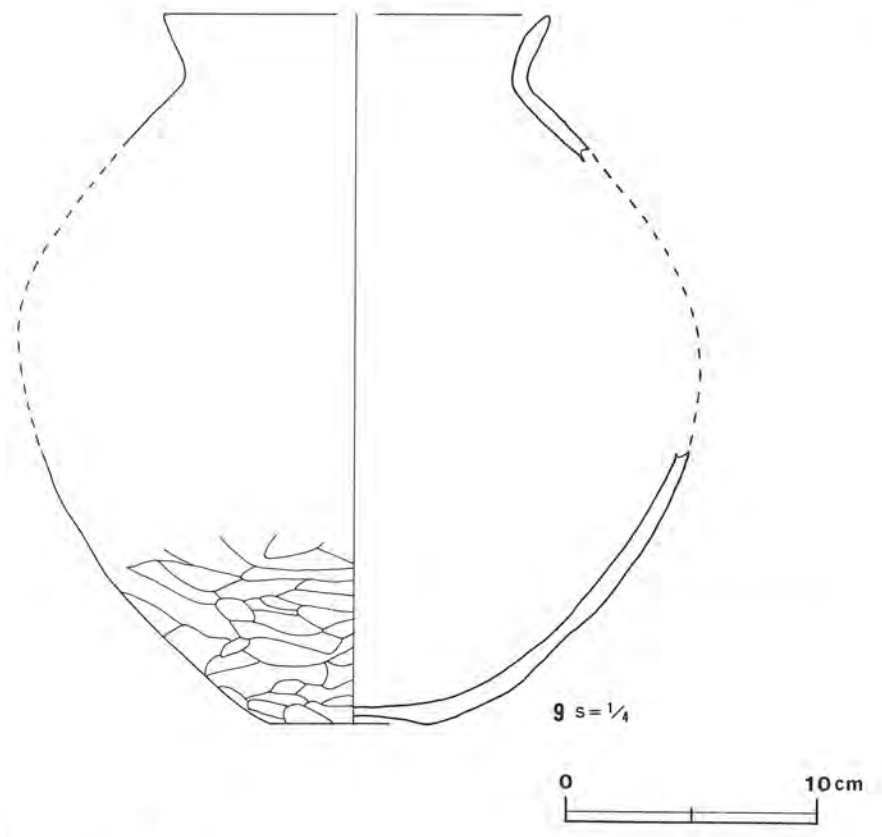
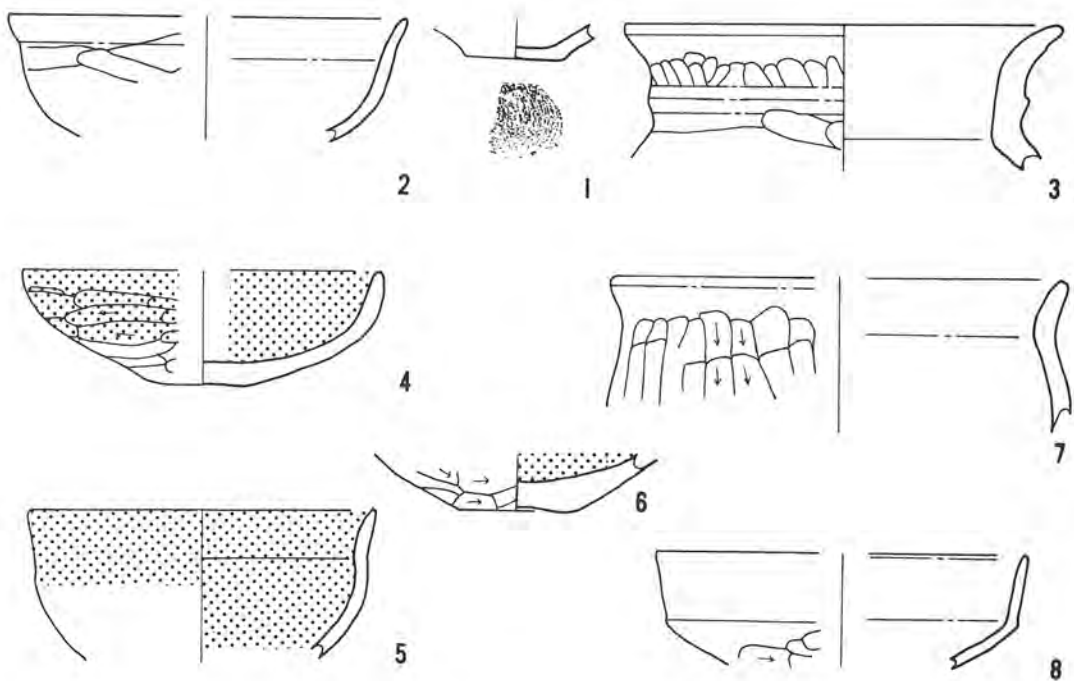
- 1 暗褐色 炭化物少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量。
- 2 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, ローム粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。
- 4 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量, 炭化粒子極微量。
- 6 褐色 砂粒中量, ローム粒子・炭化物微量。
- 7 にぶい黄褐色 砂粒極多量, ローム粒子極微量。
- 8 暗褐色 砂粒多量, 炭化粒子微量。
- 9 暗褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化物微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 10 暗褐色 砂粒少量, 炭化粒子極微量。
- 11 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子極微量。
- 12 暗褐色 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量。
- 13 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・砂粒微量, 炭化物極微量。
- 14 暗褐色 ローム粒子・炭化物・砂粒微量。
- 15 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。
- 16 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量。
- 17 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量。
- 18 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量。
- 19 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量。
- 20 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量。

- 21 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極微量。
- 22 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・炭化物微量, ローム小ブロック極微量。
- 23 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量。
- 24 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量, 焼土粒子極微量。

- 25 黒褐色 炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量。
- 26 暗褐色 炭化物多量, 炭化粒子極多量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量。
- 27 黄褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。



第135図 土坑実測図(5)



第136図 土坑出土遺物実測・拓影図

第142号土坑 (第133図)

位置 D8g₁区。

規模と平面形 長軸1.65m, 短軸1.63m, 深さ0.49m の方形。

長軸方向 N-69°-E。

壁面 垂直に立ち上がっている。

底面 方形で平坦である。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック, ローム粒子を含むことから人為堆積と思われる。

遺物 土坑中央部の覆土上層から中層にかけて, 土師器片, 須恵器片が集中して出土している。

所見 本跡は埋め戻しの過程で遺物が投棄されたと思われる。出土遺物から古墳時代中期のものと考えられる。性格は不明である。

第166号土坑 (第133図)

位置 E8c₃区。

規模と平面形 長軸2.72m, 短軸2.60m, 深さ0.38m の方形。

長軸方向 N-61°-W。

壁面 外傾して立ち上っている。

底面 方形で平坦である。

覆土 上層から下層にかけてローム小ブロック, ローム粒子を含むことから人為堆積と思われる。

遺物 覆土中から縄文式土器片, 土師器片が出土している。

所見 本跡は人為的に埋め戻されたものと思われる。時期, 性格ともに不明である。

第70号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	坏 土師質土器	B (1.5) C [4.0]	底部破片。平底。	底部回転糸切り。	雲母・砂粒 にぶい橙色 普通	P529 10%

第86号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 2	坏 土師器	A [15.9] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P530 5%
3	甕 土師器	A 17.5 B (5.9)	口縁部破片。口縁部と頸部との境に強い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P531 10%

第98号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 4	坏 土 師 器	A [14.2] B 4.5 C 4.2	底部から口縁部の破片。平底。 体部は内彎して立ち上がり、口 縁部はほぼ直立する。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ。口縁部内・外面横ナデ。内 ・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P532 30%
5	坏 土 師 器	A [13.6] B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は 外傾する。口縁部内面に弱い稜 を持つ。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 ナデ。口縁部内・外面横ナデ。 内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 普通	P533 30%
6	埴 土 師 器	B (2.5) C 4.6	底部破片。平底。	底部へラ削り後ナデ。内面赤 彩。	長石・石英・砂粒 浅黄橙色 普通	P534 5%
7	甕 土 師 器	A [15.2] B (6.2)	口縁部破片。口縁部は外反す る。	頸部外面へラ削り、口縁部内・ 外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P535 5%

第105号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 8	坏 土 師 器	A [14.7] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部と の境に強い稜を持つ。口縁部は 外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ、内面 ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P536 10%

第161号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 9	甕 土 師 器	A [20.6] B [37.6] C 8.6	底部から体部下位の破片。平 底。体部は内彎して立ち上 がる。	底部及び体部外面へラ削り後ナ デ、内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にふい橙色 普通	P537 20%

第5節 その他の遺構

1 井戸状遺構

当調査区からは、台地の先端部に2基、中央部に1基、基部に1基の計4基の井戸状遺構が検出されている。

第1号井戸状遺構（第137図）

位置 L2b₁区。

規模と平面形 長軸1.72m、短軸1.62m、深さ1.82mの5角形。

長軸方向 N-51°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 五角形で平坦である。粘土層を掘り抜いて構築されている。

覆土 自然堆積と思われる。

遺物 覆土中から縄文式土器片，土師器片，須恵器片が出土している。

所見 本跡は，粘土層を掘り抜いて構築されていることから，井戸状遺構と思われる。時期は不明である。第2号井戸状遺構と並んで構築されている。

第2号井戸状遺構（第137図）

位置 L1b₀区。

規模と平面形 長径1.42m，短径1.38m，深さ1.87mの不整円形。

長径方向 N-60°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 不整円形で平坦である。粘土層を掘り抜いて構築されている。

覆土 降雨のため土層の半分が崩れてしまったが，残存した土層から自然堆積と思われる。

遺物 覆土中から縄文式土器片が出土している。

所見 本跡は，粘土層を掘り抜いて構築されているため，井戸状遺構と思われる。時期は不明である。第1号井戸状遺構と並んで構築されている。

第3号井戸状遺構（第138図）

位置 J4b₉区。

規模と平面形 長径2.05m，短径1.52m，深さ2.06mの楕円形。

長径方向 N-26°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 楕円形で平坦である。

覆土 自然堆積と思われる。

所見 本跡は，粘土層を掘り抜いて構築されているため，井戸状遺構と思われる。遺物等が出土していないので時期は不明である。

第4号井戸状遺構（第138図）

位置 D8g₈区。

規模と平面形 長径1.92m，短径1.04m，深さ1.50mの楕円形。

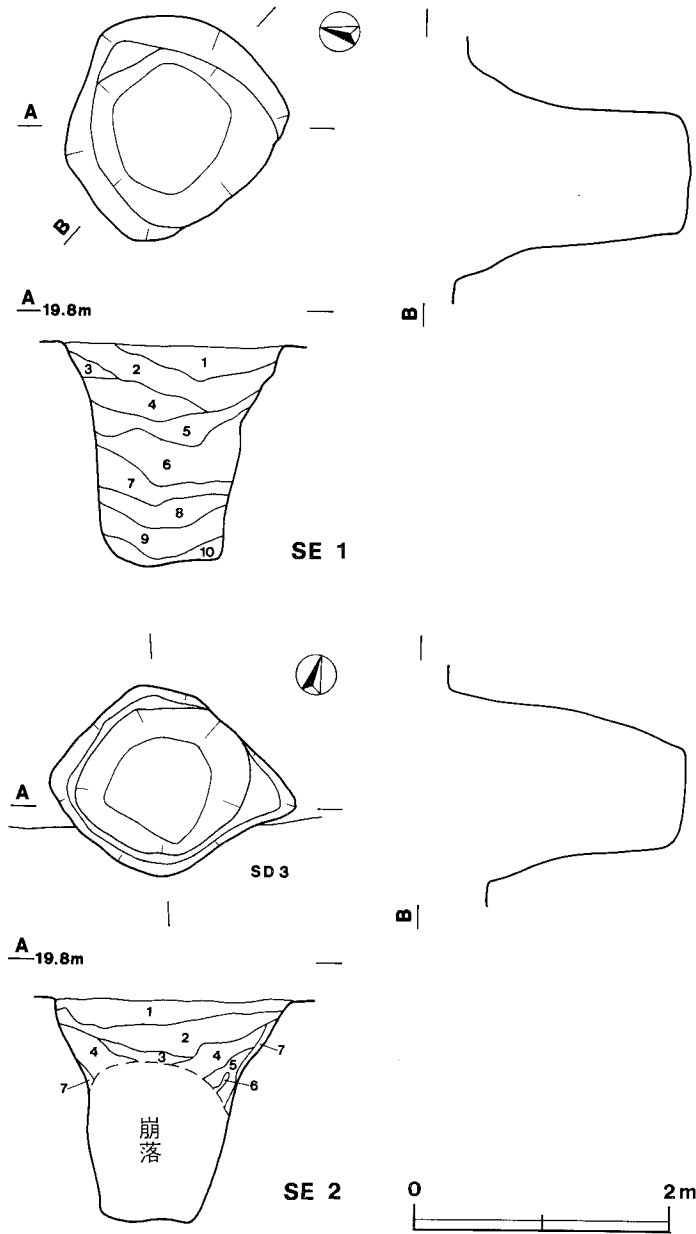
長径方向 N-80°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 楕円形で平坦である。粘土層を掘り抜いて構築されている。

覆土 1～13層は自然堆積，14層から下層にかけてはローム小ブロック，ローム粒子，粘土小ブロック，粘土粒子を含み人為堆積と思われる。

所見 本跡は，遺物等が出土していないので時期は不明である。現状では湧水はないが，粘土層を掘り抜いているので，当時は湧き水があったと思われる。



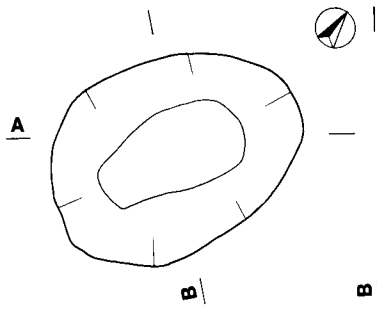
第1号井戸状遺構土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量。
- 2 褐色 ローム粒子中量。
- 3 明褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極微量。
- 7 褐色 ローム粒子中量，粘土極微量。
- 8 褐色 ローム小ブロック微量。
- 9 褐色 ローム粒子少量。
- 10 褐色 ローム粒子少量。

第2号井戸状遺構土層解説

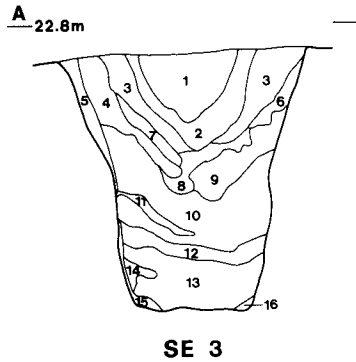
- 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，炭化材極微量。
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子・炭化物極微量。
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量。
- 6 暗褐色 ローム粒子少量。
- 7 褐色 ローム粒子・粘土粒子多量。

第137図 第1・2号井戸状遺構実測図



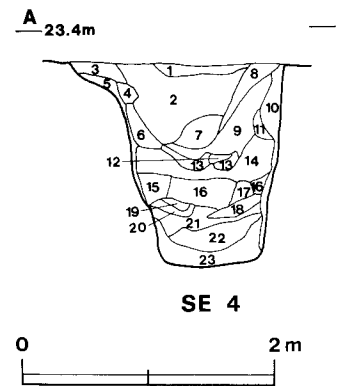
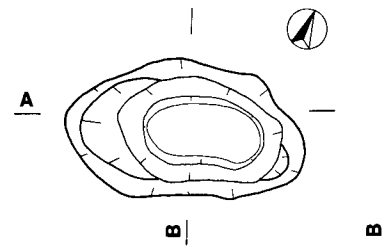
第3号井戸状遺構土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・褐色土極微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量, 褐色土極微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量。
- 5 黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・暗褐色土極微量。
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, 褐色土極微量。
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量, 暗褐色土極微量。
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 暗褐色土極微量。
- 10 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量, ローム小ブロック極多量, 炭化粒子極微量。
- 11 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量。
- 12 褐色 暗褐色土多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量。
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子極多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量。
- 14 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量。
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 褐色土極微量。
- 16 黒褐色 粘土小ブロック極微量。



第4号井戸状遺構土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量, 焼土小ブロック・褐色土極微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量, 褐色土ブロック極微量。
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量, 焼土粒極微量。
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化物極微量。
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量。
- 10 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量。
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量。
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量。
- 13 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量。
- 14 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量。
- 15 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム小ブロック微量。
- 16 に近い黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量。
- 18 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子微量, 暗褐色土極微量。
- 19 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量。
- 20 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量。
- 21 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量。
- 22 黄褐色 ローム粒子極多量, ローム中ブロック中量, 粘土小ブロック少量。
- 23 黒褐色 粘土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量。



第138図 第3・4号井戸状遺構実測図

2 炭焼窯跡

当遺跡からは、炭焼窯跡が台地斜面部から6基検出されている。第6号炭焼窯跡については、耕作による攪乱をかなり受けて、遺存状態が悪いため、図版は掲載しなかった。

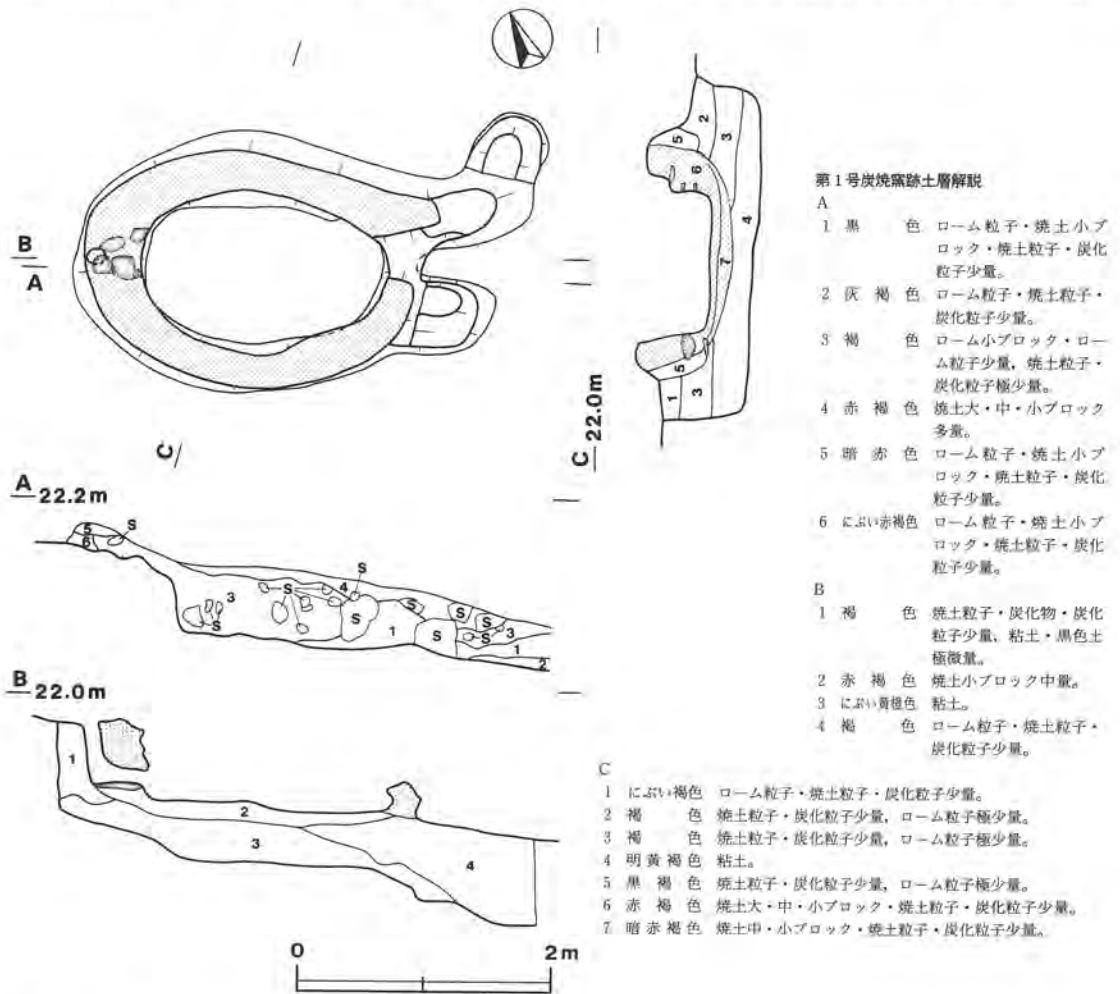
第1号炭焼窯跡（第139図）

位置 H8h₂区。

規模と平面形 全長3.35m、短径1.29mの楕円形である。断面形はU字状である。

長径方向 N-62°-W。

壁 最大壁高は54cmで、垂直に立ち上がっている。約30cmの厚さで粘土を張り、壁面の一部



第139図 第1号炭焼窯跡実測図

を礫によって補強して構築されている。壁面の粘土は熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径1.99m、短径1.29mの楕円形で、天井部は崩落している。窯底は粘土を張ってあり、粘土は熱を受け赤変硬化している。

煙道部 奥壁中央部に検出されている。煙道口は窯底から約13cmの段を持ち高くなり、煙道口底面に平らな礫が敷かれている。煙道は孔径15cmで垂直に立ち上がっている。

前庭部 長さ0.74m、幅0.46mの溝状になり、出入口部から粘土壁が袖状に前庭部に伸びている。

覆土 自然堆積と思われる。中層には、粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック、焼土粒子が厚く堆積しており、天井部の崩落による堆積と思われる。

遺物 煙道部付近から瓦片が出土している。瓦片は崩落した天井部の粘土に混入して出土していることから、天井部の補強に使われたものと考えられる。

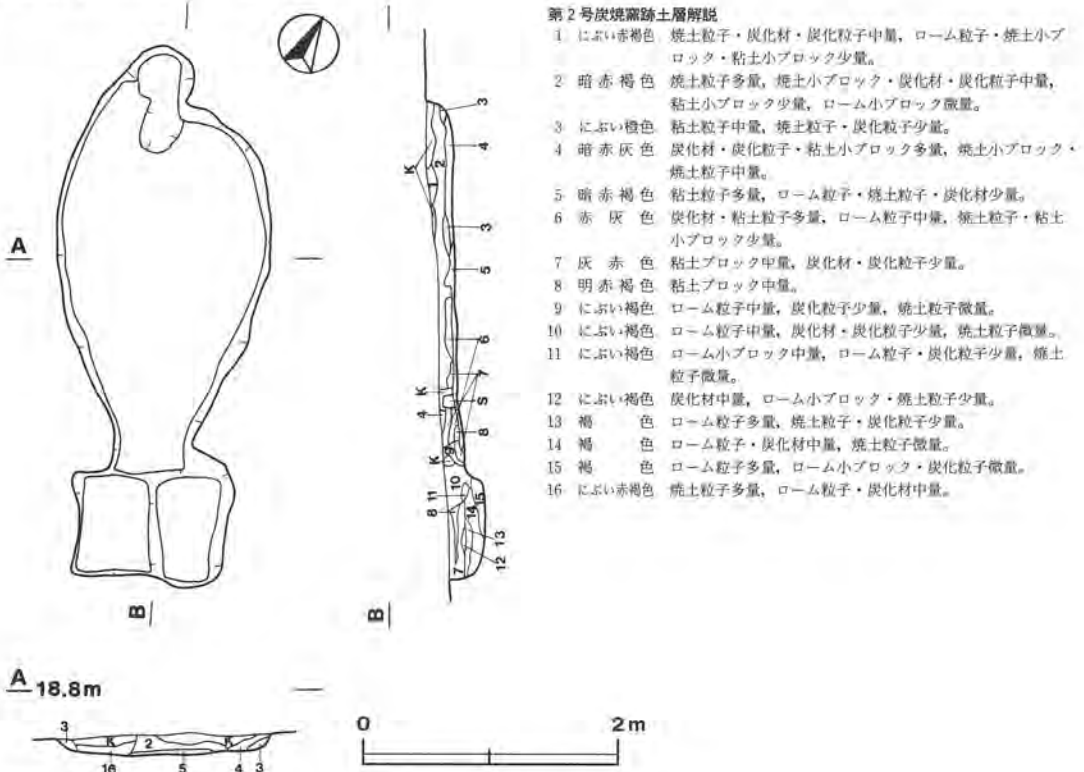
所見 時期は遺構の形態から、近世以降と考えられる。

第2号炭焼窯跡 (第140図)

位置 L1e7区。

規模と平面形 全長(3.34)m、短径1.66mの不整楕円形である。断面形はU字状である。

長径方向 N-22°-W。



第140図 第2号炭焼窯跡実測図

壁 壁高は11~14cmで、外傾して立ち上がっている。約20cmの厚さで粘土を張って構築されている。熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径2.72m、短径1.66mの楕円形で、天井部は崩落している。窯底はほぼ平坦で、粘土を張り熱を受けて、赤変硬化している。

煙道部 奥壁中央部に検出されている。煙道は孔径が約38cmで、窯底から外傾して立ち上がっている。

前庭部 攪乱を受けほとんど残存していない。

覆土 自然堆積と思われる。上層には、粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック、焼土粒子が厚く堆積しており、天井部の崩落による堆積と考えられる。

所見 遺物は出土していないが、時期は遺構の形態から、近世以降と考えられる。

第3号炭焼窯跡（第141図）

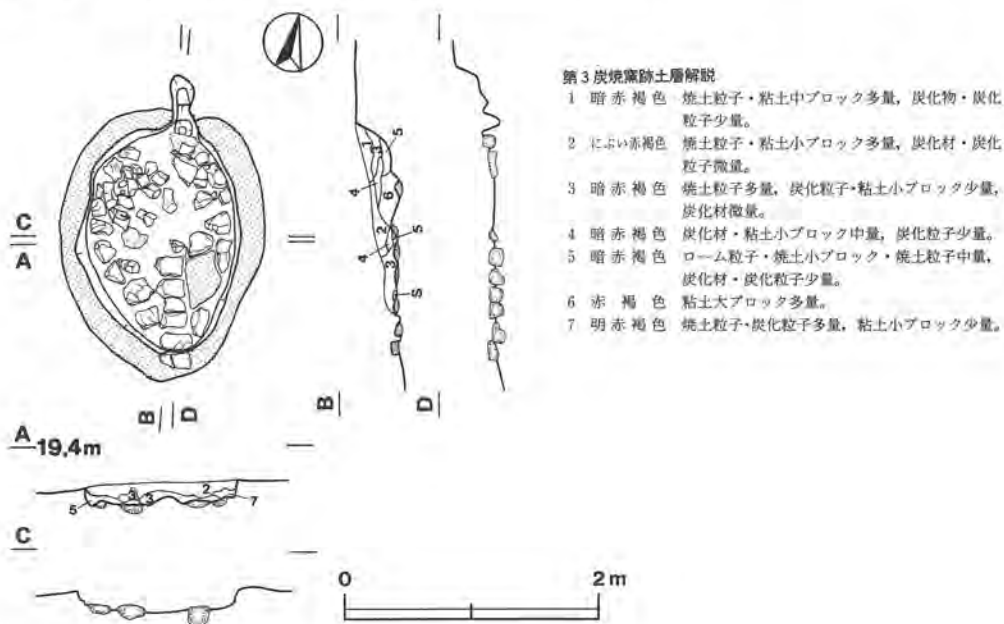
位置 L1c7区。

規模と平面形 全長(2.19)m、短径1.29mの楕円形である。断面形はU字状である。

長径方向 N-11°-W。

壁 最大壁高は17cmで、外傾して立ち上がっている。約20cm程の厚さで粘土ブロックを積み上げて構築されている。熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径1.76m、短径1.29mの楕円形で、天井部は崩落している。窯底は花崗岩と粘土を敷き詰めてあり、粘土は熱を受け赤変硬化している。



第141図 第3号炭焼窯跡実測図

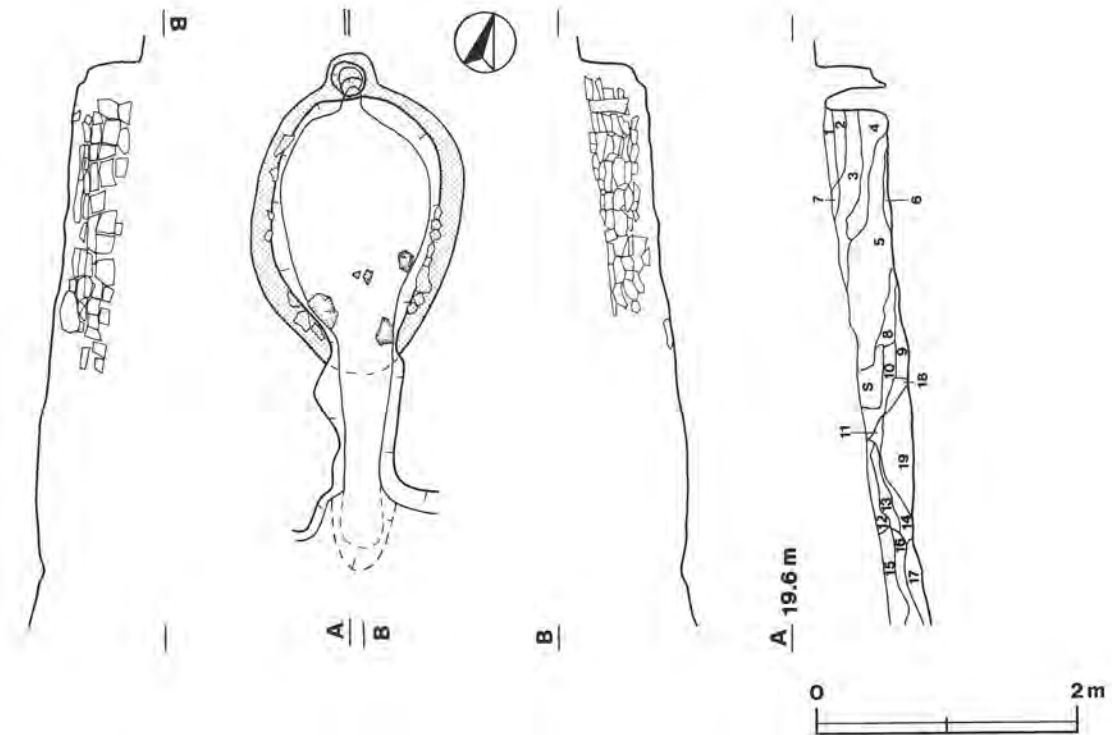
出入口部 花崗岩が窯底よりも3 cm ほど高く敷かれている。

煙道部 奥壁中央部から検出されている。煙道の孔径は約46cm で、窯底から外傾して立ち上がっている。

前庭部 攪乱を受けほとんど残存していない。

覆土 自然堆積と思われる。上層には、粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック、焼土粒子が厚く堆積しており、天井部の崩落による堆積と考えられる。

所見 遺物は出土していないが、遺構の形態から、時期は近世以降と考えられる。



第4号炭焼窯跡土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量。 | 11 によい黄褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量、焼土小ブロック微量。 |
| 2 褐色 | 暗赤褐色土中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量。 | 12 明赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック微量、炭化物極微量。 |
| 3 によい赤褐色 | 焼土粒子多量、暗赤褐色土中量、炭化粒子微量。 | 13 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量、炭化物極微量。 |
| 4 によい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、暗赤褐色土中量、炭化物・炭化粒子少量。 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量。 |
| 5 明赤褐色 | 暗赤褐色土中量、炭化物微量。 | 15 暗褐色 | 炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子微量、焼土小ブロック極微量。 |
| 6 灰褐色 | 炭化物多量、焼土粒子少量。 | 16 黒褐色 | 炭化粒子少量、炭化物微量、焼土小ブロック・焼土粒子・褐色土極微量。 |
| 7 によい赤色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量、炭化物極微量。 | 17 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子極微量。 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・暗赤褐色土中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量。 | 18 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量。 |
| 9 明赤褐色 | 炭化粒子・焼土極微量。 | 19 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量。 |
| 10 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量。 | | |

第142図 第4号炭焼窯跡実測図

第43号炭焼窯跡（第142図）

位置 K 4 d₄区。

規模と平面形 全長3.97m，短径1.30mの楕円形である。断面形はU字状である。

長径方向 N-14°-W。

壁 最大壁高は46cmで，垂直に立ち上がっている。約18cmの厚さの粘土ブロックを積み上げて構築されている。壁面の粘土ブロックは熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径2.00m，短径1.30mの楕円形で，天井部は崩落している。窯底は粘土を張ってあり，粘土は熱を受け赤変硬化している。出入口付近の窯底から礫が検出されている。

煙道部 奥壁中央部に検出されている。煙道口は窯底から約10cmの段を持ち高くなっている。煙道は孔径26cmで垂直に立ち上がっている。

前庭部 長さ1.34m，幅0.60mの溝状になっている。

覆土 自然堆積と思われる。中層には，粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック，焼土粒子が厚く堆積しており，天井部の崩落による堆積と考えられる。

所見 遺物は出土していないが，遺構の形態から，時期は近世以降と考えられる。

第5号炭焼窯跡（第143・144図）

位置 K 4 d₂区。

規模と平面形 全長(2.70)m，短径1.47mの楕円形である。断面形はU字状である。

長径方向 N-10°-W。

壁 最大壁高は38cmで，垂直に立ち上がっている。約24cmの厚さで粘土を張って構築されている。壁面は熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径1.94m，短径1.41mの楕円形で，天井部は崩落している。窯底は粘土を張ってあり，粘土は熱を受け赤変硬化している。

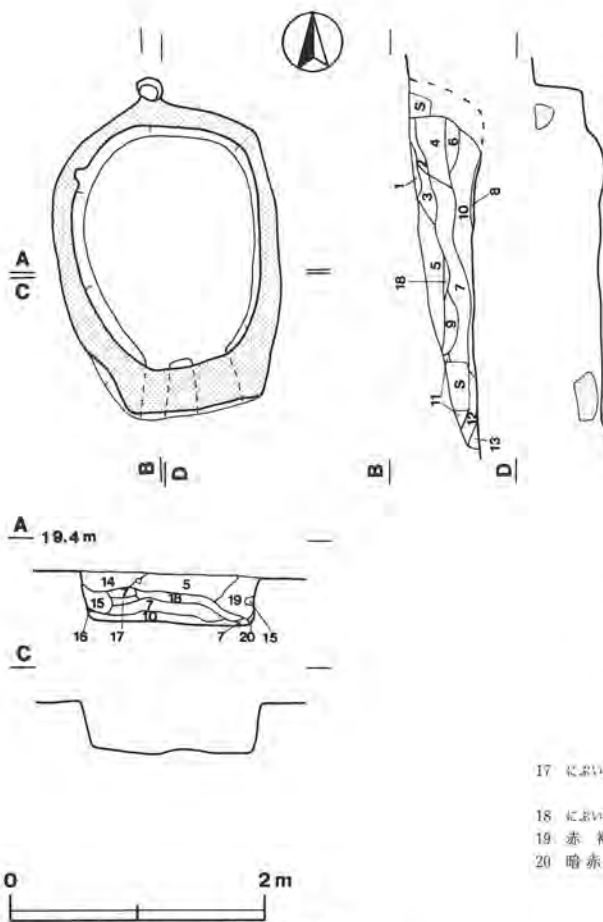
煙道部 奥壁中央部に検出されている。煙道口は窯底から約14cmの段を持つ。煙道は孔径20cmで垂直に立ち上がっている。

前庭部 斜面部のため確認できなかった。

覆土 自然堆積と思われる。中層には，粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック，焼土粒子が厚く堆積しており，天井部の崩落による堆積と考えられる。

遺物 覆土中から須恵器片，第144図-1の鉄製品が出土している。

所見 遺構の形態から，時期は近世以降と考えられる。



第5号炭焼窯跡土層解説

- 1 におい褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量, 炭化物極微量。
- 2 におい褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極微量。
- 3 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量, 炭化物極微量。
- 4 褐色 砂質粘土粒子多量, 炭化物・砂質粘土小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。
- 5 におい赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量。
- 6 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量。砂質粘土ブロック・砂質粘土粒子微量。
- 7 明赤褐色 炭化物微量。
- 8 暗褐色 砂質粘土ブロック中量。
- 9 におい赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量, 砂質粘土粒子微量。
- 10 黒色 炭化物多量, 焼土小ブロック・砂質粘土ブロック微量, 焼土中ブロック極微量。
- 11 明赤褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子極多量, 炭化物少量, 炭化粒子極微量。
- 12 極暗赤褐色 炭化粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量。
- 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量。
- 14 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量。
- 15 明赤褐色 砂質粘土小ブロック多量, 焼土粒子極多量, 炭化物微量。
- 16 におい赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量。
- 17 におい赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量。
- 18 におい赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物・砂質粘土少量。
- 19 赤褐色 焼土粒子極多量, 砂質粘土少量, 炭化物・炭化粒子微量。
- 20 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土中量, 炭化物極微量。

第143図 第5号炭焼窯跡実測図

第6号炭焼窯跡 (第144図)

位置 B9g5区。

規模と平面形 全長(2.90)m, 短径(2.41)mの楕円形と推定される。

長径方向 N-51°-W。

壁 約10cmの厚さで粘土を張って構築されている。壁面は熱を受け赤変硬化している。

炭化室 平面形は長径(2.90)m, 短径(2.41)mの楕円形で, 天井部は崩落している。窯底は耕作によるトレンチャートと芋穴により攪乱を受けているが, 部分的に遺存している窯底から粘土を張って構築されたものと思われる。粘土は熱を受け赤変硬化している。

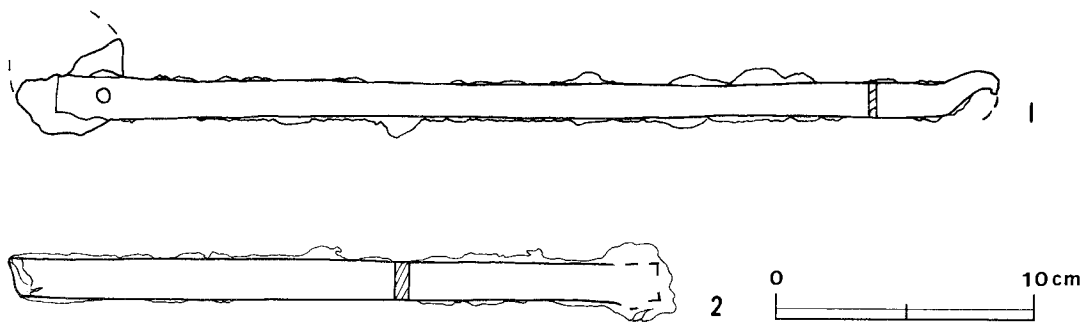
煙道部 攪乱を受けているため, 確認できなかった。

前庭部 攪乱を受けているため, 確認できなかった。

覆土 自然堆積と思われる。覆土中には, 粘土が熱を受け赤化した焼土ブロック, 焼土粒子が堆積しており, 天井部の崩落による堆積と考えられる。

遺物 北西壁から第144図-2の鉄製品が出土している。

所見 遺構の形態から、時期は近世以降と考えられる。



第144図 第5・6号炭焼窯出土遺物実測図

表2 住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	F 8 f ₃	N-47°-E	長方形	6.75×5.28	26~47	平坦	-	0	0	2	1	0	自然	土師器(坏, 甕)磁石, 石鏡	南西コーナーに焼土
2	G 7 i ₂	N-45°-W	方形	7.00×6.37	24~46	平坦	全周	4	1	5	1	2	人為	土師器(坏, 埴, 甕), 須惠器(坏蓋, 坏身), 勾玉, 磁石, 石鏡	間仕切り溝, 焼失
3	G 7 j ₅	N-44°-W	方形	6.52×6.48	19~35	平坦	半周	4	1	6	1	2	人為	土師器(坏, 埴, 甕), 縄文式土器片, 石鏡, 磨石	間仕切り溝, 焼失
4	G 7 j ₉	[N-105°-W]	[長方形]	(5.15)×(4.10)	0~5	平坦	-	0	0	0	0	1	不明	土師器(坏, 甕)	
5	H 7 a ₇	N-40°-E	方形	3.88×3.53	4~10	平坦	-	3	0	5	0	1	不明	土師器(坏, 埴, 甕)	
6	H 7 c ₄	N-35°-W	方形	5.74×5.72	25~40	平坦	全周	4	1	4	0	1	人為	土師器(坏, 埴, 鉢, 甕), 磁石	焼失, 粘土, 焼土, 出入口施設
7	H 7 h ₂	N-72°-W	方形	8.32×8.13	43~77	平坦	部分	6	1	15	3	1	自然	土師器(坏, 埴, 高坏, 甕, 須惠器(坏蓋, 坏身, 無蓋高坏蓋, 甕), 白玉	焼失, 間仕切り溝, 出入口施設
8	H 7 j ₁	N-68°-W	長方形	4.20×2.90	20~31	平坦	-	0	2	8	0	0	人為	土師器(坏, 甕, 甕), 須惠器(坏身, 坏蓋), 土玉	焼失
9	H 4 g ₅	N-49°-W	方形	8.34×8.25	18~37	平坦	-	4	1	6	0	1	自然	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 須惠器(甕, 甕), 白玉	焼土
10	I 4 a ₅	N-48°-W	長方形	6.62×5.84	16~21	平坦	-	0	1	0	0	1	自然	土師器(坏, 埴, 甕)	南西壁に焼土
11	I 4 g ₉	N-38°-W	方形	9.04×8.80	46~56	平坦	全周	4	1	4	0	2	自然	土師器(坏, 埴, 高坏, 甕, 甕), 土玉, 紡錘車, 白玉, 磁石炭化種子	間仕切り溝, 北西壁に焼土
12	J 3 b ₃	N-88°-E	方形	6.94×6.76	37~64	平坦	全周	4	0	4	0	0	人為	土師器(坏, 鉢), 磁石, 炭化材	焼失
13	K 2 b ₃	N-87°-E	方形	(3.50)×3.40	44~54	平坦	-	0	0	1	0	竈	自然	土師器(坏, 甕), 須惠器(坏, 高台付坏, 坏蓋, 鉢, 甕), 支脚	平安
14	K 2 b ₅	N-44°-W	長方形	4.24×3.20	18~22	平坦	-	0	0	0	0	0	自然	土師器(坏, 甕)	第18号土坑より新しい
15	I 5 d ₆	N-45°-W	方形	7.30×6.72	46~50	平坦	全周	4	1	5	1	1	人為	土師器(坏, 甕, 甕, 甕), 白玉, 炭化材	間仕切り溝, 焼失
16	K 1 e ₈	N-70°-E	方形	3.46×3.24	28~30	平坦	-	0	0	0	0	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏, 高台付皿), 須惠器(坏, 鉢), 炭化物	平安
17	K 2 c ₆	N-24°-W	長方形	4.00×3.32	22~42	平坦	全周	0	0	0	0	竈	自然	土師器(甕), 須惠器(高台付坏, 坏), 刀子, 管状土鏡, 磨石	平安
18	K 2 a ₆	N-45°-W	方形	6.48×5.96	36~66	平坦	全周	4	1	4	0	1	自然	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 有孔白板, 白玉, 紡錘車, 磁石, 炭化材	焼失
19	K 2 f ₆	N-58°-E	[長方形]	7.30×5.30	24~48	平坦	-	0	0	0	0	0	自然	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 紡錘車, 刀子, 石鏡, 縄文式土器片	北コーナーに焼土
20	K 2 d ₄	N-38°-W	方形	3.00×(2.94)	4~8	平坦	-	0	0	0	0	0	不明	土師器(坏, 甕), 須惠器(甕)	
21	I 2 i ₉	N-33°-W	長方形	6.14×5.00	40~46	平坦	-	0	1	0	0	0	自然	土師器(坏, 甕), 磁石	焼失
22	J 3 e ₄	N-54°-E	長方形	5.24×3.98	6~26	平坦	-	0	0	1	1	1	自然	土師器(坏, 埴, 甕), 白玉	
23	J 3 g ₂	N-49°-W	方形	5.56×5.50	40~60	平坦	全周	4	1	5	0	1	自然	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 炭化物, 縄文式土器片	焼失
24	K 3 a ₃	N-0°	長方形	5.50×[3.68]	10~58	平坦	-	0	0	0	0	竈	自然	須惠器(坏, 高坏付坏, 高甕)	平安, 墨書土器
25	I 5 c ₆	N-45°-W	方形	8.12×7.94	34~54	平坦	半周	4	1	5	0	1	人為	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 須惠器(坏身, 坏蓋, 高坏), 白玉, 磁石	焼失, 間仕切り溝, 出入口施設
26	J 5 a ₇	N-52°-W	方形	8.20×7.90	13~50	平坦	全周	4	1	5	1	1	人為	土師器(坏, 埴, 鉢, 高坏, 甕), 須惠器(甕), 磁石, 縄文式土器片	焼失, 間仕切り溝
27	J 5 b ₆	N-42°-W	方形	8.12×7.76	40~60	平坦	全周	4	2	6	1	1	人為	土師器(坏, 埴, 甕, 甕), 須惠器(甕), 白玉	間仕切り溝, 出入口施設
28	J 6 b ₄	N-37°-E	長方形	6.12×5.04	34~56	平坦	全周	0	1	0	0	1	人為	土師器(坏, 甕, 甕)	間仕切り溝, 出入口施設, 焼失, 第29号住居跡より新しい
29	J 6 b ₃	N-34°-E	長方形	(2.83)×2.50	5~7	平坦	-	0	3	0	0	0	人為	土師器(甕, 甕)	第28号住居跡より古い
30	J 6 b ₅	N-42°-E	長方形	6.48×4.72	22~50	平坦	全周	3	2	4	0	2	人為	土師器(坏, 甕, 甕)須惠器(甕)	焼失, 間仕切り溝, 出入口施設

住居跡 番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設					炬籠	覆土	出 土 遺 物	備 考	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ビット	入口					
31	J6 d _a	N-39°-W	長方形	3.36×2.64	6~28	平坦	-	0	0	2	0	0	人為	土師器(坏, 壺, 甕, 甗)		
32	J6 a ₉	N-35°-E	長方形	4.86×4.22	10~30	平坦	-	0	4	0	0	0	人為	土師器(坏, 高坏, 壺, 甗, 甗), 石鏃		
33	J7 c ₁	N-35°-E	長方形	3.80×3.13	5~17	平坦	-	0	0	0	0	0	自然	土師器(坏, 甕)		
34	I4 i ₇	N-138°-W	長方形	6.56×5.20	22~28	平坦	全周	4	3	5	0	1	人為	土師器(坏, 甗, 甗, 甗), 須恵器(甗), 有孔円板, 磁石, 黒曜石	焼失, 間仕切り溝	
35	I7 g ₁	N-56°-W	方形	8.66×8.10	16~34	平坦	-	4	1	4	0	1	自然	土師器(坏, 壺, 甗, 甗), 須恵器(甗), 炭化種子, 石鏃	間仕切り溝, 出入口施設	
36	I6 c ₉	N-37°-E	長方形	6.30×4.74	16~32	平坦	一部	0	5	0	0	1	人為	土師器(坏, 壺, 鉢, 甗)	間仕切り溝, 出入口施設	
37	J7 a ₂	N-36°-E	隅丸長方形	2.69×2.27	32~47	平坦	-	0	0	1	0	0	自然	土師器(坏, 甗)		
38	I6 d ₆	N-39°-W	長方形	2.92×2.38	9~17	平坦	-	0	3	0	0	0	自然	土師器(坏, 甗), 須恵器(甗)		
39	J2 b ₇	N-3°-W	方形	2.60×2.54	48~52	平坦	-	0	0	0	0	0	自然	土師器(坏, 鉢)		
40	C8 e ₉	N-41°-E	方形	8.05×7.88	5~28	平坦	全周	4	1	5	0	1	自然	土師器(坏, 甗), 須恵器(坏蓋), 炭化種子	南コーナーに焼土, 間仕切り溝	
41	D8 i ₄	N-48°-W	長方形	5.50×4.46	28~34	凹凸	半周	4	1	7	1	1	人為	土師器(坏, 甗), 勾玉, 白玉, 土玉, 磁石, 石鏃	間仕切り溝, 出入口施設	
42	D8 c ₂	N-45°-W	方形	7.80×7.48	16~28	平坦	全周	4	1	7	0	2	人為	土師器(坏, 壺, 高坏, 甗), 磁石	間仕切り溝, 出入口施設	
43	C9 c ₂	N-62°-W	[長方形]	(2.86)×(2.54)	4~6	不明	-	0	0	0	0	0	不明	土師器(坏)		
44	C9 j ₁	N-76°-W	[方形]	[3.82]×[3.68]	1~2	凹凸	-	0	0	2	0	1	不明	土師器(坏, 甗), 縄文式土器片	第167号土坑より新しい	
45	C9 h ₁	N-25°-E	長方形	4.82×3.36	12~24	平坦	-	0	0	6	0	0	電	人為	土師器(坏, 壺, 甗)	焼失, 古墳(後)
46	D8 e ₉	N-65°-W	長方形	6.56×4.72	14~54	平坦	-	4	1	4	0	1	人為	土師器(坏, 壺, 甗, 甗), 紡錘車, 炭化種子	焼土, 粘土塊, 間仕切り溝, 出入口施設	
47	D8 f ₆	N-16°-E	方形	3.60×3.34	12~36	平坦	-	0	0	0	0	0	電	自然	土師器(坏, 甗), 須恵器(坏, 坏蓋, 高甗, 甗)	平安, 第140号土坑より古い
48	J5 e ₈	N-37°-E	不整長方形	2.50×1.92	~12	平坦	-	0	0	0	0	1	自然	土師器(坏, 甗)		

表3 土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 [長軸方向]	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考	図 版 番号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
1	I7 c ₄	N-0°	円形	0.95×0.95	40	外傾	平坦	自然	土師器片		
2	H7 i ₈	N-11°-E	楕円形	1.65×1.47	22	垂直	皿状	人為	土師器片, 須恵器片		
3	H7 e ₇	N-47°-W	楕円形	1.92×1.08	28	緩斜	皿状	人為		炭化物, 焼土粒子(下層)	
4	H7 e ₉	N-36°-E	楕円形	1.28×0.80	58	緩斜	凹凸	人為	チャート剥片		
5	H7 d ₉	N-23°-E	楕円形	0.98×0.70	40	緩斜	平坦	自然			
6	H8 e ₁	N-5°-W	楕円形	0.78×0.69	30	外傾	皿状	自然	縄文式土器片		
7	H7 c ₆	N-35°-W	楕円形	0.64×0.55	39	外傾	平坦	自然			
8	H8 b ₃	N-60°-W	楕円形	0.53×0.45	63	垂直	平坦	自然	土師器片		
9	H7 g ₁	N-7°-E	円形	0.60×0.55	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		
10	G8 b ₇	N-41°-W	楕円形	0.72×0.63	55	外傾	平坦	人為	縄文式土器片		
11	G8 c ₇	N-77°-W	楕円形	0.63×0.53	39	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
12	G8 c ₇	N-21°-W	楕円形	0.78×0.60	50	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		134図

土坑 番号	位置	長径方向 [長軸方向]	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考	図 版 番号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
13	F7d ₆	N-52°-W	楕円形	1.77×1.50	80	外傾	凹凸	自然	土師器片		
14	H7c ₉	N-2°-E	楕円形	1.30×0.66	70	外傾	平坦	人為	土師器片		
15	H7d ₆	N-38°-E	楕円形	1.30×0.90	60	緩斜	凹凸	自然	土師器片		
16	H7b ₁	N-8°-E	円形	1.20×1.10	50	垂直	平坦	人為	土師器片		
17	I7c ₅	N-15°-W	円形	1.15×1.05	43	外傾	平坦	自然	土師器片		134図
18	K2b ₅	N-28°-W	不整楕円形	2.22×1.18	28	緩斜	凹凸	自然		風倒木痕	
21	L1a ₇	N-52°-E	楕円形	2.48×2.15	12	垂直	凹凸	自然	縄文式土器片		
22	L1b ₅	N-54°-E	楕円形	1.35×1.14	30	外傾	凹凸	自然			
23	L1d ₆	N-35°-E	円形	2.25×2.12	22	外傾	平坦	自然			
24	L1b ₉	N-22°-E	隅丸長方形	[4.37]×0.68	25	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
26	L1a ₉	N-17°-E	長楕円形	2.00×0.75	30	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片・須恵器片		
27	K1i ₅	N-30°-W	不整円形	1.31×1.27	31	外傾	平坦	自然	土師器片		
28	K1h ₅	N-14°-E	不整形	1.50×1.20	30	垂直	凹凸	自然	土師器, 縄文式土器片, 須恵器片		
29	L1b ₉	N-4°-E	円形	1.33×1.22	50	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		
30	K1e ₉	N-10°-W	楕円形	1.12×[1.00]	115	緩斜	平坦	自然			
31	K1i ₆	N-3°-E	長楕円形	1.71×1.20	38	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片	第132号土坑より古い	
32	K2j ₂	N-0°	円形	1.20×1.20	42	垂直	凹凸	自然			
33	K2j ₂	N-1°-E	円形	1.23×1.18	42	垂直	平坦	自然			
34	L1j ₂	N-81°-W	長楕円形	4.22×0.72	25	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片, 陶器片		
35	K2j ₃	N-67°-W	隅丸長方形	2.48×0.74	25	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
36	L1j ₄	N-81°-W	円形	1.03×1.01	50	垂直	平坦	自然	土師器片		134図
37	K2j ₅	N-73°-E	長楕円形	1.98×0.92	64	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		
38	K2i ₅	N-16°-E	隅丸長方形	2.04×0.91	50	外傾	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		
39	K2j ₅	N-64°-E	楕円形	1.35×1.08	35	外傾	平坦	自然			
40	K2j ₇	N-60°-W	円形	0.90×0.83	47	外傾	平坦	自然			
41	K2g ₅	N-63°-W	長楕円形	1.02×0.25	25	外傾	平坦	自然			
42	K2e ₆	N-31°-W	長楕円形	1.72×0.78	23	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 砥石		
43	K2e ₆	N-45°-W	長楕円形	1.43×0.67	48	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
44	L2e ₇	N-38°-E	楕円形	0.65×0.55	43	垂直	平坦	自然			
45	K3e ₂	N-20°-E	円形	1.07×1.01	23	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片, 土師器片		
46	K3e ₃	N-83°-E	楕円形	1.38×1.05	42	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		
47	K3d ₄	N-76°-W	楕円形	1.83×1.02	50	外傾	皿状	自然			
48	K3c ₁	N-57°-E	楕円形	1.50×1.22	60	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片		
49	J2h ₅	N-57°-W	長楕円形	1.62×0.67	37	外傾	凹凸	自然			
50	J2h ₅	N-0°	不整楕円形	1.60×1.05	65	緩斜	凹凸	自然			
51	J2g ₄	N-40°-W	楕円形	1.85×1.10	64	垂直	凹凸	自然			
52	J2f ₆	N-65°-W	楕円形	1.64×1.10	23	外傾	平坦	自然			
53	J2j ₆	N-26°-W	長楕円形	2.26×0.73	135	外傾	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片	陥穴(Tピット)	131図
54	J1j ₇	N-78°-W	円形	1.46×1.37	55	外傾	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		134図
55	J2b ₅	N-75°-E	隅丸長方形	1.82×1.62	55	外傾	平坦	人為	土師器片		134図
56	J2d ₅	N-18°-E	楕円形	1.43×1.28	28	外傾	平坦	自然	土師器片		

土坑 番号	位置	長径方向 [長軸方向]	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考	図 版 番 号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
57	J 2 d ₅	N-0°	円 形	0.80×0.80	35	垂直	平坦	自然			
58	J 2 e ₆	N-47°-E	円 形	1.91×1.78	45	外傾	平坦	自然	土師器片	焼土	132図
59	J 2 f ₃	N-33°-W	楕 円 形	2.58×1.36	48	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片, 土師器片	炭化物, 焼土粒子	
60	J 2 h ₃	N-86°-W	隅丸長方形	1.70×0.85	15	緩斜	皿状	自然			
61	J 2 f ₆	N-45°-W	楕 円 形	0.69×0.45	28	外傾	皿状	自然			
62	J 2 f ₆	N-44°-W	楕 円 形	1.01×0.75	28	外傾	皿状	自然			
63	J 2 d ₃	N-42°-E	不整楕円形	2.98×2.12	32	外傾	凹凸	自然			
64	J 2 i ₇	N-55°-W	隅丸長方形	2.26×1.25	23	外傾	平坦	自然	縄文式土器片	下層に炭化物	
65	J 2 b ₈	N-44°-E	円 形	0.57×0.52	20	外傾	平坦	自然			
66	J 2 a ₆	N-26°-W	不 整 形	3.40×2.12	48	外傾	凹凸	自然		風倒木痕	
67	J 2 c ₉	N-73°-W	楕 円 形	1.93×0.88	20	外傾	凹凸	自然			
68	J 3 h ₃	N-19°-E	不整楕円形	[2.30]×1.47	43	緩斜	平坦	自然	土製珠状耳飾り, 土師器片		
71	K 4 b ₂	N-83°-W	隅丸長方形	2.17×1.28	53	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		
72	L 2 b ₁	N-45°-E	楕 円 形	1.03×0.54	45	外傾	平坦	自然			
74	J 5 e ₇	N-53°-E	不整長方形	2.72×1.14	13	外傾	皿状	自然	土師器片		
75	J 5 e ₇	N-51°-E	隅丸長方形	1.27×0.79	24	外傾	平坦	自然			
76	J 5 e ₃	N-13°-E	隅丸長方形	2.43×1.00	13	緩斜	凹凸	自然			
77	J 5 f ₆	N-72°-W	長楕円形	2.06×1.05	15	緩斜	平坦	自然			
78	J 5 g ₉	N-77°-E	楕 円 形	1.48×1.09	50	緩斜	凹凸	自然			
79A	J 6 h ₁	N-77°-W	楕 円 形	[1.09]×0.90	26	外傾	平坦	自然		第79B号土坑より新しい	
79B	J 6 h ₁	N-81°-W	楕 円 形	0.88×0.71	—	外傾	平坦	自然		第79A号土坑より古い	
80	J 6 i ₂	N-48°-E	不整楕円形	2.14×1.40	27	外傾	平坦	自然	土師器片		
81	J 6 g ₅	N-60°-E	円 形	0.62×0.57	14	外傾	平坦	自然	土師器片		
82	J 6 h ₄	N-81°-E	不整楕円形	2.35×[1.21]	36	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片, 土師器片		
83	I 5 h ₃	N-37°-W	円 形	1.10×1.02	68	外傾	平坦	自然	土師器片, 炭化材		132図
84	I 5 h ₃	N-38°-W	円 形	0.72×0.67	33	外傾	皿状	自然	土師器片		
85	I 5 f ₈	N-35°-W	円 形	0.86×0.83	22	外傾	凹凸	自然			
86	I 5 i ₇	N-57°-E	楕 円 形	1.12×0.95	10	外傾	平坦	人為	土師器片		132図
87	I 5 g ₅	N-36°-E	隅丸長方形	2.70×1.17	13	外傾	平坦	自然	土師器片	中層に炭化物	
88	I 5 c ₃	N-50°-E	隅丸長方形	3.03×1.33	18	外傾	平坦	自然	土師器片		
89	I 5 d ₂	N-35°-E	楕 円 形	1.40×0.69	7	外傾	平坦	自然			
90	I 5 f ₂	N-35°-E	隅丸長方形	2.91×1.13	20	外傾	平坦	自然	土師器片	下層に炭化物	
91	H 4 g ₉	N-17°-E	隅丸長方形	2.29×1.52	43	外傾	平坦	自然	土師器片	下層に炭化物	
92	J 6 f ₇	N-71°-E	不整隅丸長方形	2.03×1.42	30	外傾	平坦	自然	土師器片		
93	I 4 b ₆	N-33°-W	不整楕円形	1.49×0.72	55	緩斜	凹凸	自然			
94	I 4 b ₃	N-50°-W	楕 円 形	1.83×0.98	57	外傾	平坦	自然	土師器片		
95	I 3 e ₆	N-36°-W	隅丸長方形	2.06×0.85	13	外傾	平坦	自然		下層に炭化物	
96	I 4 a ₁	N-47°-W	隅丸長方形	3.00×1.34	23	緩斜	凹凸	自然	土師器片	下層に炭化物	
97	I 3 a ₇	N-58°-E	楕 円 形	0.77×0.68	37	外傾	平坦	自然			
98	I 3 a ₇	N-24°-E	楕 円 形	1.27×1.13	14	外傾	平坦	自然	土師器片		132図
99	I 3 b ₇	N-18°-E	楕 円 形	1.78×1.61	82	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		131図

土坑 番号	位置	長径方向 [長軸方向]	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考	図 版 番 号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)						
100	I 3 j ₇	N-50°-W	不整楕円形	1.68×0.84	75	外傾	皿状	自然			
101	I 3 i ₄	N-25°-W	不整円形	1.28×1.27	40	外傾	凹凸	自然	土師器片		
103	I 3 g ₃	N-34°-W	円 形	0.77×0.72	22	外傾	平坦	自然	土師器片		
104	I 3 h ₁	N-0°	円 形	1.00×1.00	38	外傾	平坦	自然	土師器片		
105	I 6 g ₄	N-2°-E	楕 円 形	1.37×1.13	28	外傾	凹凸	人為	縄文式土器片, 土師器片		
106	I 6 g ₅	N-32°-W	楕 円 形	0.69×0.60	20	外傾	凹凸	自然	土師器片		
107	I 6 g ₅	N-76°-W	楕 円 形	1.00×0.77	21	外傾	平坦	自然	土師器片		
108	I 6 f ₂	N-23°-W	隅丸長方形	2.40×1.47	22	外傾	平坦	自然	土師器片	下層に炭化物	
109	I 6 d ₅	N-48°-W	不整楕円形	2.33×1.58	103	緩斜	皿状	自然		風倒木痕	
111	I 6 c ₅	N-64°-E	隅丸長方形	1.60×1.22	15	外傾	凹凸	自然	土師器片		
112	I 6 f ₆	N-15°-E	円 形	0.71×0.66	18	垂直	平坦	自然			
113	I 6 f ₆	N-17°-W	楕 円 形	0.66×0.58	31	垂直	平坦	自然	土師器片		
114	J 5 j ₉	N-75°-W	楕 円 形	1.94×1.28	74	緩斜	皿状	自然			
115A	J 6 g ₇	N-10°-W	楕 円 形	0.85×0.58	23	外傾	皿状	不明	縄文式土器片, 土師器片		
115B	J 6 g ₇	N-78°-W	楕 円 形	[1.02]×0.76	17	外傾	平坦	自然			
116A	J 6 i ₉	N-45°-W	楕 円 形	2.00×0.94	26	外傾	平坦	自然			
116B	J 6 i ₉	[N-20°-E]	楕 円 形	[1.25]×0.71	26	外傾	平坦	自然			
117	J 6 i ₉	N-52°-W	不整楕円形	0.92×0.54	42	外傾	凹凸	自然			
118	J 6 i ₉	N-40°-E	不整楕円形	1.33×[1.18]	40	緩斜	皿状	自然	土師器片		
119	J 6 i ₉	N-42°-W	不整楕円形	[1.72]×1.18	30	垂直	平坦	自然			
120	C 8 i ₆	N-81°-E	隅丸長方形	8.05×0.82	38	外傾	平坦	自然	土師器片		
121	J 6 h ₉	N-80°-E	不整楕円形	1.48×1.02	50	外傾	皿状	自然	土師器片		
122	J 6 h ₉	N-86°-W	楕 円 形	1.40×1.03	65	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		135図
123	J 6 h ₉	N-32°-E	不整楕円形	1.17×1.00	52	外傾	皿状	自然	土師器片		
124	J 7 f ₂	N-35°-E	円 形	1.20×1.18	57	外傾	皿状	自然			
125	J 7 f ₂	N-70°-W	楕 円 形	1.27×1.07	48	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片		
126	J 4 d ₉	N-1°-E	不整楕円形	1.80×1.23	22	外傾	平坦	自然	土師器片		
127	H 6 i ₆	N-38°-W	長楕円形	3.23×1.43	157	外傾	皿状	自然		窟穴(Tピット, 第128号土坑より古い)	131図
128	H 6 i ₆	N-3°-W	円 形	0.67×0.63	22	外傾	平坦	自然	土師器片	第127号土坑より新しい	133図
129	H 6 i ₆	N-0°	円 形	0.55×0.54	12	外傾	平坦	自然	土師器片		
130	J 7 d ₁	N-37°-W	楕 円 形	1.17×0.88	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		
131	J 6 h ₉	N-59°-W	長 方 形	2.47×1.50	55	垂直	平坦	自然	土師器片		
132	K 1 i ₇	N-76°-W	長楕円形	[3.32]×0.70	40	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片	第31号土坑より新しい	
133	J 7 a ₄	N-39°-W	楕 円 形	1.03×0.87	50	垂直	凹凸	自然			
134	J 7 b ₅	N-67°-E	楕 円 形	0.97×0.82	53	外傾	凹凸	自然			
135	J 7 i ₁	N-40°-W	楕 円 形	1.47×1.08	68	垂直	凹凸	自然	縄文式土器片, 土師器片		
136	I 4 i ₉	N-63°-E	楕 円 形	2.45×1.45	65	緩斜	皿状	自然	土師器片		
137	J 3 f ₆	N-82°-E	隅丸長方形	2.83×1.77	68	緩斜	平坦	自然	土師器片	中層に炭化材, 炭化粒子多量	
138	J 7 b ₄	N-3°-W	楕 円 形	1.12×0.98	85	緩斜	凹凸	自然			
139	I 7 j ₄	N-40°-W	楕 円 形	1.18×1.02	44	緩斜	凹凸	自然			
140	D 8 f ₇	N-47°-W	隅丸長方形	2.93×1.96	88	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	下層に炭化物, 第47号住居跡より新しい	135図

土坑 番号	位置	長径方向 [長軸方向]	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考	図 版 番 号
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
141	E 8 a ₂	N-39°-W	楕 円 形	2,20×1,80	35	外傾	平坦	人為	縄文式土器片, 土師器片		
142	D 8 g ₁	N-69°-E	正 方 形	1,65×1,63	49	垂直	平坦	人為	須恵器片, 土師器片		133図
143	D 8 d ₄	N-41°-W	不整楕円形	1,90×1,70	47	垂直	平坦	自然	土師器片		
144	D 8 c ₈	N-22°-W	円 形	1,93×1,80	27	垂直	平坦	自然	縄文式土器片, 土師器片		
145	D 9 a ₁	N-28°-W	円 形	1,65×1,50	44	外傾	平坦	自然	土師器片		
146	C 9 c ₁	N-45°-W	隅丸長方形	2,00×1,52	35	垂直	平坦	人為	土師器片		
147	J 7 c ₁	N-33°-W	楕 円 形	1,13×0,95	55	外傾	凹凸	自然	土師器片		
148	C 8 h ₈	N-31°-W	楕 円 形	[1,27]×0,98	32	垂直	平坦	自然			
149	C 8 j ₄	N-74°-W	楕 円 形	1,55×1,07	42	緩斜	凹凸	自然	土師器片		
150	D 8 a ₉	N-0°	楕 円 形	1,03×0,83	11	外傾	凹凸	自然			
151	D 8 b ₇	N-0°	円 形	1,03×0,98	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器片		
152	D 8 c ₉	N-9°-W	楕 円 形	0,83×0,70	28	外傾	平坦	自然			
153	D 8 h ₅	N-26°-E	円 形	0,88×0,86	46	外傾	凹凸	自然			
154	C 9 c ₈	N-77°-E	隅丸長方形	2,27×0,58	23	緩斜	平坦	自然		炭化物	
155	C 9 a ₅	N-0°	隅丸長方形	3,10×0,92	33	外傾	平坦	自然			
156	B 9 g ₇	N-4°-E	不整長方形	2,20×1,15	100	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片		
157	B 8 d ₆	N-54°-E	隅丸長方形	1,40×0,96	118	緩斜	凹凸	自然			
158	B 8 d ₆	N-43°-E	隅丸長方形	[2,12]×0,60	107	外傾	凹凸	自然	土師器片	第159号土坑より古い	
159	B 8 e ₅	N-43°-E	隅丸長方形	[2,80]×0,65	150	外傾	凹凸	自然	土師器片	第158号土坑より新しい	
160	D 8 j ₂	N-70°-E	隅丸長方形	1,77×1,34	24	外傾	平坦	自然	土師器片		
161	D 8 i ₁	N-36°-W	円 形	1,08×1,06	70	外傾	皿状	自然	縄文式土器片, 土師器片	第162号土坑より新しい	
162	D 8 i ₁	N-33°-E	楕 円 形	1,20×1,06	18	緩斜	平坦	自然	土師器片	第161号土坑より古い	
163	E 7 j ₄	N-38°-W	隅丸長方形	1,87×1,21	80	垂直	平坦	自然	土師器片		
164	C 8 j ₆	N-60°-W	楕 円 形	1,50×0,82	24	緩斜	凹凸	自然			
165	D 8 d ₈	N-45°-W	隅丸長方形	1,52×1,26	50	外傾	平坦	自然			
166	E 8 c ₃	N-61°-W	正 方 形	2,72×2,60	38	外傾	平坦	人為	縄文式土器片, 土師器片		133図
167	C 9 j ₁	N-30°-W	隅丸長方形	1,82×0,86	27	垂直	平坦	人為	土師器片	第44号住居跡より古い	
169	J 7 e ₁	N-27°-E	楕 円 形	1,10×0,98	32	緩斜	凹凸	自然			
170	K 2 h ₀	N-33°-W	不整楕円形	2,10×1,17	40	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片		
171	J 7 b ₄	N-0°	円 形	1,10×1,08	25	緩斜	凹凸	自然			

第6節 遺物包含層

当調査区のK3, K4区を中心にするA包含層とD9, E8, E9区を中心にするB包含層がある。A包含層は調査区西部の台地縁辺部の傾斜地にあり、縄文時代創草期から早期にかけての井草式・夏島式・田戸下層式・田戸上層式がまとまって出土している。B包含層は調査区北部の台地縁辺部の傾斜地にあり、縄文時代創草期の稲荷台式・前期の黒浜式などが出土している。

ここでは、A包含層及びB包含層の出土遺物について一括して報告する。また土器については以下の分類基準を用いて解説する。

第1群土器 縄文時代創草期の撚糸文系土器

- 1類 口唇部肥厚・外反が著しく、縄文が密に施されているもの。(井草式)
- 2類 口唇部が肥厚するが外反が著しくなく、縄文が比較的密に施されているもの。(夏島式)
- 3類 口唇部は肥厚するが外反が著しくなく、撚糸文が疎に施されているもの。(稲荷台)

第2群土器 縄文時代早期の貝殻沈線文系土器

- 1類 細沈線で平行沈線文・斜格子目文・複合山形文等が描かれているもの。(三戸式)
- 2類 細沈線文や太沈線文との組み合わせで文様が構成されているもの。(田戸下層式)
- 3類 沈線文と貝殻文が組み合わせられているもの。(田戸上層式)
- 4類 貝殻文・沈線文・隆帯文が組み合わせられているもの。(田戸上層式)
- 5類 沈線文と刺突文がくみあわされているもの。(田戸上層式)
- 6類 沈線文のみで文様が構成されているもの。(田戸上層式)
- 7類 その他のもの。

第3群土器 縄文時代早期の貝殻条痕文系土器

- 1類 貝殻条痕文のみ施されているもの。(茅山式)
- 2類 その他のもの。

第4群土器 縄文前期の羽状縄文系土器

- 1類 縄文が施されているもの。(黒浜式)
- 2類 撚糸文が施されているもの。(黒浜式)
- 3類 その他のもの。

第5群土器 縄文時代前期後葉の土器

- 1類 沈線文と爪形文が組み合わせられているもの。(浮島I式)
- 2類 沈線文と貝殻文が組み合わせられているもの。(浮島II式)
- 3類 貝殻文のみが施されているもの。(浮島III式)
- 4類 条線文が施されているもの。(興津式)

5類 その他のもの。

第6群土器 縄文前期末葉の土器

- 1類 条線文が施されているもの。(粟島台式)
- 2類 縄文原体圧痕文が施されているもの。(粟島台式)
- 3類 結節回転文が施されているもの。(粟島台式)
- 4類 縄文のみが施されているもの。(粟島台式)
- 5類 結節浮線文が施されているもの。(十三菩提式)
- 6類 その他のもの。

第7群土器 縄文中期の土器

- 1類 縄文と沈線文が施されているもの。
- 2類 その他のもの。

第8群土器 縄文後期の土器

- 1類 沈線、刺突文が施されているもの。(称名寺式)
- 2類 磨消縄文が施されているもの。(加曾利 BI 式)
- 3類 斜位の沈線文が施されているもの。(加曾利 BII 式)
- 4類 曲線的な磨消縄文が施されているもの。(加曾利 BIII 式)

第9群土器 縄文晩期末葉の土器

- 1類 直線化した沈線が施されているもの。(大洞 A 式)
- 2類 撚糸文が施されているもの。(大洞 A 式)

第10群土器 古墳時代から平安時代およびそれ以降の土器

- 1類 須恵器
- 2類 その他

(1) 包含層出土の土器(第145図1～第148図112)

第1群土器(第145図1～27)

1類土器(第145図1～4) 本類は1から3が口縁部片, 4が胴部片である。器形は口唇部の肥厚外反が著しく, 頸部から胴部にかけて直線的に降りる。1・3は口唇部端部に単節 RL の縄文が1段横位回転で施され, 口縁部に5～8mm程度の無文帯を有している。2は, 胴部に縄文を斜位回転で縦走させている。胎土は石英・長石粒を多く含み, 焼成は普通である。

2類土器(第145図5～12) 本類は5～10が口縁部片, 11・12は胴部片である。器形は口唇部が若干肥厚し, 以下直線的に降りる。5・9は口縁直下から縄文が縦走している。6～8は口縁直下から撚糸が施されている。12は縄文が縦走している。胎土は石英・長石粒を多く含む。

3類土器(第145図13～27) 本類は13～14・16～21・25が口縁部片で, 15・22～24・26・27が胴

部片である。22～26は接合はできないが、施文や胎土の類似から同一個体と考えられる。器形は口唇部が肥厚しているものがほとんどである。施文は口縁直下から施されるもの(13・14・16)と口縁部直下に幅3～5mm程度の無文帯を残すもの(17～20)がある。中には25のように30mmの広い無文帯を有する例もある。施文されている捺糸文は一般的に細いものが多く、22～26のように比較的太い部類もみられる。施文は縦走するものが主となるが、27のように異方向に施文するものもある。また、26のように絡状帯も見られる。施文間隔は疎なものが目立つ。

第2群土器(第145図28～33, 第146図34～65, 第147図66～67)

1類土器(第145図28～29) 本類は28が口縁部片で29が胴部片である。28は口縁部直下に2条の平行沈線文帯を施し、以下に斜格子目文帯を施す。29は、横位の沈線間に刺突文が二段に付されている。胎土は、長石・石英粒・砂粒を含み、焼成は普通である。

2類土器(第145図30～33・第146図34～35) 本類は31が口縁部片で、30・32～34が胴部片である。30・33・34は接合できないが、施文や胎土の類似から同一個体と考えられる。30・31～33は横位の沈線間に半月状の刺突文が付されている。31は横位の沈線下に半月状の刺突文が付されている。35は横位と斜位の沈線が施されている胴部片である。胎土は長石・石英粒を含む。

3類土器(第146図36～41) 本類は36・38・39が口縁部片で、37・40・41が胴部片である。36・37・39は施文や胎土の類似から同一個体と考えられる。36・37・39の器形は山形の波状を呈し、頸部で緩くくびれる器形を呈するものと思われる。施文は口唇部に押引き刺突が施され、波状縁に沿って沈線がめぐり、その下に貝殻腹縁文が施されている。38は波状縁に沿って沈線がめぐり口唇部に刺突文を付す。41は沈線間に貝殻腹縁文を充填させている。胎土は長石・石英・繊維を含む。

4類土器(第146図42) 42は山形の波状を呈する口縁部片である。施文は、口唇部と波状縁に沿って押引き刺突が施され、頸部に隆帯を持ち、押引き文と隆帯に沿って貝殻腹縁文を施している。

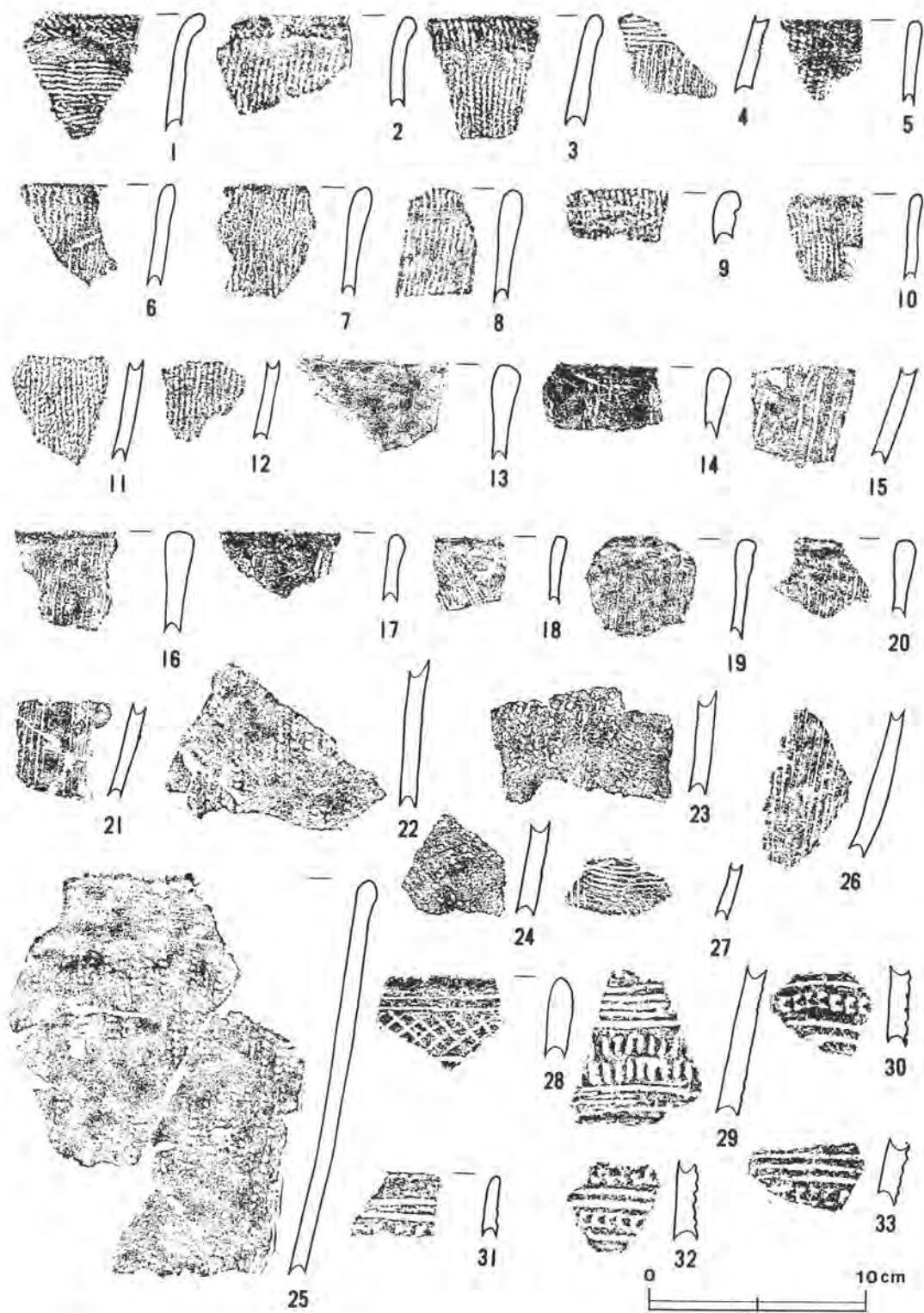
5類土器(第146図43～45) 本類は43・45が口縁部片、44が胴部片である。施文は43が縦方向に、44・45が横方向に押引き刺突文が施されている。また45は波状縁から隆帯が直下している。

6類土器(第146図46～58) 本類は46～52が口縁部片、53～58が胴部片である。46～52はいずれも山形の波状を呈する。施文は、波状縁に沿って沈線が施されている。51は口縁直下に焼成後の穿孔がみられ、補修孔と俗称されている。胎土は長石・石英・繊維を含む。焼成は普通である。

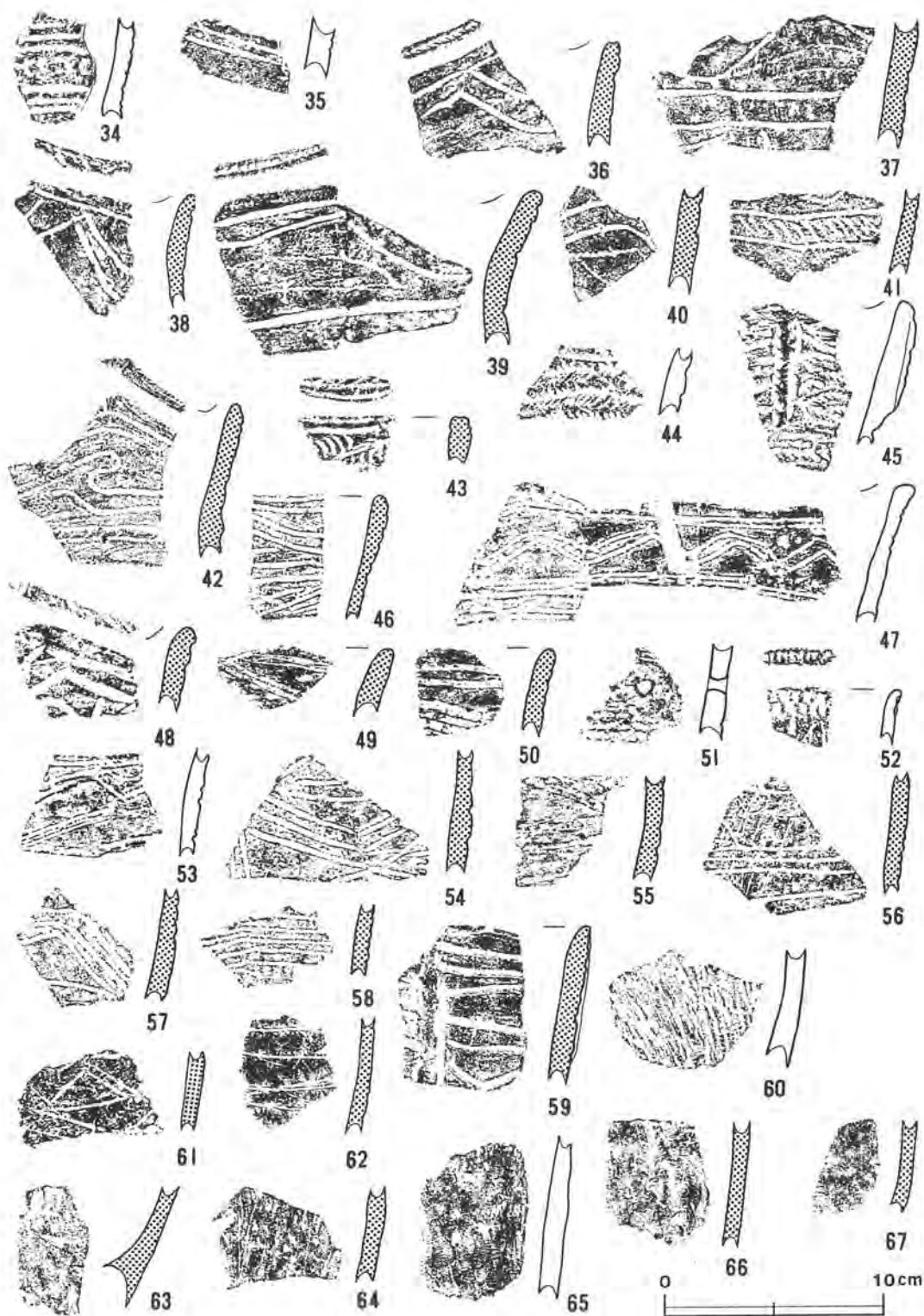
7類土器(第146図59～67) 59は口縁部片、60～62、64～67は胴部片、63は底部片である。59は波状縁に沿った横位の沈線と直下する隆帯が帯されている。60は擦痕文が施されている。61～63は曲線的な条線が施されている。64～67は無文である。胎土は長石・石英・繊維を含む。

第3群の土器(第147図68～75)

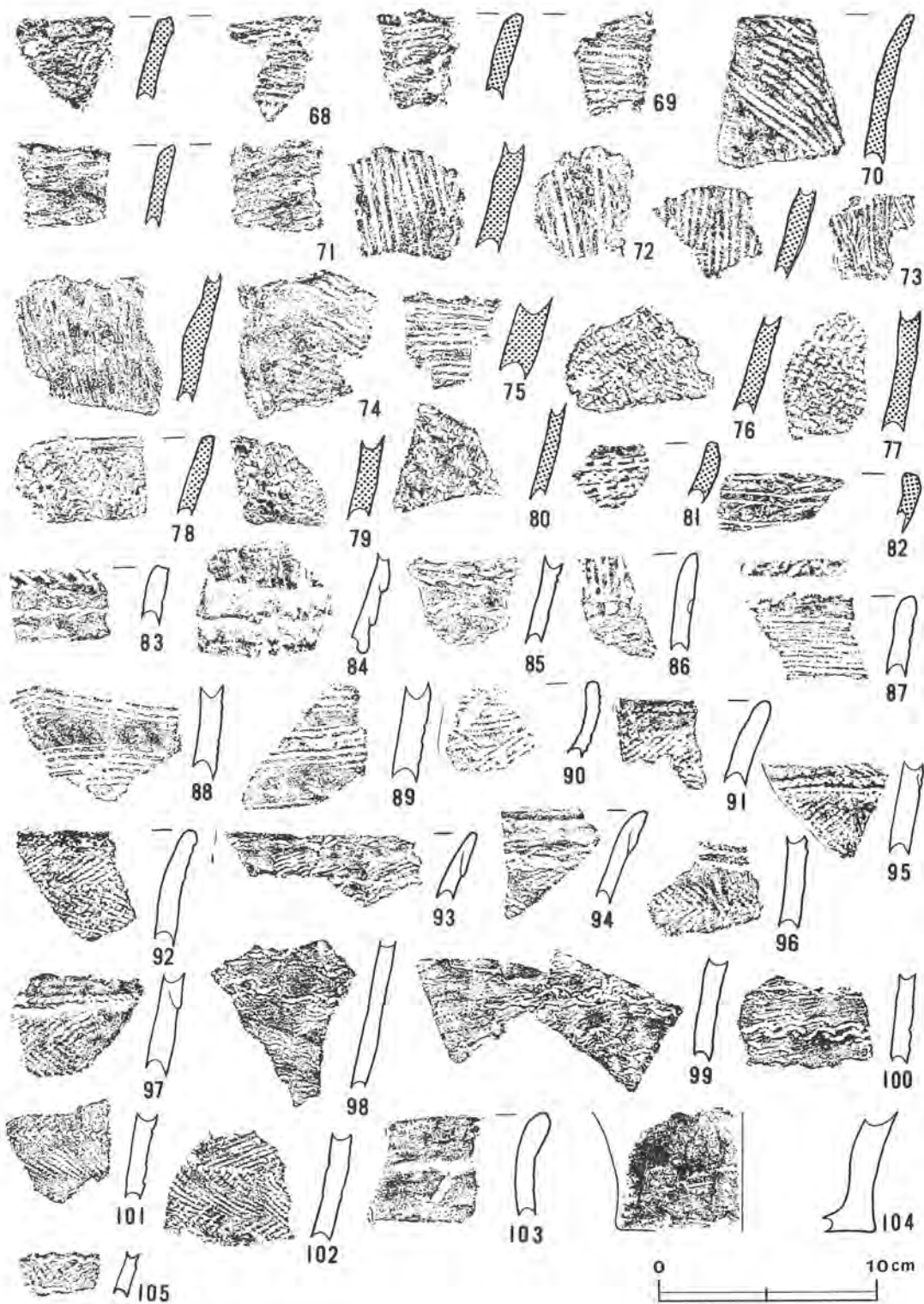
1類土器(第146図59～67) 68～71が口縁部片、72～75が胴部片である。68・69・71・74・75は



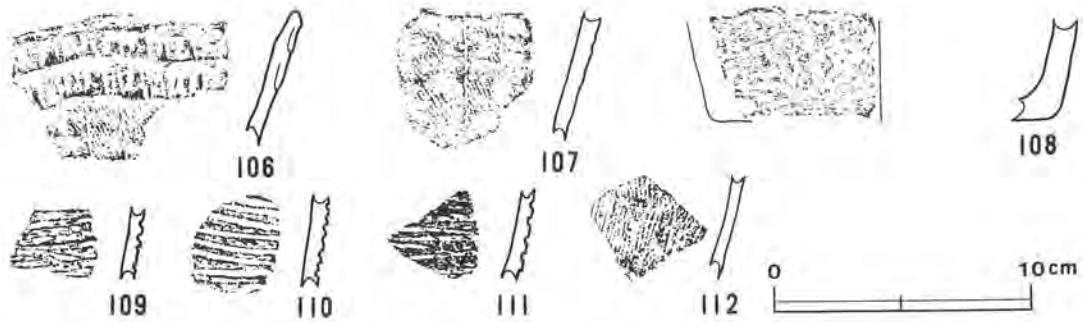
第145图 包含層出土遺物拓影图(1)



第146图 包含層出土遺物拓影图(2)



第147图 包含層出土遺物拓影图(3)



第148図 包含層出土遺物拓影図(4)

横位，70が斜位，72～74が斜位の条痕文が走り，内面は68・69・71・74が横位，72・73が縦位の条痕文が施されている。胎土は長石・石英・繊維を含み，焼成は普通である。

第4群の土器(第147図76～82)

- 1類土器(第147図76・77) 76は単節縄文 RL，77は単節縄文 RL・LR が施されてた胴部片である。
- 2類土器(第147図78～80) 78は口縁部片，79・80は胴部片である。78～80撚糸が施されている。
- 3類土器(第147図81・82) 81・82は口縁部片である。81は押し引き刺突文，82は横位の沈線が施されている。

第5群の土器(第147図83～85)

- 2類土器(第147図83) 83は口唇部にキザミ，頸部に爪形文が施された口縁部片である。
- 3類土器(第147図84～85) 84は輪積みの段を残し，85は刺突文が施された胴部片である。
- 4類土器(第147図86～89) 86は口縁直下に縦位のキザミを付し，頸部に刺突爪形文を施した口縁部片である。87～89は横位の条線文が施された胴部片であり，胎土・施文から同一個体と考えられる。

第6群の土器(第147図91～105)

- 2類土器(第147図91～97) 91～97は口縁部直下と折り返し部に縄文原体の圧痕文が施されている。
- 3類土器(第147図89～100) 98～100は結節回転文が施された胴部片である。
- 4類土器(第147図91～92) 91・92は単節縄文 LR・RL が施された胴部片である。
- 6類土器(第147図103～105) 103は口縁部片，104は底部片で，胎土から同一個体だと考えられる。103・104はナデが施されており，粟島台式土器に比定される。105は山形沈線文が施された胴部片で，大木5式土器に比定される。

第7群の土器(第148図106～108) 106は2段の折り返し口縁で，縦位の刺突が付され，胴部はS字状結節文が施されている。107・108は胴部と底部片でS字状結節文が施されている。

第8群の土器3類(第148図109～111) 109～111は斜位の沈線文が施された胴部片である。

第9群の土器2類(第148図112) 112は撚糸文が施された胴部片で，大洞Aの粗製土器である。

第7節 遺構外出土遺物

当遺跡からは古墳時代・平安時代の遺構に縄文式土器や石器が混入している。一方、試掘時のグリット調査の際や遺構確認作業中に出土した遺物がある。本項ではその中から特色のあるものを抽出して報告する。また土器については前節での分類基準を用いて解説する。

第1群土器(第149図1～27)

1類土器(第149図1～12) 1～12は口唇部の肥厚・外反が著しく、頸部から胴部にかけて直線的に降りる。口唇部端部には単節縄文 RL が横位回転で施されている。2・6・7は胴部に縄文が斜位回転で横走され、3・5・11・12は胴部に縄文が斜位回転で縦走されている。

2類土器(第149図13～23) 13～18・20・22・23は口縁部片、19・21は胴部片である。13・14・16・18・20は口唇部が若干肥厚し、以下直線的に降りる。13・14・17・18・20・21は撚糸文が横走する。胎土は長石・石英を含み、焼成は普通である。

3類土器(第149図25～27) 25は口縁部片、26・27は胴部片である。25は口縁部が肥厚する。25～27は撚糸文が縦走する。

第2群土器(第149図28～45・第150図46～56)

1類土器(第149図28～32) 28～30は口縁部片、31は胴部片、32は底部片である。28・29は口縁部直下に平行沈線文、以下斜位の沈線文が施されている。30は口縁直下から斜格子目文帯が施されている。31は刺突文と沈線文が施されている。胎土は長石・石英を含み、焼成は普通である。

2類土器(第149図33～37) 33～36は斜格子目文・平行沈線文・細沈線文が施されて胴部片である。37は天狗鼻状をした底部片である。胎土は長石・石英を含み、焼成は普通である。

4類土器(第149図38) 38は波状を呈する口縁部片である。施文は波状縁に沿って押し引き刺突文が施され、頸部に隆帯がめぐっている。また沈線文間に貝殻復縁文が施されている。

5類土器(第149図39・40) 39は波状を呈する口縁部片、40は胴部片である。39は頸部に隆帯がめぐりその隆帯に刺突文が施されている。40は二段の刺突文・入組み状の沈線文が施されている。

6類土器(第149図41～45・第150図46～52) 44～48は山形波状を呈する口縁部片である。41～43・49～52は胴部片である。41～52は曲線的な沈線文が施されている。

7類土器(第150図53～56) 53～55は口縁部片で、53・54は口唇部に刻みが施されている。56は胴部片である。53～56はいずれも無文である。胎土は繊維を含む。田戸上層式土器に比定される。

第3群土器(第150図57～59)

1類土器(第150図57～59) 57は口縁部片で、口唇部に刻みが施されている。58・59貝殻条痕文

が施された胴部片である。胎土は繊維を含む。

第4群土器(第150図60～63)

1類土器(第150図60) 60は単節縄文 RL が施された胴部片である。

2類土器(第150図61～63) 61は撚糸文が施された口縁部片である。62・63は胴部片で撚糸原体の圧痕がみられる。胎土は繊維を含む。

5群土器(第150図64～73)

1類土器(第150図64) 64は曲線的沈線文が施された胴部片である。

2類土器(第150図65) 65は波状貝殻文が施された胴部片である。

3類土器(第150図66～69) 66～69は折り返し口縁である。68・69は頸部に爪形文が施されている。70～72は口縁直下に斜位の刻みが施されている。73は三角刺突文が施されている。

4類土器(第150図74～86・第151図87～91) 74～77・81・86は条線が施されている。78・79・82は口縁直下に短沈線が施され、頸部に爪形文が付されている。80は爪形文が付されている。84・85・87～91は貝殻復縁部による貝殻文が施されている。

5類土器(第151図92～94) 92～94はボタン状貼付文・集合沈線文が施されている。本類は諸磯C式土器に比定される。

6群土器(第151図95～111)

1類土器(第151図95) 95は折り返し口縁直下に条線が施されている。

2類土器(第151図96～104) 96～104は口縁直下に縄文原体圧痕文が施された口縁部片である。

3類土器(第151図110) 110は結節回転文が施された胴部片である。本類は粟島台式土器の新しいものに比定される。

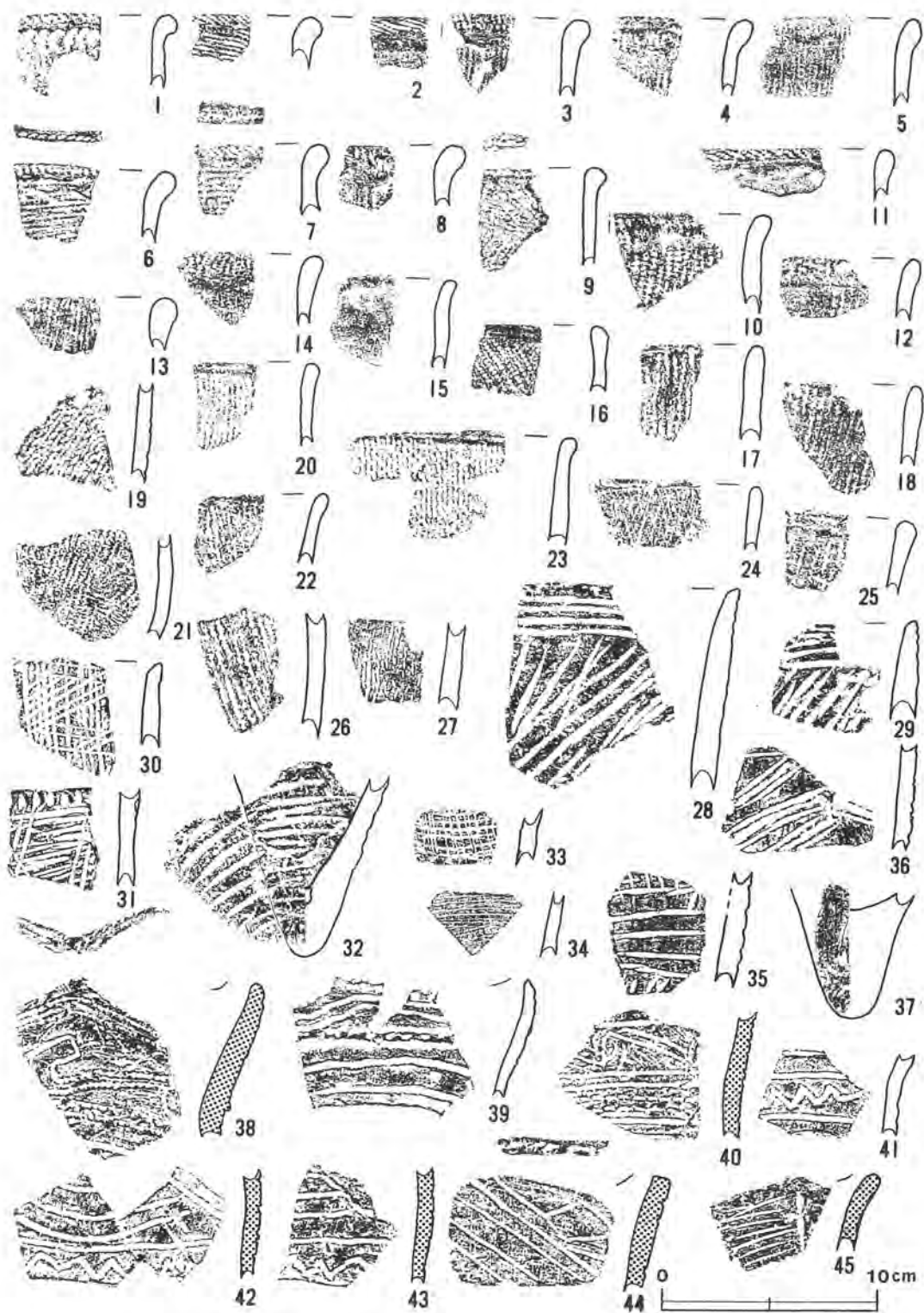
4類土器(第151図105～109・111～112) 105は二段に粘土紐が押しつぶされ、口縁部に単節縄文 RL が施されている。106は口唇部に刻みが付され、口縁部に段を持ち単節縄文 RL が施されている。107は単節縄文 LR が施された胴部片である。108・109・111は外反する口縁部片である。108・109は口縁直下から単節縄文 RL が施されている。111は口縁直下から単節縄文 LR が施されている。111は胴部上半部に単節縄文 LR が施され、胴部下半は無文になる。

5類土器(第151図113～115) 113は結節浮線文が施された口縁部片である。114・115は沈線文が施されている。

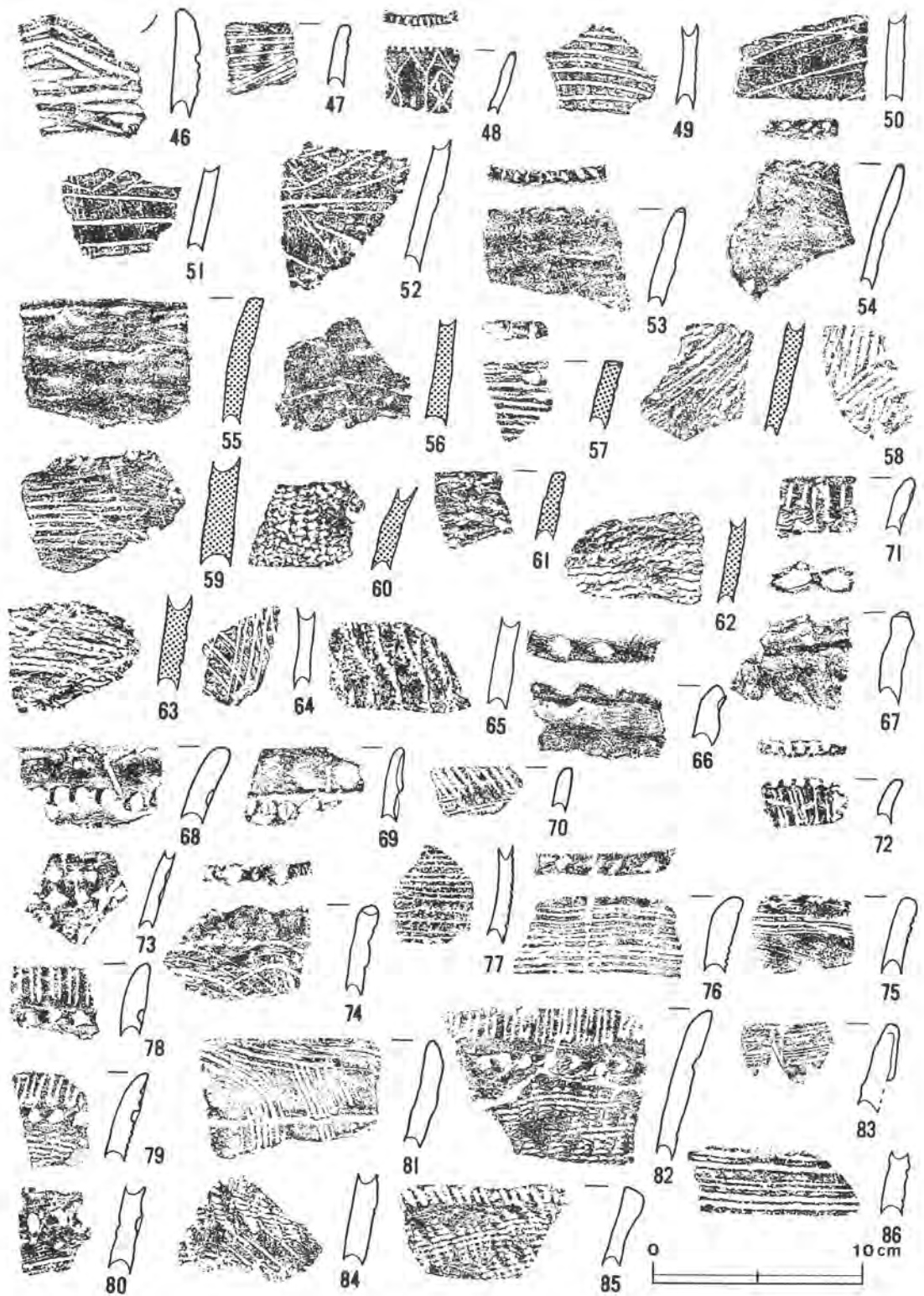
6類土器(第151図116～117) 116は口縁直下に二段の爪形文が付され、以下山形沈線文が施されている。117は口唇部に刻みが付され、口縁直下から爪形文が施されている。本類は大木5式土器に比定される。

7群土器(第151図118～121・第152図122～124)

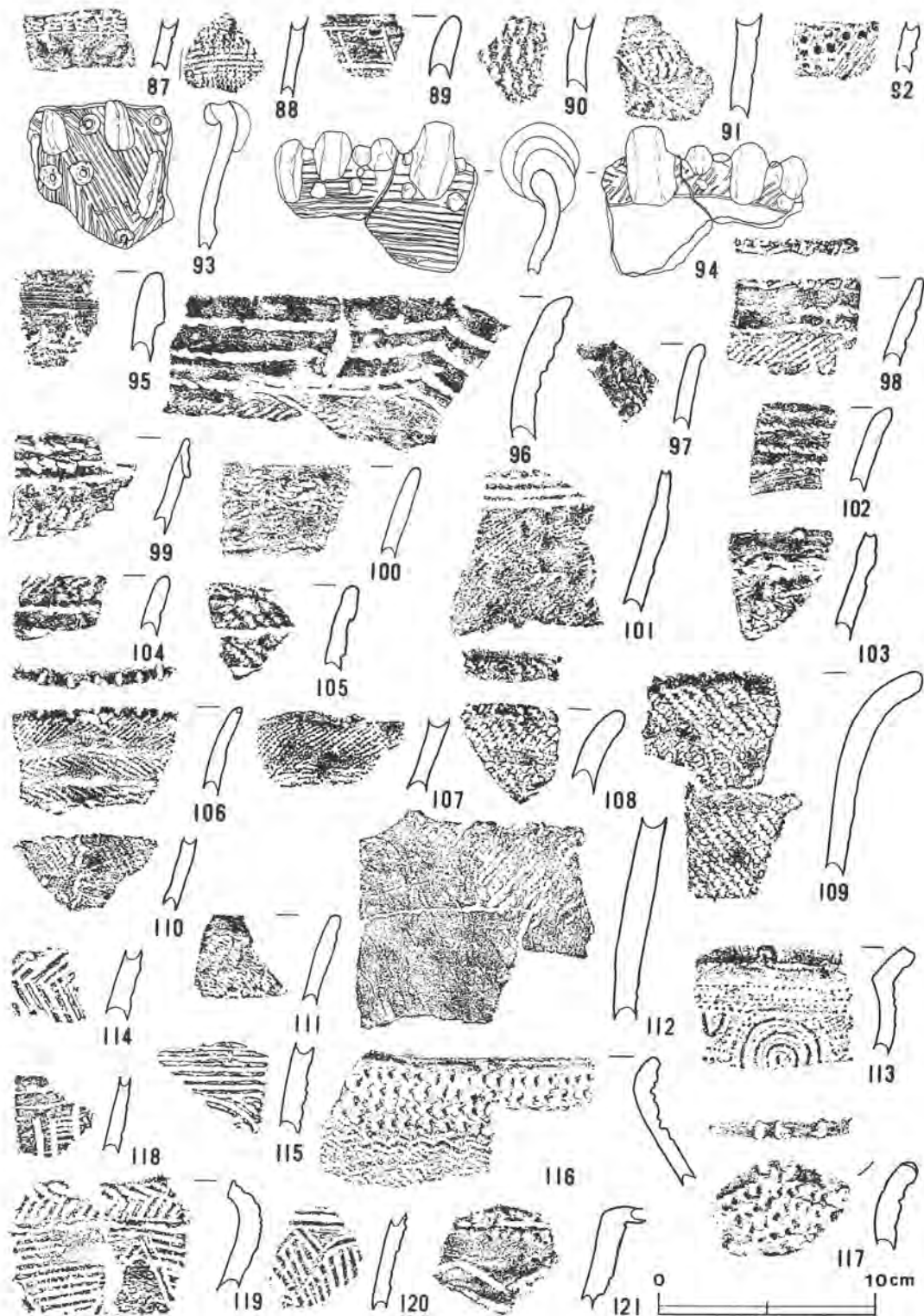
1類土器(第151図118～121・第152図122～124) 118～121は棒状沈線により施文されている。



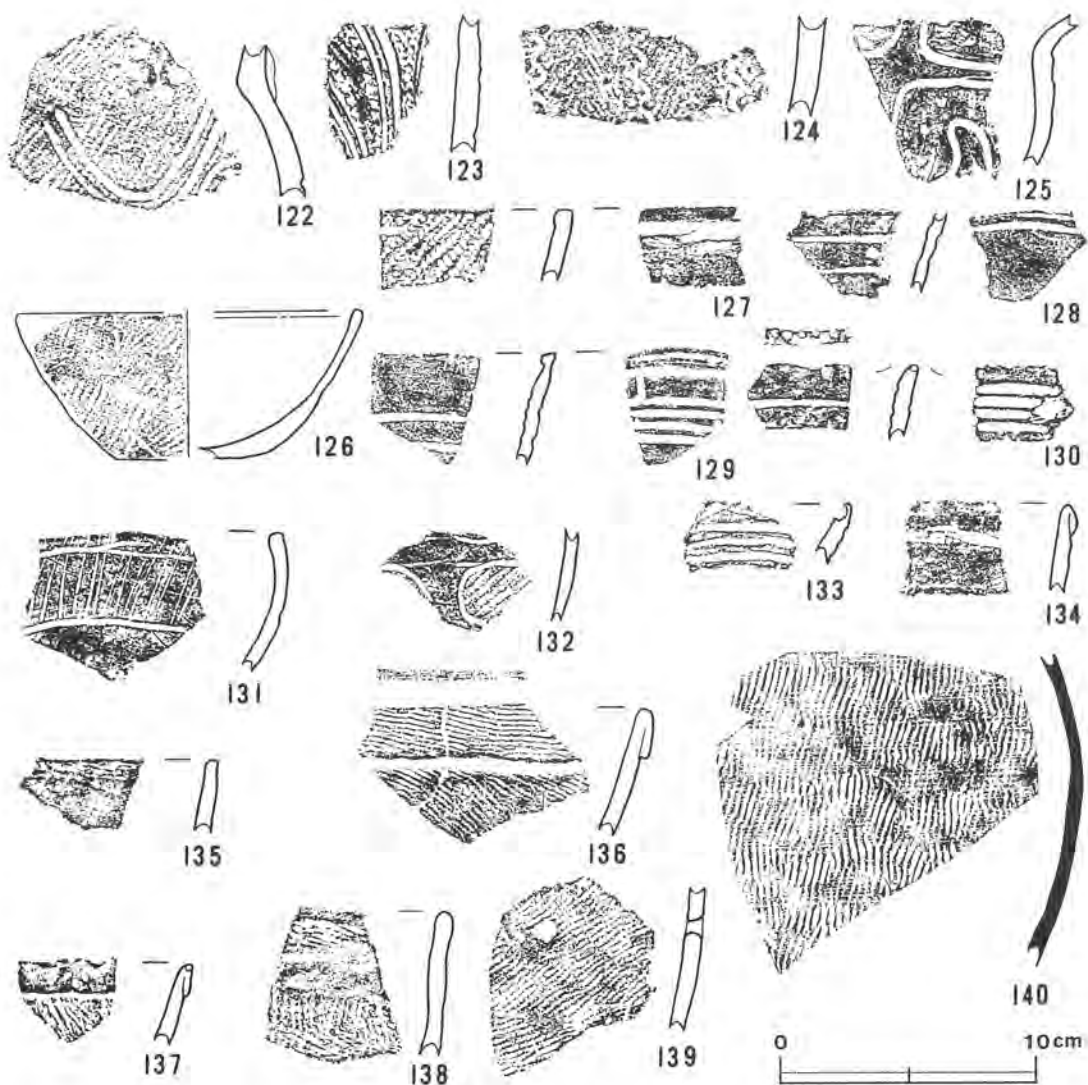
第149图 遺構外出土遺物拓影图 (1)



第150图 遺構外出土遺物拓影图 (2)



第151图 遺構外出土遺物拓影图 (3)



第152図 遺構外出土遺物拓影図 (4)

122は単節縄文 RL を地文とし、押し引き刺突文が施されている。123は沈線文と刺突文が施されている。124は S 字状結節文が施された胴部片である。

8 群土器(第152図125～132)

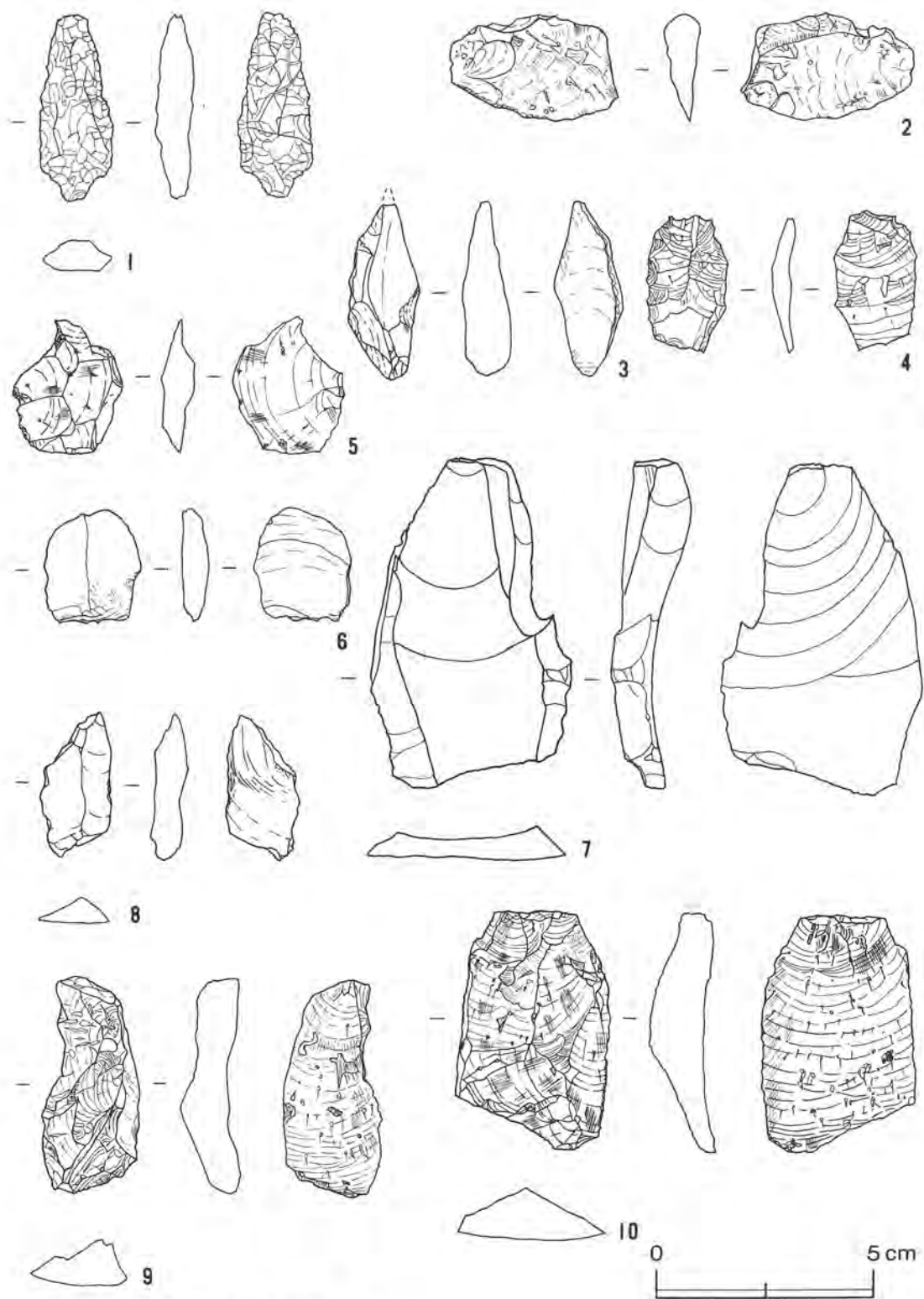
1 類土器(第152図125) 125は沈線文・刺突列点文が施された胴部片である。

2 類土器(第152図126～130) 126は単節縄文 RL が施された粗製の碗形土器である。127～130は内・外面口縁直下に沈線が施され、良く研磨されている。

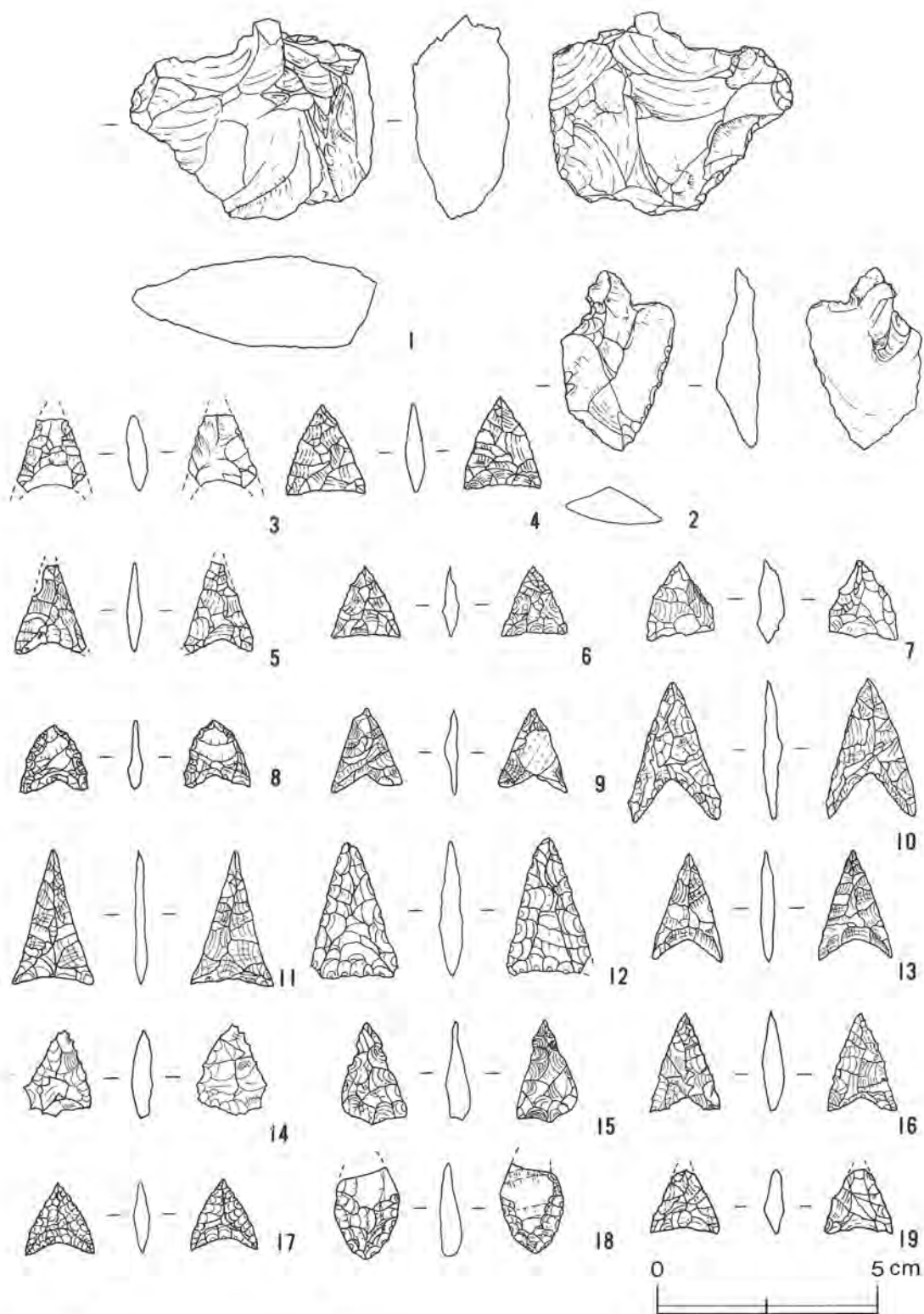
3 類土器(第152図131) 131は斜位の沈線文が施され、内・外面が良く研磨されている。

4 類土器(第152図132) 132は磨消縄文が施された胴部片である。

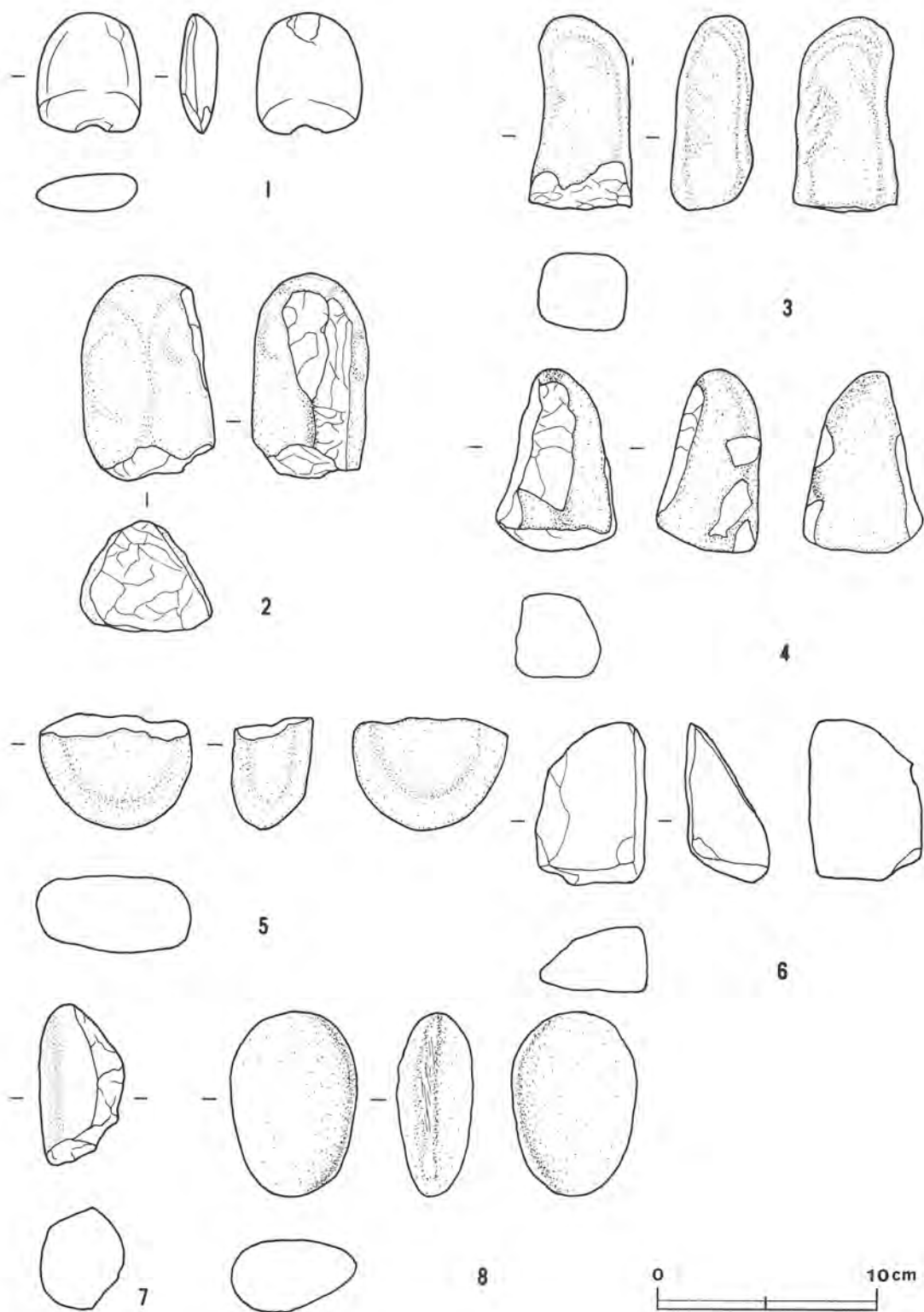
9 群土器(第152図133～139)



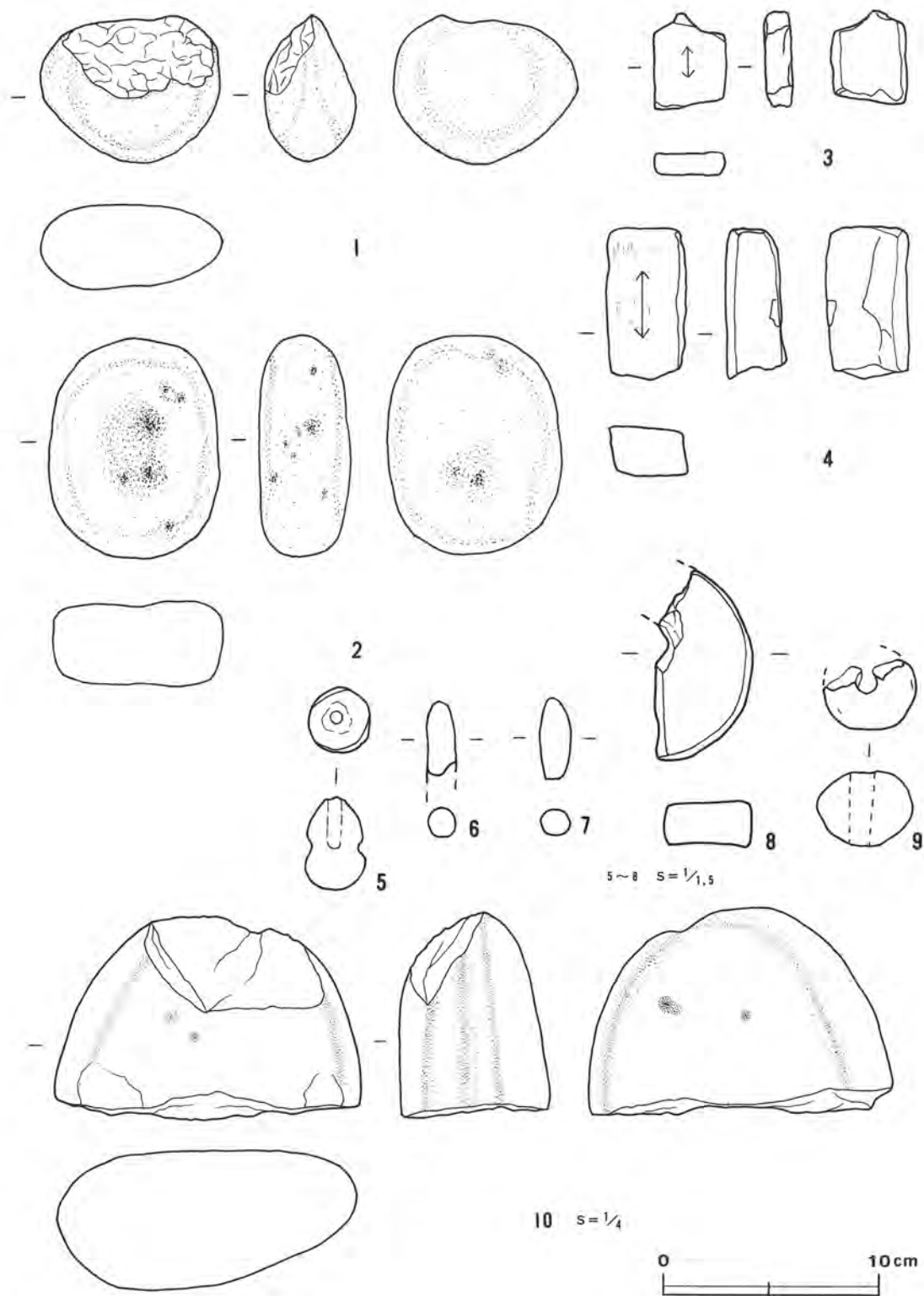
第153図 遺構外出土遺物実測図 (1)



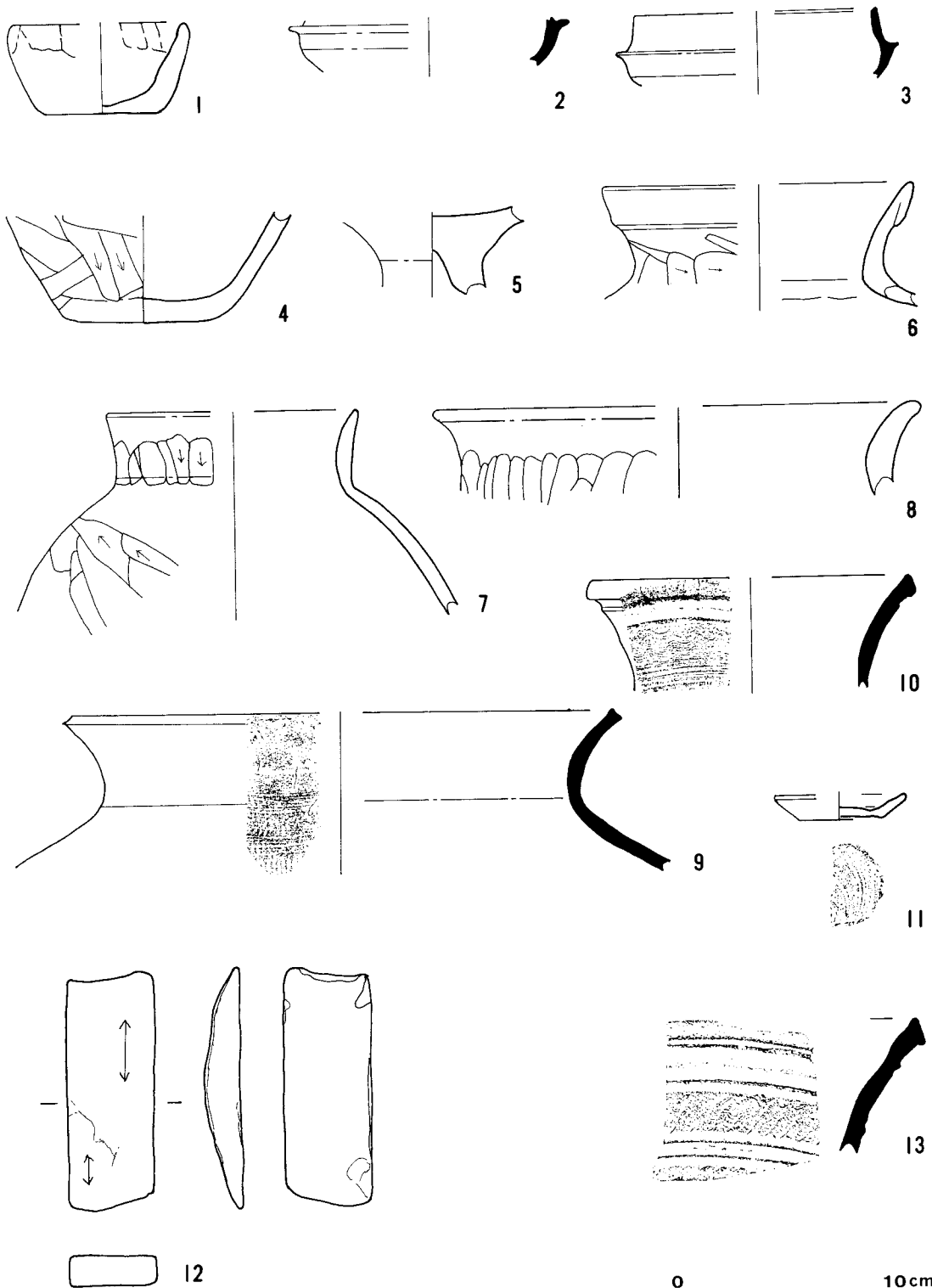
第154图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第155図 遺構外出土遺物実測図 (3)



第156図 遺構外出土遺物実測図 (4)



第157 グリッド，表採出土遺物実測・拓影図

1 類土器(第152図133) 133は直線化した沈線文が施された胴部片である。

2 類土器(第152図134~139) 134~138は撚糸文が施された粗製土器である。134~138は口縁部片で135と139は胎土・施文から同一個体と考えられる。139は撚糸文が施され、焼成後の穿孔がみられる。

10群土器(第152図140)

2 類土器(第152図140) 140は平行叩きが施された甕片である。

遺構外遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
第153図1	有舌尖頭器	(4.4)	1.7	0.8		(6.3)	安山岩	D地区表採	Q100
2	フレイク	2.6	4.0	0.7		5.5	黒曜石	K1区	Q130
3	ナイフ形石器	4.1	1.7	1.1		5.6	頁岩	表採	Q82
4	スクレイパー	3.3	1.9	0.5		3.1	黒曜石	グリッド	Q131
5	スクレイパー	3.1	2.6	0.8		4.4	黒曜石	表採	Q135
6	ブレード	2.7	2.3	0.6		3.8	頁岩	グリッド	Q136
7	フレイク	7.8	4.7	1.0		31.9	頁岩	SK161	Q80
8	ナイフ形石器	3.4	1.7	0.6		4.1	頁岩	SI26	Q143
9	剥片	5.1	2.3	1.1		9.9	黒曜石	表採	Q118
10	剥片	5.6	3.6	1.2		20.1	黒曜石	表採	Q114
第154図1	搔器	4.7	5.7	2.1		51.8	チャート	グリッド	Q104
2	スクレイパー	4.1	2.7	0.9		7.3	頁岩	K4区	Q96
3	石 鏃	1.7	1.6	0.5		0.8	頁岩	SI1	Q2
4	石 鏃	2.1	1.8	0.5		1.1	チャート	SI2	Q8
5	石 鏃	2.1	1.7	0.4		0.7	チャート	SI11	Q36
6	石 鏃	1.6	1.6	0.4		0.6	チャート	SI41	Q71
7	石 鏃	1.9	1.6	0.6		1.3	チャート	SI32	Q59
8	石 鏃	1.55	1.6	0.4		0.7	頁岩	SI34	Q66
9	石 鏃	2.0	1.7	0.3		0.7	チャート	K3区	Q94
10	石 鏃	3.3	2.1	0.5		1.4	チャート	K4区	Q98
11	石 鏃	3.2	1.9	0.2		0.9	チャート	K4区	Q99
12	石 鏃	3.2	2.0	0.5		2.4	安山岩	SK4	Q101
13	石 鏃	2.6	1.6	0.4		0.9	チャート	J5区	Q102
14	石 鏃	2.0	1.5	0.5		1.5	チャート	K2区	Q103
15	石 鏃	2.4	1.5	0.6		1.4	メノウ	表採	Q132
16	石 鏃	2.3	1.7	0.5		1.0	チャート	表採	Q133
17	石 鏃	1.65	1.6	0.4		0.6	チャート	表採	Q134
18	石 鏃	2.2	1.5	0.5		1.3	黒曜石	SI2	Q5
19	石 鏃	1.6	1.6	0.4		0.9	チャート	K4区	Q97
第155図1	磨製石斧	5.6	4.8	1.8		67.0	硬質砂岩	SI26	Q53
2	スタンプ形石器	9.6	6.2			414.6	グリーンタフ	SI34	Q63
3	スタンプ形石器	9.1	4.7	3.6		263.1	グリーンタフ	表採	Q141

図版番号	器 種	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)			
4	スタンプ形石器	8.5	5.6	4.7		250.7	グリーンタフ	グリッド	Q142
5	磨 石	(5.4)	7.2	3.8		(178.2)	安 山 岩	K3区	Q90
6	磨 石	7.5	5.2	3.8		157.9	グリーンタフ	SI7	Q29
7	磨 石	(7.5)	(3.9)	(4.7)		171.0	安 山 岩	SI11	Q37
8	磨 石	8.6	5.8	3.5		236.0	砂 岩	SI26	Q54
第156図1	磨 石	(7.0)	8.5	4.0		(279.9)	安 山 岩	K4区	Q95
2	磨 石	10.5	8.1	4.3		547.2	安 山 岩	J2区	Q111
3	砥 石	(4.6)	(3.3)	1.2		24.9	安 山 岩	J7区	Q107
4	砥 石	(7.3)	(3.8)	2.3		117.8	安 山 岩	D8e7区	Q105
5	石 皿	(12.8)	(18.9)	8.5		2874.2	安 山 岩	D8区	Q129
第159図12	砥 石	11.0	4.2	0.7		105.8	安 山 岩	SK140	Q79

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)		
第157図5	不明土製品	2.2	1.4		0.3	4.0	SI2	DP1
6	不明土製品	(1.8)	0.7	0.6		0.8	SI7	DP3
7	不明土製品	1.9	0.7	0.7		0.7	SI7	DP2
8	耳 飾 り	(4.5)	(2.3)	1.1		(13.2)	SK68	DP22
9	球 状 土 錘	3.5	4.3		1.0	(38.2)	グリッド(I4f8区)	DP21

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)		
第144図1	不明鉄製品	38.3	3.8	0.3	125.1	SK70	M8
2	不明鉄製品	26.1	3.1	0.5	109.3	SY6	M9

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第159図1	坏 土 師 器	A [8.0] B 5.2 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	手捏ね。底部及び体部内・外面ナデ。口縁部内・外面指頭痕。	石英・長石・砂粒 橙色 普通	P551 80% 表採 内面煤付着
2	坏 身 須 恵 器	A [13.0] B (2.2)	体部から受部の破片。体部は内傾して立ち上がり、受部は外上方に伸び、丸みを帯びる。	巻き上げ、水挽き。体部外面回転ヘラ削り。体部外面自然釉。	長石・砂粒 灰色 普通	P550 5% グリッド
3	坏 身 須 恵 器	A [11.2] B (3.4)	受部から口縁部の破片。受部は鋭く水平方向に伸び、口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は内傾し、凹線を持つ。	巻き上げ、水挽き成形。体部外面に回転ヘラ削り、口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P540 5%
4	鉢 土 師 器	B (5.1) C 7.0	底部から胴部の破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	底部及び胴部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 ぶい橙色 普通	P552 30% 表採
5	高 土 師 坏 器	B (3.7)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り。外面赤彩。	砂粒 橙色 普通	P548 10% 表採 内・外面摩耗

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第159図 6	坏 土 師 器	A [14.4] B (5.9)	口縁部破片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	頸部外面ヘラ削り。口縁部外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P542 5% J6区
7	甕 土 師 器	A [11.6] B (9.2)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	胴部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。頸部外面ヘラ削り、口縁部内・外面赤採。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P541 10% グリッド
8	甕 土 師 器	A [22.4] B (4.3)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラ削り。口縁部外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P543 5% 16e ₇
9	甕 須 恵 器	A [25.6] B (7.5)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部外面並行叩き後横ナデ、内面横ナデ。	長石・砂粒 灰色 普通	P546 5% 15区
10	甕 須 恵 器	A [15.2] B (5.2)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、9本1条の波状文を配する。頸部直下に突線を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 赤灰色 普通	P545 5% J6区
11	坏 土師質土器	A [6.2] B 1.2 C 4.0	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P544 50% K4d ₃
13	甕 須 恵 器		口縁部破片。口縁部は外反する。口縁部に3本の突線を持ち、20本1条の波状文を2段に配する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 黄灰色 良好	P547 5% 13区

第5章 ま と め

1 はじめに

今回の調査においては、前章でその概要を述べてきたように、古墳時代中期末の集落を主体として、旧石器時代・縄文時代・平安時代・近世頃の複合遺跡であることが明らかになった。確認できた遺構は、竪穴住居跡48軒、堀立柱建物跡2棟、土坑162基、井戸状遺構4基、炭焼窯跡6基で、これらの遺構や包含層等からナイフ形石器、縄文式土器片、石器、土師器、須恵器、石製品、土製品、金属製品等が出土している。

まとめにあたり、当遺跡の中心となる古墳時代中期末の集落について、谷津を狭んで対する同時期のヤツノ上遺跡と対比しながら、古墳時代中期の集落の問題点を抽出してみる。

2 ヤツノ上遺跡と中久喜遺跡の特色について

(1)類似点

- ①竪穴住居跡の主軸方向がN-45°-W前後傾きを持つ。
- ②間仕切溝は20㎡以上の住居跡に持つ。
- ③炉を持たない住居跡は10㎡未満の小型の住居にみられる。
- ④器種構成の割合は坏・甕が高く、その他の器種の割合が低い。
- ⑤坏・埴の赤彩率が高い。
- ⑥土師器は坏・埴・高坏に同じ器形の特徴を持つ。
- ⑦石製模造品の住居からの出土割合がほぼ同じである。

(2)相違点

- ①ヤツノ上遺跡は単一グループであるのに対し、中久喜遺跡は3グループに分かれる。
- ②ヤツノ上遺跡は標高24.5mの台地平坦部に集落を形成しているのに対し、中久喜遺跡は標高21mの緩斜面状に形成している。
- ③ヤツノ上遺跡は間仕切溝を持つ住居の割合が高く、最多のもので25条の間仕切溝を持つのに対し、中久喜遺跡は間仕切溝を持つ住居の割合が低く、最多のもので11条の間仕切溝を持つ。
- ④ヤツノ上遺跡の最大の住居跡は110㎡の大型住居跡であるのに対し、中久喜遺跡の最大の住居跡は80㎡の中型住居跡である。
- ⑤ヤツノ上遺跡は中久喜遺跡に比べて、出入口施設を持つ住居跡の割合が高い。

表4図 ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡の特色

項目	ヤツノ上遺跡	中久喜遺跡	
立地	小野川左岸から入り込む小支谷の東側台地	小野川左岸から入り込む小支谷の西側台地	
集落	1グループの集落(29軒)を形成 1グループ(29軒)標高24.5m~25.5m 台地中央平坦部	3グループの集落(42軒)を形成 1グループ(9軒)標高21.0~22.5m 台地先端部緩斜面 2グループ(26軒)標高22.5~25.5m 台地中央部平坦面 3グループ(8軒)標高22.5~25.5m 台地基部平坦面	
遺構	主軸方向	N-45°-W 前後の傾き	N-45°-W 前後の傾き
	規模・平面形	5㎡~110㎡の方形または長方形	5㎡~80㎡の方形または長方形
	間仕切溝を持つ住居	29軒中18軒で62.0% ・20㎡以上の住居跡(中型から大型の住居)に持つ。 最大のもの25条(第23号住居跡)	42軒中18軒で約42.9% ・20㎡以上の住居跡(中型から大型の住居)に持つ。 最大のもの11条(第25号住居跡)
	出入口施設を持つ住居	29軒中18軒 62.1% 面積9㎡以上の住居跡 出入口施設形状 馬蹄形13 半円形2 不定形3	42軒中12軒 28.6% 面積24㎡以上の住居跡 出入口施設形状 馬蹄形2 長方形4 不定形6
	炉を持つ住居	1基-11軒 2基-9軒 3基-2軒 4基-2基	1基-26軒 2基-3軒
	炉を持たない住居	29軒中5軒 17.2% いずれも面積10㎡未満 貯蔵穴があるもの1基-1軒 2基-2軒	42軒中13軒 31% 面積10㎡未満のもの7軒 10㎡以上もの30㎡未満のもの3軒 30㎡以上もの3軒 貯蔵穴があるもの 1基-1軒 2基-2軒
焼失住居	29軒中10軒 34.5%	42軒中22軒(焼土残存7軒を含む)52.4%	
人為堆積	29軒中22軒 75.9%	42軒中12軒 28.6%	
遺物	器種構成		
	坏埴の赤彩率	坏… 92.9% 埴… 75.9%	坏… 95.8% 埴… 94.4%
	器形の特徴土節器	坏…平底と丸底の2種類。口縁部内面あるいは外面に稜を持つ。須恵器の坏蓋・坏身を模倣(丸底,外面に明瞭な稜) 埴…坏に比べ器高が高い。平底。口縁部は短く外反,内面に明確な稜を持つもの,弱い稜を持つもの。 高坏…坏類に柱状を呈する脚を付けたもの。	坏…平底と丸底の2種類。口縁部内面あるいは外面に稜を持つ。須恵器の坏蓋・坏身を模倣(丸底,外面に明瞭な稜) 埴…坏に比べ器高が高い。平底と丸底の2種類。内面に明確な稜を持つもの,弱い稜を持つもの。 高坏…坏部下位に稜を持つもの。坏類に柱状を呈する脚を付けたもの。
	須恵器	坏蓋 坏身 埴 把手付埴 無蓋高坏 甌 甕 TK-208・TK-216類似(1形式3段階~1形式4段階)	坏蓋 坏身 無蓋高坏 甌 甕 坏蓋…MT5-2窯跡出土坏蓋に類似(SI-2)-1型式3段階 MT84窯跡出土坏蓋に類似(SI-7)-1型式3~4段階 坏身…KM33-2窯跡出土坏身に類似(SI-8)-1型式5段階 無蓋高坏…TK109-3窯跡出土無蓋高坏に類似(SI-25) 1型式3段階
石製模造品	有孔円板…2軒(SI-29・33) 白玉…8軒(SI-13・19・23・24・25・29・33・34) 勾玉…5軒(SI-13・18・23・24・33) 管玉…1軒(SI-40) 石製模造品出土住居跡10軒 34.5%	有孔円板…2軒(SI-18・34) 白玉…10軒(SI-7・9・11・15・18・22・25・26・27・41) 勾玉…2軒(SI-2・41) 石製模造品出土住居跡12軒 28.6%	

- ⑥ヤツノ上遺跡は中久喜遺跡に比べて、焼失住居跡の割合が低い。
- ⑦ヤツノ上遺跡は中久喜遺跡に比べて、竪穴住居の堆積に人為堆積の割合が高い。
- ⑧須恵器は両遺跡ともに同じ器種が出土している。ヤツノ上遺跡では壙・把手付壙が出土している。時期は両遺跡ともに1型式3段階のものを中心に出土しているが、ヤツノ上遺跡では1型式4段階まで、中久喜遺跡では1型式5段階のものまで出土している。

以上の類似、相違点をみると、遺構・遺物の特色なども類似点が多く、ヤツノ上遺跡と中久喜遺跡の各々の集落は、全く別の集落ではなく、谷を狭んで同時期に存在したひとつの大きな集落であることが考えられる。しかも、相違点に示されるように、ヤツノ上遺跡の住居跡は単一グループで大型の住居が多いことと、炉が間仕切の間に複数(3~6)みられ、一般の住居とは考えにくいことから、集落の中心はヤツノ上遺跡にあったと考えられる。それに対して、中久喜遺跡は3グループに分けられることと、比較的小型の住居跡がみられることからヤツノ上遺跡に附属する集落と考えられる。集落の形成について一応の傾向をみたが、中久喜遺跡の調査を通していくつかの問題点があり、これらの問題点について述べてみる。

3 中久喜遺跡にみられる問題点

中久喜遺跡にはいくつかの問題点がある。これらの問題点についてももう少し詳しく述べる。

- ① 坏・壙類の赤彩率が高く、坏95.8%・壙94.4%を占める。
- ② 土師器の細片が住居跡内から集中して出土しているものがみられる。
- ③ 同一個体の須恵器片・土師片が2軒の住居跡から出土している。
- ④ 焼失・人為堆積の住居跡が多くみられる。
- ⑤ 炉を持たない住居跡がみられる。
- ⑥ 双孔円板等の石製模造品・勾玉・白玉等の玉類が住居跡から出土している。

①の問題について；中久喜遺跡は赤彩された坏・壙類はほとんどの住居跡から出土している。器種構成に於いても坏は全体の48.7%を占め、他の器種に比べて多量に出土している。また、壙は全体の9.1%であり、坏に比べ非常に少量であるが、坏・甕に次いで出土している。赤彩された坏・壙類の増加について、榎村宣行・浅井哲也の両氏は「古墳時代後期において祭祀形態に変化が起こり、従来の供献土器である埴や高坏が消滅し、代わって供膳具の中の坏・壙または坏・壙に脚を付けた高坏に彩色するか否かによって祭祀具と日常雑器とに分けて使用したものと考えられる。」⁽¹⁾と述べており、さらに榎村氏は赤彩の目的について、「牛久市ヤツノ上遺跡において、破砕された壙や坏、高坏等の多量の須恵器(他の住居跡のものと同接関係にあるものも認められる。)や白玉、有孔円板等の石製模造品、土製模造品の伴出が見られることや多くの住居跡が火

を受けており、覆土は人為堆積を示していることを関連付け、赤彩の目的について、祭祀的意味合いの強いものとし、これらの行為を集落を移るに当たって、土地神に土地を返す祭祀的行為を示している⁽²⁾。」と述べている。中久喜遺跡についても古墳時代中期末から後期初頭に当たる時期であり、ヤツノ上遺跡に隣接する遺跡でもあり、ヤツノ上遺跡と類似点も多い。これらのことから中久喜遺跡の赤彩された坏・埴が祭祀的意味合いをもつように思われる。しかも、赤彩された坏・埴は祭祀的意味合いを持つだけでなく、数量・摩耗の具合から、日常雑器としても使用されたように思われる。

②と③の問題について；第25号・30号住居跡等は赤彩の坏・埴、須恵器の細片が出土している。さらに、第30号住居跡と第31号住居跡では同一個体の須恵器甕片が出土し、また第22号住居跡と第23号住居跡では同一個体の土師器埴片が出土している。割れて使用不可能になったものが投棄されたとは思えない状態であり、意図的に行われたように考えられる。

④の問題について、中久喜遺跡は古墳時代の焼失家屋15軒がみつかっており、それ以外に焼土がみられる住居跡は7軒ある。この7軒の住居跡については、第4章3節において焼失とは捉えなかったが、木材の完全燃焼によりわずかの炭化材しか残らないものと仮定し、ここでは焼失家屋として取扱いタイプ分けしたい。

焼失状況から、石野博信氏の「火災住居の類型分類⁽³⁾」をもとに、中久喜遺跡の焼失住居跡を類型分類し、火災の要因について客観的にとらえてみると、全炭全焼A1軒(28号住居跡)、全炭全焼B2軒(12・15号住居跡)、外炭外焼A1軒(8号住居跡)、外炭外焼B18軒(1・2・3・6・7・9・10・11・18・19・21・23・25・26・30・34・40・42号住居跡)であり、外炭外焼B型(外区に炭化材と焼土が遺存し、土器が少ないもの)が約82%をしめる。石野氏の類型分類でとらえると、中久喜遺跡の焼失家屋は「住居中央部を火元とする意図的放火。」の傾向にあることがわかる。さらにこれらの住居の54.5%が人為堆積である。このことは、廃棄した住居跡に火を掛け、焼失した跡に埋め戻したことが考えられる。

以上のような行為を考えると、榎村氏が述べる祭祀的行為に関連があると考えられる。

4 おわりに

牛久北部特定土地区画整理事業に伴う中久喜遺跡の発掘調査は平成3年4月から平成3年10月、平成4年4月から11月まで1年6か月にわたって実施した。調査の結果、古墳時代を中心とした遺構や遺物が確認され、多くの貴重な資料を得ることができた。また、古墳時代中期末から後期初頭にかけての移行期の遺跡であることがわかり、一応の成果を上げることができた。本報告書が、今後当地域の歴史を解明するための研究資料として活用されれば幸いである。

なお、本報告書を作成するに当たり、牛久市教育委員会をはじめ、関係各位の御指導、御協力をいただいたことにたいし、文末ながら深く感謝の意を表する次第である。

注・参考文献

- (1) 檜村宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナルNo.342』 1992年
- (2) 檜村宣行「茨城県南部の鬼高式土器」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1994年
- (3) 石野博信『日本原始・古代の住居の研究』 1991年

石野博信氏は火災住居のタイプを以下のように分類した。

全炭全焼住居 住居内の全体に炭化材と焼土が依存する。

全炭外焼住居 全体に炭化材があり、外区(主柱と周壁の間)に焼土が遺存する。

全炭内焼住居 全体に炭化材があり、内区(主柱で囲まれた内側)に焼土が遺存する。

全炭少焼住居 全体に炭化材があり、少量の焼土が遺存する。

外炭全焼住居 外区に炭化材があり、全体に焼土が遺存する。

外炭外焼住居 外区に炭化材と焼土が遺存する。

これらの炭化材・焼土の遺存状況に、土器が多いものに「A」、土器が少ないものに「B」の記号を付して、「全炭全焼 A 型」のように略称する。

火災住居のタイプに関する結論を要約すれば、つぎのとおりである。

全炭全焼 A 型 放火・失火・飛火等による不慮の火災。

全炭全焼 B 型 自らの意図的放火、あるいは他による放火を事前察知していた場合の火災

外炭外焼 A 型 住居中央部を火元とする放火・失火・飛火。

外炭外焼 B 型 住居中央部を火元とする意図的放火。

- ・中村浩『和泉陶邑窯の研究』 1981年
- ・茨城県教育財団「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I)ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年
- ・小高五十二「ヤツノ上遺跡の間仕切溝を持つ住居跡について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1994年

附章 中久喜遺跡から出土した炭化材の種類

はじめに

中久喜遺跡(牛久市中根町所在)は、小野川左岸の台地上に位置する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、先土器時代から近世にわたる遺構・遺物が検出されている。また、古墳時代住居址の中には炭化材を伴うものも見られる。

中久喜遺跡については、以前に SI-2 住居址から出土した側壁材とされる炭化材 3 点について同定を行っており、全点がコナラ属コナラ亜属コナラ節であった。今回の分析調査では、その後の発掘調査で新たに確認された 4 軒の住居址から出土した柱材とされる炭化材について同定を行い、その種類を明らかにする。

1. 試料

試料は、古墳時代中期(5世紀後半)に属する 4 軒の焼失住居址(SI-12, 15, 23, 28)から出土した、柱材と推定されている炭化材 6 点(SI-12「リ」、SI-15「ロ」、「ホ」、SI-23 No.5, No.6, SI-28 No.3)である。

2. 方法

試料を乾燥させたのち、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡(無蒸着・反射電子検出型)で観察・同定した。

3. 結果

試料は、1 点(SI-28 No.3)がコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種に、他の 5 点は全点コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種に同定された(表 1)。クヌギ節とコナラ節の主な解剖学的特徴や原生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編<II>」(北村・村田, 1979)に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第 2 巻」(平井, 1979)も参考にした。

表 1 炭化材同定結果

検出遺構・試料名	用途	種類
SI-12 「リ」	柱材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
SI-15 「ロ」	柱材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
SI-15 「ホ」	柱材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
SI-23 No.5	柱材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
SI-23 No.6	柱材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
SI-28 No.3	柱材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.)

ブナ科

試料名：SI-12「リ」、SI-15「ロ」、「ホ」、SI-23 No.5, No.6

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形，小道管は管壁は中庸～厚く，横断面では角張った円形，ともに単独。道管はいずれも単穿孔を有している。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと同複放射組織とがある。

クヌギ節は，コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で，果実(いわゆるドングリ)が2年目に熟するグループで，クヌギ(*Quercus acutissima* Carruthers)とアベマキ(*Q. variabilis* Blume ver. *brevipetiolata* Nakai)の2種がある。クヌギは本州(岩手・山形県以南)・四国・九州に，アベマキは本州(山形・静岡県以西)・四国・九州(北部)に分布するが，中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で，材は重硬である。古くから薪炭材として利用され，人里近くに萌芽林として造林されることも多く，薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材，柁木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり，果実は染料・飼料ともなった。アベマキはクヌギによく似た高木で，樹皮の Cork 層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが，さらに重い。用途もクヌギと同様であるが，樹皮が厚いため薪材にはむかず，炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.)

ブナ科

試料名：SI-28 No.3

環孔材で孔圏部は1～2列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形～楕円形，小道管は管壁は中庸～薄く，横断面では多角形で，いずれも炭穿孔を有する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと同複放射組織とがある。

コナラ節は，コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で，果実(いわゆるドングリ)が1年目に熟するグループで，モンゴリナラ(*Quercus mongolica* Fischer ex Turcz.)とその変種ミズナラ(*Q. mongolica* Fischer ex Turcz. var. *grosseserrata* (B.L.) Rehder et Wilson)，コナラ(*Q. serrata* Murray)，ナラガシワ(*Q. aliena* Blume)，カシワ(*Q. dentata* Thunberg)といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラが北海道・本州(丹波地方以北)に，ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に，ナラガシワは本州(岩手・秋田県以南)・四国・九州に分布する。コナラは樹高20mになる高木で，古くから薪炭材として利用され，植栽されることも多かった。材は重硬で，加工は困難，器具・機械・樽材などの用途が知られ，薪炭材としてはクヌギ(*Q. acutissima* Carruthers)に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり，虫えいを染料とすることもある。

4. 考察

同定されたクヌギ節とコナラ節は、古墳時代の住居構築材に比較的多く出土することが指摘されている(千野, 1991)。本遺跡では、SI-2でも壁材にクヌギ節が使用されており(未公表)、本遺跡の多くの住居でクヌギ節・コナラ節を構築材として利用していたことが推定される。このような傾向は県内の遺跡で多数見られ(例えば, パリノ・サーヴェイ株式会社, 1986a, b), 県内の多くの地域で構築材にクヌギ節・コナラ節が多く利用されていたことが考えられる。

ところで、今回の分析調査ではSI-28の構築材1点のみが、他の住居址とは異なるコナラ節であった。この結果は、住居によって構築材の種類が異なっていた可能性がある。しかし、各住居址の同定点数が1～2点であるため、実際に住居によって構築材の種類が異なっていたか否かは断定できない。いずれの住居址も今回調査した以外にも構築材と考えられる炭化材が多数出土している。今後これらの炭化材についても同定を行うことで、各住居ごとの構築材の種類構成について、より詳細な資料が得られることが期待される。また、水海道市西原遺跡や岩井市高崎貝塚では、住居構築材にヌルデやハンノキ属がクヌギ節と共に同定されており、クヌギ節以外にも構築材として使用された種類があったことを示している。今回の試料は柱材とされているが、出土状況を見る限り主柱ではなく垂木のようにも見える。住居構築材の中でも垂木や横木のような部位に用いられる木材は、ある程度の強度や耐久性とともに、大きさ(径・長さ)や形状も重要な選択基準であったことが推定される。必要とする条件を満たしていれば、クヌギ節以外にも使用された木材があったことが考えられる。今回調査した住居址では、クヌギ節・コナラ節以外の木材も使用された可能性がある。これについても、今後未同定の試料を同定する事で確認することができよう。

焼失住居址から出土する炭化材は、火災とその後の埋積課程を経て残存したものであり、当時の組成を正確に反映しているとは限らない。このような住居址の調査を行う際には、出土した炭化材について可能な限り多くの点数を調査する必要がある。

<引用文献>

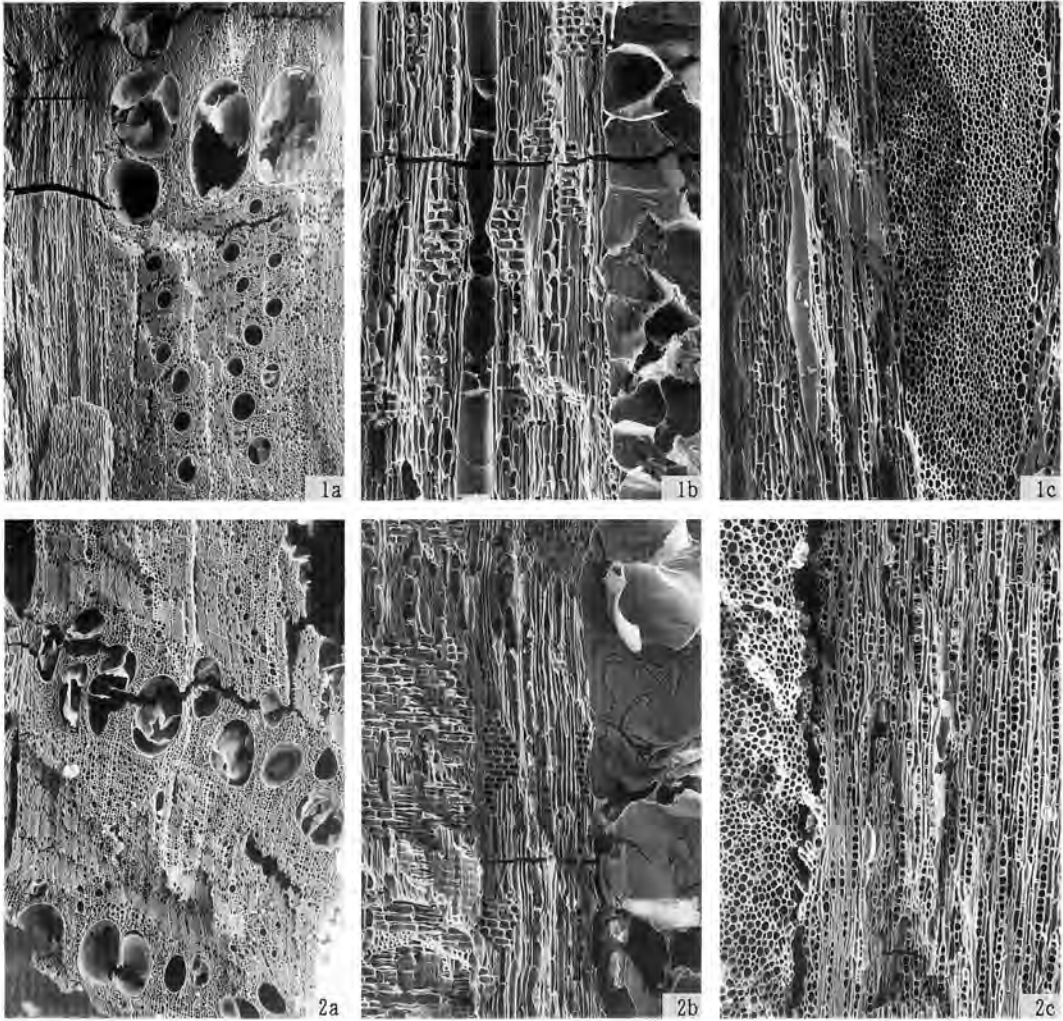
平井信二(1979)木の辞典 第2巻. かなえ書房.

北村四郎・村田 源(1979)原色日本植物図鑑 木本編<II>. 545p., 保育社

パリノ・サーヴェイ株式会社(1986a)奥山A遺跡出土試料炭化材同定報告. 茨城県教育財団文化財調査報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告2 奥山A遺跡・奥山C遺跡・西原遺跡」, p.239-340, 財団法人茨城県教育財団.

パリノ・サーヴェイ株式会社(1986b)西原遺跡出土試料種子及び材同定報告. 茨城県教育財団文化財報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告2 奥山A遺跡・奥山C遺跡・西原遺跡」, p.241-243, 財団法人茨城県教育財団.

千野裕道(1991)縄文時代に二次林はあったか - 遺跡出土の植物性遺跡からの検討 -. 東京都埋蔵文化財センター研究論集 X, p.215-249.



第1回 中久喜遺跡炭化材の顕微鏡写真

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種(SI-15)「ロ」)
2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種(SI-28)No.3)

a : 木口, b : 柾目, c : 板目

写真図版



ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡全景



中久喜遺跡全景

調査前全景



遺構確認状況



調査全景





第 1 号住居跡



第 2 号住居跡



第 2 号住居跡
遺物出土状況

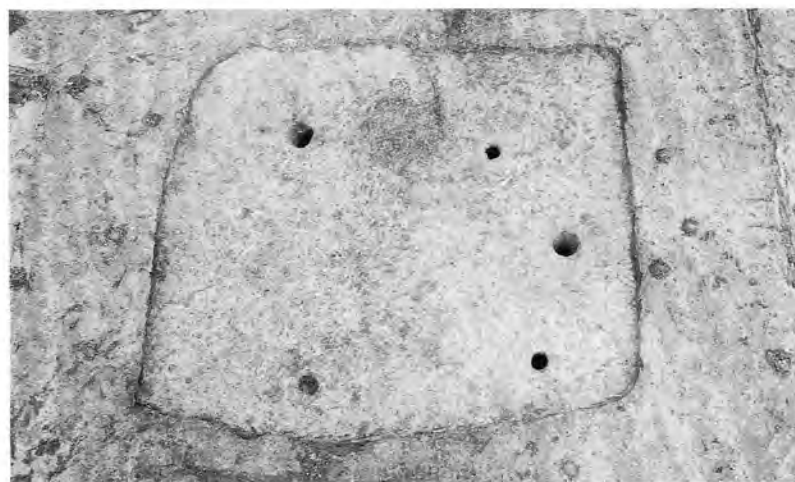
第3号住居跡



第3号住居跡
遺物出土状況

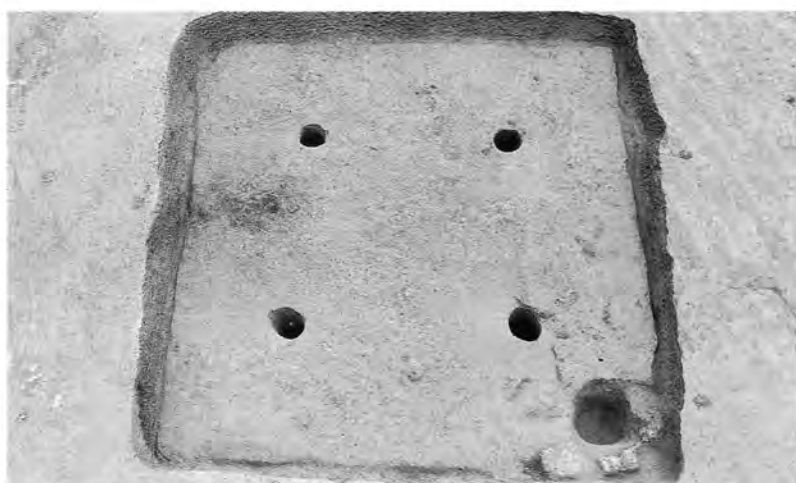


第4号住居跡





第5号住居跡
遺物出土状況



第6号住居跡



第6号住居跡
遺物出土状況



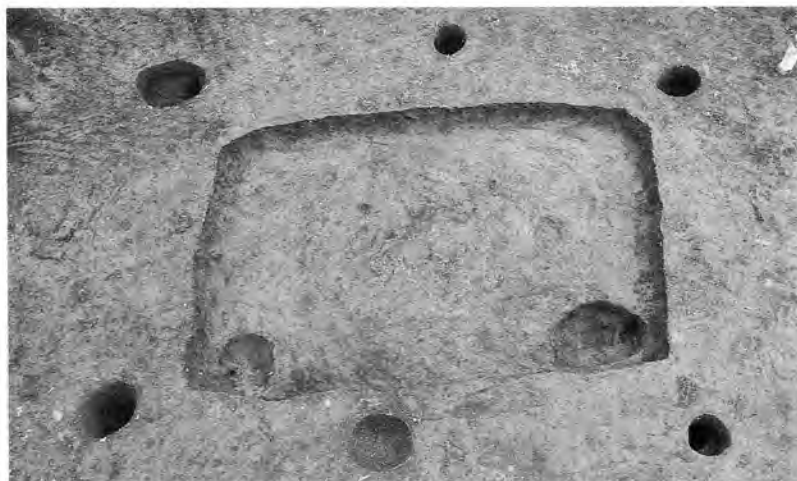
第7号住居跡



第7号住居跡
出入口施設



第7号住居跡
炭化材出土状況



第 8 号住居跡



第 8 号住居跡
遺物出土狀況



第 9 号住居跡

第10号住居跡



第11号住居跡



第11号住居跡貯藏穴
遺物出土状況





第12号住居跡

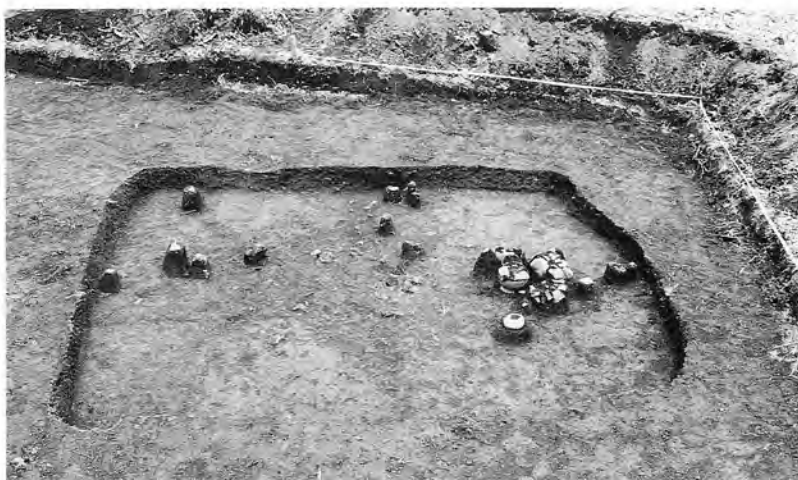


第12号住居跡
遺物出土状況



第13号住居跡

第14号住居跡



第14号住居跡
遺物出土状況



第15号住居跡





第15号住居跡
遺物出土状況



第15号住居跡
炭化材出土状況



第16号住居跡

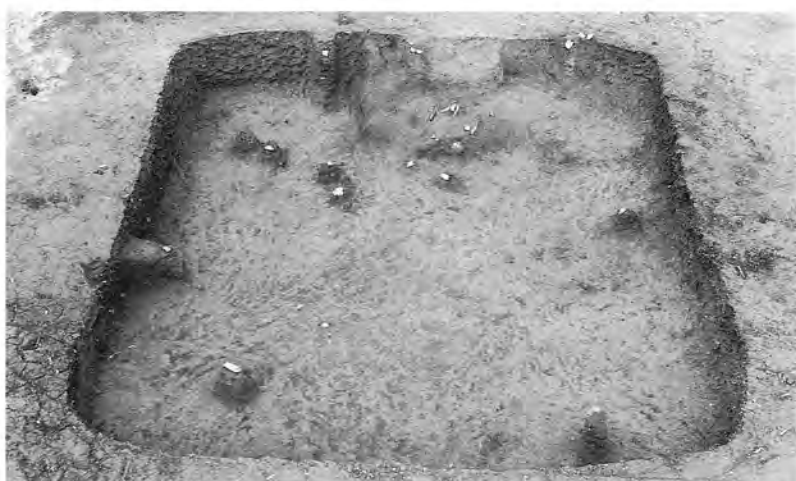
第16号住居跡
遺物出土状況



第17号住居跡

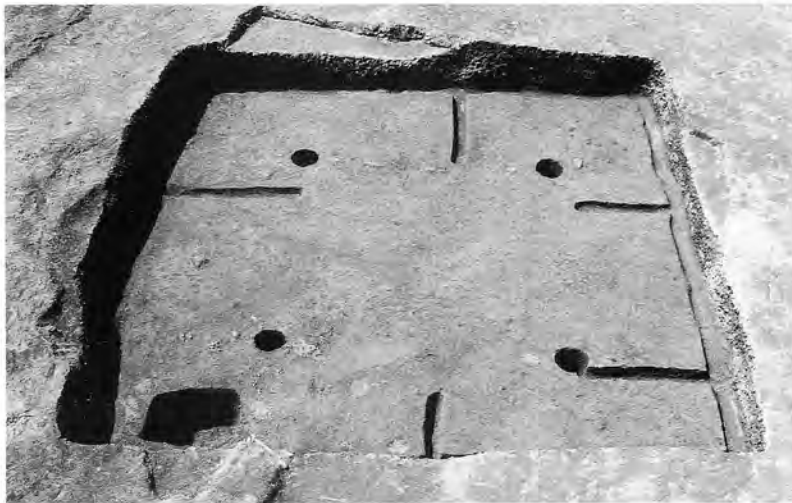


第17号住居跡
遺物出土状況





第17号住居跡竈



第18号住居跡



第18号住居跡
遺物出土状況

第18号住居跡貯藏穴
遺物出土状況



第21号住居跡



第21号住居跡
遺物出土状況





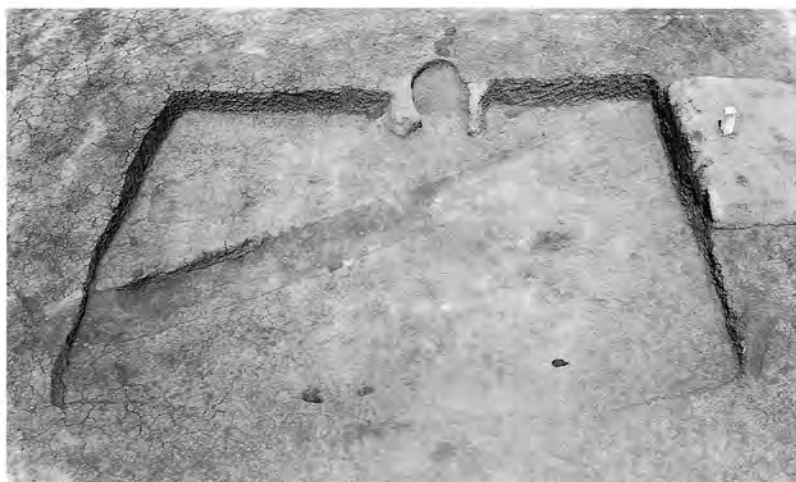
第22号住居跡
遺物出土状況



第23号住居跡



第23号住居跡
遺物出土状況



第24号住居跡



第25号住居跡



第25号住居跡土層



第25号住居跡
遺物出土状況



第25号住居跡
遺物出土状況



第26号住居跡

第26号住居跡
遺物出土状況



第27号住居跡



第27号住居跡
遺物出土状況





第28・29号住居跡
遺物出土状況



第28号住居跡
遺物出土状況



第29号住居跡
遺物出土状況

第30号住居跡



第30号住居跡
遺物出土状況



第30号住居跡
遺物出土状況





第31号住居跡
遺物出土状況



第32号住居跡
遺物出土状況



第33号住居跡
遺物出土状況



第34号住居跡



第35号住居跡



第36号住居跡



第36号住居跡
遺物出土状況



第37号住居跡



第38号住居跡

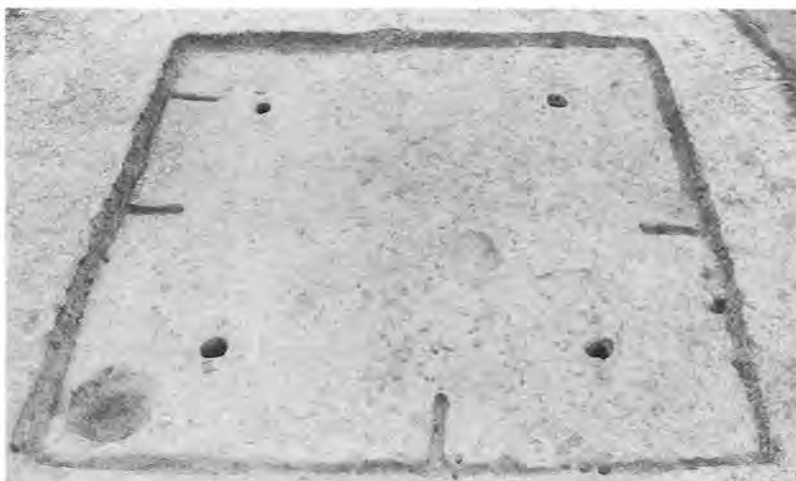
第38号住居跡
遺物出土状況



第39号住居跡
遺物出土状況



第40号住居跡





第41号住居跡



第42号住居跡

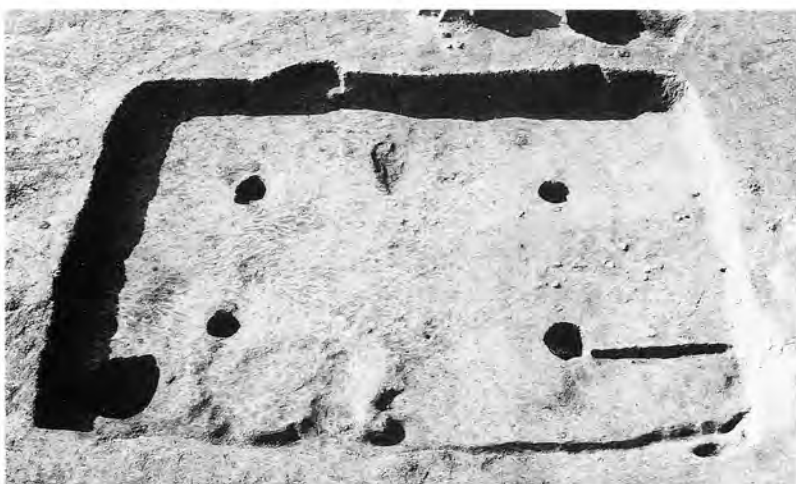


第45号住居跡

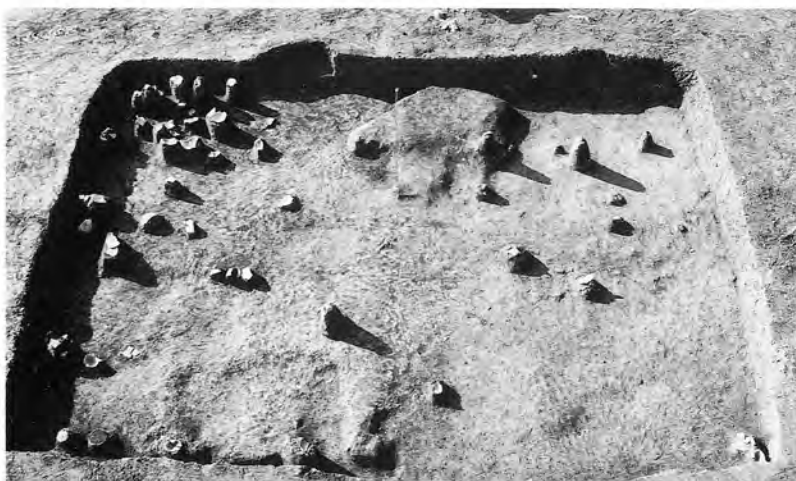
第45号住居跡竈



第46号住居跡

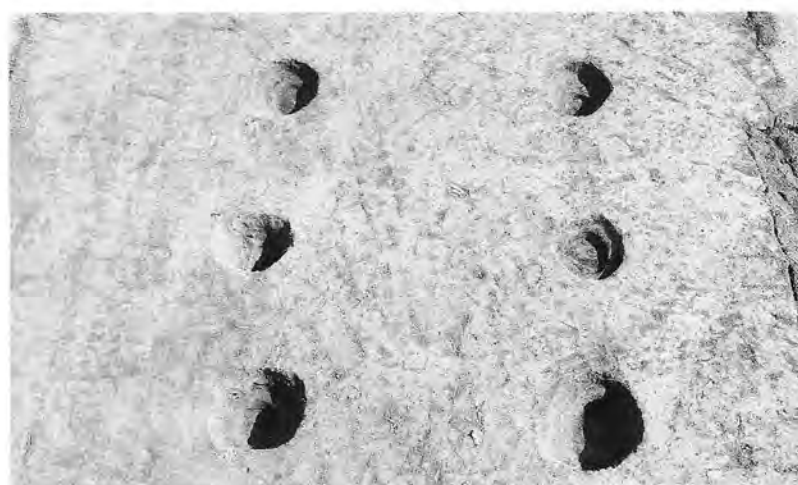


第46号住居跡
遺物出土狀況





第47号住居跡



第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡



第53号土坑



第71号土坑



第86号土坑



第98号土坑 遺物出土狀況



第99号土坑



第142号土坑 遺物出土狀況



第166号土坑



第1号井戸状遺構



第 2 号井戸状遺構



第 3 号井戸状遺構



第 4 号井戸状遺構



第 1 号炭焼窯跡



第 19 号土坑・第 2 号炭焼窯跡



第 3 号炭焼窯跡



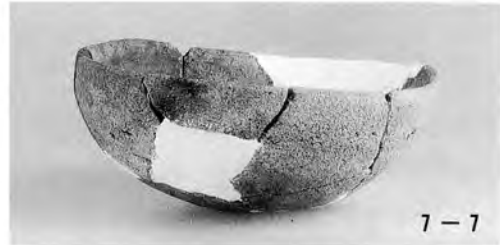
第 4 号炭焼窯跡



第 5 号炭焼窯跡



住居跡出土土器(SI 1, 2, 3)



住居跡出土土器(SI 3, 5, 7)



住居跡出土土器(SI 7, 8, 9)



住居跡出土土器(SI 10, 11)



住居跡出土土器(SI 11, 12, 13)



13-11



13-12



13-6



14-1



14-2



14-8



14-6



14-9



15-1



15-7

住居跡出土土器(SI 13, 14, 15)



住居跡出土土器(SI 15, 16, 17, 18)



住居跡出土土器(SI 18, 19, 21, 24)



18-7



22-2



22-3



22-1



23-1



23-3



22-4



22-6



22-5



23-5



23-4

住居跡出土土器(SI 18, 22, 23)



住居跡出土土器(S I 25, 26, 27)



住居跡出土土器(SI 27, 28)



住居跡出土土器(SI 28, 29)



住居跡出土土器(SI 30, 32)



住居跡出土土器(SI 32, 33, 34, 35, 36)



住居跡出土土器(SI 38, 40, 41, 42)



住居跡出土土器(SI 42, 43, 45, 46)



住居跡，土坑，グリッド出土遺物(SI 7, 17, 19, 46, 47, SK98, J 6 区)



SY 6 - 2



SY 5 - 1



16-12



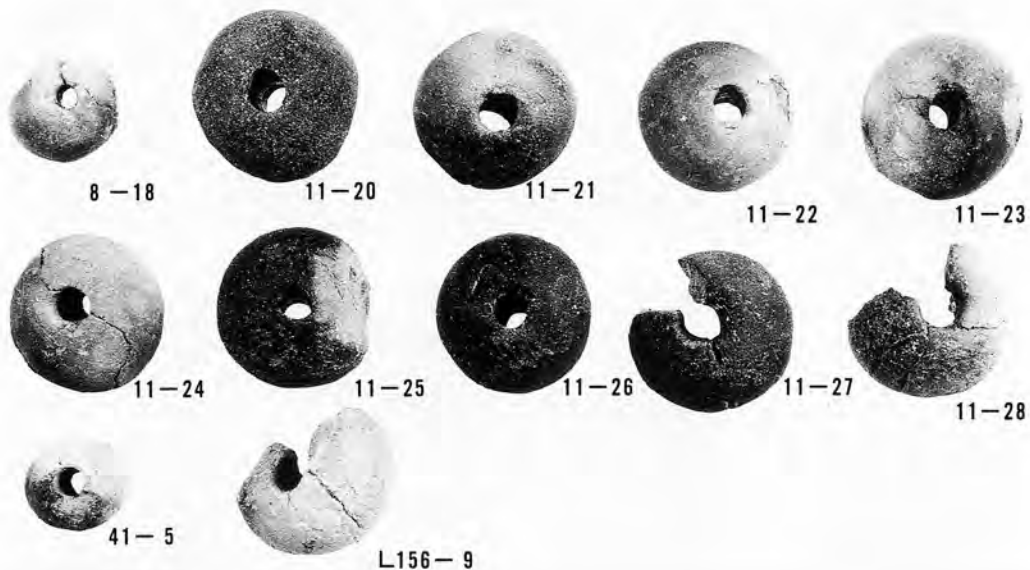
13-13

24-5

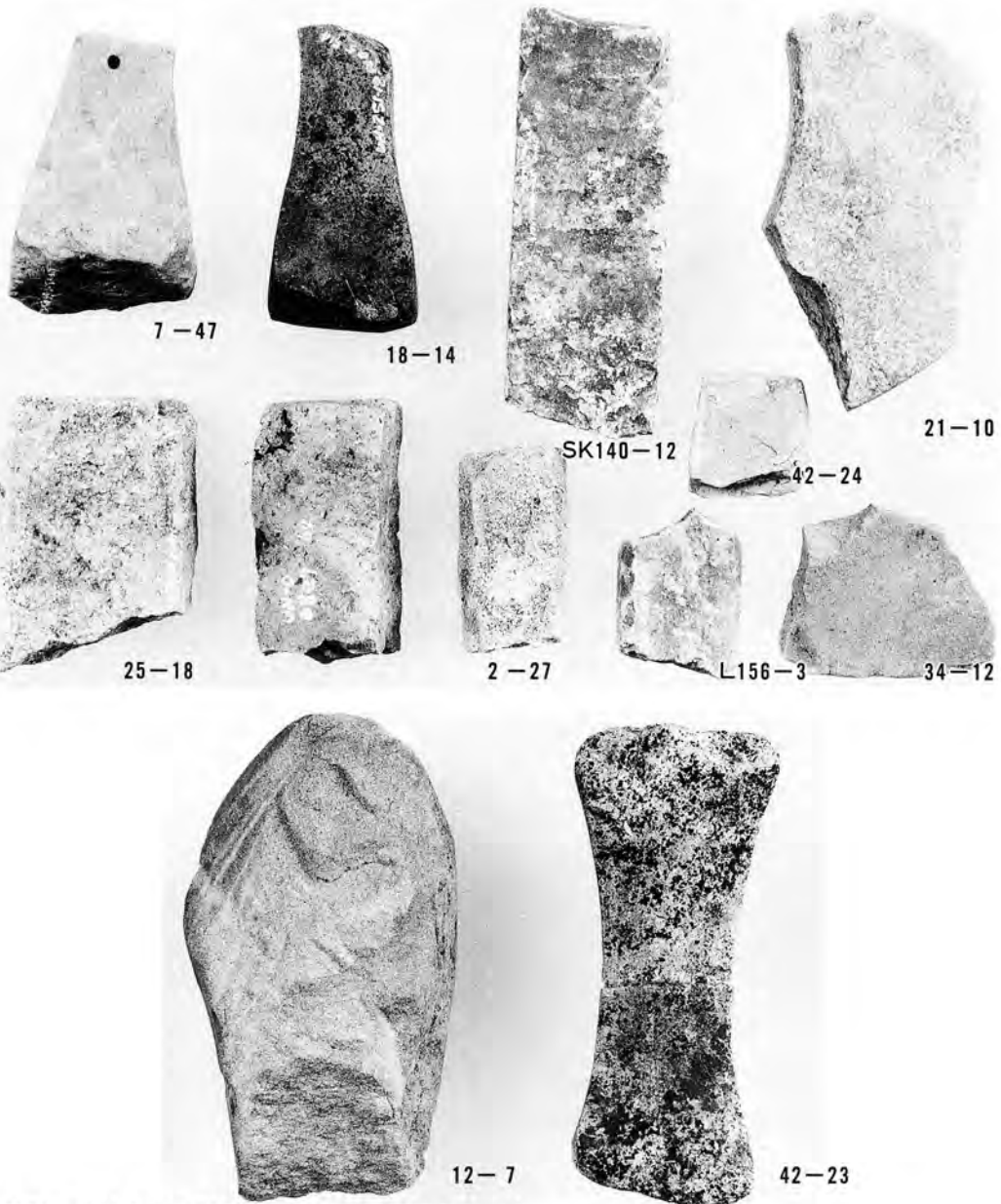
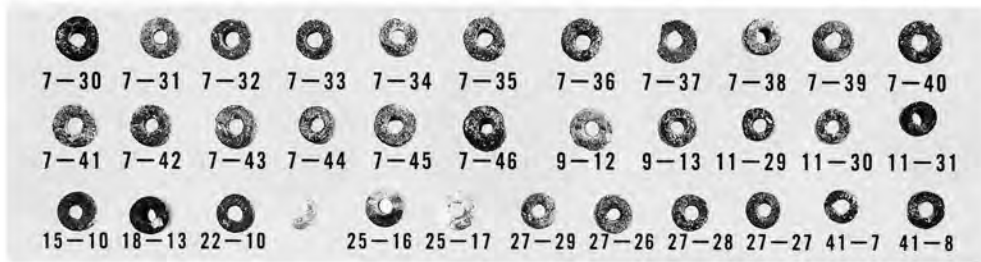


17-6

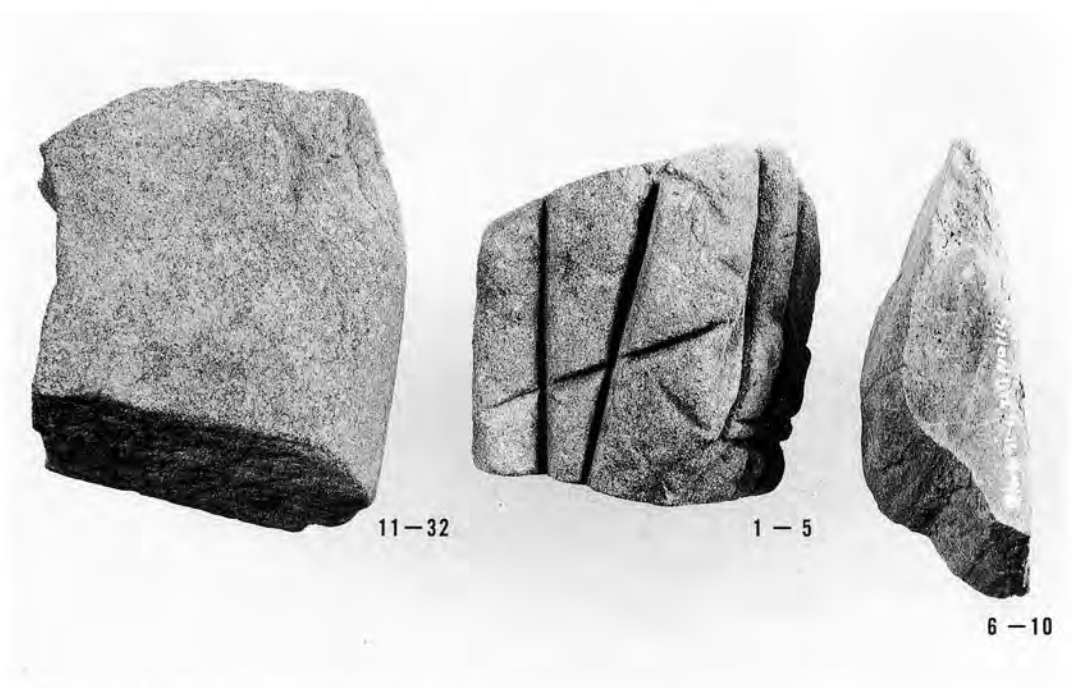
住居跡出土土製品 (SI 13, 16, 17, 24) 炭焼窯跡出土鉄製品 (SY5, 6)



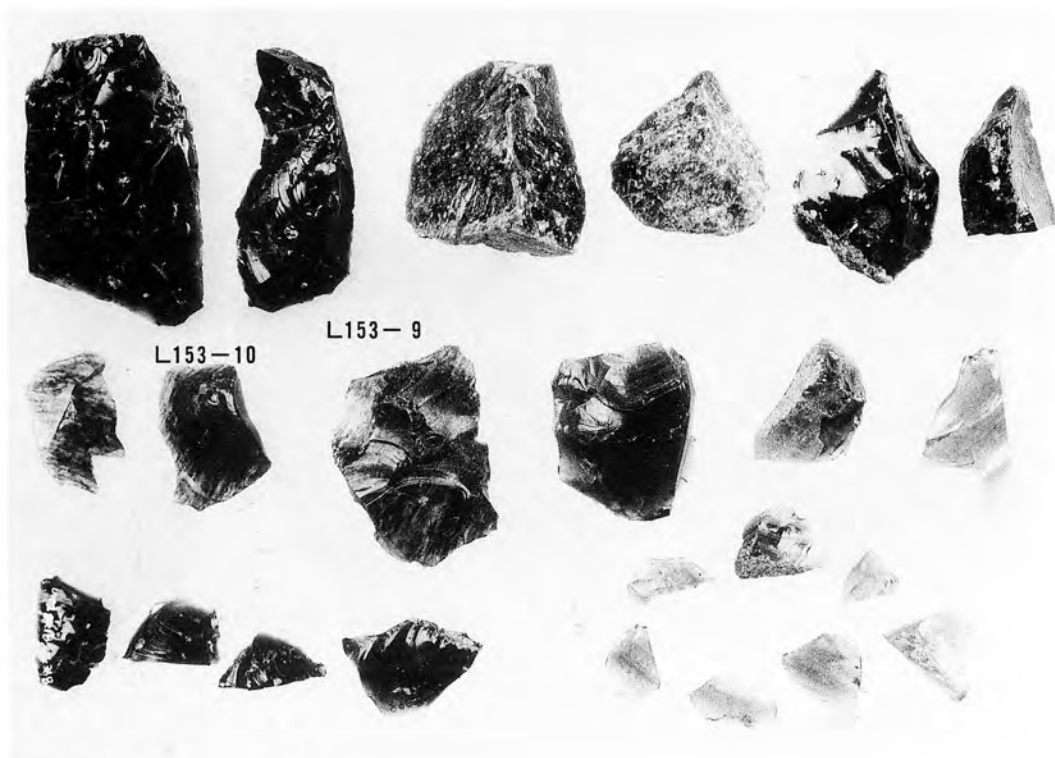
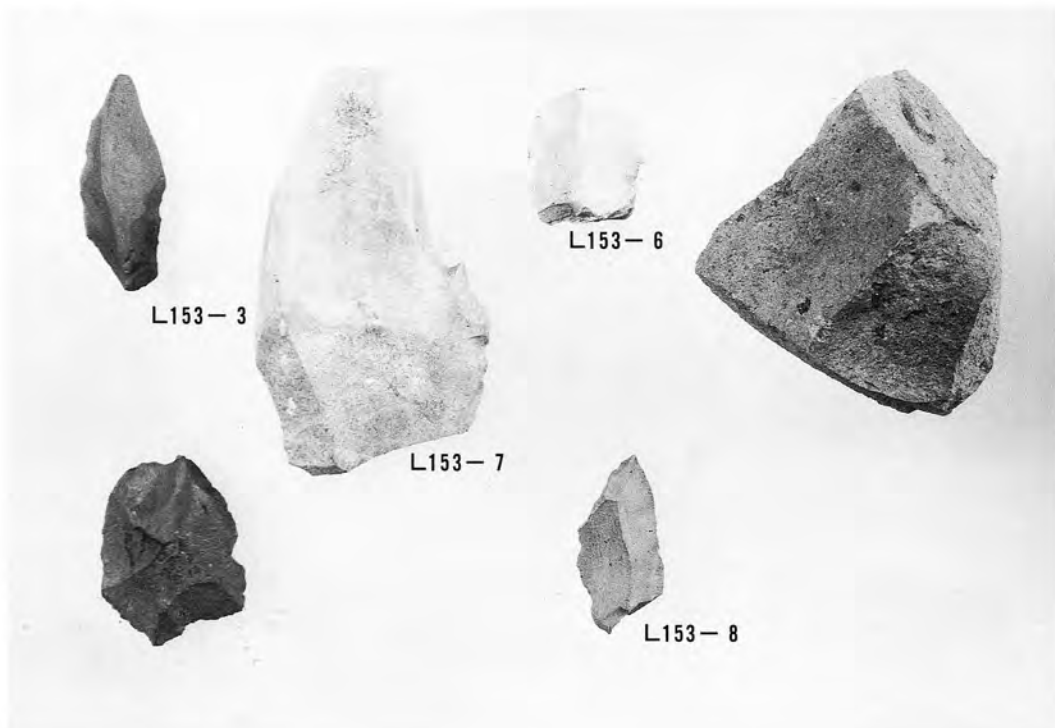
住居跡，土坑，グリッド出土土製品・石製品



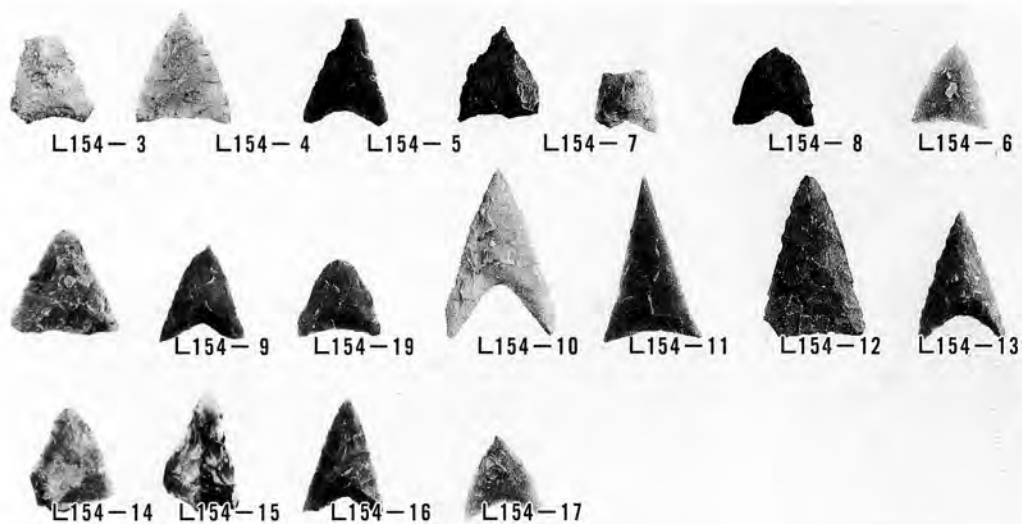
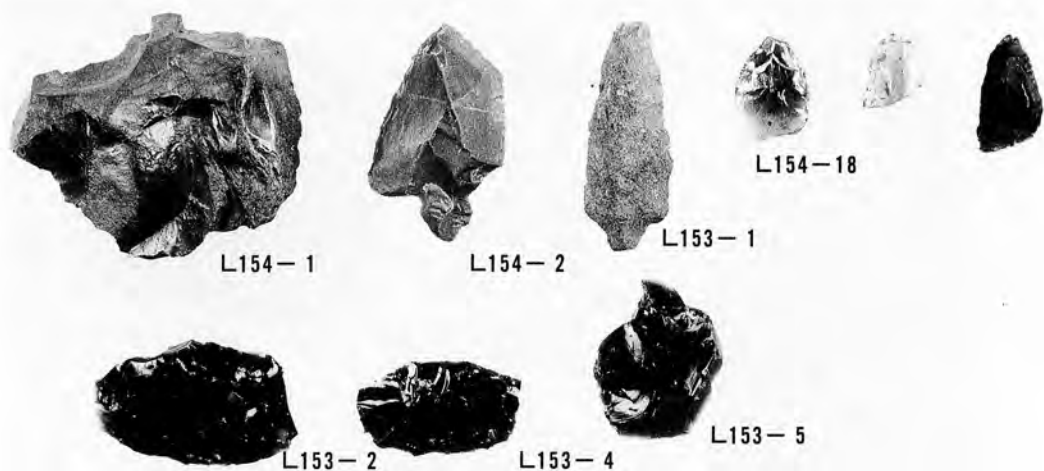
住居跡，土坑出土石製品 ※「L」は挿図番号を表す。



住居跡，グリッド出土石製品(砥石)



遺構外出土遺物(石器・剥片)



遺構外出土遺物(石器)



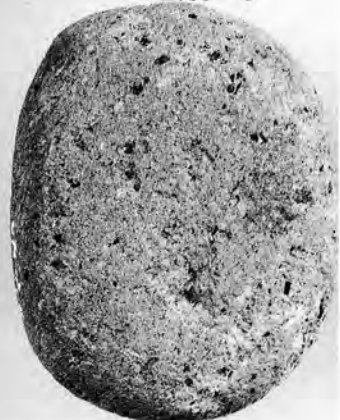
L155-8



L156-1

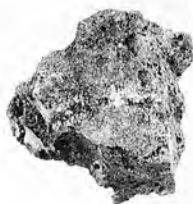
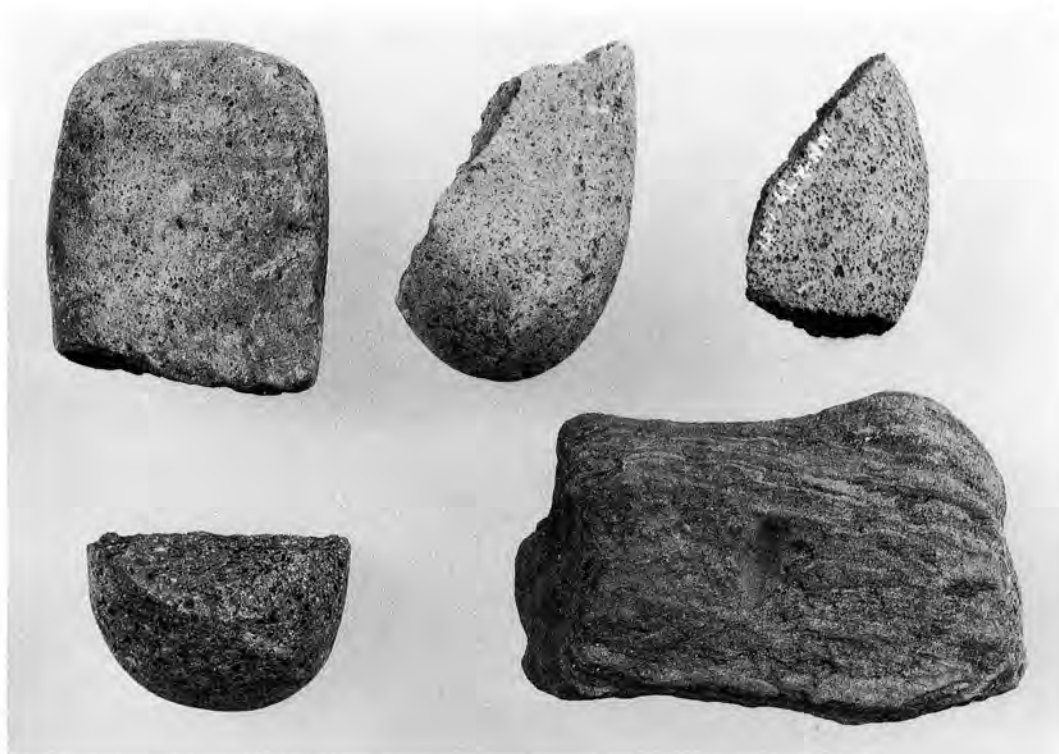


L155-5

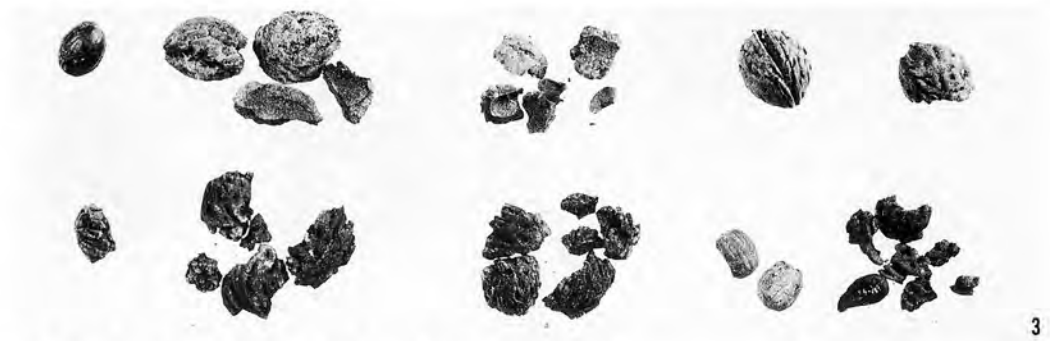
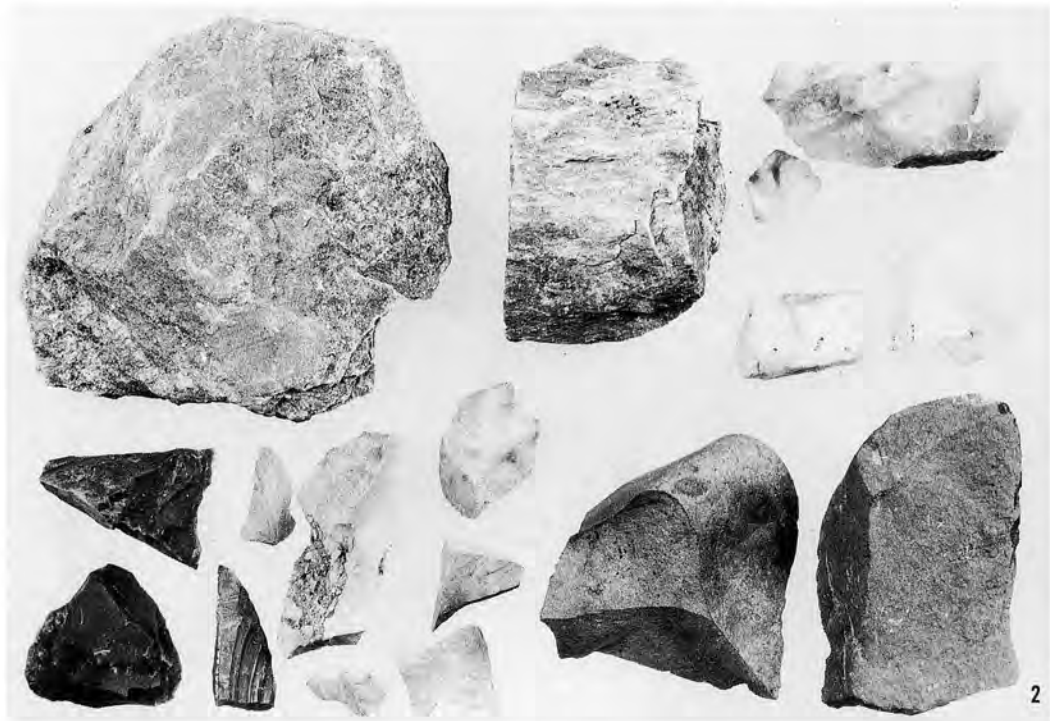


L156-2

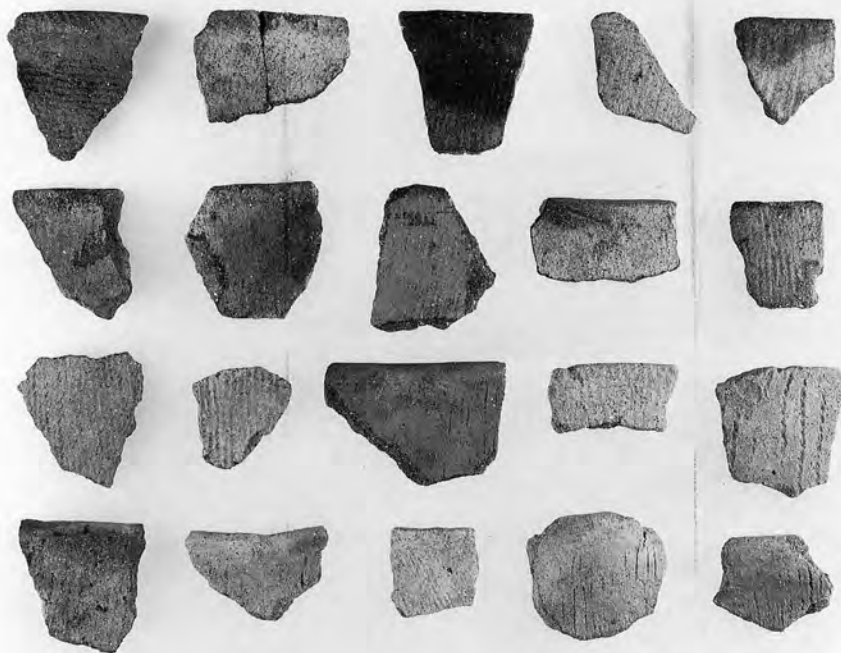
遺構外出土遺物(石器)



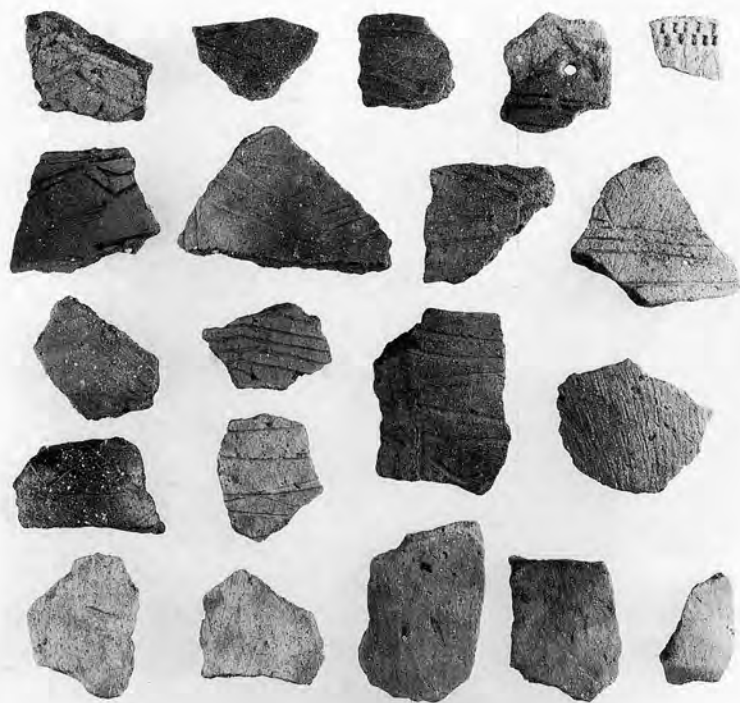
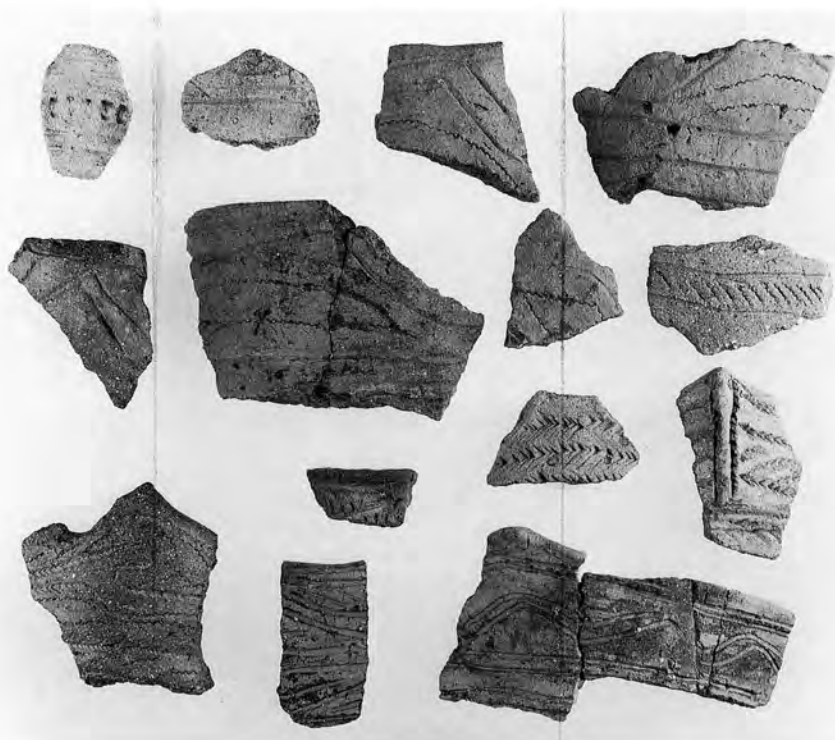
遺構外出土遺物(石器)・住居跡出土鉄滓(SI42)



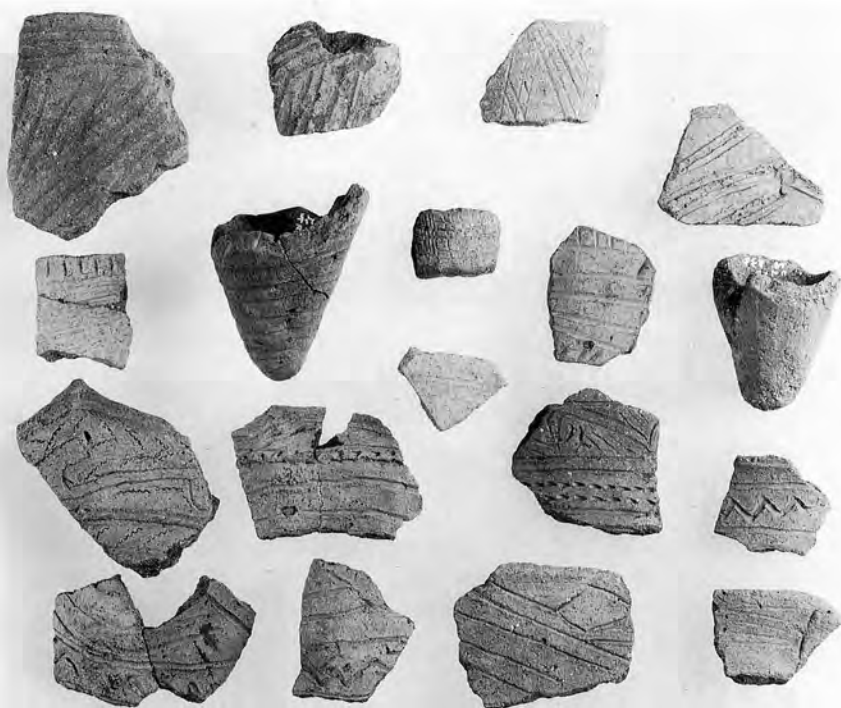
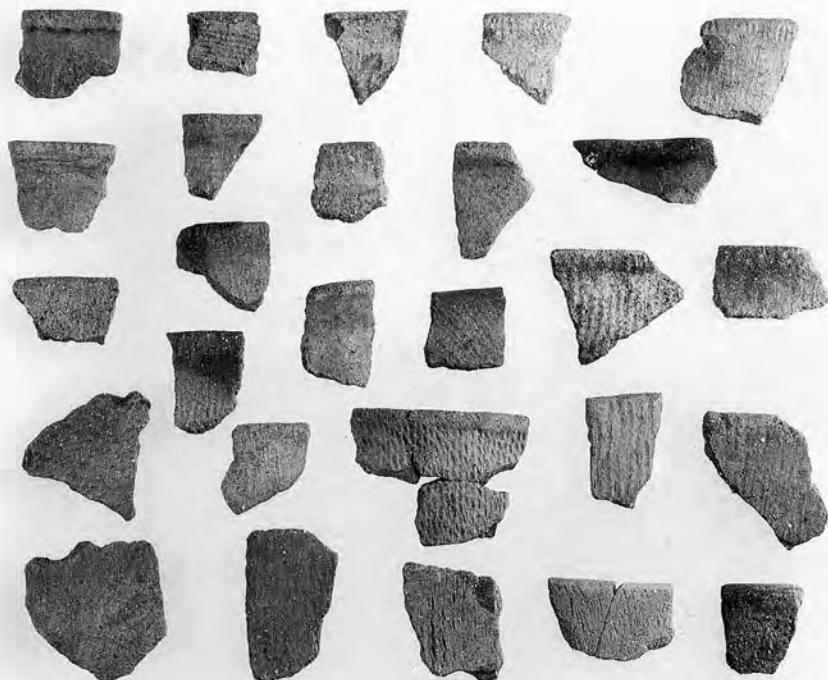
遺構外出土遺物 (1 剥片 2 原石, 剥片 3 炭化種子)



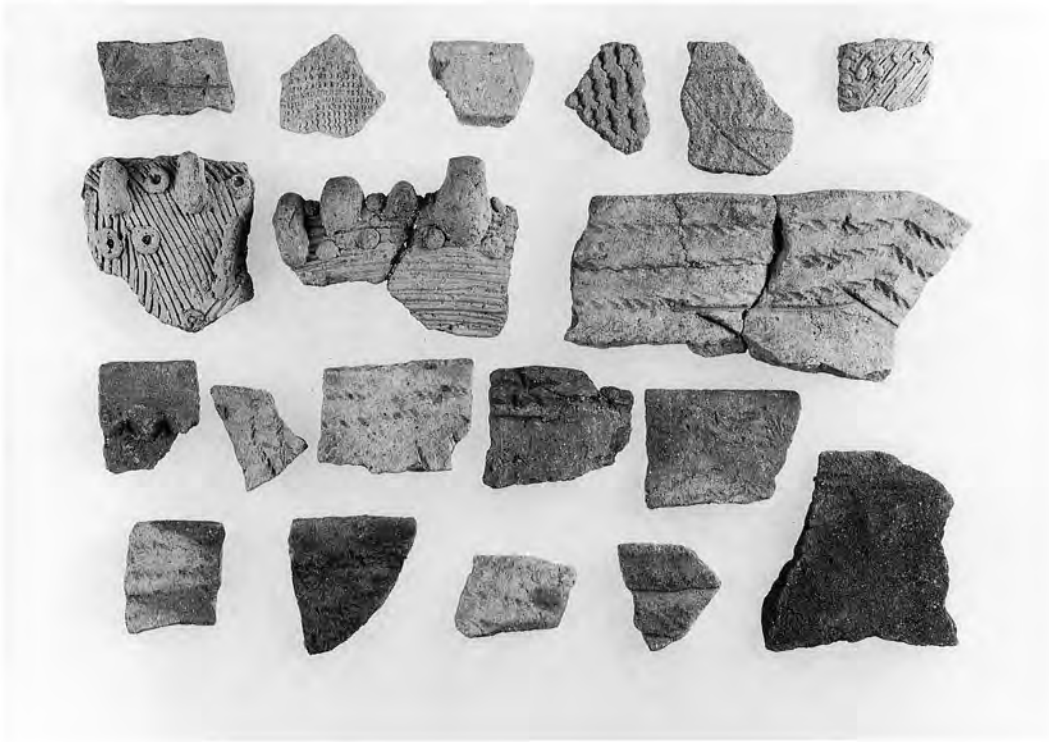
包含層出土遺物(1)



包含層出土遺物(2)



遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(3)

茨城県教育財団文化財調査報告第86集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(II)

中久喜遺跡

平成5年9月25日印刷

平成5年9月30日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310 水戸市見和1丁目356番2号

TEL 0292(25)6587

印刷 株式会社 三栄印刷

〒311-41 水戸市谷津町1-50

TEL 0292(52)6501

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第86集

中久喜遺跡



D4

D12

H4

H7

H12

L4

L7

L12

六反田

中久喜遺跡

ヤツノ上遺跡

